

沖縄県平和祈念資料館及び八重山平和祈念館 展示更新基本設計

令和 8 年 9 月 4 日

沖縄県

沖縄県平和祈念資料館（本館）

常設展示室（2階）

以下、『沖縄県平和祈念資料館及び八重山平和祈念館 展示更新 基本計画』より転記

① 展示構成について

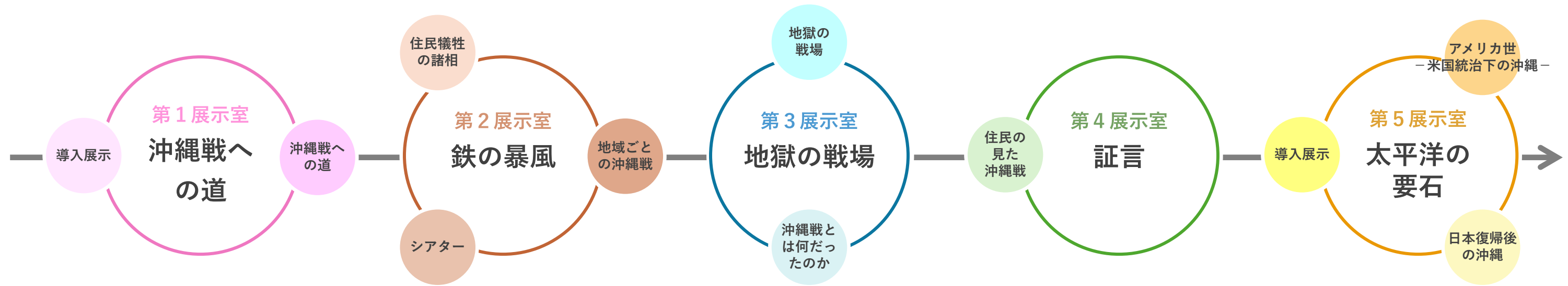
基本構想に基づき「設立理念」と「展示むすびのことば」を継承し、展示室の構成と各室のテーマは、原則として現展示室を引き継ぎ、戦争体験者なき時代を見据え、非体験者が沖縄戦や基地問題等を自分に引き寄せて考えることができる展示構成とする。

② ニュートラルゾーンについて

第1展示室と第2展示室の間、第2展示室と第3展示室の間、第3展示室と第4展示室の間にそれぞれ設けられているニュートラルゾーンは、新たに取り上げる展示内容が増加することから隣接する展示室に統合することも検討する。

③ 各展示室のタイトルについて

各展示室のタイトルは、設計段階の検討により展示項目が固まった時点で必要に応じて見直しを行うものとする。



- 琉球併合から沖縄戦に至るまでの流れを辿り、なぜ、沖縄戦が起きたのかを考えてもらう。
- 富国強兵策により軍備を拡張し、帝国主義の道を歩んでいった日本に沖縄がどのように組み込まれていったのか、また、戦争が長期化し拡大するなかで沖縄の戦時体制がどのように進んでいったのかを伝える。

- 米軍上陸以降、およそ3か月に及ぶ沖縄戦の経緯を辿りながら、米軍の圧倒的な物量作戦による「鉄の暴風」が沖縄を一変させ、軍民合わせて20数万人もの死者を出した沖縄戦の実相を映像で伝える。
- 日本軍による住民虐殺や強制された「集団自決」「強制集団死」、収容所／収容地区での犠牲をはじめ沖縄戦のもとで、沖縄の人々が死に追いやられた数々の“地獄”の実相を伝える。
- 県内の地域ごとの戦争のコーナーを設け、ひとくくりにできない沖縄戦の実相を知り、考えてもらう展示を検討する。

- 沖縄戦において、戦火から身を守る場所であると同時に多くの住民が犠牲になった場所でもあるガマに焦点をあて、ガマで起こった象徴的な出来事を通じて、沖縄戦がどのような戦争であったのかを考えるきっかけを提供する。
- 戦場を逃げ惑い、追い詰められ、命を落とした人々の姿を記録に基づき表現し、戦争の悲惨さ、恐ろしさを伝える。

- 沖縄戦の実相がわかる物的資料が少ない中、想像を絶する極限状態の沖縄戦の実相を知る一級の資料が証言である。本展示室は、その貴重な証言を通じて、来館者が体験者と向き合うことができる場とすることをねらいとする。

- 沖縄の戦後は収容所から始まったこと、その状況について伝える。
- 十五年戦争が終結し沖縄戦が終わっても、沖縄は27年に及ぶ米国統治のもと世界の戦場と隣り合わせの生活を強いられ、冷戦構造の中、基地の島として強化されていった。そうした中で、住民は、土地を奪われ、抑圧を受け、女性への性暴力等、基地から派生する事件・事故の危険にさらされ続けてきたことを伝える。
- そうした困難な状況の中でも、平和や自治を求めて立ち上がった人々の姿や、沖縄の文化を復興させる動きがあったことにもふれる。
- 日本復帰後も、基地は再編強化され、基地被害は後を絶たず、現在も国土面積の約0.6%しかない沖縄に、全国の米軍専用施設の約70%が集中したままであることなど、今もなお基地の島であり続ける沖縄の状況や基地問題は沖縄だけの問題ではなく、日本全体の問題であることを伝える。

ゾーン	目的	大項目	大項目ねらい	中項目	中項目ねらい	展示内容の概略	展示手法	主な展示資料
第1展示室 沖縄戦への道	・琉球併合から沖縄戦に至るまでの流れを辿り、なぜ、沖縄戦が起きたのかを考えてもらう。 ・富国強兵策により軍備を拡張し、帝国主義の道を歩んでいった日本に沖縄がどのように組み込まれていったのか、また、戦争が長期化し拡大するなかで沖縄の戦時体制がどのように進んでいったのかを伝える。	1.導入展示	(導入の導入) 慰霊の日、多くの遺族が「平和の礎」に集う風景を起点に、刻まれた名前の一人一人の“生”に意識を引き寄せ、沖縄戦がはじまる前の世界(＝導入展示)へといざなう。 (シーン造形) 農村・漁村・学校・都市などを舞台に戦前の沖縄の日常を描き出すとともに、それぞれの日常に戦争の影が忍び寄り、戦時体制へと向かっていく様子をイメージしてもらう。	1-1.沖縄戦前夜の風景と人々の暮らし (中項目詳細) ・導入の導入 ・家族・農村 ・学校 ・漁村 ・都市	－	⑩ 導入の導入ー6月23日の「平和の礎」の風景 ① 沖縄の農村に住む、ある家族を紹介する ② 戦時体制や近づく沖縄戦による影響は、家族の生活にも及んだ ③ 「糸満売り」された少年、「辻売り」された少女、ハンセン病患者など、家族に包摂されない人々を含む	グラフィック・映像装置・造形	沖縄戦前夜の農村や学校、漁村、都市の写真など
		2.沖縄戦への道	沖縄が日本に併合されてからの近代の日本のなかでの沖縄の歩みを振り返りながら、沖縄の人々の模索と努力、生きる姿、さらに日本が進める戦争に巻き込まれていく沖縄の姿を示して、ともに考えてもらう。	2-0.問いかけ展示	－	－	グラフィック	－
				2-1.琉球併合から同化政策へ	－	2-1-① 1609年の薩摩藩による琉球侵攻、日清両属関係の琉球王国の様子 2-1-② 台湾出兵(「台湾遭害事件之墓」、牡丹社事件) 2-1-③ 琉球併合(琉球王国から沖縄県へ) 2-1-④ 日本の分島・増約案、日清戦争を経て国境画定 2-1-⑤ 旧慣温存策、同化政策 2-1-⑥ 教育勅語、御真影 2-1-⑦ 標準語教育	グラフィック	「琉球併合から同化政策へ」に関連する写真、図版など
				2-2.日清戦争・日露戦争・第一次世界大戦	－	2-2-① 日清戦争 2-2-② 日露戦争 2-2-③ 韓国併合 2-2-④ 第一次世界大戦 2-2-⑤ シベリア出兵 2-2-⑥ 徴兵制度・徴兵検査 2-2-⑦ 第一次大戦後の戦後恐慌 2-2-⑧ 「ソテツ地獄」 2-2-⑨ 沖縄の経済、社会状況(サトウキビ生産など)	グラフィック・資料	「日清戦争・日露戦争・第一次世界大戦」に関連する実物資料、写真、図版など
				2-3.近代の沖縄と軍隊	－	2-3-① 軍人勅諭 2-3-② 分遣隊派遣 2-3-③ 陸軍教導団 2-3-④ 沖縄からの徴兵(九州の部隊への入隊) 2-3-⑤ 戦争への従軍(日露戦争、第一次世界大戦・日中戦争) 2-3-⑥ 戦死者の慰霊・顕彰 2-3-⑦ 海軍施設(中城湾) 2-3-⑧ 臨時要塞(中城湾と船浮) 2-3-⑨ 軍艦の寄港と県民の歓迎 2-3-⑩ 日本軍の沖縄県民観(沖縄警備隊区徴募事務概況、沖縄県の歴史的関係及人情風俗、沖縄防備対策)	グラフィック	「近代の沖縄と軍隊」に関連する写真、図版など

ゾーン	目的	大項目	大項目ねらい	中項目	中項目ねらい	展示内容の概略	展示手法	主な展示資料
				2-4.同化と異化のはざまで、 沖縄の人々の模索	－	2-4-① 人頭税廃止運動 2-4-② 自由民権運動（謝花昇） 2-4-③ 人類館事件 2-4-④ 伊波普猷（郷土研究、沖縄学） 2-4-⑤ 太田朝敷 2-4-⑥ 本土の社会運動への参加（労働組合） 2-4-⑦ 教員運動（社会科学研究会、東京と沖縄） 2-4-⑧ 沖縄教育労働者組合OIL、八重山教育労働者組合 2-4-⑨ 風俗改良、良妻賢母 2-4-⑩ 「新しい女たち」（新しい生き方を模索する女性たち）	グラフィック・資料	「同化と異化のはざまで、 沖縄の人々の模索」に関連する実物資料、写真、図版など
				2-5.移民と出稼ぎ	－	2-5-① 移民の始まりと展開 2-5-② 當山久三 2-5-③ 移民（南米・北米・ハワイ） 2-5-④ 台湾 2-5-⑤ 南洋群島 2-5-⑥ 東南アジア（フィリピンなど） 2-5-⑦ 本土出稼ぎ・留学（県人会／関西と東京） 2-5-⑧ 徴兵忌避と移民（本部事件） 2-5-⑨ 国策移民（満州、満蒙開拓団） 2-5-⑩ 三竈島（サンソウトウ）	グラフィック	「移民と出稼ぎ」に関連する写真、図版など
				2-6.沖縄からの移民と戦争	－	2-6-① 南洋群島（サイパン、テニアンなど） 2-6-② 移民と現地住民の犠牲 2-6-③ サイパン陥落後の軍の対民間人対策 2-6-④ フィリピン（ダバオ、パナイなど） 2-6-⑤ 東南アジア（インド抑留、オーストラリア抑留） 2-6-⑥ 北米（日系人強制収容） 2-6-⑦ 南米（ブラジル、勝ち組と負け組）	グラフィック	「沖縄からの移民と戦争」に関連する写真、図版など
				2-7.皇民化政策、沖縄と植民地・占領地 （中項目詳細） ・沖縄での皇民化政策 ※①～⑧ ・植民地・南洋群島・占領地での皇民化政策 ※⑨～⑬	－	2-7-① 御真影 2-7-② 教育勅語 2-7-③ 奉安殿 2-7-④ 学校防空指針（御真影・教育勅語）奉護のための殉職者 2-7-⑤ 国定教科書（「国語」「修身」など） 2-7-⑥ 標準語励行、方言札 2-7-⑦ 改姓改名 2-7-⑧ 神社、鳥居 2-7-⑨ 神社の建立 2-7-⑩ 創氏改名 2-7-⑪ 皇国臣民の誓詞（宮城遙拝） 2-7-⑫ 植民地での日本語教育 2-7-⑬ 占領地での日本語教育	グラフィック・映像装置・資料	「皇民化政策、沖縄と植民地・占領地」に関連する実物資料、写真、図版など

ゾーン	目的	大項目	大項目ねらい	中項目	中項目ねらい	展示内容の概略	展示手法	主な展示資料
			第32軍が沖縄に配備され、沖縄の人々の生活が一気に戦争に組み込まれて大きく変わっていく状況を示すとともに、疎開船の撃沈や10・10空襲など犠牲が生まれ、さらに米軍の上陸が迫るなかで沖縄の人々が戦場に動員されていく姿を伝え、沖縄戦に至る沖縄の社会・人々の状況への理解を深めてもらう。	2-8.十五年戦争と南進政策	—	2-8-① 満州事変からの十五年戦争 2-8-② 日中全面戦争 2-8-③ 銃後の戦争体制（千人針、奉公袋、出征） 2-8-④ 従軍した沖縄出身兵 2-8-⑤ 沖縄防備対策 2-8-⑥ 南進政策（南方の重要資源） 2-8-⑦ 第二次世界大戦 2-8-⑧ アジア太平洋戦争（マレー半島上陸と真珠湾攻撃）	グラフィック・映像装置	「十五年戦争と南進政策」に関連する写真、図版など
				2-9.第32軍の沖縄配備と飛行場建設	—	2-9-① 第32軍創設と配備・構成 2-9-② 飛行場建設（北飛行場・中飛行場、伊江島など） 2-9-③ 住民の動員 2-9-④ 地上軍の増強配備（1944年7月から） 2-9-⑤ 日本軍慰安所の設置 2-9-⑥ 将兵による非行と住民の反応 2-9-⑦ 陣地の構築	グラフィック・資料	「第32軍の沖縄配備と飛行場建設」に関連する実物資料、写真、図版など
				2-10.総動員体制 （中項目詳細） ・日本全体の総動員体制と沖縄の総動員体制	—	2-10-① 徴用（勤労動員） 2-10-② 供出（金属、食糧、木材など） 2-10-③ 徴用・供出の仕組み（軍・県・市町村・字） 2-10-④ 軍事訓練、竹槍訓練 2-10-⑤ 出征歓送式、慰問袋、千人針、帰還歓迎会、遺骨帰還・町村葬 2-10-⑥ 配給制度 2-10-⑦ 国防献金 2-10-⑧ マスメディア 2-10-⑨ 軽便鉄道爆発事件 2-10-⑩ 住民の生活、暮らしの変化	グラフィック	「総動員体制」に関連する写真、図版など
				2-11.子どもたちの戦時体制	—	2-11-① 軍による学校接収、青空教室 2-11-② 勤労動員、陣地構築、食糧増産 2-11-③ 小学生（国民学校児童）の日常の変化 2-11-④ 竹槍訓練、沖縄青少年団訓練 2-11-⑤ 競技の変化（戦場競技へ） 2-11-⑥ 子どもたちの遊びの変化	グラフィック・資料	「子どもたちの戦時体制」に関連する実物資料、写真、図版など

ゾーン	目的	大項目	大項目ねらい	中項目	中項目ねらい	展示内容の概略	展示手法	主な展示資料
				2-12.疎開	—	2-12-① 疎開政策（立案の経緯、疎開の考え方） 2-12-② 軍の方針 2-12-③ 県の方針・関わり（知事と軍の対立、知事交代による変化） 2-12-④ 県外疎開（九州、台湾） 2-12-⑤ 学童疎開（対馬丸など） 2-12-⑥ 北部（やんばる）疎開（県の方針、受け入れ体制、避難民の取扱、食糧難） 2-12-⑦ 宮古・八重山の県外疎開（台湾疎開、郡内の別の島への強制疎開、島内強制疎開） 2-12-⑧ 疎開と飢餓・マラリア（特に北部疎開、宮古・八重山） 2-12-⑨ 疎開先での生活（九州、台湾）	グラフィック	「疎開」に関連する写真、図版など
				2-13.防諜とスパイ取締り	—	2-13-① 社会運動の取締り 2-13-② 個人の言動の取締り、監視 2-13-③ 防諜 2-13-④ 住民の相互監視、密告 2-13-⑤ 国土隊（秘密戦に関する書類） 2-13-⑥ 移民帰りの監視 2-13-⑦ 沖縄語禁止 2-13-⑧ 久米島の日本軍と住民 2-13-⑨ 日本軍による防諜取締り 2-13-⑩ 警察文書 2-13-⑪ 軍機保護法、特高、国防保安法	グラフィック	「防諜とスパイ取締り」に関連する写真、図版など
				2-14.10・10空襲	—	2-14-① 10・10空襲の経過 2-14-② 米軍の作戦目的・計画 2-14-③ 空襲被害（那覇、各地、船舶） 2-14-④ 宮古・八重山諸島への空襲（10.12-13も含め） 2-14-⑤ 日本政府による抗議、米国政府の対応	グラフィック・映像装置	「10・10空襲」に関連する写真、図版など
				2-15.戦時船舶の犠牲	—	2-15-① 沖縄関係戦時遭難船舶一覧 2-15-② 対馬丸、嘉義丸、湖南丸など 2-15-③ 連絡船、漁船など小型艦船の犠牲	グラフィック・検索装置	「戦時船舶の犠牲」に関連する写真、図版など
				2-16.米軍上陸前夜の沖縄、県民の戦場動員	—	2-16-① 軍官一体の県民の戦場動員体制 2-16-② 知事諭告第2号 2-16-③ 根こそぎ動員 2-16-④ 防衛隊 2-16-⑤ 義勇隊 2-16-⑥ 伊江島の軍官民合同訓練 2-16-⑦ 遊撃隊（護郷隊） 2-16-⑧ 女性たちの動員、救護班、炊事班等 2-16-⑨ 国民抗戦必携	グラフィック・資料	「米軍上陸前夜の沖縄、県民の戦場動員」に関連する実物資料、写真、図版など

ゾーン	目的	大項目	大項目ねらい	中項目	中項目ねらい	展示内容の概略	展示手法	主な展示資料
				2-17.学徒の動員	—	2-17-① 勤労働員 2-17-② 軍事訓練、竹槍訓練 2-17-③ 中学生、高等女学校生らの戦場動員（軍県3者覚書） 2-17-④ 戦場動員と女性差別 2-17-⑤ 学校ごとの動員状況と教師の対応 2-17-⑥ 遊撃隊（護郷隊）への学徒の動員	グラフィック	「学徒の動員」に関連する写真、図版など
				2-18.日本軍の作戦と米軍の作戦 （中項目詳細） ・日本軍の作戦 ※①～⑬ ・米軍の作戦 ※⑭～⑰	—	2-18-① 日本軍の装備と作戦 2-18-② 戦陣訓・各種教令 2-18-③ 近衛上奏文 2-18-④ 大本營の方針 2-18-⑤ 第32軍の方針（作戦計画、時間稼ぎ、南部撤退など） 2-18-⑥ 住民対策 2-18-⑦ 捕虜・投降禁止（民間人も対象） 2-18-⑧ 戦闘方法（斬り込み隊など） 2-18-⑨ 国土決戦教令 2-18-⑩ 第32軍司令官最後の命令 2-18-⑪ 航空特攻 2-18-⑫ 海上特攻 2-18-⑬ 地上特攻 2-18-⑭ アイスバーグ作戦（沖縄作戦の目的） 2-18-⑮ 米軍の戦力・部隊 2-18-⑯ 心理戦 2-18-⑰ 住民対策	グラフィック・資料	「日本軍の作戦と米軍の作戦」に関連する実物資料、写真、図版など
				1-0.導入展示	—	—	グラフィック	—
				1-1.鉄の暴風	—	1-1-① 沖縄戦戦闘経過 1-1-② 住民の戦争体験	グラフィック・映像装置	—
第2展示室 鉄の暴風	・米軍上陸以降、およそ3か月に及ぶ沖縄戦の経緯を辿りながら、米軍の圧倒的な物量作戦による「鉄の暴風」が沖縄を一変させ、軍民合わせて20数万人もの死者を出した沖縄戦の実相を映像で伝える。 ・日本軍による住民虐殺や強制された「集団自決」「強制集団死」、収容所／収容地区での犠牲をはじめ沖縄戦のもとで、沖縄の人々が死に迫いやられた数々の“地獄”の実相を伝える。 ・県内の地域ごとの戦争のコーナーを設け、ひとくくりにできない沖縄戦の実相を知り、考えてもらう展示を検討する。	1.シアター	米軍上陸から戦闘終結までの経過を通して沖縄戦の全体像を示すとともに、激しい戦闘の中に兵士と区別なく住民が巻き込まれ、甚大な被害を受けた実態を、証言映像を通して住民の視点から伝える。	2-1.根こそぎ戦場動員	—	2-1-① 戦場での物資運搬、道案内、斬り込み 2-1-② 捕虜になることを許さない 2-1-③ 投降阻止、スパイ視 2-1-④ 米軍上陸下、砲爆撃の中での動員 2-1-⑤ 市町村長・警察署長会議（県指示、知事訓示） 2-1-⑥ 知事から県民への最後の訓示 2-1-⑦ 海軍根拠地隊 2-1-⑧ 沖縄出身兵	グラフィック・資料	「根こそぎ戦場動員」に関連する写真、図版など
		2.住民犠牲の諸相	沖縄戦の中で住民の犠牲について、戦闘に巻き込まれただけでなく、飢えやマラリア、性暴力など被害の多様な実相を理解してもらう。またそこに巻き込まれた朝鮮人や日米両軍の兵士たちの犠牲も取り上げ、一人一人の個人にとっての戦争の意味を考えてもらう。	2-2.北部疎開によって生まれた犠牲	—	2-2-① 北部疎開方針（棄民政策） 2-2-② 投降阻止、スパイ視 2-2-③ 警察の役割（県警察文書） 2-2-④ やんばる山中の避難民の実相（食糧、住居、日々の生活） 2-2-⑤ 日本兵による迫害（食糧強奪、虐殺）	グラフィック	「北部疎開によって生まれた犠牲」に関連する写真、図版など

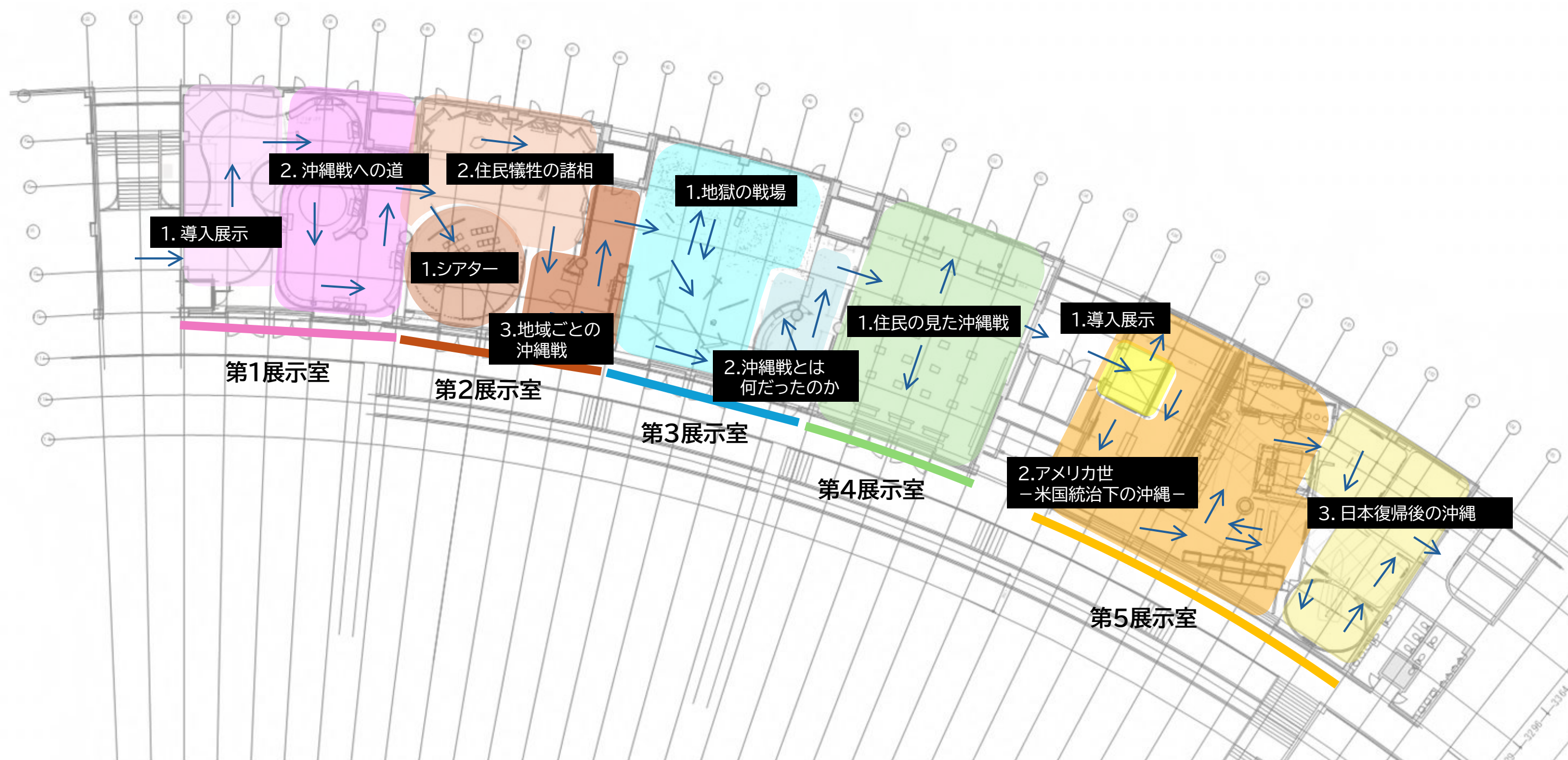
ゾーン	目的	大項目	大項目ねらい	中項目	中項目ねらい	展示内容の概略	展示手法	主な展示資料
				2-3.収容所／収容地区	—	2-3-① 米軍政策 2-3-② 食糧難（飢えとマラリア） 2-3-③ 米軍基地建設と住民移動（軍事優先、劣悪な収容地区） 2-3-④ 収容所内の避難民と日本軍 2-3-⑤ 学校の開設 2-3-⑥ 戦争孤児、孤児院	グラフィック・映像装置・資料	「収容所／収容地区」に関連する実物資料、写真、図版など
				2-4.戦争マラリア	—	2-4-① 沖縄本島北部のマラリア 2-4-② 宮古島のマラリア 2-4-③ 八重山諸島の戦争マラリアと残置諜者	グラフィック	「戦争マラリア」に関連する写真、図版など
				2-5.日本軍による住民虐殺・迫害	—	2-5-① 住民虐殺の実相 2-5-② なぜ日本軍は沖縄県民を虐殺したのか（地域・時期別特徴、その要因） 2-5-③ スパイ視 2-5-④ 壕（ガマ）追い出し、食糧強奪 2-5-⑤ 民間人の投降阻止	グラフィック・資料	「日本軍による住民虐殺・迫害」に関連する写真、図版など
				2-6.「集団自決」「強制集団死」	—	2-6-① 「集団自決」とは何か 2-6-② 場所・地域ごとの特徴 2-6-③ なぜ起きたのか 2-6-④ 日本政府・日本軍の民間人対策 2-6-⑤ 軍から配られた手榴弾 2-6-⑥ 鬼畜米英、米兵への恐怖心を煽る宣伝 2-6-⑦ 性暴力への恐怖心を煽る宣伝 2-6-⑧ 起きなかった場所・地域との比較	グラフィック・資料	「「集団自決」「強制集団死」」に関連する実物資料、写真、図版など
				2-7.軍隊による性暴力	—	2-7-① 日本軍慰安所 2-7-② 日本兵による性暴力 2-7-③ 米兵による性暴力	グラフィック	「軍隊による性暴力」に関連する写真、図版など
				2-8.障がい者	—	2-8-① 身体障がい者の体験 2-8-② 精神障がい者の体験 2-8-③ 戦争がつくりだした障がい者	グラフィック	「障がい者」に関連する写真、図版など
				2-9.ハンセン病患者	—	2-9-① ハンセン病患者の状況 2-9-② 日本軍による強制収容 2-9-③ 愛楽園 2-9-④ 南静園	グラフィック	「ハンセン病患者」に関連する写真、図版など
				2-10.心の傷	—	2-10-① 戦闘神経症 2-10-② 戦後も続く心の傷・PTSD	グラフィック	「心の傷」に関連する写真、図版など
				2-11.朝鮮人の動員と犠牲	—	2-11-① 沖縄に動員された朝鮮人 2-11-② 軍夫 2-11-③ 軍人 2-11-④ 船舶の乗組員 2-11-⑤ 日本軍「慰安婦」 2-11-⑥ 日本軍による扱い 2-11-⑦ 戦没時期、場所	グラフィック	「朝鮮人の動員と犠牲」に関連する写真、図版など
				2-12.日本軍兵士にとっての沖縄戦	—	2-12-① 全国各地から召集されてきた日本兵 2-12-② 日本軍の戦闘方法 2-12-③ 捕虜になることは許されない 2-12-④ 傷病兵殺害、青酸カリ処置 2-12-⑤ 国土決戦教令、戦陣訓	グラフィック	「日本軍兵士にとっての沖縄戦」に関連する写真、図版など

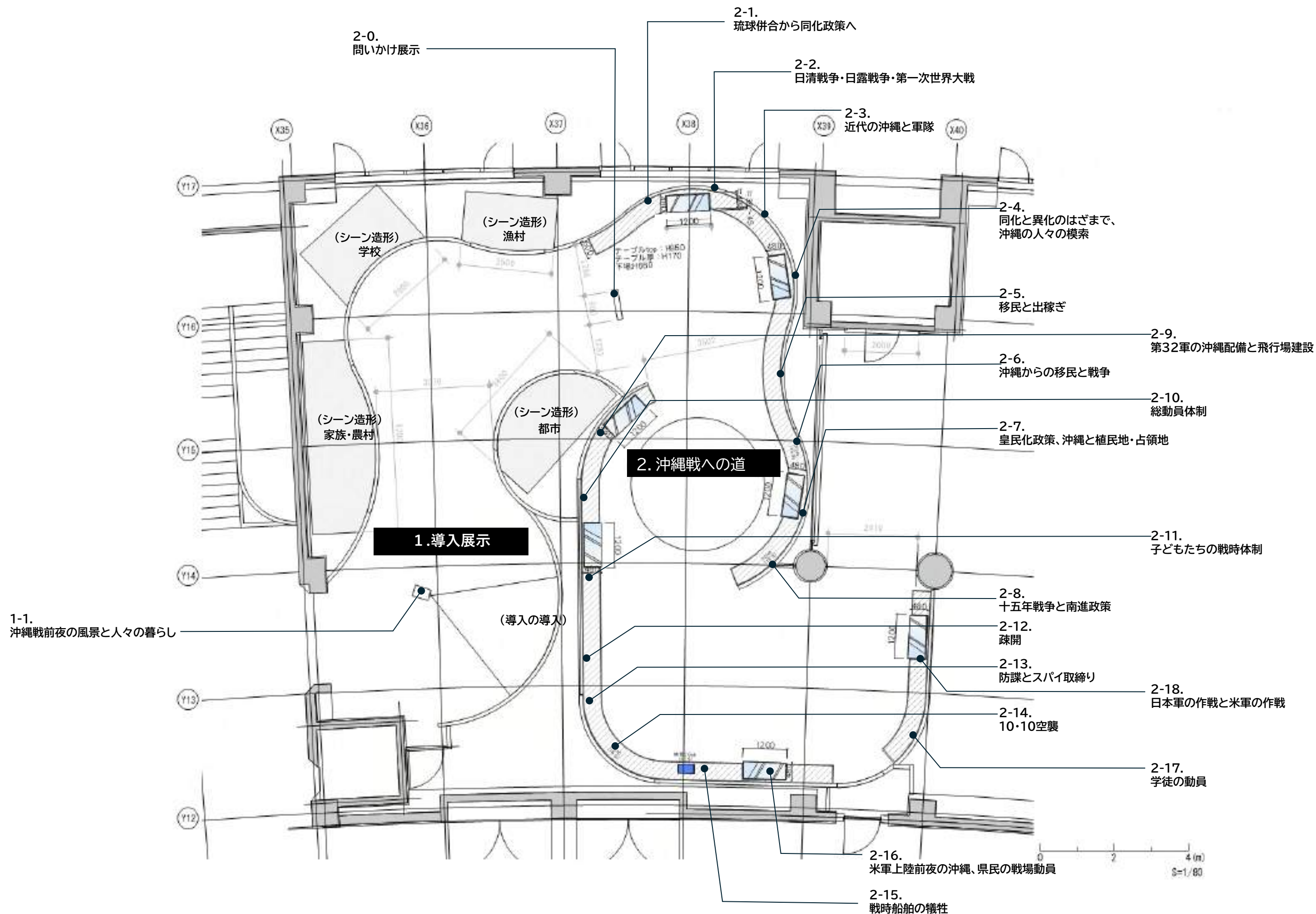
ゾーン	目的	大項目	大項目ねらい	中項目	中項目ねらい	展示内容の概略	展示手法	主な展示資料
		3.地域ごとの沖縄戦	沖縄戦のなかでも、地域や島によって異なる状況があったことを示し、県民が自分の関わる地域の状況を身近に感じながらその実相を理解してもらう。また沖縄戦のなかで人々がどのように生きようとして考え、行動したのか、沖縄の住民の視線でともに考えてもらう。	2-13.米軍兵士にとっての沖縄戦	—	2-13-① 米軍の戦闘方法 2-13-② 米軍部隊の戦歴 2-13-③ 米兵と住民 2-13-④ 米兵の戦闘神経症・PTSD	グラフィック・映像装置	「米軍兵士にとっての沖縄戦」に関連する写真、図版など
				3-1.北部の沖縄戦	—	3-1-① 山中の戦争 3-1-② 国頭支隊（宇土部隊） 3-1-③ 日本兵による住民虐殺、食糧強奪 3-1-④ 飢餓・マラリア 3-1-⑤ 御真影奉護壕 3-1-⑥ 遊撃戦（護郷隊） 3-1-⑦ 陸軍中野学校 3-1-⑧ 伊江島の戦闘	グラフィック・映像装置	「北部の沖縄戦」に関連する写真、図版など
				3-2.中部の沖縄戦	—	3-2-① 北部疎開と南部への避難 3-2-② 早期に米軍支配下に入った地域 3-2-③ 日米両軍の激戦地 3-2-④ 米軍上陸地点 3-2-⑤ 進む米軍基地建設	グラフィック	「中部の沖縄戦」に関連する写真、図版など
				3-3.南部の沖縄戦	—	3-3-① 戦場での住民動員 3-3-② 南部撤退と多大な住民犠牲 3-3-③ 軍民混在の戦場 3-3-④ 日本軍の行動（住民虐殺、壕追い出し、食糧強奪、投降阻止など） 3-3-⑤ 知念半島の状況 3-3-⑥ 一家全滅	グラフィック	「南部の沖縄戦」に関連する写真、図版など
				3-4.本島周辺離島及び大東諸島の沖縄戦	—	3-4-① 日本軍がいた島（慶良間諸島、久米島、津堅島など） 3-4-② 日本軍がいなかった島（前島、平安座島、宮城島、久高島など） 3-4-③ 大東諸島 3-4-④ 奄美群島	グラフィック	「本島周辺離島及び大東諸島の沖縄戦」に関連する写真、図版など
				3-5.宮古・八重山の沖縄戦	—	3-5-① 戦争マラリアと飢餓 3-5-② 軍命によるマラリア地帯への強制退去 3-5-③ 日本軍慰安所 3-5-④ 米英両軍による砲爆撃 3-5-⑤ 米軍捕虜虐殺と戦犯裁判 3-5-⑥ 陸軍中野学校と離島残置謀者 3-5-⑦ 波照間島、忘勿石	グラフィック	「宮古・八重山の沖縄戦」に関連する写真、図版など
				3-6.命を救った人たち	—	3-6-① 多くの命を救った人たち 3-6-② 生きるように勧めた日本軍将兵 3-6-③ 米軍のなかの日系兵士（通訳、沖縄からの移民）	グラフィック	「命を救った人たち」に関連する写真、図版など
				3-7.沖縄戦を生き抜いた人たち	—	3-7-① いく人かの人物を取り上げて、沖縄戦全過程のなかでの行動を紹介	グラフィック・映像装置・資料	「沖縄戦を生き抜いた人たち」に関連する実物資料、写真、図版など

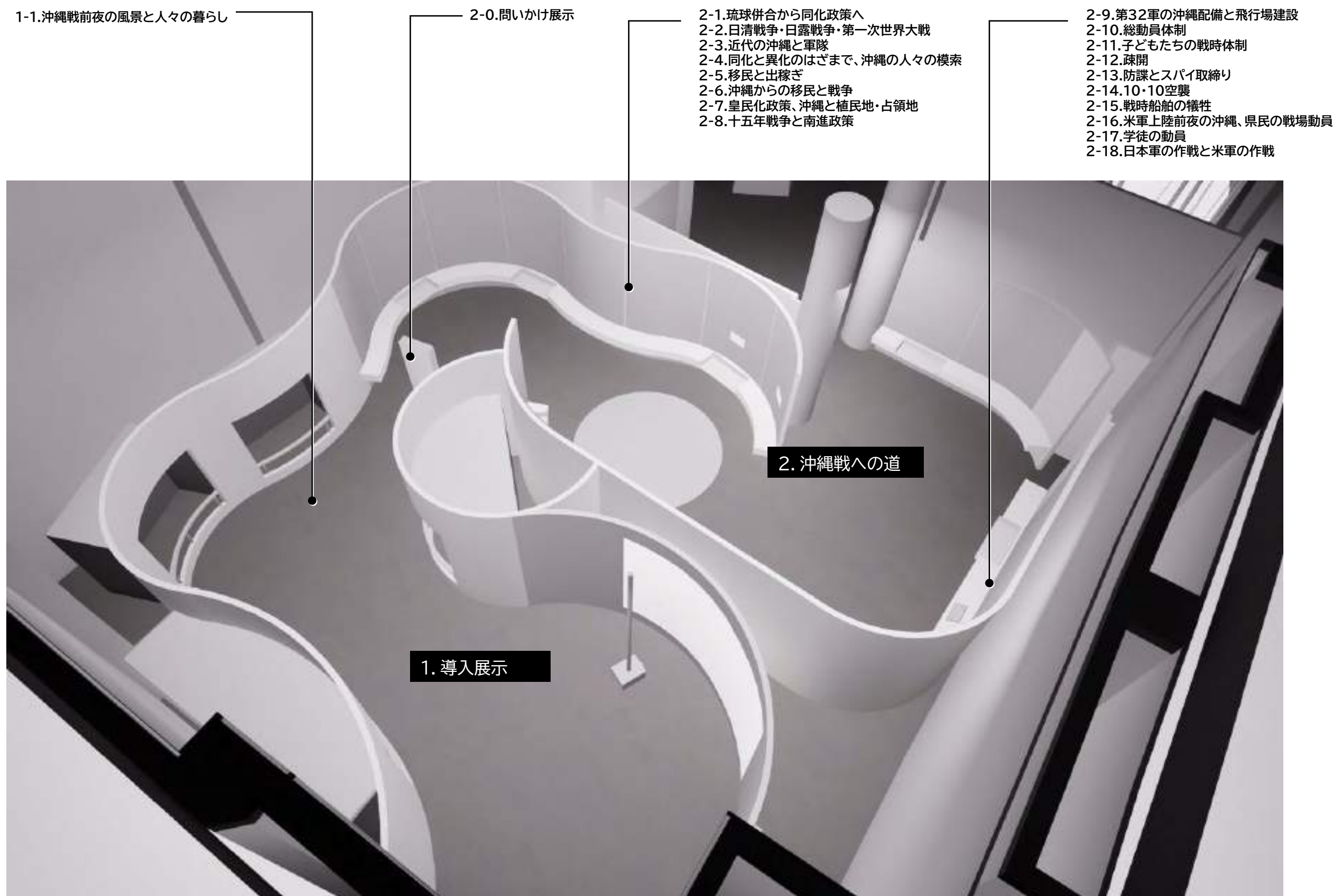
ゾーン	目的	大項目	大項目ねらい	中項目	中項目ねらい	展示内容の概略	展示手法	主な展示資料
第3展示室 地獄の戦場	・沖縄戦において、戦火から身を守る場所であると同時に多くの住民が犠牲になった場所でもあるガマに焦点をあて、ガマで起こった象徴的な出来事を通じて、沖縄戦がどのような戦争であったのかを考えるきっかけを提供する。 ・戦場を逃げ惑い、追い詰められ、命を落とした人々の姿を記録に基づき表現し、戦争の悲惨さ、恐ろしさを伝える。	1.地獄の戦場	沖縄戦のなかで、軍にとっても住民にとってもガマは、時には死の場所、時には生の場所になるという生死を左右する重要な場所となった。ガマの再現模型の中に入ることによって沖縄戦の実相をより深く感じ考えてもらう。	1-0.導入展示	—		グラフィック	—
				1-1.ガマと沖縄戦	—	1-1-① ガマと住民 1-1-② 生死をわけたガマ（チビチリガマとシムクガマ等） 1-1-③ 糸数アブチラガマの諸相 1-1-④ 利用された墓（住民の避難場所、日本軍の陣地）	グラフィック	「ガマと沖縄戦」に関連する写真、図版など
					1-2.避難民・日本兵	① 現行のガマの再現模型に説明を追加	グラフィック・音響装置・資料・造形	ジオラマ
					1-3.投降ピラ・スパイ視			ジオラマ
					1-4.野戦病院・青酸カリ			ジオラマ
					1-5.作戦会議・斬り込み隊			ジオラマ
				1-6.死の彷徨	—	1-6-① 現行の展示物、写真を活用	グラフィック・資料	「死の彷徨」に関連する写真、図版など
		2.沖縄戦とは何だったのか	「平和の礎」に刻まれた戦没者のデータから沖縄戦の実像を多角的に読み解き、沖縄戦が持つ意味を考えてもらう。同時に沖縄の経験は本土でも起き得たことを理解してもらい、沖縄戦の教訓は沖縄だけでなく日本全体のものであることを考えてもらう。	2-1.「平和の礎」から見た戦没者	—	2-1-① 「平和の礎」のデータの活用、分析（戦没場所、時期等）	グラフィック・検索装置	「「平和の礎」から見た戦没者」に関連する写真、図版など
				2-2.沖縄の基地からの本土攻撃	—	2-2-① 米軍飛行場の建設 2-2-② 航空部隊の配備・任務 2-2-③ 奄美、九州などへの爆撃 2-2-④ 空襲にあった疎開学童	グラフィック	「沖縄の基地からの本土攻撃」に関連する写真、図版など
				2-3.もし本土決戦が行われていたら	—	2-3-① 米軍の本土進攻作戦計画 2-3-② 大本営の本土決戦準備 2-3-③ 国民義勇戦闘隊 2-3-④ 地区特設警備隊	グラフィック	「もし本土決戦が行われていたら」に関連する写真、図版など
				2-4.戦後処理と諸問題	—	2-4-① 遺骨収集 2-4-② 追悼、慰霊碑（塔） 2-4-③ 援護法 2-4-④ 不発弾 2-4-⑤ 戦争遺跡 2-4-⑥ 教科書検定問題 2-4-⑦ 平和の礎	グラフィック	「戦後処理と諸問題」に関連する写真、図版など
				2-5.沖縄戦のまとめ	—	2-5-① 住民の視点で見た沖縄戦の振り返り	グラフィック	「沖縄戦のまとめ」に関連する写真、図版など
第4展示室 証言	・沖縄戦の実相がわかる物的資料が少ない中、想像を絶する極限状態の沖縄戦の実相を知る一級の資料が証言である。本展示室は、その貴重な証言を通じて、来館者が体験者と向き合うことができる場とすることをねらいとする。	1.住民の見た沖縄戦	沖縄戦をはじめとする戦争を体験した一人一人の証言にじっくり向き合うことで、戦争の実相を感じ取り、来館者一人一人が自分にとって戦争とは何かを考える契機とする。	1-0.導入展示	—	—	グラフィック	—
				1-1.証言	—	1-1-① 証言本（紙媒体） 1-1-② 証言本（デジタル媒体） 1-1-③ 証言映像（常時放映等） 1-1-④ 多言語化の充実	グラフィック・映像装置・検索装置	—

ゾーン	目的	大項目	大項目ねらい	中項目	中項目ねらい	展示内容の概略	展示手法	主な展示資料
第5展示室 太平洋の要石	・沖縄の戦後は収容所から始まったこと、その状況について伝える。 ・十五年戦争が終結し沖縄戦が終わっても、沖縄は27年に及ぶ米国統治のもと世界の戦場と隣り合わせの生活を強いられ、冷戦構造の中、基地の島として強化されていった。そうした中で、住民は、土地を奪われ、抑圧を受け、女性への性暴力等、基地から派生する事件・事故の危険にさらされ続けてきたことを伝える。 ・そうした困難な状況の中でも、平和や自治を求めて立ち上がった人々の姿や、沖縄の文化を復興させる動きがあったことにもふれる。 ・日本復帰後も、基地は再編強化され、基地被害は後を絶たず、現在も国土面積の約0.6%しかない沖縄に、全国の米軍専用施設の約70%が集中したままであることなど、今もなお基地の島であり続ける沖縄の状況や基地問題は沖縄だけの問題ではなく、日本全体の問題であることを伝える。	1.導入展示	米軍の上陸直後から基地の建設が始まるなど、在沖米軍基地の原点が沖縄戦であることを伝える。	1-1.沖縄戦時下の基地建設	戦闘と並行して基地建設が進められた経緯を伝え、現在まで続く沖縄の基地問題の原点が沖縄戦にあることを考えてもらう。	1-1-① 来館者へのメッセージ 1-1-② 戦闘と並行した基地建設	グラフィック・映像装置	基地建設・本土爆撃の映像など
		2.アメリカ世 －米国統治下の 沖縄－	日本から切り離され、米国に直接統治されたことを知ってもらう。また米国統治下で住民の人権が抑圧されたことと、平和や自治を求めて活動した人々の姿を伝える。	2-1.収容所の暮らしと復興の始まり	戦後、沖縄の人々の生活が収容所から始まり、困難の中で暮らしを再建していった様子を知ってもらう。	2-1-① 収容所の暮らしと食糧事情 2-1-② 戦後教育の始まり 2-1-③ 帰郷（基地建設と離散） 2-1-④ 戦果と密貿易 2-1-⑤ 海外・県外引揚げの諸相 2-1-⑥ 県人の救援活動と米軍支援物資 2-1-⑦ 文化の復興 2-1-⑧ うるま新報	グラフィック・資料	米軍由来の生活用品・道具、衣服など
				2-2.恒久的基地建設と住民	1950年代、本土で基地の返還が進められる一方、米国統治下の沖縄では基地の恒久化と拡張が進められた経緯や、それに抗う住民の姿と、米国統治下での行政組織や統治の仕組みを知ってもらう。	2-2-① 沖縄保有の決定 2-2-② サンフランシスコ講和条約 2-2-③ 島ぐるみ闘争 2-2-④ 本土の基地問題と海兵隊 2-2-⑤ 基地建設工事 2-2-⑥ 土地接収 2-2-⑦ 海兵隊の移転 2-2-⑧ 核兵器 2-2-⑨ 行政組織の変遷 2-2-⑩ 占領統治の仕組み 2-2-⑪ 南米移民、八重山開拓	グラフィック・映像装置	島ぐるみ闘争、核兵器の写真など
				2-3.復帰運動の高まり	米軍基地に起因する事件・事故が繰り返され、人権が蔑ろにされた米国統治下の状況と、日本への復帰と基本的人権の保障を求めた住民の動きを示すとともに、米国統治下を象徴する展示物を通して当時の状況を理解してもらう。	2-3-① 言論統制・渡航制限・裁判移送 2-3-② 増加する米軍関連の事件・事故 2-3-③ 男女平等の新民法の施行（憲法は適用されず） 2-3-④ 沖縄県祖国復帰協議会の結成 2-3-⑤ 主席公選闘争と教公二法阻止闘争 2-3-⑥ 全軍労の結成 2-3-⑦ 日米への留学と集団就職 2-3-⑧ 沖縄返還をめぐる日米協議の始まり	グラフィック・資料	米軍による事件・事故の写真、復帰運動に関する写真など
				2-4.基地の街の光と影	基地の街の経済活動と人々の暮らしへの影響、ベトナム戦争と沖縄の関わりを捉えてもらう。	2-4-① 基地の街の背景 2-4-② アーニーパイル国際劇場と那覇の街 2-4-③ スーベニアショップとテラー 2-4-④ 金城商店とAサインパー 2-4-⑤ B-52とパラシュート 2-4-⑥ 毒ガス移送とコザ騒動 2-4-⑦ 映像コーナー 2-4-⑧ ベトナム戦争	グラフィック・映像装置・資料・造形	この時期の社会背景がわかる資料など

ゾーン	目的	大項目	大項目ねらい	中項目	中項目ねらい	展示内容の概略	展示手法	主な展示資料
		3.日本復帰後の沖縄	日本に復帰した後も沖縄に米軍が駐留し続け、その機能が強化されるとともに、負担も継続していることを伝える。さらに、その歴史的経緯から基地問題は沖縄だけの問題ではなく、日本全体の問題であることを考えてもらう。	3-1.「復帰」とは何だったのか	日本復帰の内実と、その後の沖縄社会の歩みを通して、復帰後の沖縄について知ってもらう。	3-1-① 沖縄返還協定（核抜き・本土並み） 3-1-② 復帰の措置に関する建議書 3-1-③ 1972年5月15日 3-1-④ 日本政府の沖縄振興策 3-1-⑤ 復帰三大事業と730交通方法変更 3-1-⑥ 跡地利用、基地関連収入 3-1-⑦ 復帰後の文化	グラフィック・映像装置・資料	復帰の措置に関する建議書、復帰記念メダル、交通法変更に関するポスターなど
				3-2.減らない基地負担	日本復帰後も続く過重な基地負担や米軍基地に起因する事件・事故、日米地位協定をめぐる問題を通して、この問題が沖縄だけでなく日本全体の課題であることを考えてもらう。	3-2-① 縮小する首都圏の米軍基地と減らない基地負担 3-2-② 1995年米兵による少女性暴力事件 3-2-③ 日米地位協定、県民投票 3-2-④ 普天間飛行場の返還発表から辺野古新基地建設、名護市民投票 3-2-⑤ 沖縄大ヘリ墜落事件等・不時着と落下物事故 3-2-⑥ オスプレイ配備 3-2-⑦ 環境問題	グラフィック・映像装置・検索装置	米軍による事件・事故の写真、映像など
				3-3.軍隊と性暴力	沖縄戦以降、現在まで駐留を続ける米軍によって、女性や子どもたちが繰り返し性暴力の被害を受けてきたことを示し、「軍隊と性暴力」について考えてもらう。	3-3-① 慰安施設設置構想と米兵相手の歓楽街 3-3-② ベトナム戦争と性暴力・殺人事件 3-3-③ 1995年米兵による少女性暴力事件で開催された県民大会の様子 3-3-④ 強姦救援センター・沖縄「REICO(レイコ)」 3-3-⑤ 米軍による性暴力	グラフィック・映像装置・検索装置	米軍による性暴力に関するデータ資料など
				3-4.沖縄の歩みと平和への展望	沖縄戦から今日までの歩みを振り返るとともに、平和の実現に向けた取り組みを伝え、これからの沖縄と平和への展望について考えてもらう。	3-4-① 沖縄の歩みと平和への展望	グラフィック	—







1.導入展示

1-1.沖縄戦前夜の風景と人々の暮らし -導入の導入

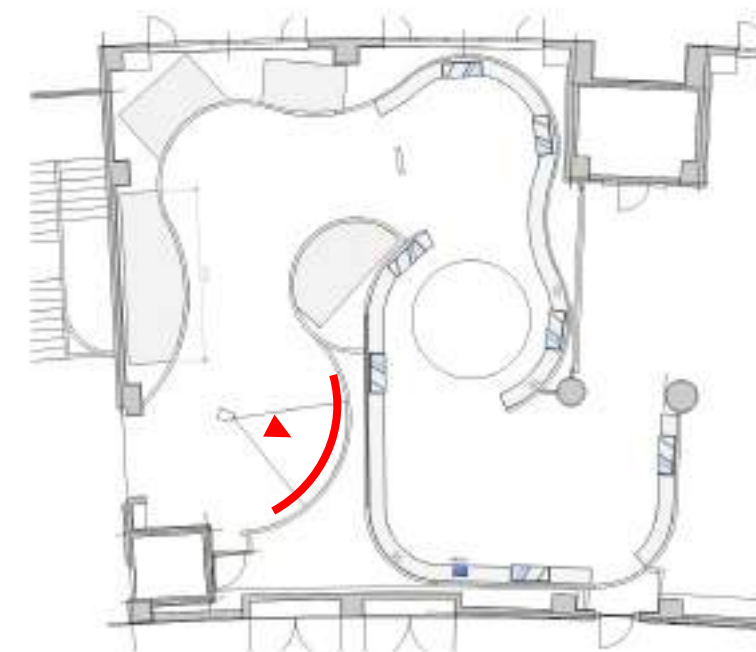
【展示のねらい】

- ・ 慰霊の日、多くの遺族が「平和の礎」に集う風景を起点に、刻まれた名前の一人一人の“生”に意識を引き寄せ、沖縄戦が始まる前の世界(＝導入展示)へといざなう。

【展示の展開方針】

- ・ 6月23日の「平和の礎」の前で遺族の方々がみせる姿を丁寧に伝えることで、“この場”との接点をつくり、過去(戦前の沖縄の人々の“日常”を伝える「導入展示」)へと違和感なくつなげる。
- ・ 解説(ナレーションやテロップなど)は極力行わず、情景や自然音・環境音などの効果音で映像を構成する。
- ・ プロジェクターによる60～90秒程度のループ映像とする(来館者の滞留を防ぐ)。

KEYPLAN



- ・ 1-1-① 導入の導入—6月23日の「平和の礎」の風景
グラフィック・映像装置

1-1.沖縄戦前夜の風景と人々の暮らし -(導入の導入)

第1展示室入口に入っすぐの壁面を映像面とし、プロジェクターによって映像がループで上映される。

1.導入展示

1-1.沖縄戦前夜の風景と人々の暮らし

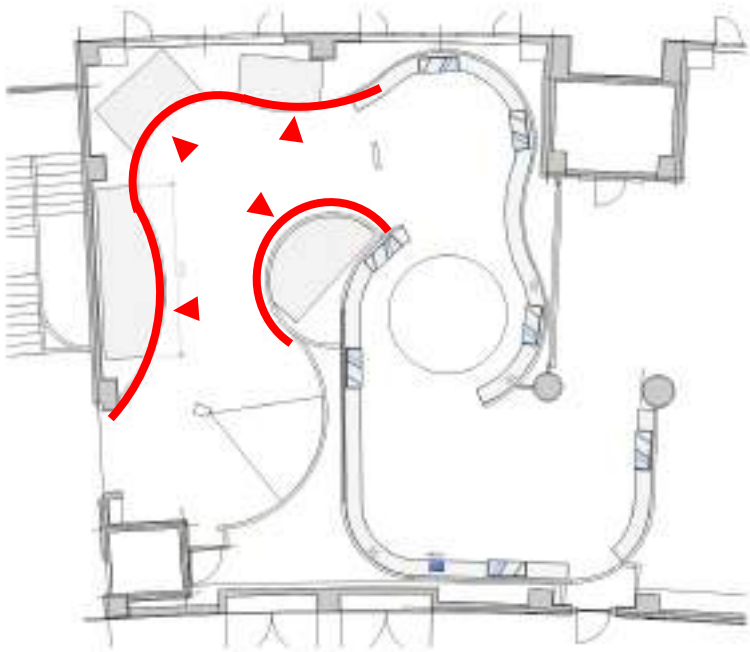
【展示のねらい】

- ・ 農村・漁村・学校・都市などを舞台に戦前の沖縄の日常を描き出すとともに、それぞれの日常に戦争の影が忍び寄り、戦時体制へと向かっていく様子をイメージしてもらう。

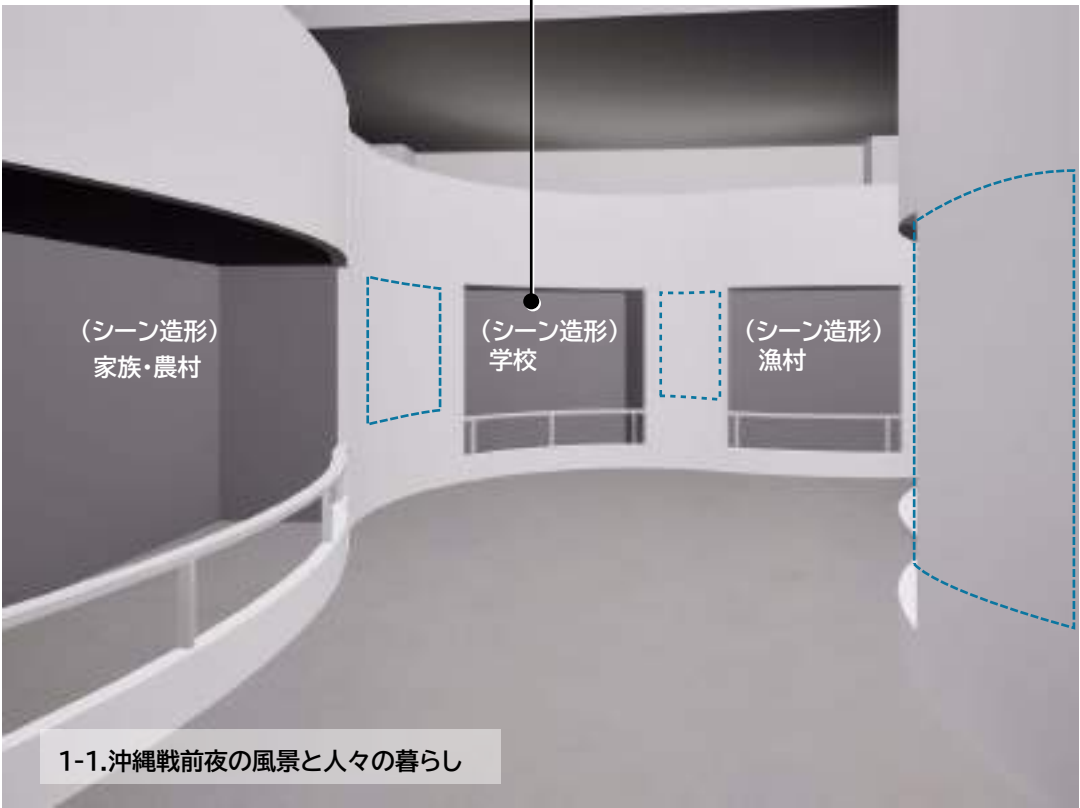
【展示の展開方針】

- ・ 10・10空襲以前の沖縄の風景と沖縄の人々の日常を伝える。
- ・ イラストで表現された立体積層造形により、沖縄戦が始まる前の「1.家族・農村」「2.学校」「3.漁村」「4.都市」の場面を再現する。
- ・ 辻売りや糸満売り、ハンセン病など、戦前の沖縄に存在した構造的差別の存在についても表現するが、前面に出して説明はしない。
- ・ 長い説明文は配置せず、補足的に出征風景などの写真を2～3点ほど掲示する。

KEYPLAN



- ・1-1-① 沖縄の農村に住む、ある家族を紹介する
 - ・1-1-② 戦時体制や近づく沖縄戦による影響は、家族の生活にも及んだ
 - ・1-1-③ 「糸満売り」された少年、「辻売り」された少女、ハンセン病患者など、家族に包摂されない人々を含む
- グラフィック・造形
(沖縄戦前夜の農村や学校、漁村、都市の写真など)



■ 立体積層造形のイメージ(都市)



立体積層造形や当時の写真、簡易な解説などにより、沖縄戦前の沖縄の日常を伝える。

2.沖縄戦への道

2-0.問いかけ展示

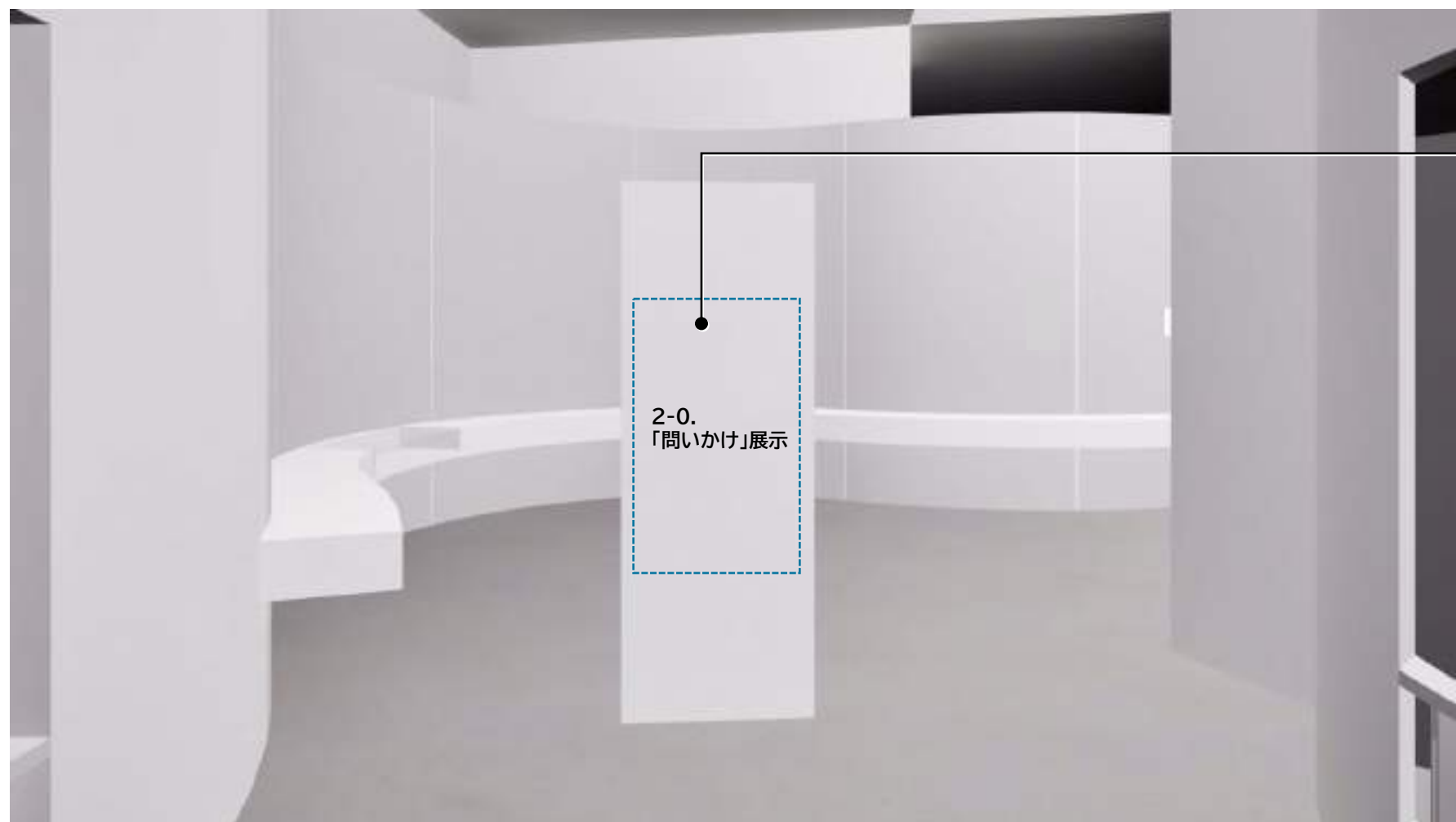
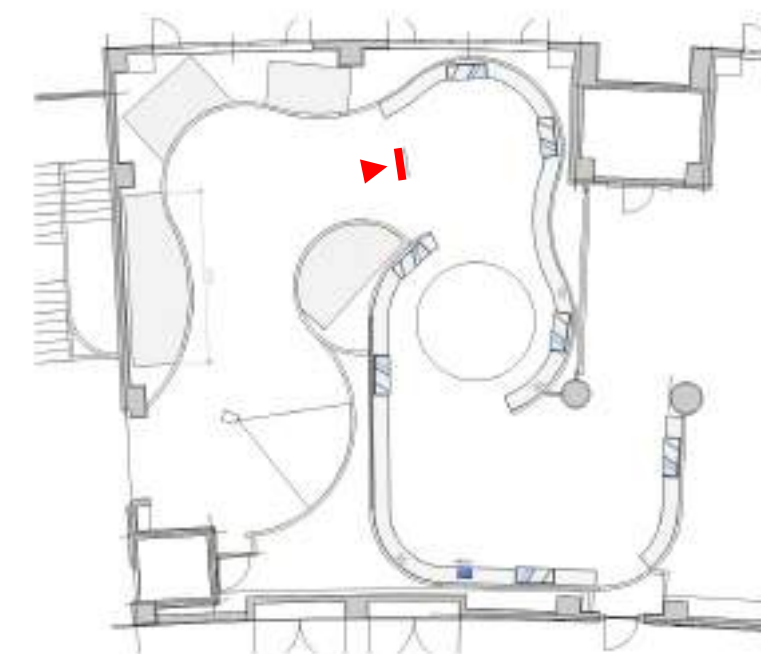
【展示のねらい】

- ・ 沖縄が日本に併合されてからの近代の日本のなかでの沖縄の歩みを振り返りながら、沖縄の人々の模索と努力、生きる姿、さらに日本が進める戦争に巻き込まれていく沖縄の姿を示して、ともに考えてもらう。

【展示の展開方針】

- ・ 「沖縄戦への道」展示の冒頭に、「問いかけ」展示として以下のような問いを提示する。
→なぜ、沖縄は戦場になり、多くの民間人が命をうばわれたのか？
→なぜ、沖縄には、こんなに基地が多いのか？

KEYPLAN



グラフィック

沖縄戦や現在の沖縄が抱える課題について考え、展示観覧の動機づけとなるように、「問いかけ」展示を設置する。

2. 沖縄戦への道

2-1. 琉球併合から同化政策へ

2-2. 日清戦争・日露戦争・第一次世界大戦

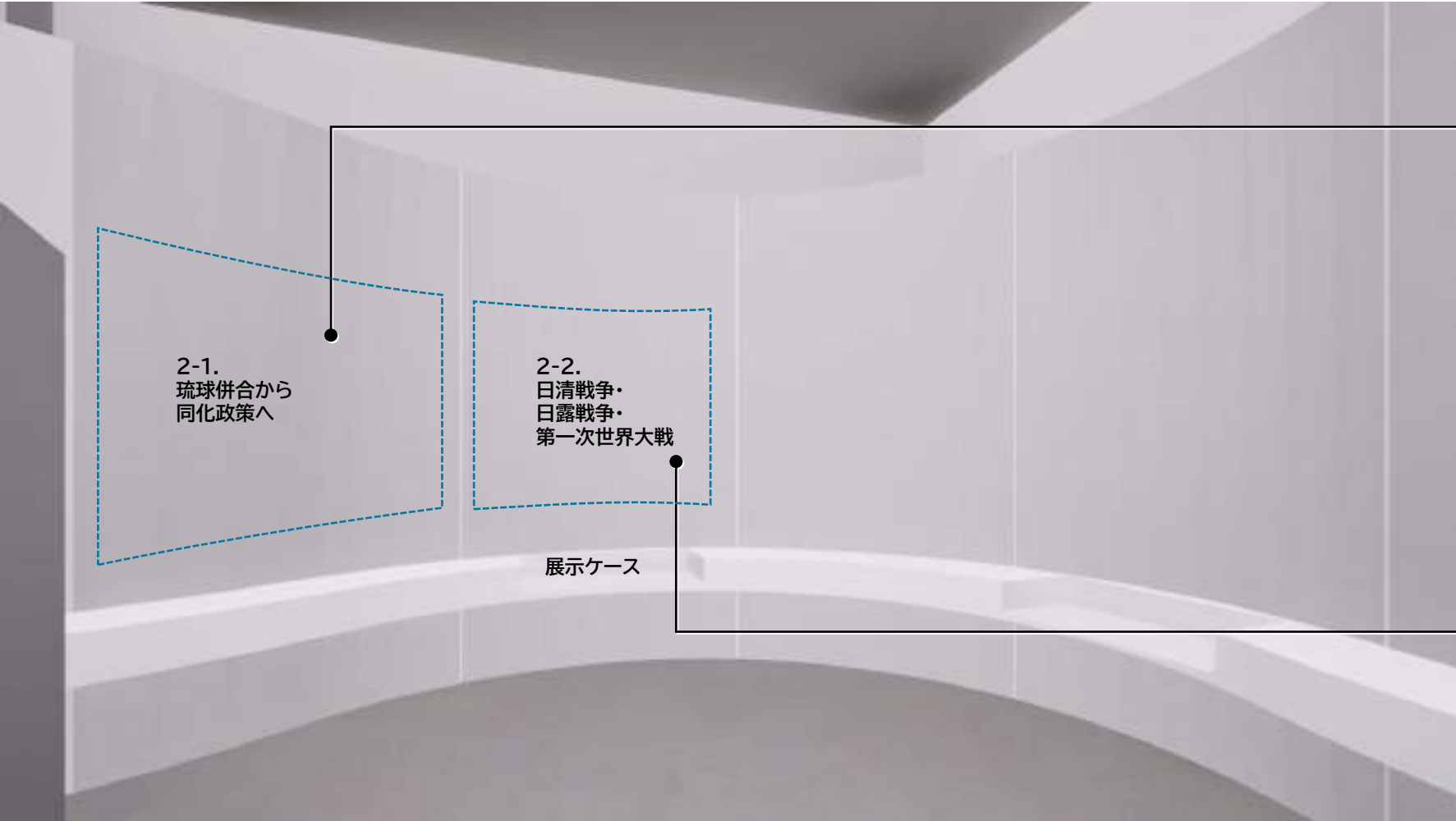
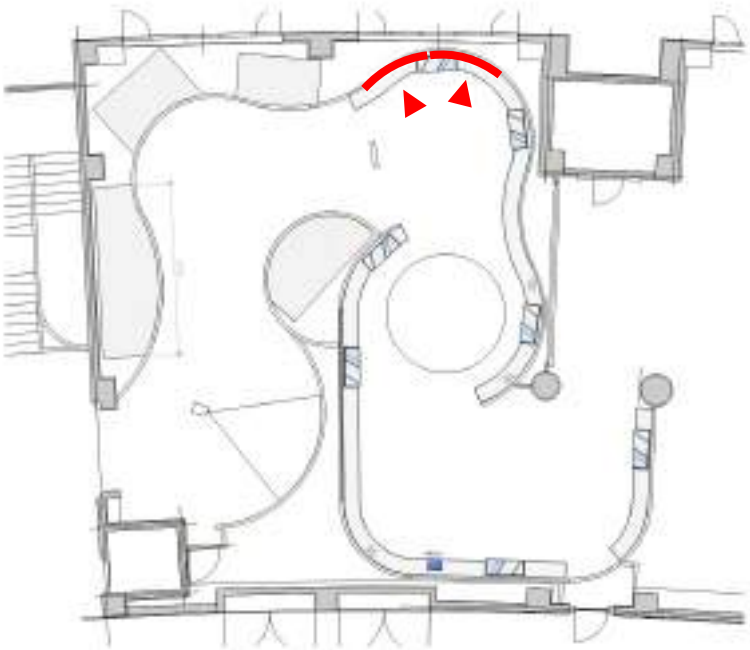
【展示のねらい】

- ・ 沖縄が日本に併合されてからの近代の日本のなかでの沖縄の歩みを振り返りながら、沖縄の人々の模索と努力、生きる姿、さらに日本が進める戦争に巻き込まれていく沖縄の姿を示して、ともに考えてもらう。

【展示の展開方針】

- ・ 文章や写真、図版などのグラフィックを中心に、一部実物資料も交えて解説する。

KEYPLAN



- ・ 2-1-① 1609年の薩摩藩による琉球侵攻、日清両属関係の琉球王国の様子
 - ・ 2-1-② 台湾出兵(「台湾遭害事件之墓」、牡丹社事件)
 - ・ 2-1-③ 琉球併合(琉球王国から沖縄県へ)
 - ・ 2-1-④ 日本の分島・増約案、日清戦争を経て国境画定
 - ・ 2-1-⑤ 旧慣温存策、同化政策
 - ・ 2-1-⑥ 教育勅語、御真影
 - ・ 2-1-⑦ 標準語教育
- グラフィック
(「琉球併合から同化政策へ」に関連する写真、図版など)

- ・ 2-2-① 日清戦争
 - ・ 2-2-② 日露戦争
 - ・ 2-2-③ 韓国併合
 - ・ 2-2-④ 第一次世界大戦
 - ・ 2-2-⑤ シベリア出兵
 - ・ 2-2-⑥ 徴兵制度・徴兵検査
 - ・ 2-2-⑦ 第一次大戦後の戦後恐慌
 - ・ 2-2-⑧ 「ソテツ地獄」
 - ・ 2-2-⑨ 沖縄の経済、社会状況(サトウキビ生産など)
- グラフィック・資料
(「日清戦争・日露戦争・第一次世界大戦」に関連する実物資料、写真、図版など)

2.沖縄戦への道

2-3.近代の沖縄と軍隊

2-4.同化と異化のはざまで、沖縄の人々の模索

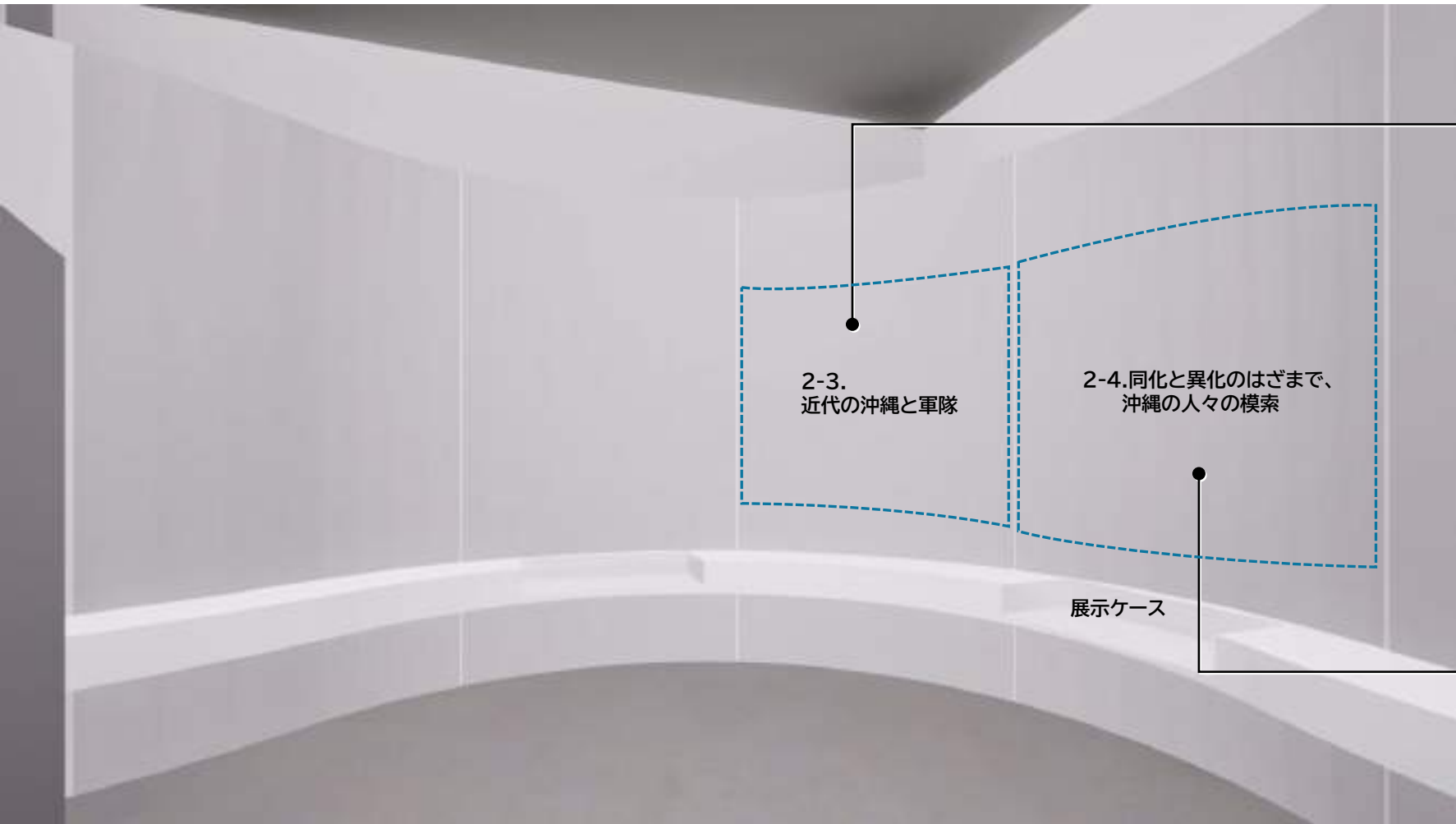
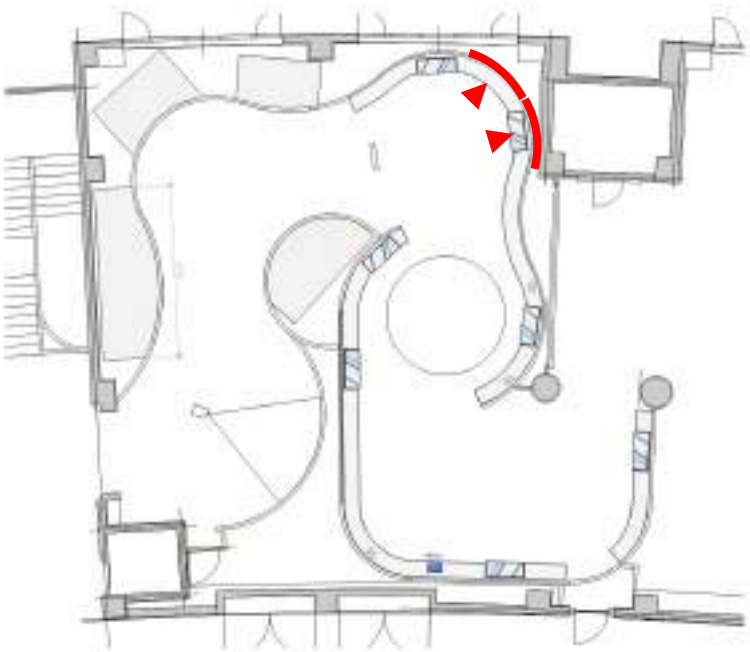
【展示のねらい】

- ・ 沖縄が日本に併合されてからの近代の日本のなかでの沖縄の歩みを振り返りながら、沖縄の人々の模索と努力、生きる姿、さらに日本が進める戦争に巻き込まれていく沖縄の姿を示して、ともに考えてもらう。

【展示の展開方針】

- ・ 文章や写真、図版などのグラフィックを中心に、一部実物資料も交えて解説する。
- ・ 既存映像を活用した映像展示を行う。

KEYPLAN



- ・ 2-3-① 軍人勅諭
- ・ 2-3-② 分遣隊派遣
- ・ 2-3-③ 陸軍教導団
- ・ 2-3-④ 沖縄からの徴兵(九州の部隊への入隊)
- ・ 2-3-⑤ 戦争への従軍(日露戦争、第一次世界大戦・日中戦争)
- ・ 2-3-⑥ 戦死者の慰霊・顕彰
- ・ 2-3-⑦ 海軍施設(中城湾)
- ・ 2-3-⑧ 臨時要塞(中城湾と船浮)
- ・ 2-3-⑨ 軍艦の寄港と県民の歓迎
- ・ 2-3-⑩ 日本軍の沖縄県民観(沖縄警備隊区徴募事務概況、沖縄県の歴史的関係及人情風俗、沖縄防備対策)

グラフィック

(「近代の沖縄と軍隊」に関連する写真、図版など)

- ・ 2-4-① 人頭税廃止運動
- ・ 2-4-② 自由民権運動(謝花昇)
- ・ 2-4-③ 人類館事件
- ・ 2-4-④ 伊波普猷(郷土研究、沖縄学)
- ・ 2-4-⑤ 太田朝敷
- ・ 2-4-⑥ 本土の社会運動への参加(労働組合)
- ・ 2-4-⑦ 教員運動(社会科学研究会、東京と沖縄)
- ・ 2-4-⑧ 沖縄教育労働者組合OIL、八重山教育労働者組合
- ・ 2-4-⑨ 風俗改良、良妻賢母
- ・ 2-4-⑩ 「新しい女たち」(新しい生き方を模索する女性たち)

グラフィック・資料

(「同化と異化のはざまで、沖縄の人々の模索」に関連する実物資料、写真、図版など)

2.沖縄戦への道

2-5.移民と出稼ぎ

2-6.沖縄からの移民と戦争

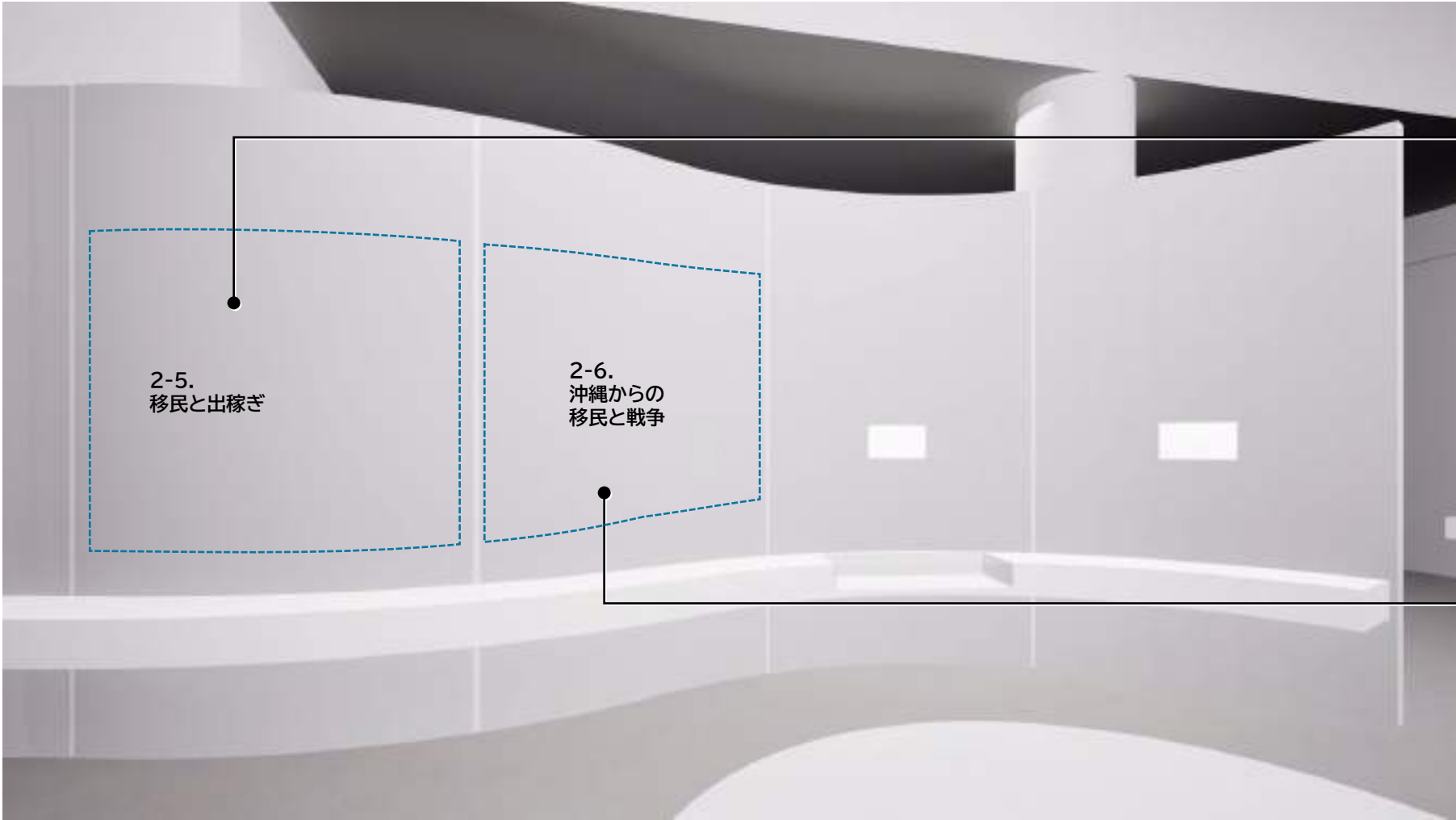
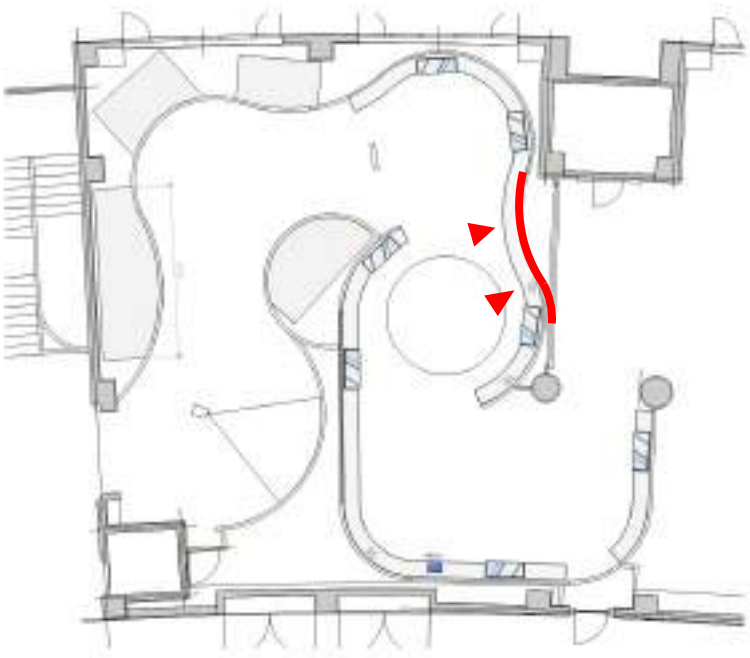
【展示のねらい】

- ・ 沖縄が日本に併合されてからの近代の日本のなかでの沖縄の歩みを振り返りながら、沖縄の人々の模索と努力、生きる姿、さらに日本が進める戦争に巻き込まれていく沖縄の姿を示して、ともに考えてもらう。

【展示の展開方針】

- ・ 文章や写真、図版などのグラフィックを中心に、一部実物資料も交えて解説する。
- ・ 既存映像を活用した映像展示を行う。

KEYPLAN



- ・ 2-5-① 移民の始まりと展開
- ・ 2-5-② 富山久三
- ・ 2-5-③ 移民(南米・北米・ハワイ)
- ・ 2-5-④ 台湾
- ・ 2-5-⑤ 南洋群島
- ・ 2-5-⑥ 東南アジア(フィリピンなど)
- ・ 2-5-⑦ 本土出稼ぎ・留学(県人会／関西と東京)
- ・ 2-5-⑧ 徴兵忌避と移民(本部事件)
- ・ 2-5-⑨ 国策移民(満州、満蒙開拓団)
- ・ 2-5-⑩ 三竈島(サンソウトウ)

グラフィック
(「移民と出稼ぎ」に関連する写真、図版など)

- ・ 2-6-① 南洋群島(サイパン、テニアンなど)
- ・ 2-6-② 移民と現地住民の犠牲
- ・ 2-6-③ サイパン陥落後の軍の対民間人対策
- ・ 2-6-④ フィリピン(ダバオ、パナイなど)
- ・ 2-6-⑤ 東南アジア(インド抑留、オーストラリア抑留)
- ・ 2-6-⑥ 北米(日系人強制収容)
- ・ 2-6-⑦ 南米(ブラジル、勝ち組と負け組)

グラフィック
(「沖縄からの移民と戦争」に関連する写真、図版など)

2.沖縄戦への道

2-7.皇民化政策、沖縄と植民地・占領地

2-8.十五年戦争と南進政策

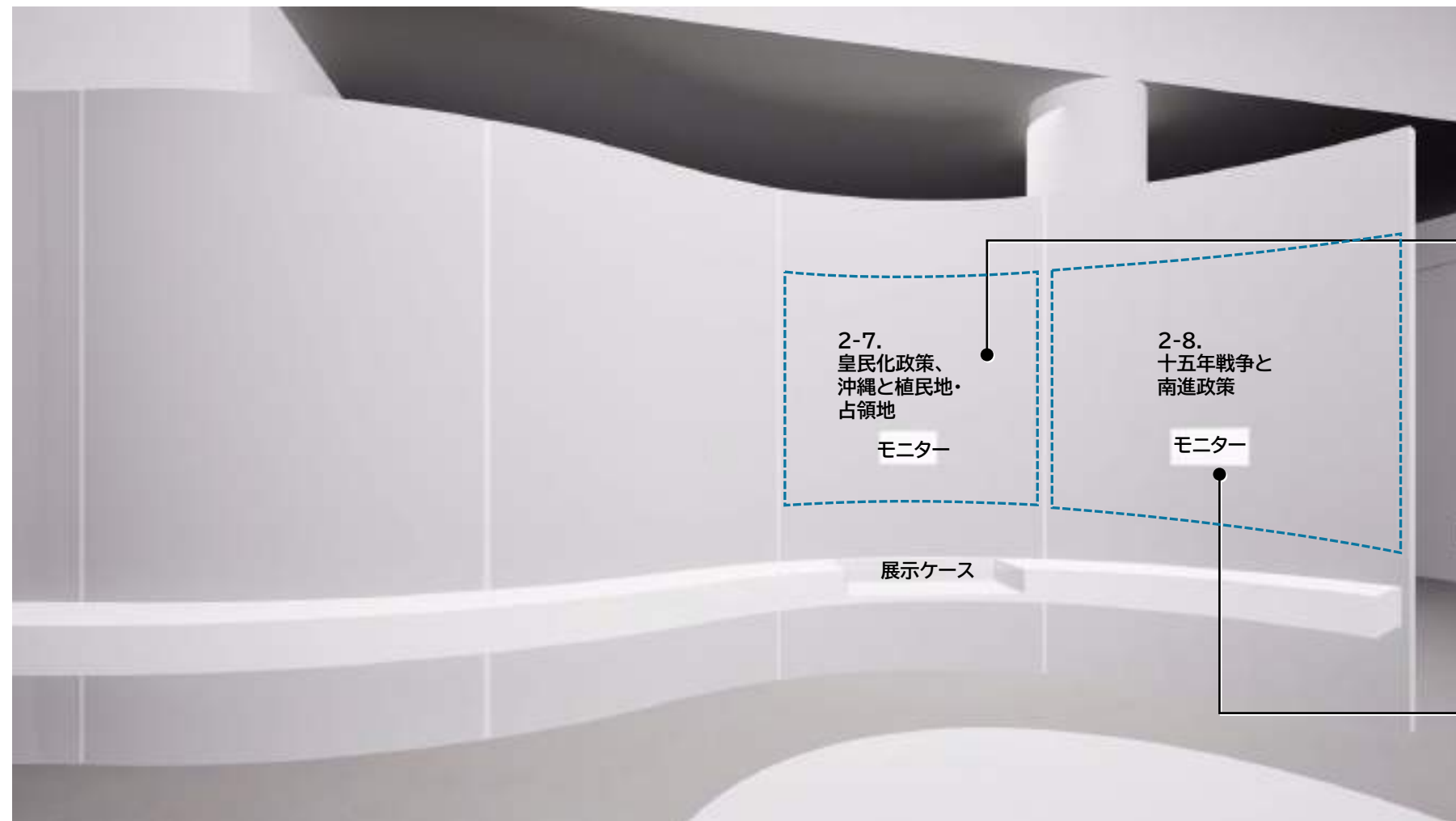
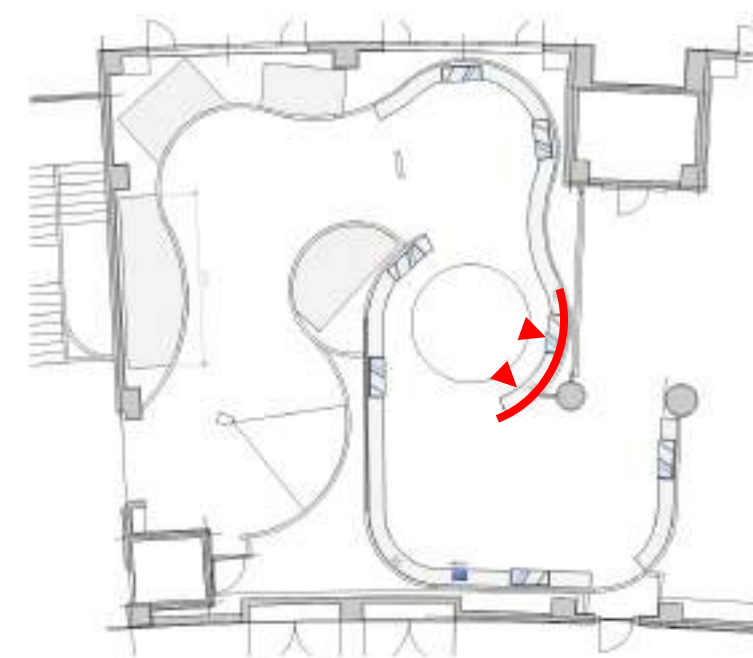
【展示のねらい】

- ・ 沖縄が日本に併合されてからの近代の日本のなかでの沖縄の歩みを振り返りながら、沖縄の人々の模索と努力、生きる姿、さらに日本が進める戦争に巻き込まれていく沖縄の姿を示して、ともに考えてもらう。

【展示の展開方針】

- ・ 文章や写真、図版などのグラフィックを中心に、一部実物資料も交えて解説する。
- ・ 既存映像を活用した映像展示を行う。

KEYPLAN



- ・ 2-7-① 御真影
 - ・ 2-7-② 教育勅語
 - ・ 2-7-③ 奉安殿
 - ・ 2-7-④ 学校防空指針(御真影・教育勅語)奉護のための殉職者
 - ・ 2-7-⑤ 国定教科書(「国語」「修身」など)
 - ・ 2-7-⑥ 標準語励行、方言札
 - ・ 2-7-⑦ 改姓改名
 - ・ 2-7-⑧ 神社、鳥居
 - ・ 2-7-⑨ 神社の建立
 - ・ 2-7-⑩ 創氏改名
 - ・ 2-7-⑪ 皇国臣民の誓詞(宮城遥拝)
 - ・ 2-7-⑫ 植民地での日本語教育
 - ・ 2-7-⑬ 占領地での日本語教育
- グラフィック・映像装置・資料
(「皇民化政策、沖縄と植民地・占領地」に関連する実物資料、写真、図版など)

- ・ 2-8-① 満州事変からの十五年戦争
 - ・ 2-8-② 日中全面戦争
 - ・ 2-8-③ 銃後の戦争体制(千人針、奉公袋、出征)
 - ・ 2-8-④ 従軍した沖縄出身兵
 - ・ 2-8-⑤ 沖縄防備対策
 - ・ 2-8-⑥ 南進政策(南方の重要資源)
 - ・ 2-8-⑦ 第二次世界大戦
 - ・ 2-8-⑧ アジア太平洋戦争(マレー半島上陸と真珠湾攻撃)
- グラフィック・映像装置
(「十五年戦争と南進政策」に関連する写真、図版など)

2.沖縄戦への道

2-9.第32軍の沖縄配備と飛行場建設

2-10.総動員体制

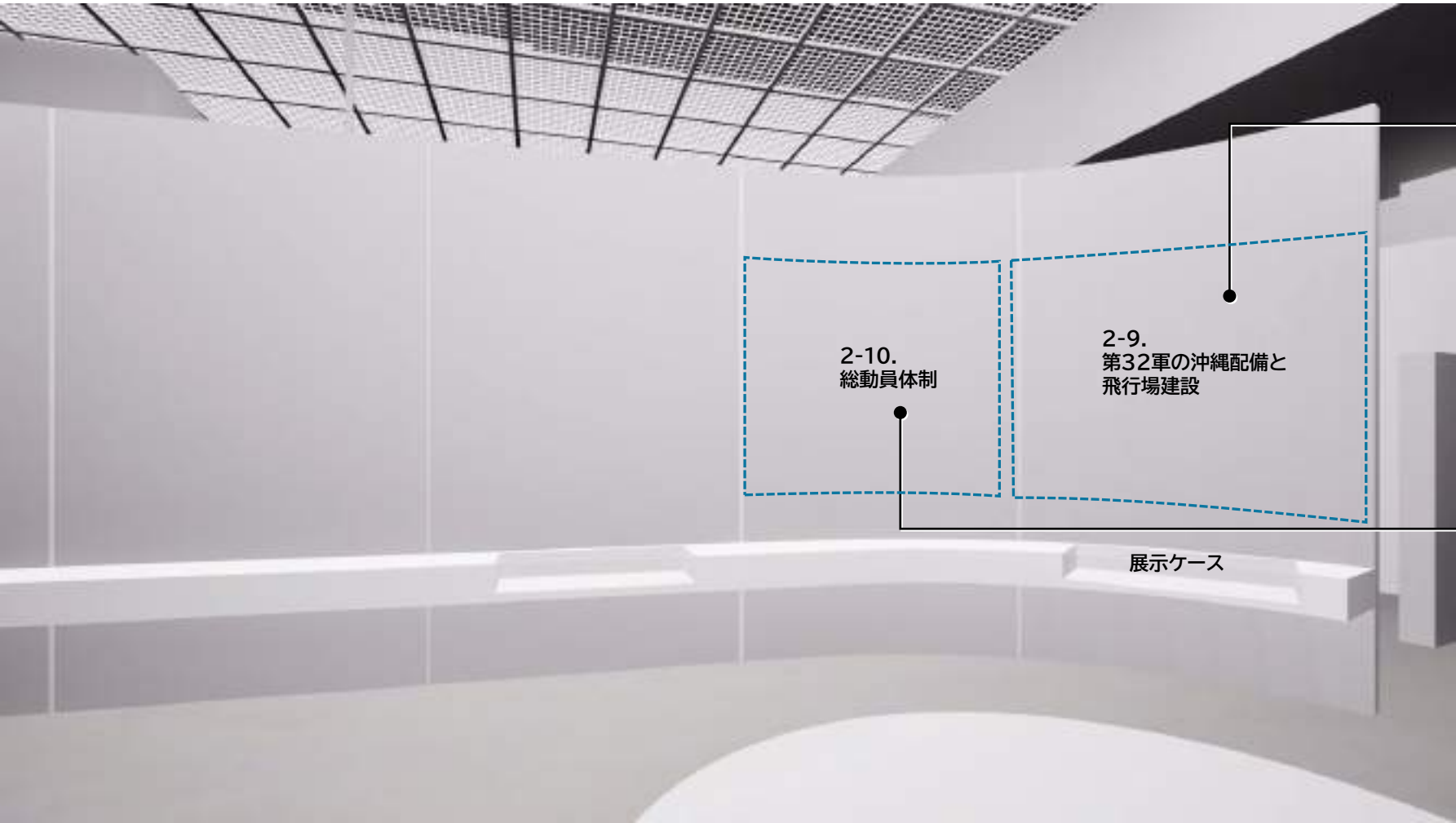
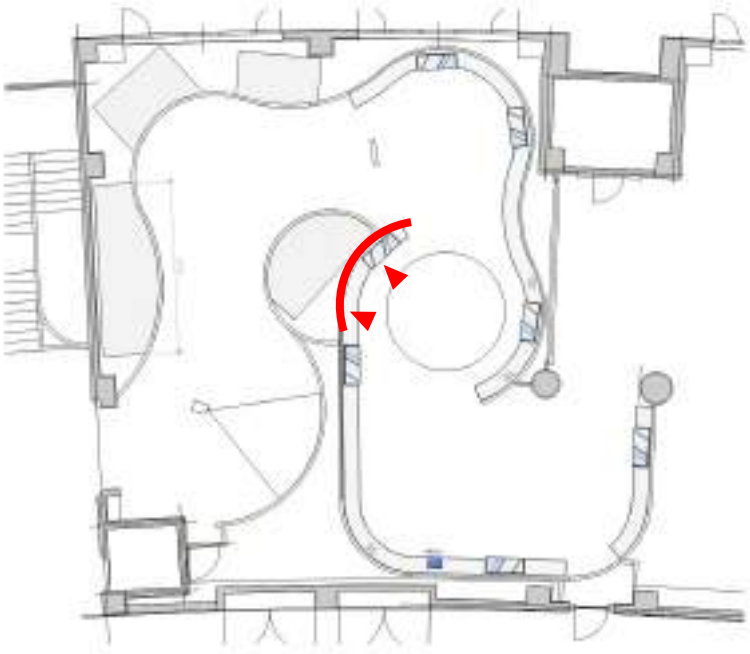
【展示のねらい】

- 第32軍が沖縄に配備され、沖縄の人々の生活が一気に戦争に組み込まれて大きく変わっていく状況を示すとともに、疎開船の撃沈や10・10空襲など犠牲が生まれ、さらに米軍の上陸が迫るなかで沖縄の人々が戦場に動員されていく姿を伝え、沖縄戦に至る沖縄の社会・人々の状況への理解を深めてもらう。

【展示の展開方針】

- 文章や写真、図版などのグラフィックを中心に、一部実物資料も交えて解説する。
- 既存映像を活用した映像展示を行う。

KEYPLAN



- 2-9-① 第32軍創設と配備・構成
- 2-9-② 飛行場建設
(北飛行場・中飛行場、伊江島など)
- 2-9-③ 住民の動員
- 2-9-④ 地上軍の増強配備(1944年7月から)
- 2-9-⑤ 日本軍慰安所の設置
- 2-9-⑥ 将兵による非行と住民の反応
- 2-9-⑦ 陣地の構築
- グラフィック・資料
(「第32軍の沖縄配備と飛行場建設」に関連する実物資料、写真、図版など)
- 2-10-① 徴用(勤労働員)
- 2-10-② 供出(金属、食糧、木材など)
- 2-10-③ 徴用・供出の仕組み
(軍・県・市町村・字)
- 2-10-④ 軍事訓練、竹槍訓練
- 2-10-⑤ 出征歓送式、慰問袋、千人針、帰還歓迎会、遺骨帰還・町村葬
- 2-10-⑥ 配給制度
- 2-10-⑦ 国防献金
- 2-10-⑧ マスメディア
- 2-10-⑨ 軽便鉄道爆発事件
- 2-10-⑩ 住民の生活、暮らしの変化
- グラフィック
(「総動員体制」に関連する写真、図版など)

2.沖縄戦への道

2-11.子どもたちの戦時体制

2-12.疎開

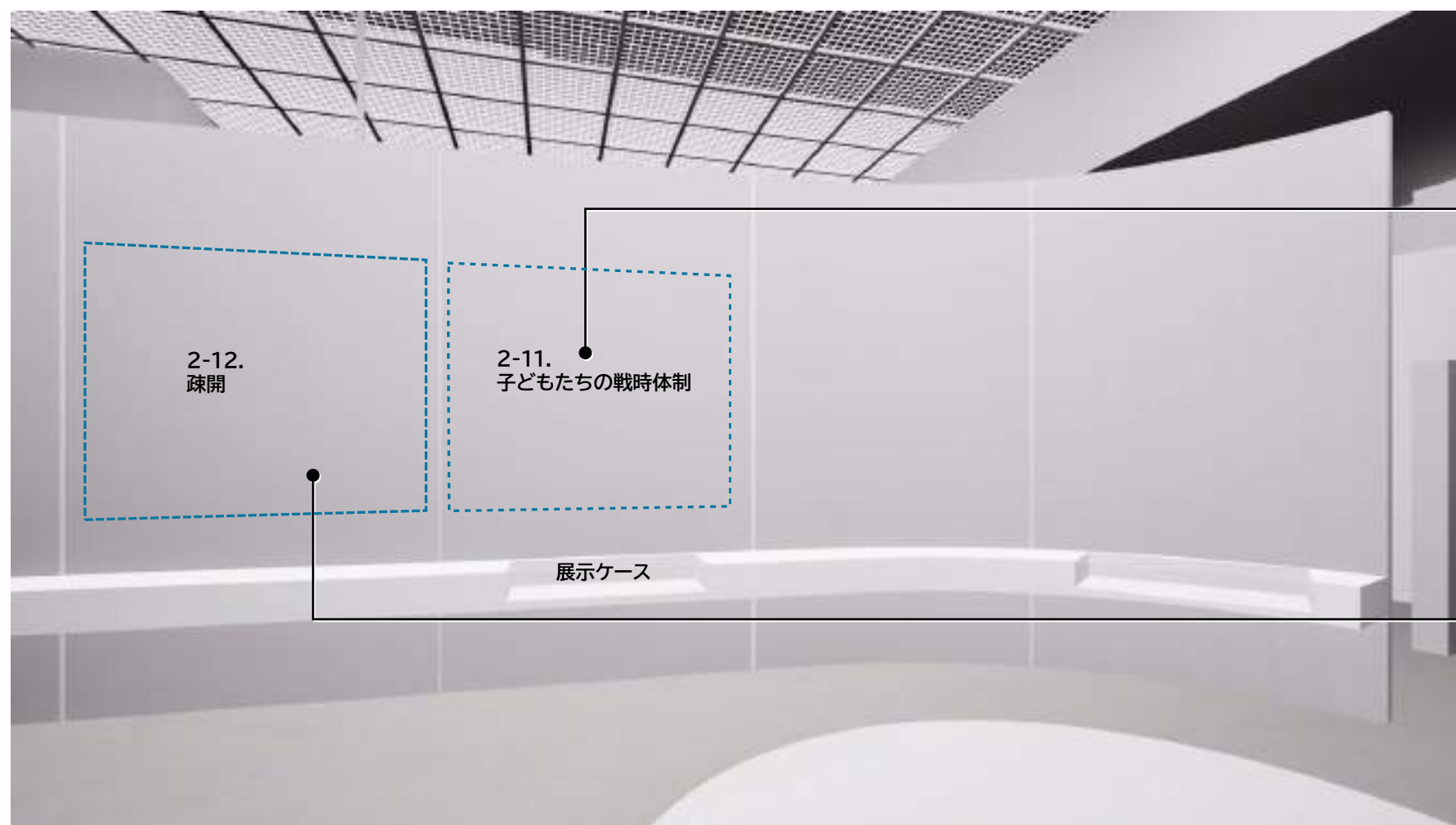
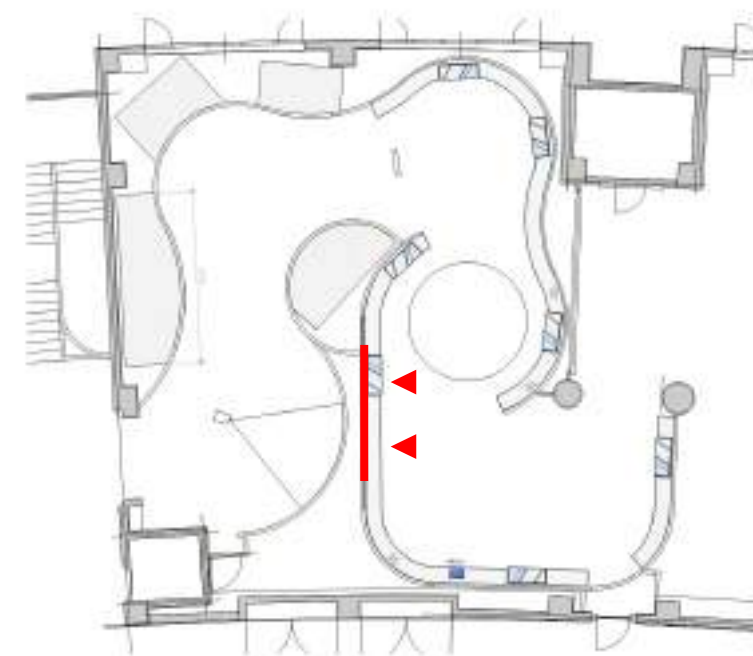
【展示のねらい】

- 第32軍が沖縄に配備され、沖縄の人々の生活が一気に戦争に組み込まれて大きく変わっていく状況を示すとともに、疎開船の撃沈や10・10空襲など犠牲が生まれ、さらに米軍の上陸が迫るなかで沖縄の人々が戦場に動員されていく姿を伝え、沖縄戦に至る沖縄の社会・人々の状況への理解を深めてもらう。

【展示の展開方針】

- 文章や写真、図版などのグラフィックを中心に、一部実物資料も交えて解説する。
- 既存映像を活用した映像展示を行う。

KEYPLAN



- 2-11-① 軍による学校接收、青空教室
 - 2-11-② 勤労働員、陣地構築、食糧増産
 - 2-11-③ 小学生(国民学校児童)の日常の変化
 - 2-11-④ 竹槍訓練、沖縄青少年団訓練
 - 2-11-⑤ 競技の変化(戦場競技へ)
 - 2-11-⑥ 子どもたちの遊びの変化
- グラフィック・資料
(「子どもたちの戦時体制」に関連する実物資料、写真、図版など)

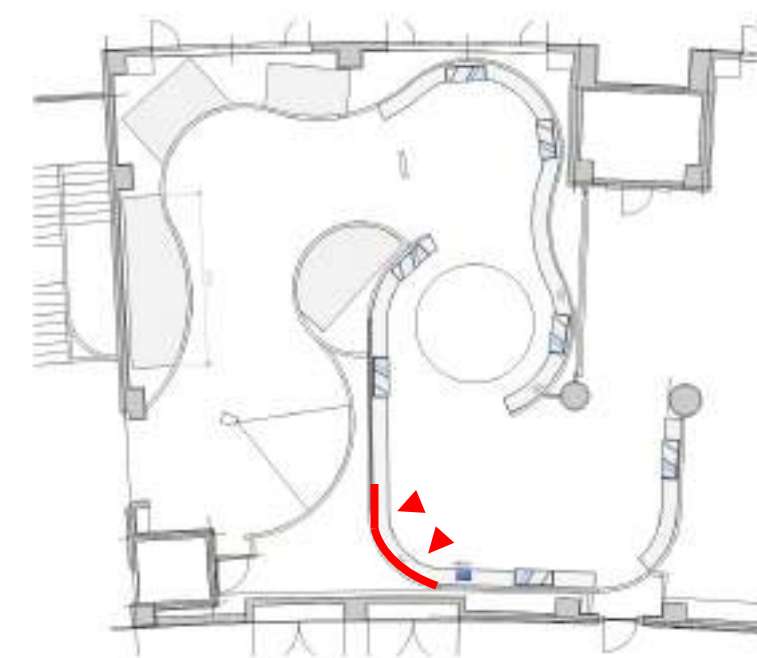
- 2-12-① 疎開政策(立案の経緯、疎開の考え方)
 - 2-12-② 軍の方針
 - 2-12-③ 県の方針・関わり(知事と軍の対立、知事交代による変化)
 - 2-12-④ 県外疎開(九州、台湾)
 - 2-12-⑤ 学童疎開(対馬丸など)
 - 2-12-⑥ 北部(やんばる)疎開(県の方針、受け入れ体制、避難民の取扱、食糧難)
 - 2-12-⑦ 宮古・八重山の県外疎開(台湾疎開、郡内の別の島への強制疎開、島内強制疎開)
 - 2-12-⑧ 疎開と飢餓・マラリア(特に北部疎開、宮古・八重山)
 - 2-12-⑨ 疎開先での生活(九州、台湾)
- グラフィック
(「疎開」に関連する写真、図版など)

2.沖縄戦への道

2-13.防諜とスパイ取締り

2-14.10・10空襲

KEYPLAN

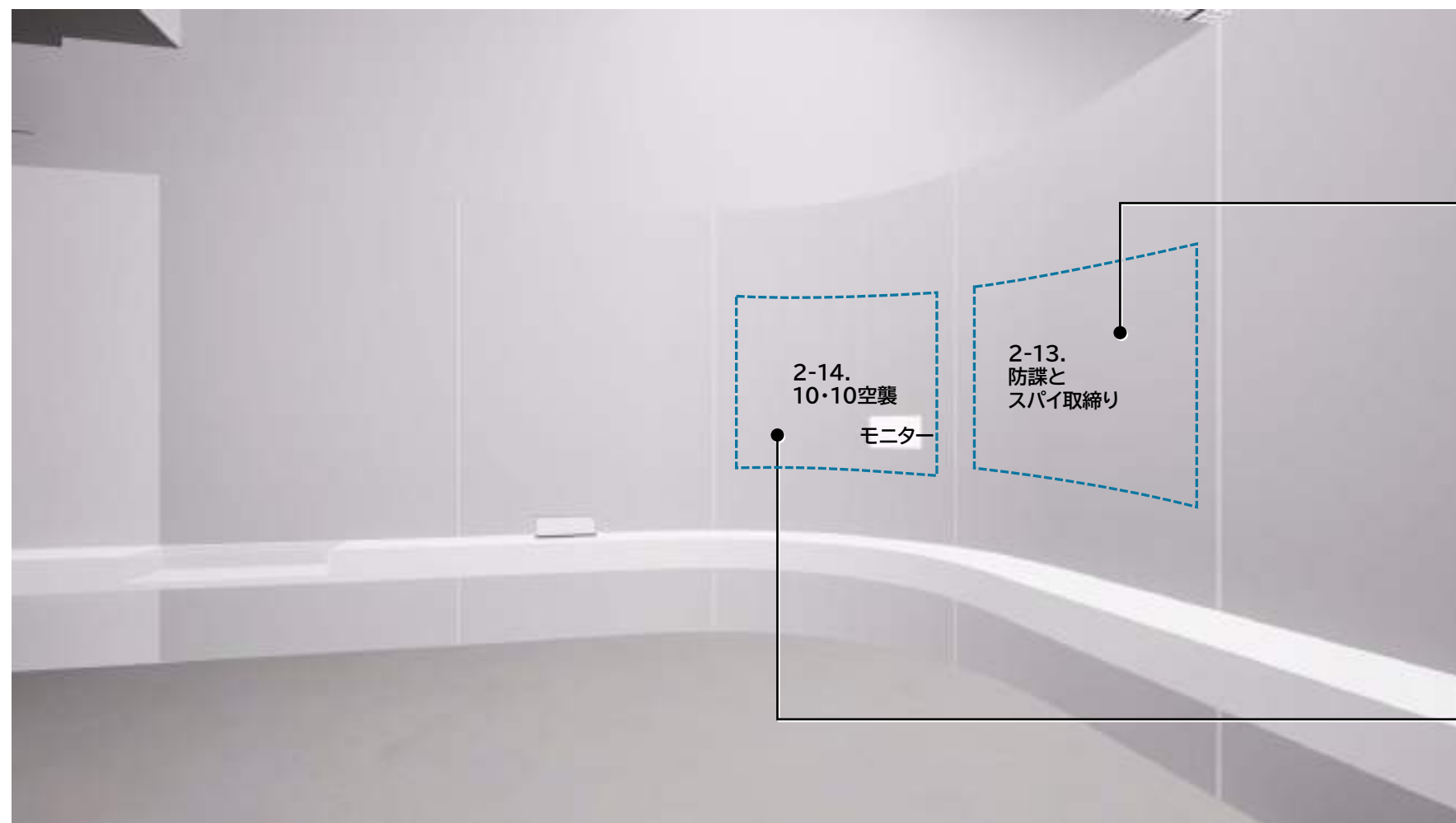


【展示のねらい】

- 第32軍が沖縄に配備され、沖縄の人々の生活が一気に戦争に組み込まれて大きく変わっていく状況を示すとともに、疎開船の撃沈や10・10空襲など犠牲が生まれ、さらに米軍の上陸が迫るなかで沖縄の人々が戦場に動員されていく姿を伝え、沖縄戦に至る沖縄の社会・人々の状況への理解を深めてもらう。

【展示の展開方針】

- 文章や写真、図版などのグラフィックを中心に、一部実物資料も交えて解説する。
- 既存映像を活用した映像展示を行う。



- 2-13-① 社会運動の取締り
- 2-13-② 個人の言動の取締り、監視
- 2-13-③ 防諜
- 2-13-④ 住民の相互監視、密告
- 2-13-⑤ 国土隊(秘密戦に関する書類)
- 2-13-⑥ 移民帰りの監視
- 2-13-⑦ 沖縄語禁止
- 2-13-⑧ 久米島の日本軍と住民
- 2-13-⑨ 日本軍による防諜取締り
- 2-13-⑩ 警察文書
- 2-13-⑪ 軍機保護法、特高、国防保安法
グラフィック
(「防諜とスパイ取締り」に関連する写真、図版など)

- 2-14-① 10・10空襲の経過
- 2-14-② 米軍の作戦目的・計画
- 2-14-③ 空襲被害(那覇、各地、船舶)
- 2-14-④ 宮古・八重山諸島への空襲(10.12-13も含め)
- 2-14-⑤ 日本政府による抗議、米国政府の対応
グラフィック・映像装置
(「10・10空襲」に関連する写真、図版など)

2.沖縄戦への道

2-15.戦時船舶の犠牲

2-16.米軍上陸前夜の沖縄、県民の戦場動員

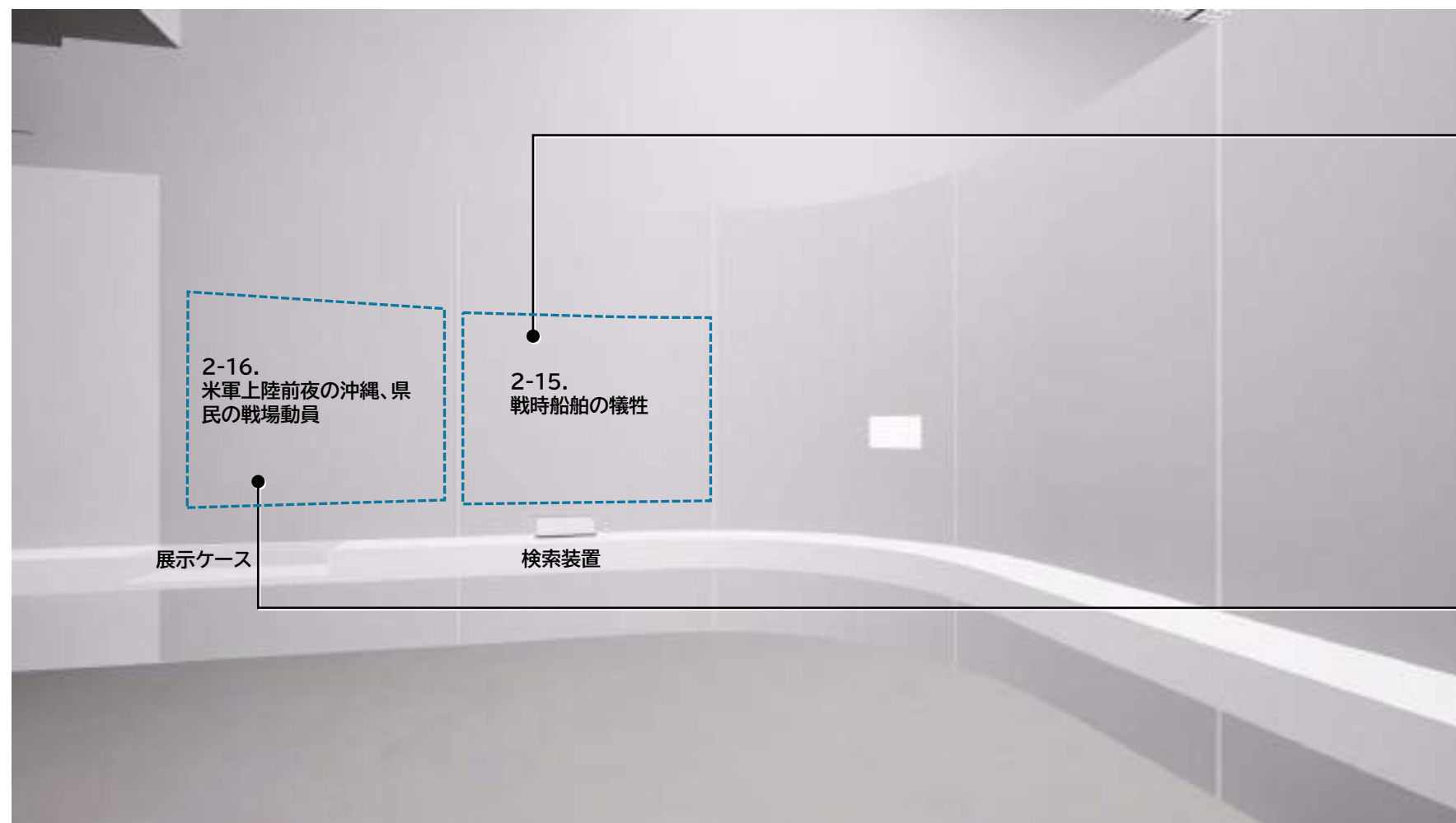
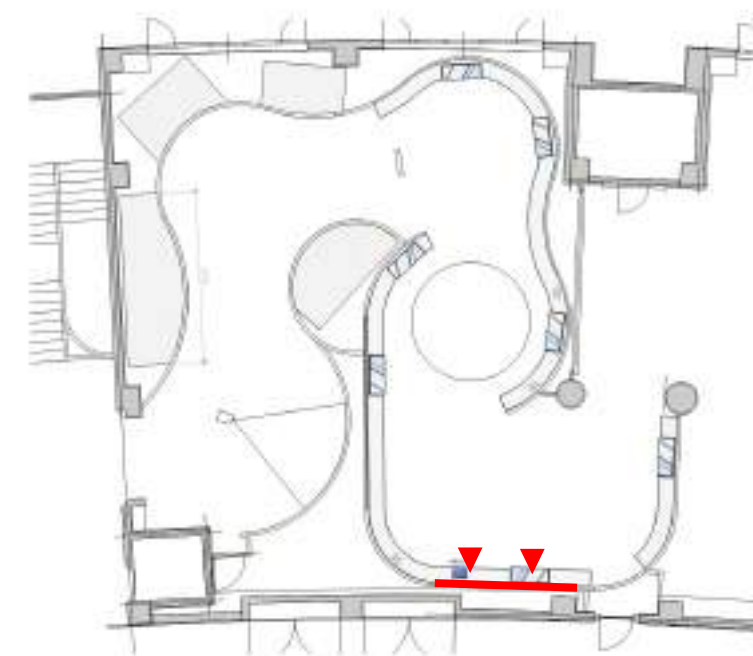
【展示のねらい】

- 第32軍が沖縄に配備され、沖縄の人々の生活が一気に戦争に組み込まれて大きく変わっていく状況を示すとともに、疎開船の撃沈や10・10空襲など犠牲が生まれ、さらに米軍の上陸が迫るなかで沖縄の人々が戦場に動員されていく姿を伝え、沖縄戦に至る沖縄の社会・人々の状況への理解を深めてもらう。

【展示の展開方針】

- 文章や写真、図版などのグラフィックを中心に、一部実物資料も交えて解説する。
- 既存映像を活用した映像展示を行う。

KEYPLAN



- 2-15-① 沖縄関係戦時遭難船舶一覧
- 2-15-② 対馬丸、嘉義丸、湖南丸など
- 2-15-③ 連絡船、漁船など小型艦船の犠牲
グラフィック・検索装置
(「戦時船舶の犠牲」に関連する写真、図版など)

- 2-16-① 軍官一体の県民の戦場動員体制
- 2-16-② 知事諭告第2号
- 2-16-③ 根こそぎ動員
- 2-16-④ 防衛隊
- 2-16-⑤ 義勇隊
- 2-16-⑥ 伊江島の軍官民合同訓練
- 2-16-⑦ 遊撃隊(護郷隊)
- 2-16-⑧ 女性たちの動員、救護班、炊事班等
- 2-16-⑨ 国民抗戦必携
グラフィック・資料
(「米軍上陸前夜の沖縄、県民の戦場動員」に関連する実物資料、写真、図版など)

2.沖縄戦への道

2-17.学徒の動員

2-18.日本軍の作戦と米軍の作戦

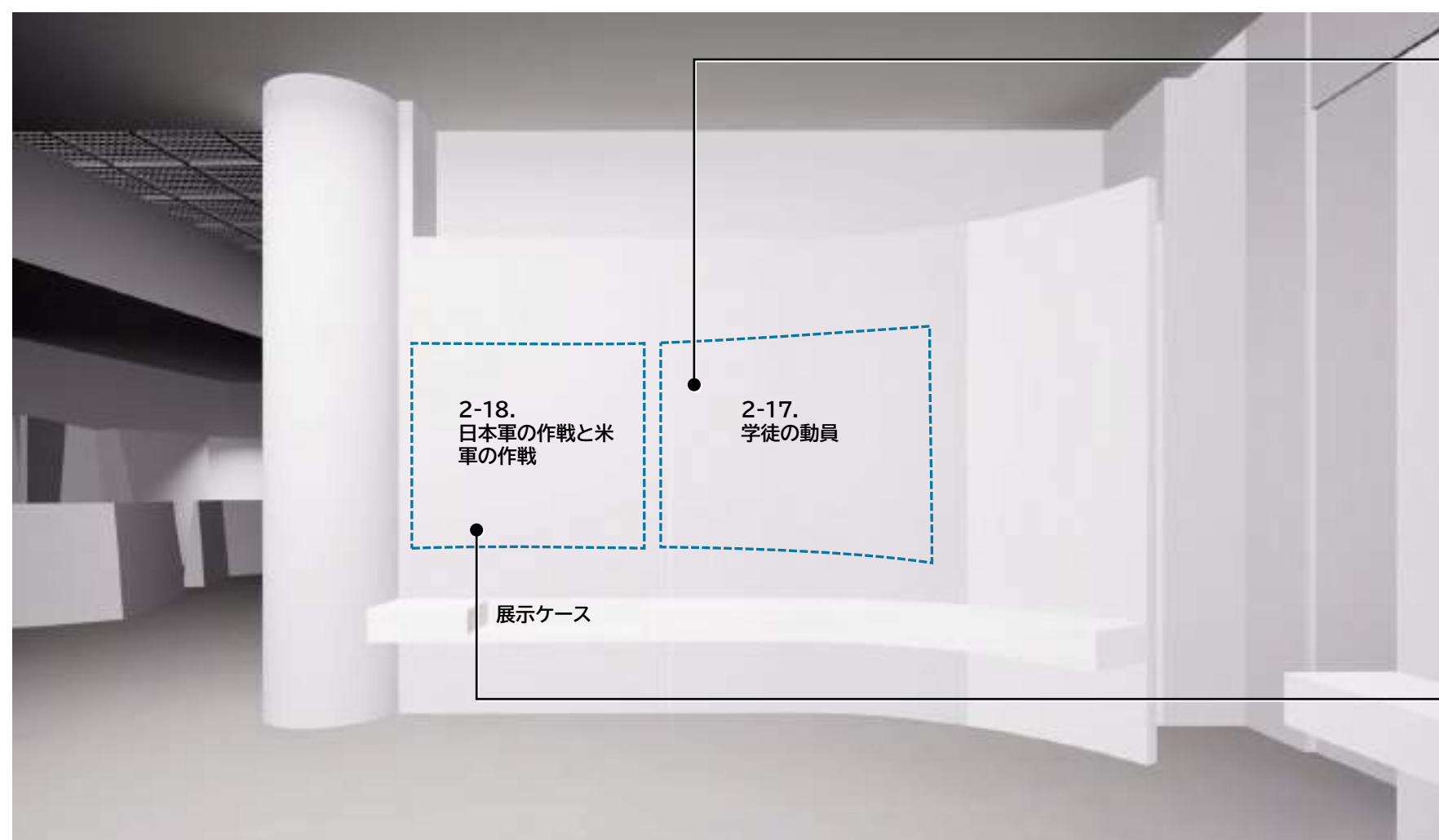
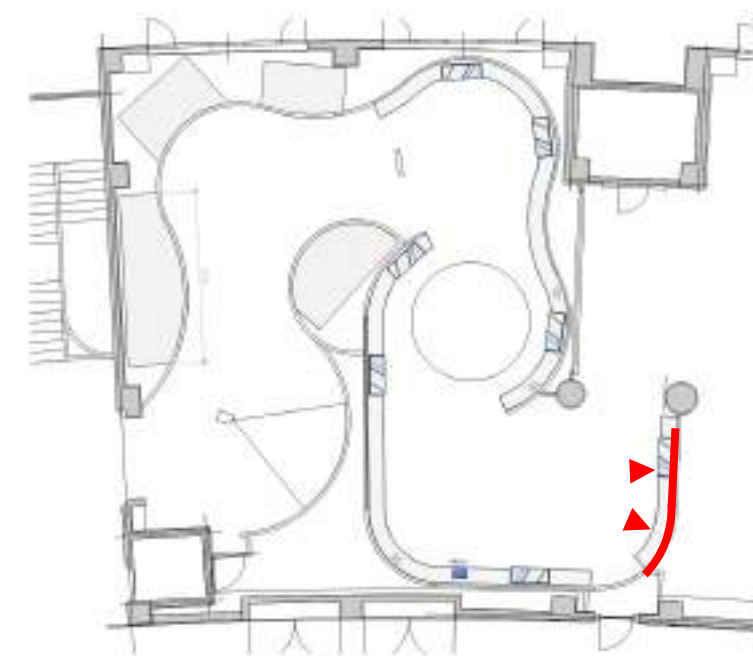
【展示のねらい】

- 第32軍が沖縄に配備され、沖縄の人々の生活が一気に戦争に組み込まれて大きく変わっていく状況を示すとともに、疎開船の撃沈や10・10空襲など犠牲が生まれ、さらに米軍の上陸が迫るなかで沖縄の人々が戦場に動員されていく姿を伝え、沖縄戦に至る沖縄の社会・人々の状況への理解を深めてもらう。

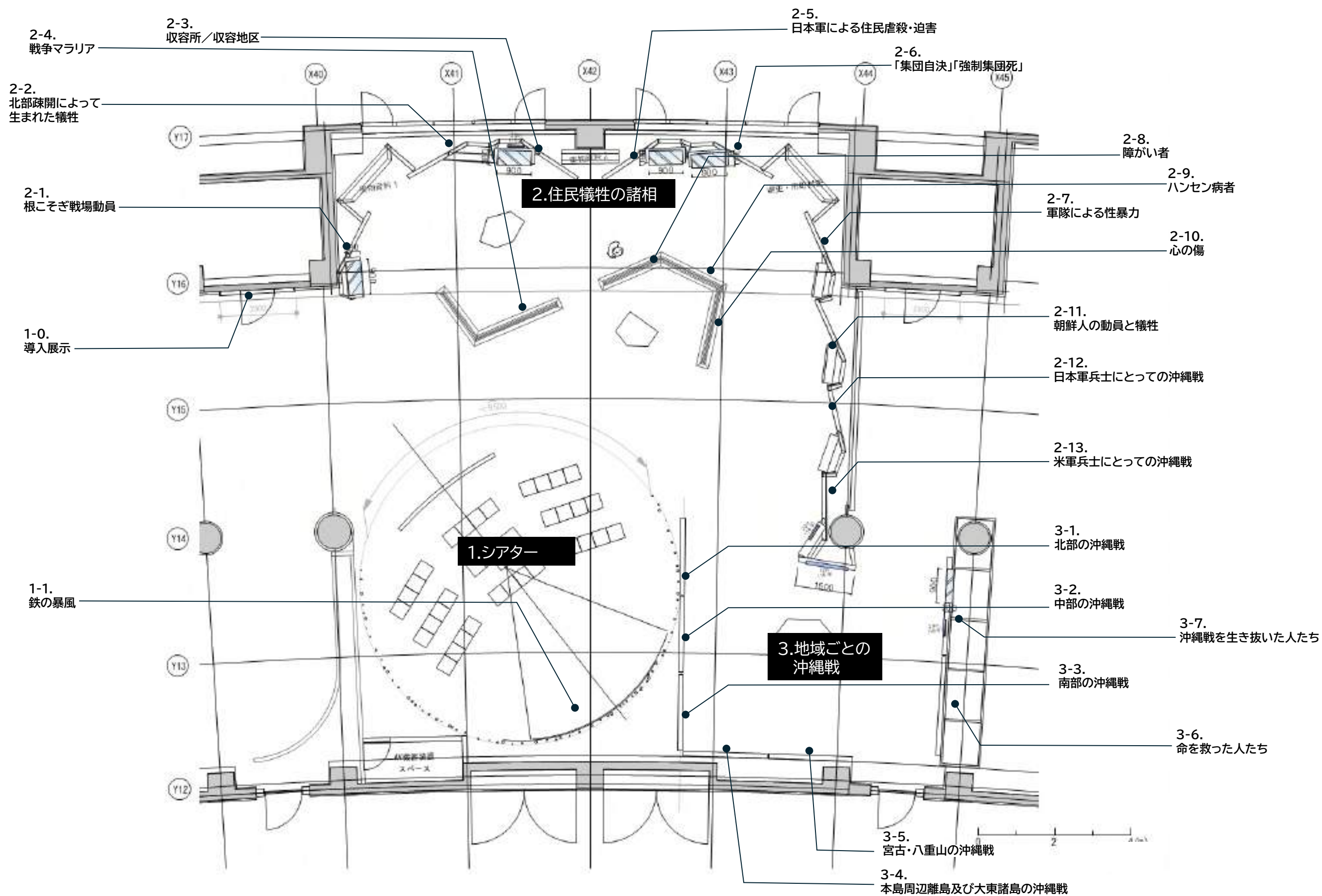
【展示の展開方針】

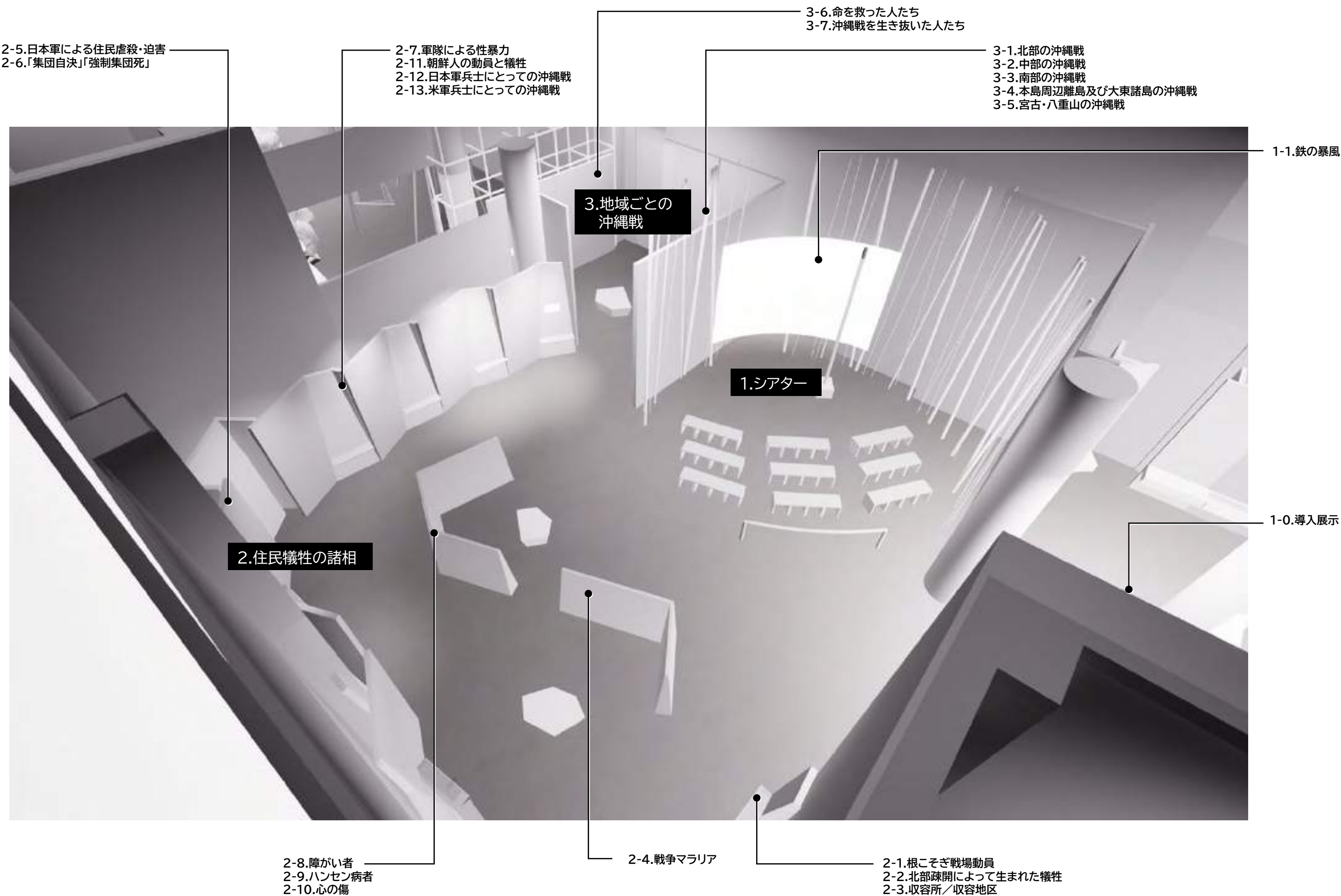
- 文章や写真、図版などのグラフィックを中心に、一部実物資料も交えて解説する。
- 既存映像を活用した映像展示を行う。

KEYPLAN



- 2-17-① 勤労働員
- 2-17-② 軍事訓練、竹槍訓練
- 2-17-③ 中学生、高等女学校生らの戦場動員(軍県3者覚書)
- 2-17-④ 戦場動員と女性差別
- 2-17-⑤ 学校ごとの動員状況と教師の対応
- 2-17-⑥ 遊撃隊(護郷隊)への学徒の動員
グラフィック
(「学徒の動員」に関連する写真、図版など)
- 2-18-① 日本軍の装備と作戦
- 2-18-② 戦陣訓、各種教令
- 2-18-③ 近衛上奏文
- 2-18-④ 大本營の方針
- 2-18-⑤ 第32軍の方針(作戦計画、時間稼ぎ、南部撤退など)
- 2-18-⑥ 住民対策
- 2-18-⑦ 捕虜・投降禁止(民間人も対象)
- 2-18-⑧ 戦闘方法(斬り込み隊など)
- 2-18-⑨ 国土決戦教令
- 2-18-⑩ 第32軍司令官最後の命令
- 2-18-⑪ 航空特攻
- 2-18-⑫ 海上特攻
- 2-18-⑬ 地上特攻
- 2-18-⑭ アイスバーグ作戦(沖縄作戦の目的)
- 2-18-⑮ 米軍の戦力・部隊
- 2-18-⑯ 心理戦
- 2-18-⑰ 住民対策
グラフィック・資料
(「日本軍の作戦と米軍の作戦」に関連する実物資料、写真、図版など)





1. シアター

1-1.鉄の暴風

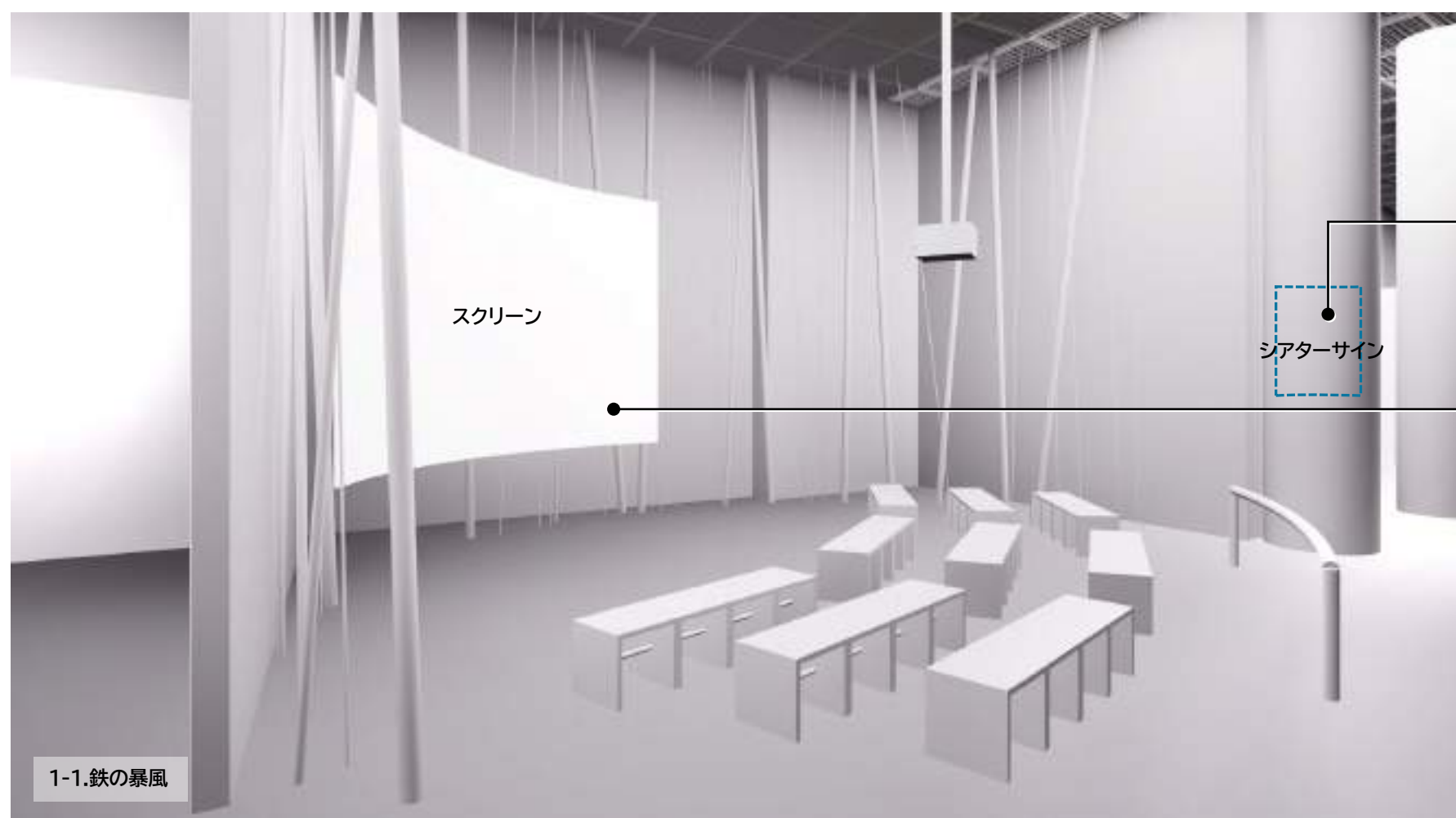
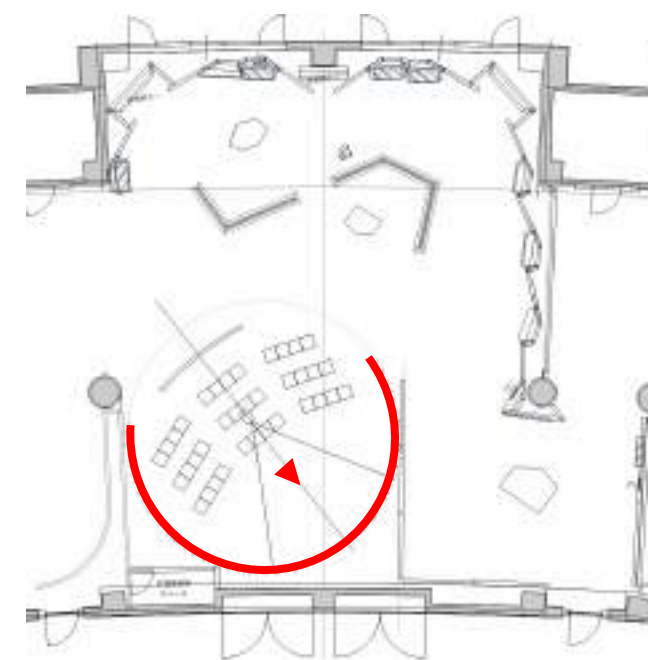
【展示のねらい】

- ・ 米軍上陸から戦闘終結までの経過を通して沖縄戦の全体像を示すとともに、激しい戦闘の中に兵士と区別なく住民が巻き込まれ、甚大な被害を受けた実態を、証言映像を通して住民の視点から伝える。

【展示の展開方針】

- ・ 沖縄戦の経緯を時間軸に沿って辿る「実写映像」と住民の証言で構成する「証言映像」を上映する。
- ・ 地形を変えるほどの破壊をもたらした、「鉄の暴風」と呼ばれる米軍による圧倒的な砲爆撃の凄まじさ、攻撃の状況を描く。
- ・ 各地で甚大な被害があったこと、“地獄”と称される沖縄戦の実相を、証言映像を通して、住民の視点から物語る。

KEYPLAN



グラフィック

シアターサイン

- ・ 1-1-① 沖縄戦戦闘経過
 - ・ 1-1-② 住民の戦争体験
- グラフィック・映像装置

1-1.鉄の暴風

プロジェクターにより、「実写映像」と「証言映像」がループ再生される。

1. シアター

1-1.鉄の暴風

○放映方式など

- ・ ループ方式で「実写映像」と「証言映像」を交互に上映する。
- ・ 「実写映像」と「証言映像」の間に30秒～1分程度のインターバルを設ける。
- ・ 両映像ともに、日本語ナレーション(「証言映像」は証言者の声)、日本語及び英語テロップを採用する。

■沖縄戦を捉えた「実写映像」の展開方針及び展開案

- ・ 沖縄戦のはじまりから終結までの経緯を時系列に沿ってわかりやすく伝える。
- ・ 戦闘場面だけでなく、米軍によってつくられた収容所、ガマなどから民間人が救出されるシーンも取り上げる。
- ・ 適宜、戦闘地域や軍隊の移動経路を示すことで、沖縄戦の経緯についての理解を助ける。



■沖縄戦の体験を物語る「証言映像」の展開方針

- ・ 実写映像からは見えてこない、住民の視点から見た戦闘・戦場の実相を伝える。
- ・ 適宜、戦闘地域や移動経路を図示することで、沖縄戦の経緯についての理解を助ける。
- ・ 映像のねらいや目的に合わせ、実施設計以降に証言者や証言の選定を行う。

2.住民犠牲の諸相

2-1.根こそぎ戦場動員

2-2.北部疎開によって生まれた犠牲

2-3.収容所／収容地区

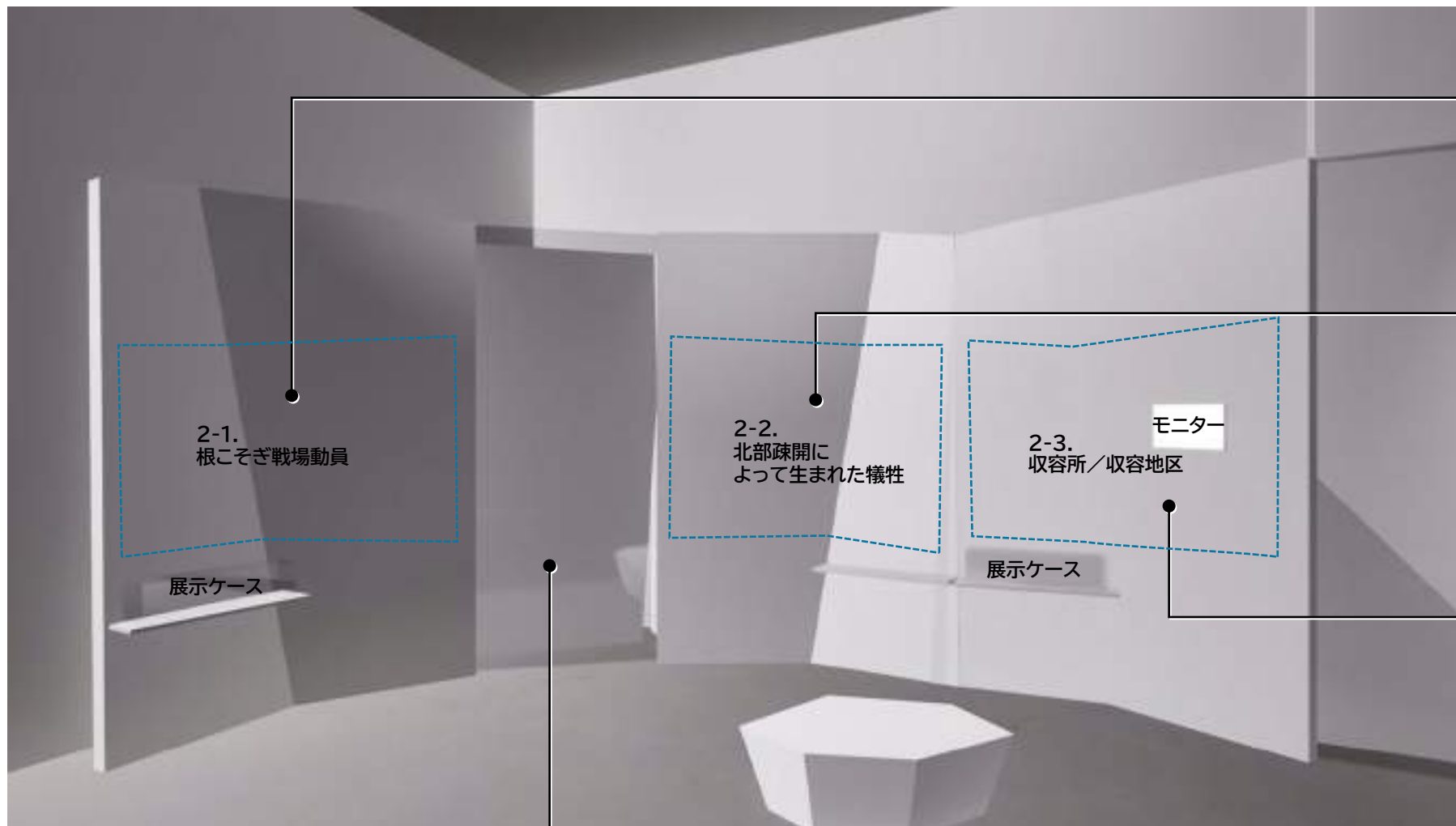
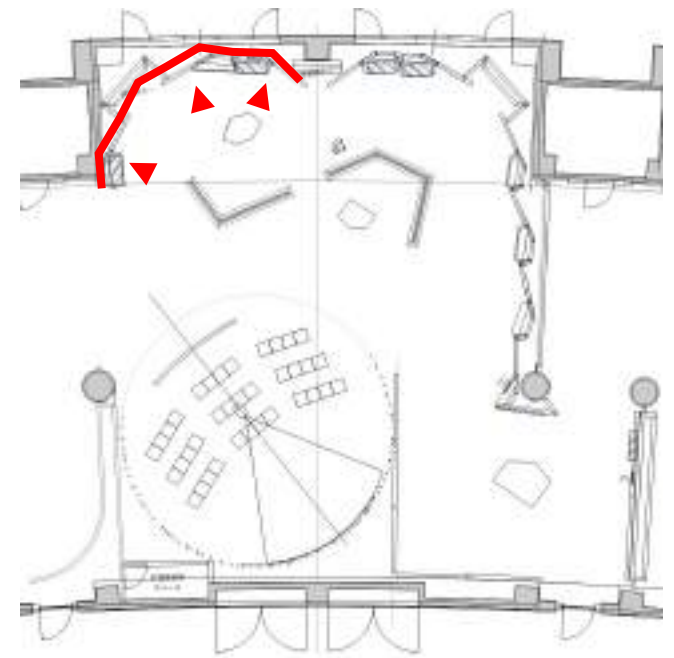
【展示のねらい】

- ・ 沖縄戦の中で住民の犠牲について、戦闘に巻き込まただけでなく、飢えやマラリア、性暴力など被害の多様な実相を理解してもらう。またそこに巻き込まれた朝鮮人や日米両軍の兵士たちの犠牲も取り上げ、一人一人の個人にとっての戦争の意味を考えてもらう。

【展示の展開方針】

- ・ 文章や写真、図版などのグラフィックを中心に、一部実物資料も交えて解説する。
- ・ 既存映像を活用した映像展示を行う。
- ・ 「住民犠牲の諸相」の情報を構成する基礎となった、市史などの地域史について紹介する。
- ・ デジタル端末、あるいはめくり式グラフィックなどの手法により、素朴な疑問を入口に考える素材や資料、視点、論点を提供し、来館者の思考を促す展示を設ける。

KEYPLAN



実物資料の展示

- ・ 2-1-① 戦場での物資運搬、道案内、斬り込み
 - ・ 2-1-② 捕虜になることを許さない
 - ・ 2-1-③ 投降阻止、スパイ視
 - ・ 2-1-④ 米軍上陸下、砲爆撃の中での動員
 - ・ 2-1-⑤ 市町村長・警察署長会議(県指示、知事訓示)
 - ・ 2-1-⑥ 知事から県民への最後の訓示
 - ・ 2-1-⑦ 海軍根拠地隊
 - ・ 2-1-⑧ 沖縄出身兵
- グラフィック・資料
(「根こそぎ戦場動員」に関連する写真、図版など)

- ・ 2-2-① 北部疎開方針(棄民政策)
 - ・ 2-2-② 投降阻止、スパイ視
 - ・ 2-2-③ 警察の役割(県警察文書)
 - ・ 2-2-④ やんばる山中の避難民の実相(食糧、住居、日々の生活)
 - ・ 2-2-⑤ 日本兵による迫害(食糧強奪、虐殺)
- グラフィック
(「北部疎開によって生まれた犠牲」に関連する写真、図版など)

- ・ 2-3-① 米軍政策
 - ・ 2-3-② 食糧難(飢えとマラリア)
 - ・ 2-3-③ 米軍基地建設と住民移動(軍事優先、劣悪な収容地区)
 - ・ 2-3-④ 収容所内の避難民と日本軍
 - ・ 2-3-⑤ 学校の開設
 - ・ 2-3-⑥ 戦争孤児、孤児院
- グラフィック・映像装置・資料
(「収容所／収容地区」に関連する実物資料、写真、図版など)

2.住民犠牲の諸相

2-4.戦争マラリア

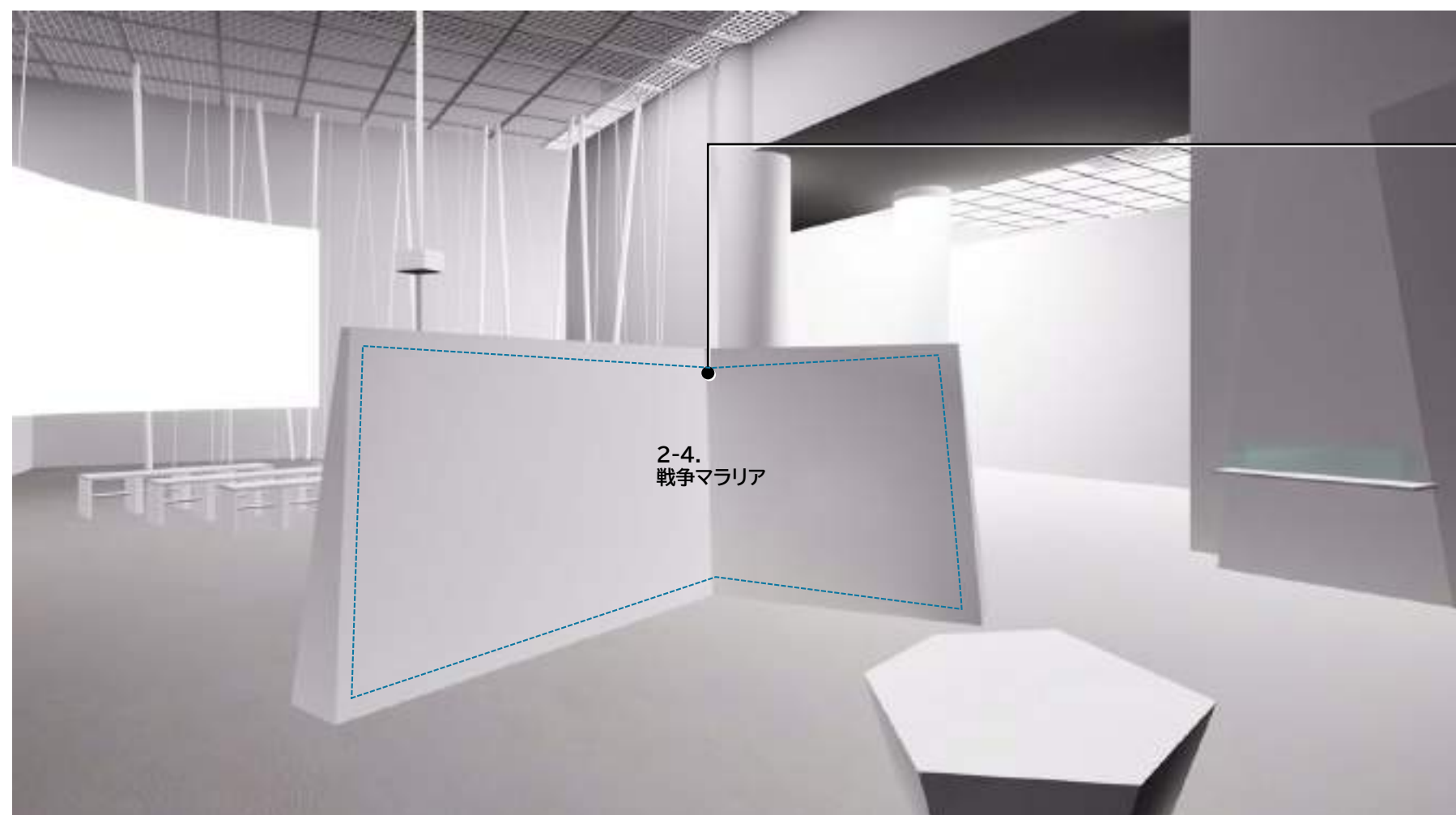
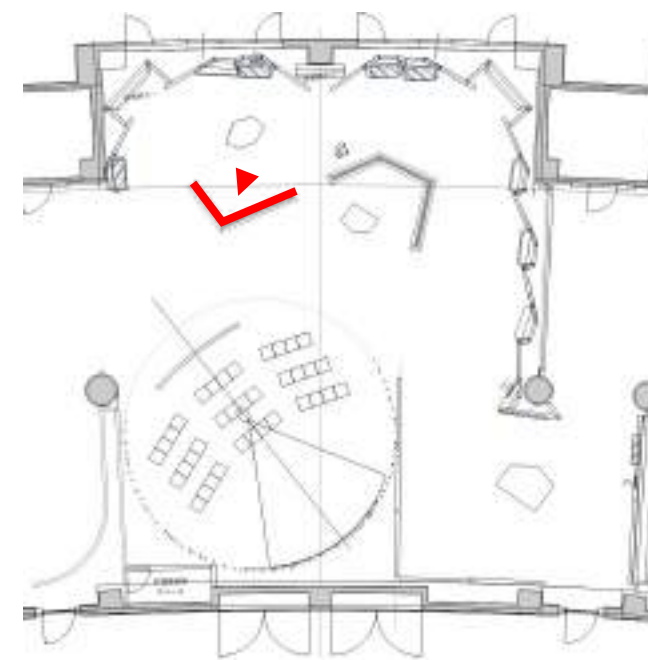
【展示のねらい】

- ・ 沖縄戦の中で住民の犠牲について、戦闘に巻き込まれただけでなく、飢えやマラリア、性暴力など被害の多様な実相を理解してもらう。またそこに巻き込まれた朝鮮人や日米両軍の兵士たちの犠牲も取り上げ、一人一人の個人にとっての戦争の意味を考えてもらう。

【展示の展開方針】

- ・ 文章や写真、図版などのグラフィックを中心に、一部実物資料も交えて解説する。
- ・ 既存映像を活用した映像展示を行う。
- ・ 「住民犠牲の諸相」の情報を構成する基礎となった、市史などの地域史について紹介する。
- ・ デジタル端末、あるいはめくり式グラフィックなどの手法により、素朴な疑問を入口に考える素材や資料、視点、論点を提供し、来館者の思考を促す展示を設ける。

KEYPLAN



- ・ 2-4-① 沖縄本島北部のマラリア
- ・ 2-4-② 宮古島のマラリア
- ・ 2-4-③ 八重山諸島の戦争マラリアと残置諜者グラフィック
(「戦争マラリア」に関連する写真、図版など)

2.住民犠牲の諸相

2-5.日本軍による住民虐殺・迫害

2-6.「集団自決」「強制集団死」

2-7.軍隊による性暴力

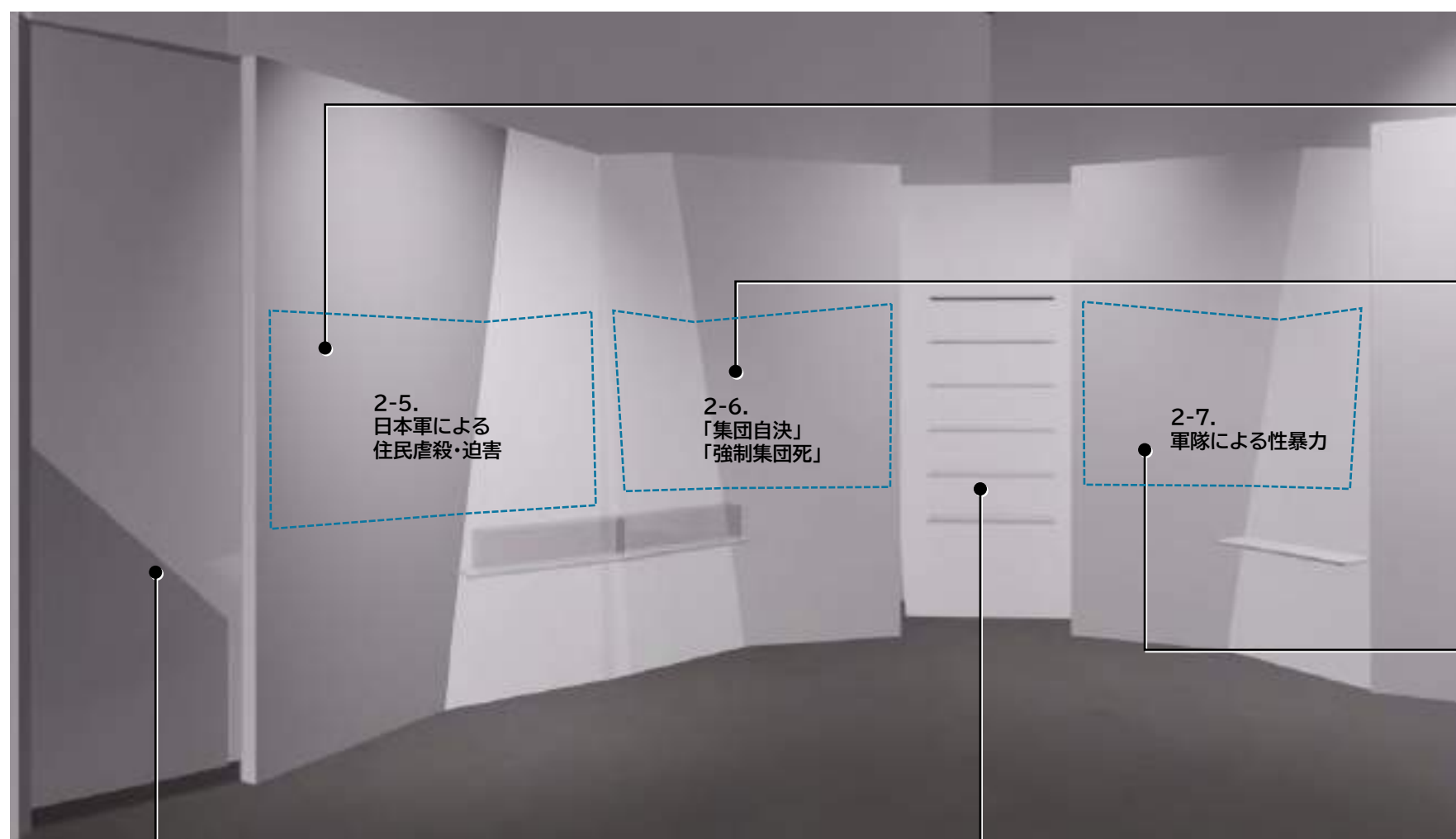
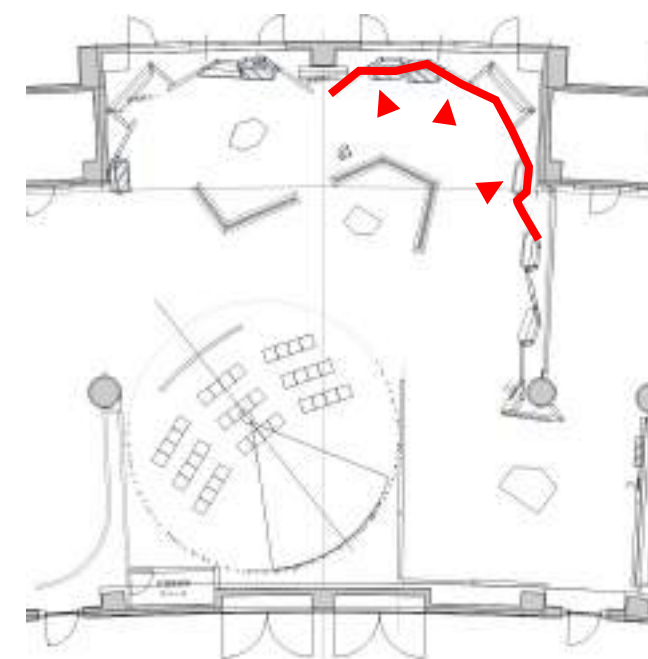
【展示のねらい】

- ・ 沖縄戦の中で住民の犠牲について、戦闘に巻き込まただけでなく、飢えやマラリア、性暴力など被害の多様な実相を理解してもらう。またそこに巻き込まれた朝鮮人や日米両軍の兵士たちの犠牲も取り上げ、一人一人の個人にとっての戦争の意味を考えてもらう。

【展示の展開方針】

- ・ 文章や写真、図版などのグラフィックを中心に、一部実物資料も交えて解説する。
- ・ 既存映像を活用した映像展示を行う。
- ・ 「住民犠牲の諸相」の情報を構成する基礎となった、市史などの地域史について紹介する。
- ・ デジタル端末、あるいはめくり式グラフィックなどの手法により、素朴な疑問を入口に考える素材や資料、視点、論点を提供し、来館者の思考を促す展示を設ける。

KEYPLAN



実物資料の展示

沖縄県史・市町村史の展示

- ・ 2-5-① 住民虐殺の実相
- ・ 2-5-② なぜ日本軍は沖縄県民を虐殺したのか
(地域・時期別特徴、その要因)
- ・ 2-5-③ スパイ視
- ・ 2-5-④ 壕(ガマ)追い出し、食糧強奪
- ・ 2-5-⑤ 民間人の投降阻止
グラフィック・資料
(「日本軍による住民虐殺・迫害」に関連する写真、図版など)
- ・ 2-6-① 「集団自決」とは何か
- ・ 2-6-② 場所・地域ごとの特徴
- ・ 2-6-③ なぜ起きたのか
- ・ 2-6-④ 日本政府・日本軍の民間人対策
- ・ 2-6-⑤ 軍から配られた手榴弾
- ・ 2-6-⑥ 鬼畜米英、米兵への恐怖心を煽る宣伝
- ・ 2-6-⑦ 性暴力への恐怖心を煽る宣伝
- ・ 2-6-⑧ 起きなかった場所・地域との比較
グラフィック・資料
(「集団自決」「強制集団死」に関連する実物資料、写真、図版など)
- ・ 2-7-① 日本軍慰安所
- ・ 2-7-② 日本兵による性暴力
- ・ 2-7-③ 米兵による性暴力
グラフィック
(「軍隊による性暴力」に関連する写真、図版など)

2.住民犠牲の諸相

2-8.障がい者

2-9.ハンセン病患者

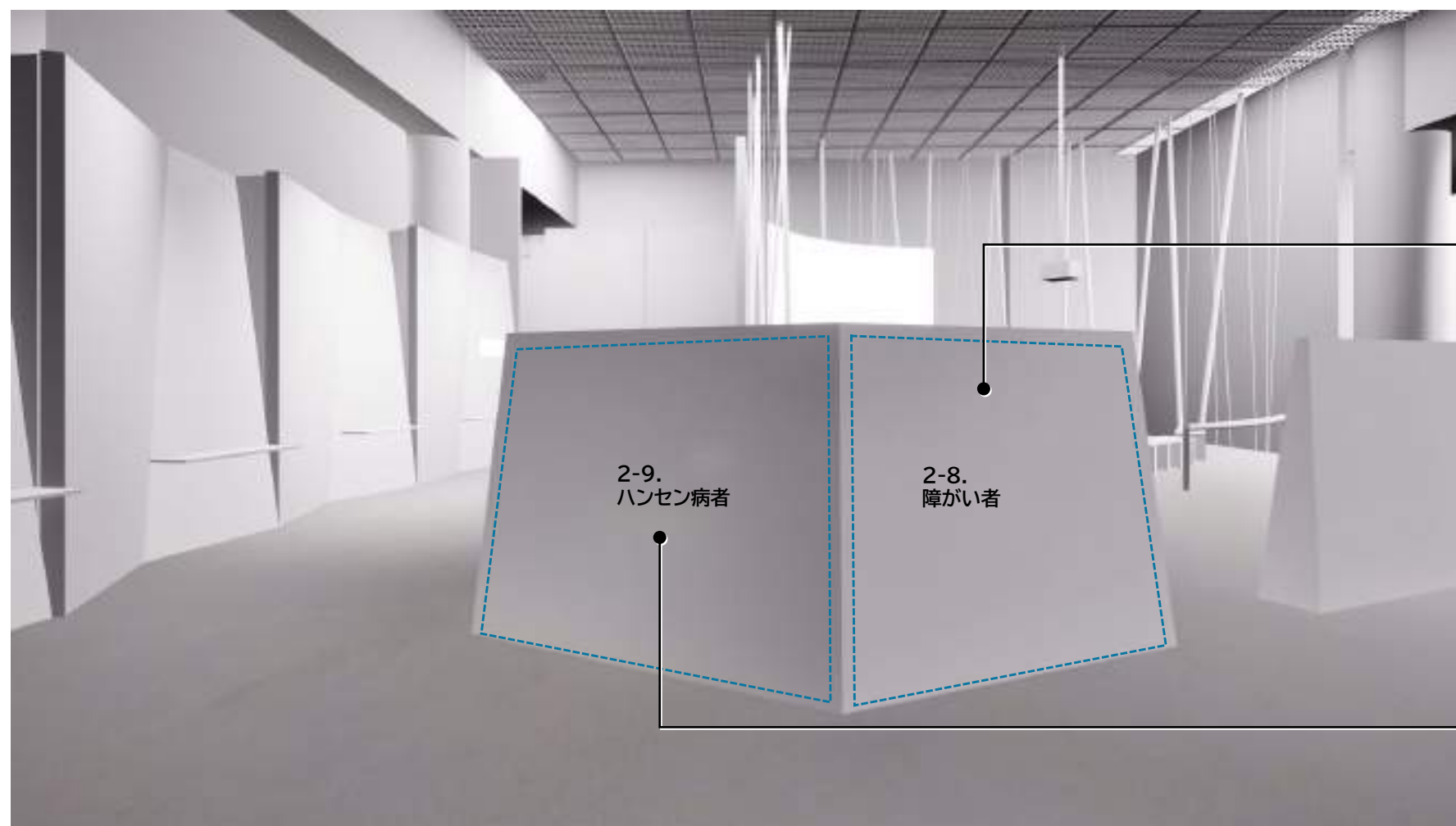
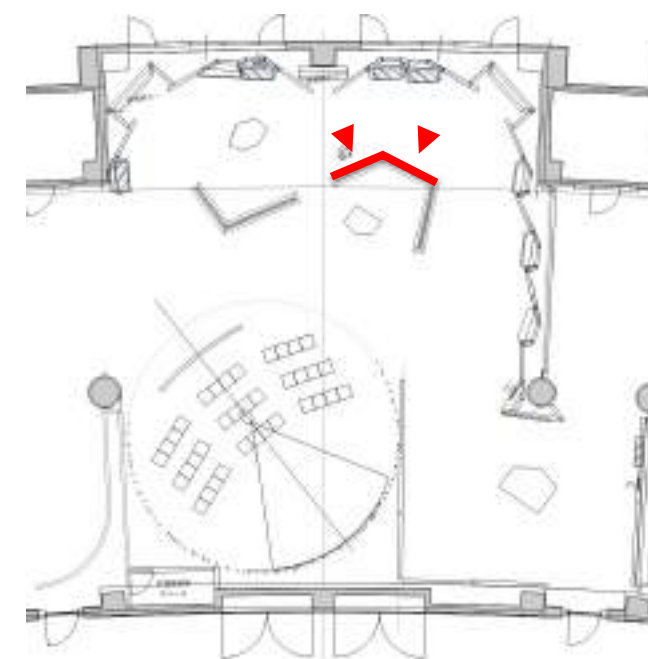
【展示のねらい】

- ・ 沖縄戦の中で住民の犠牲について、戦闘に巻き込まれただけでなく、飢えやマラリア、性暴力など被害の多様な実相を理解してもらう。またそこに巻き込まれた朝鮮人や日米両軍の兵士たちの犠牲も取り上げ、一人一人の個人にとっての戦争の意味を考えてもらう。

【展示の展開方針】

- ・ 文章や写真、図版などのグラフィックを中心に、一部実物資料も交えて解説する。
- ・ 既存映像を活用した映像展示を行う。
- ・ 「住民犠牲の諸相」の情報を構成する基礎となった、市史などの地域史について紹介する。
- ・ デジタル端末、あるいはめくり式グラフィックなどの手法により、素朴な疑問を入口に考える素材や資料、視点、論点を提供し、来館者の思考を促す展示を設ける。

KEYPLAN



- ・ 2-8-① 身体障がい者の体験
- ・ 2-8-② 精神障がい者の体験
- ・ 2-8-③ 戦争がつくりだした障がい者
グラフィック
(「障がい者」に関連する写真、図版など)

- ・ 2-9-① ハンセン病患者の状況
- ・ 2-9-② 日本軍による強制収容
- ・ 2-9-③ 愛楽園
- ・ 2-9-④ 南静園
グラフィック
(「ハンセン病患者」に関連する写真、図版など)

2.住民犠牲の諸相

2-10.心の傷

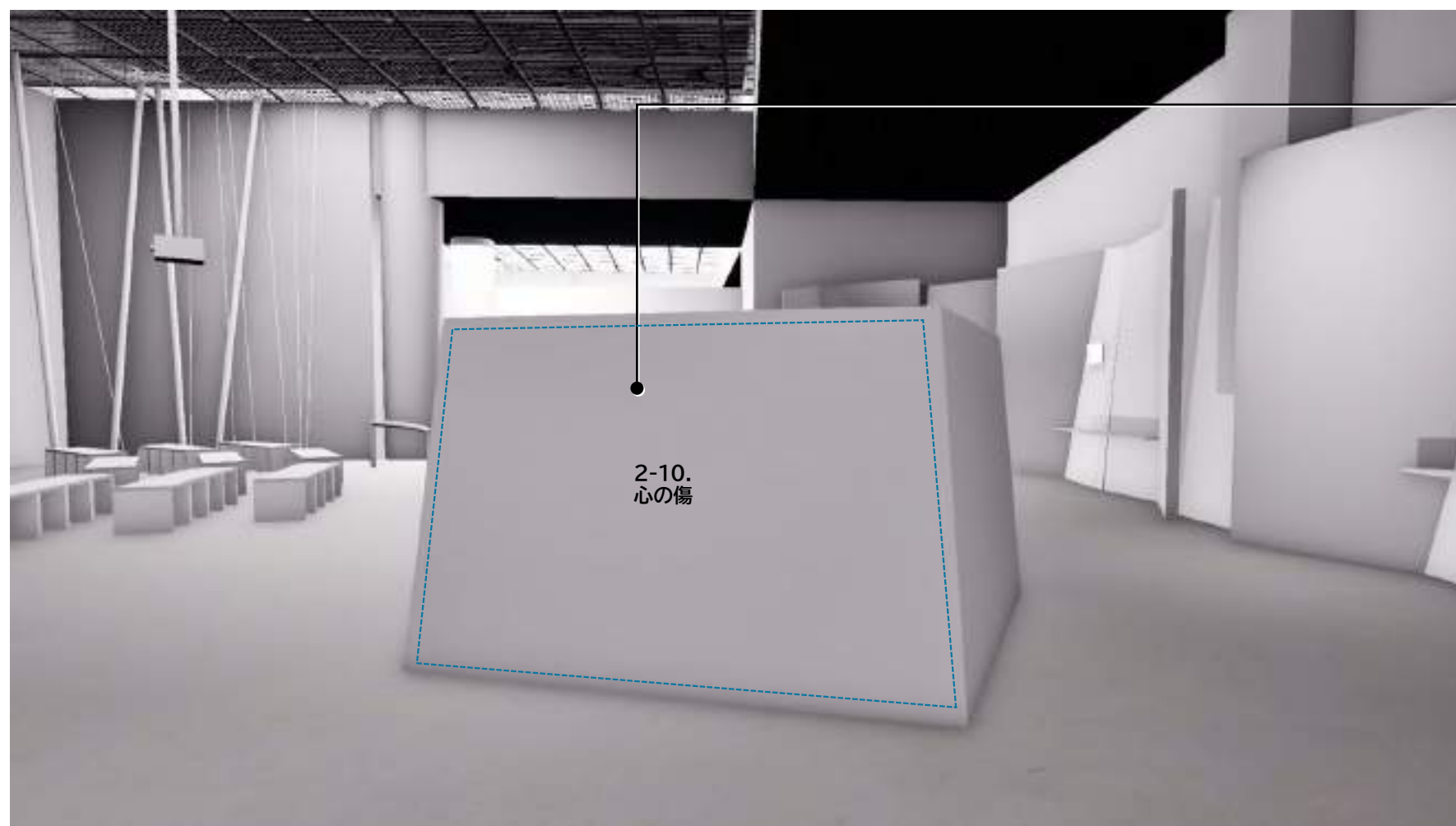
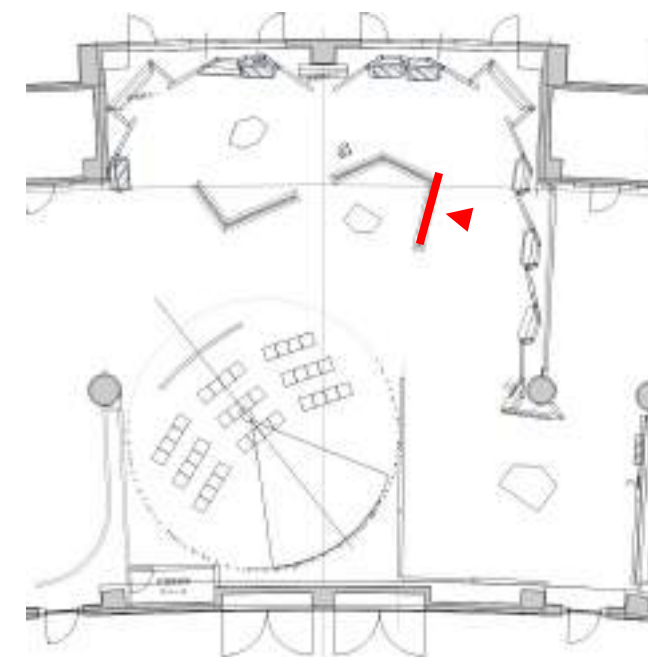
【展示のねらい】

- ・ 沖縄戦の中で住民の犠牲について、戦闘に巻き込まれただけでなく、飢えやマラリア、性暴力など被害の多様な実相を理解してもらう。またそこに巻き込まれた朝鮮人や日米両軍の兵士たちの犠牲も取り上げ、一人一人の個人にとっての戦争の意味を考えてもらう。

【展示の展開方針】

- ・ 文章や写真、図版などのグラフィックを中心に、一部実物資料も交えて解説する。
- ・ 既存映像を活用した映像展示を行う。
- ・ 「住民犠牲の諸相」の情報を構成する基礎となった、市史などの地域史について紹介する。
- ・ デジタル端末、あるいはめくり式グラフィックなどの手法により、素朴な疑問を入口に考える素材や資料、視点、論点を提供し、来館者の思考を促す展示を設ける。

KEYPLAN



- ・ 2-10-① 戦闘神経症
- ・ 2-10-② 戦後も続く心の傷・PTSD
グラフィック
(「心の傷」に関連する写真、図版など)

2.住民犠牲の諸相

2-11.朝鮮人の動員と犠牲

2-12.日本軍兵士にとっての沖縄戦

2-13.米軍兵士にとっての沖縄戦

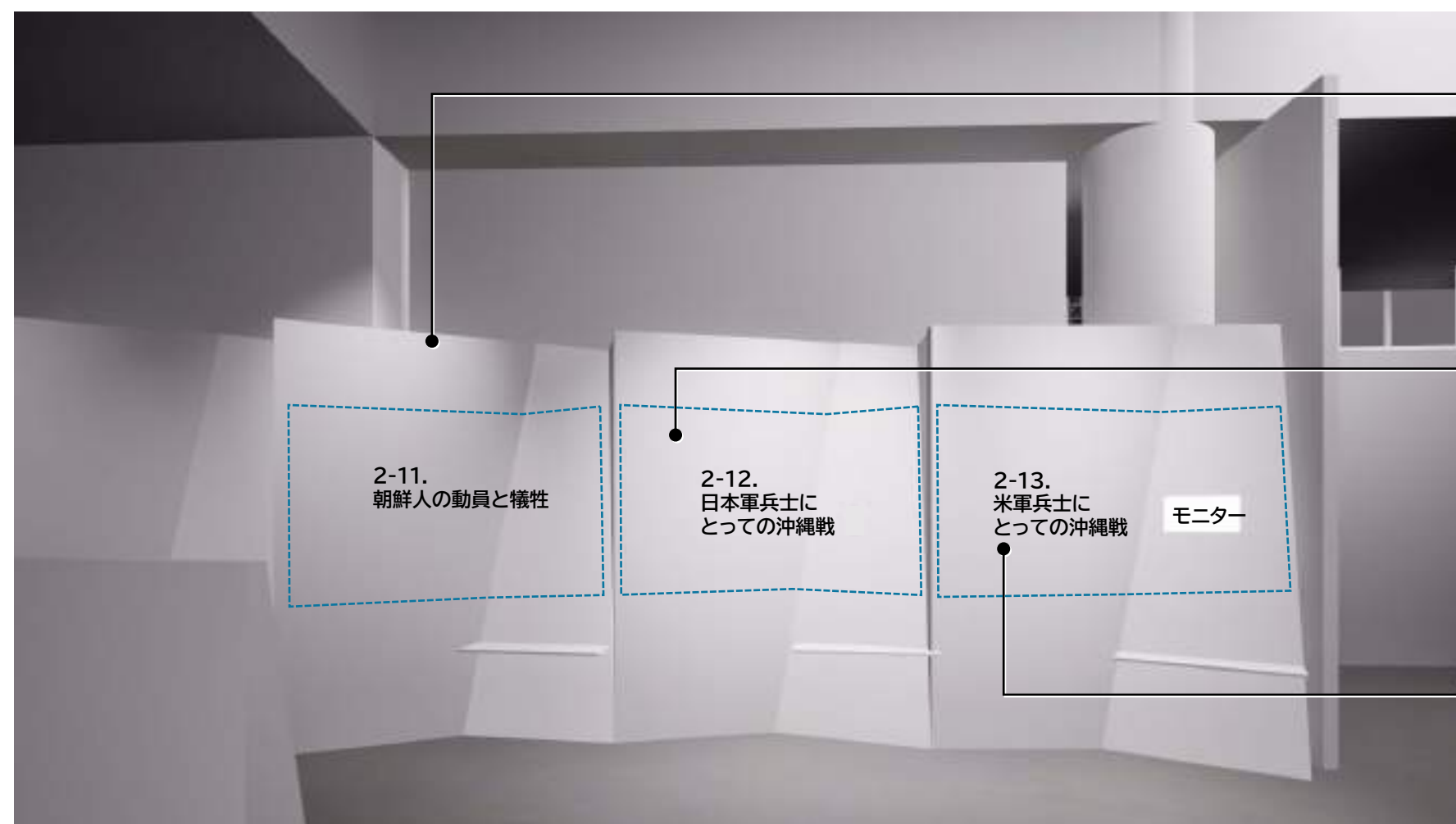
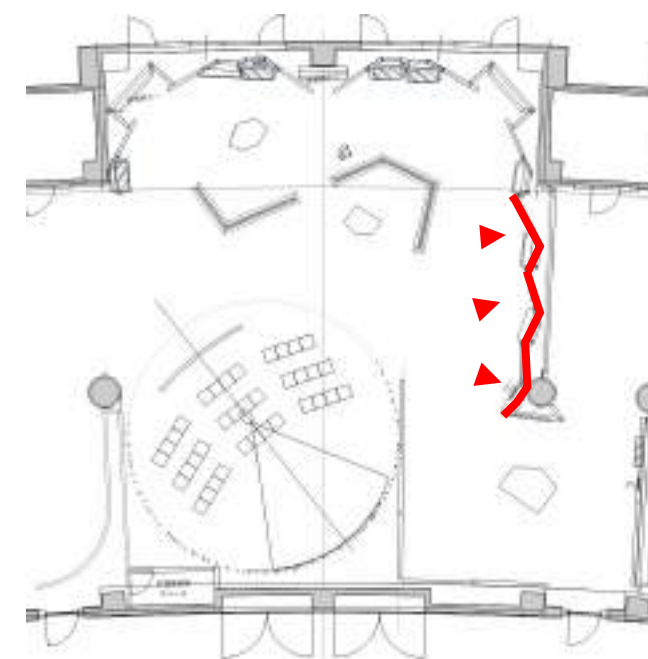
【展示のねらい】

- ・ 沖縄戦の中で住民の犠牲について、戦闘に巻き込まただけでなく、飢えやマラリア、性暴力など被害の多様な実相を理解してもらう。またそこに巻き込まれた朝鮮人や日米両軍の兵士たちの犠牲も取り上げ、一人一人の個人にとっての戦争の意味を考えてもらう。

【展示の展開方針】

- ・ 文章や写真、図版などのグラフィックを中心に、一部実物資料も交えて解説する。
- ・ 既存映像を活用した映像展示を行う。
- ・ 「住民犠牲の諸相」の情報を構成する基礎となった、市史などの地域史について紹介する。
- ・ デジタル端末、あるいはめくり式グラフィックなどの手法により、素朴な疑問を入口に考える素材や資料、視点、論点を提供し、来館者の思考を促す展示を設ける。

KEYPLAN



- ・ 2-11-① 沖縄に動員された朝鮮人
 - ・ 2-11-② 軍夫
 - ・ 2-11-③ 軍人
 - ・ 2-11-④ 船舶の乗組員
 - ・ 2-11-⑤ 日本軍「慰安婦」
 - ・ 2-11-⑥ 日本軍による扱い
 - ・ 2-11-⑦ 戦没時期、場所
- グラフィック
(「朝鮮人の動員と犠牲」に関連する写真、図版など)

- ・ 2-12-① 全国各地から召集されてきた日本兵
 - ・ 2-12-② 日本軍の戦闘方法
 - ・ 2-12-③ 捕虜になることは許されない
 - ・ 2-12-④ 傷病兵殺害、青酸カリ処置
 - ・ 2-12-⑤ 国土決戦教令、戦陣訓
- グラフィック
(「日本軍兵士にとっての沖縄戦」に関連する写真、図版など)

- ・ 2-13-① 米軍の戦闘方法
 - ・ 2-13-② 米軍部隊の戦歴
 - ・ 2-13-③ 米兵と住民
 - ・ 2-13-④ 米兵の戦闘神経症・PTSD
- グラフィック・映像装置
(「米軍兵士にとっての沖縄戦」に関連する写真、図版など)

3.地域ごとの沖縄戦

3-1.北部の沖縄戦

3-2.中部の沖縄戦

3-3.南部の沖縄戦

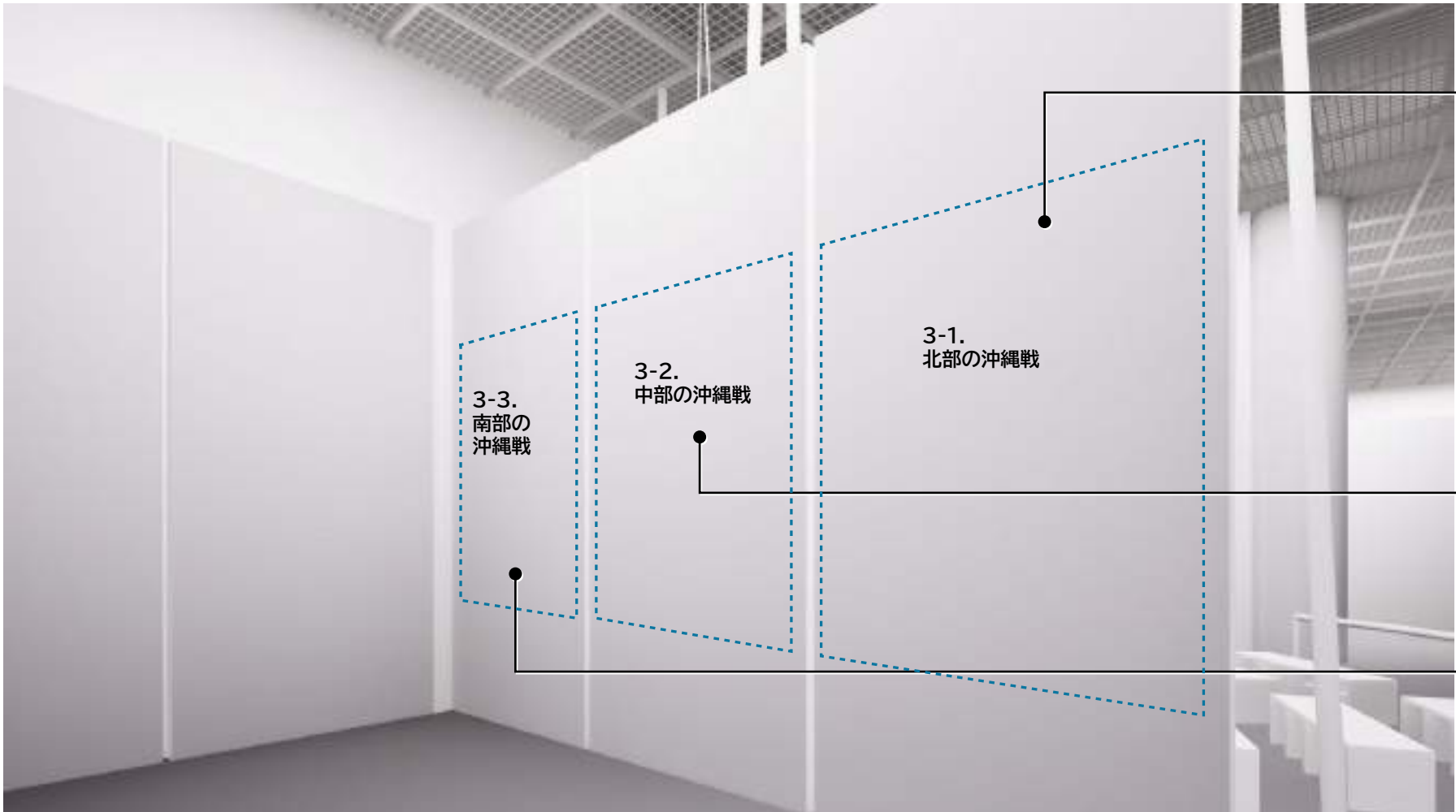
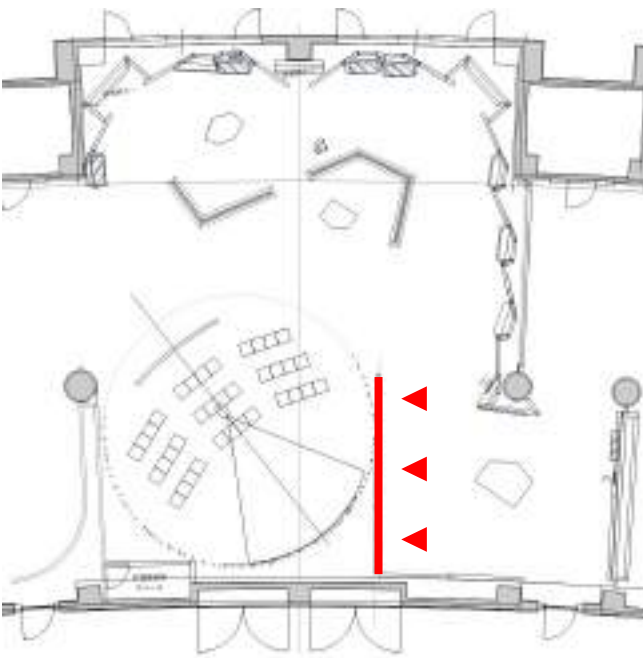
【展示のねらい】

- ・ 沖縄戦のなかでも、地域や島によって異なる状況があったことを示し、県民が自分の関わる地域の状況を身近に感じながらその実相を理解してもらう。また沖縄戦のなかで人々がどのように生きようとして考え、行動したのか、沖縄の住民の視線でともに考えてもらう。

【展示の展開方針】

- ・ 文章や写真、図版などのグラフィックを中心に、一部実物資料も交えて解説する。
- ・ 既存映像を活用した映像展示を行う。
- ・ デジタル端末、あるいはめくり式グラフィックなどの手法により、素朴な疑問を入口に考える素材や資料、視点、論点を提供し、来館者の思考を促す展示を設ける。

KEYPLAN



- ・ 3-1-① 山中の戦争
- ・ 3-1-② 国頭支隊(宇土部隊)
- ・ 3-1-③ 日本兵による住民虐殺、食糧強奪
- ・ 3-1-④ 飢餓・マラリア
- ・ 3-1-⑤ 御真影奉護壕
- ・ 3-1-⑥ 遊撃戦(護郷隊)
- ・ 3-1-⑦ 陸軍中野学校
- ・ 3-1-⑧ 伊江島の戦闘
- グラフィック・映像装置
- (「北部の沖縄戦」に関連する写真、図版など)

- ・ 3-2-① 北部疎開と南部への避難
- ・ 3-2-② 早期に米軍支配下に入った地域
- ・ 3-2-③ 日米両軍の激戦地
- ・ 3-2-④ 米軍上陸地点
- ・ 3-2-⑤ 進む米軍基地建設
- グラフィック
- (「中部の沖縄戦」に関連する写真、図版など)

- ・ 3-3-① 戦場での住民動員
- ・ 3-3-② 南部撤退と多大な住民犠牲
- ・ 3-3-③ 軍民混在の戦場
- ・ 3-3-④ 日本軍の行動(住民虐殺、壕追い出し、食糧強奪、投降阻止など)
- ・ 3-3-⑤ 知念半島の状況
- ・ 3-3-⑥ 一家全滅
- グラフィック
- (「南部の沖縄戦」に関連する写真、図版など)

実物資料やグラフィックパネル、映像などにより展示を構成

3.地域ごとの沖縄戦

3-4.本島周辺離島及び大東諸島の沖縄戦

3-5.宮古・八重山の沖縄戦

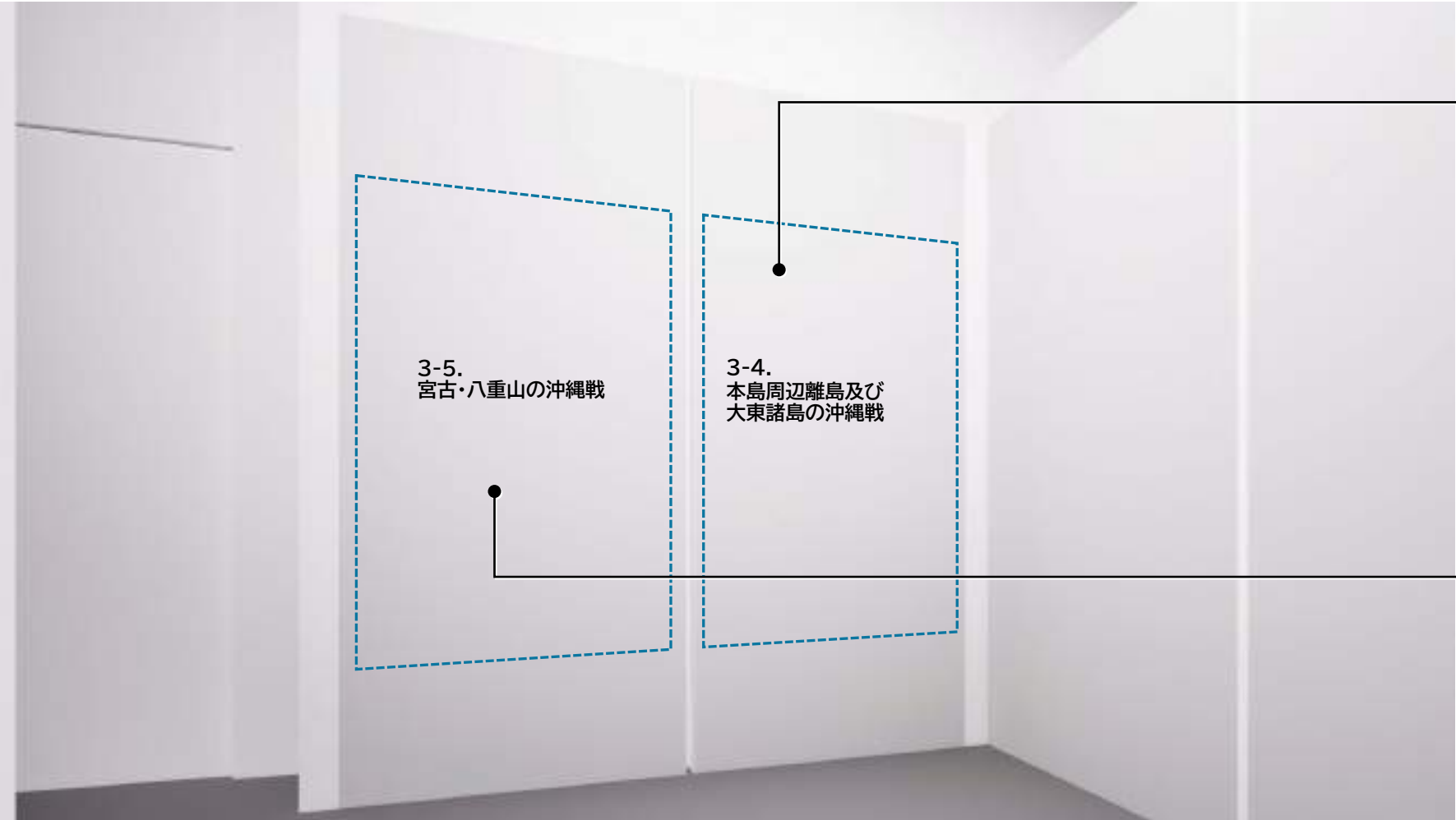
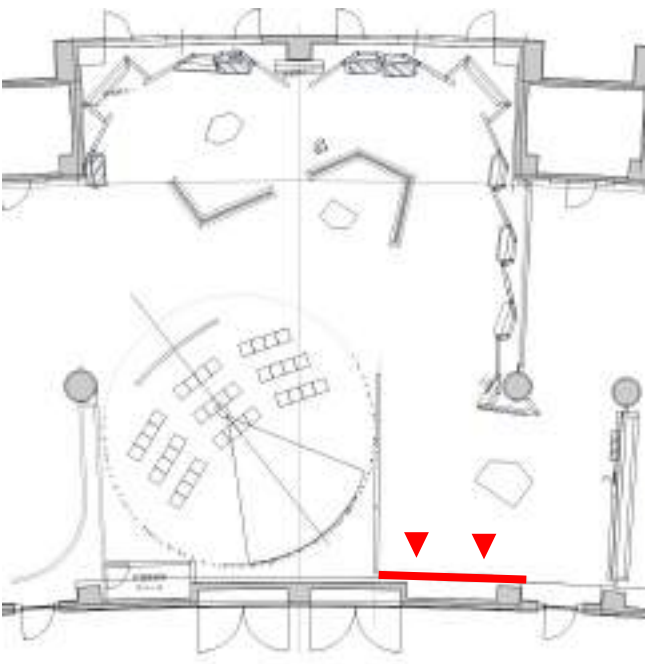
【展示のねらい】

- ・ 沖縄戦のなかでも、地域や島によって異なる状況があったことを示し、県民が自分の関わる地域の状況を身近に感じながらその実相を理解してもらう。また沖縄戦のなかで人々がどのように生きようとして考え、行動したのか、沖縄の住民の視線でともに考えてもらう。

【展示の展開方針】

- ・ 文章や写真、図版などのグラフィックを中心に、一部実物資料も交えて解説する。
- ・ 既存映像を活用した映像展示を行う。
- ・ デジタル端末、あるいはめくり式グラフィックなどの手法により、素朴な疑問を入口に考える素材や資料、視点、論点を提供し、来館者の思考を促す展示を設ける。

KEYPLAN



- ・ 3-4-① 日本軍がいた島(慶良間諸島、久米島、津堅島など)
 - ・ 3-4-② 日本軍がいなかった島(前島、平安座島、宮城島、久高島など)
 - ・ 3-4-③ 大東諸島
 - ・ 3-4-④ 奄美群島
- グラフィック
(「本島周辺離島及び大東諸島の沖縄戦」に関連する写真、図版など)

- ・ 3-5-① 戦争マラリアと飢餓
 - ・ 3-5-② 軍命によるマラリア地帯への強制退去
 - ・ 3-5-③ 日本軍慰安所
 - ・ 3-5-④ 米英両軍による砲爆撃
 - ・ 3-5-⑤ 米軍捕虜虐殺と戦犯裁判
 - ・ 3-5-⑥ 陸軍中野学校と離島残置諜者
 - ・ 3-5-⑦ 波照間島、忘勿石
- グラフィック
(「宮古・八重山の沖縄戦」に関連する写真、図版など)

3.地域ごとの沖縄戦

3-6.命を救った人たち

3-7.沖縄戦を生き抜いた人たち

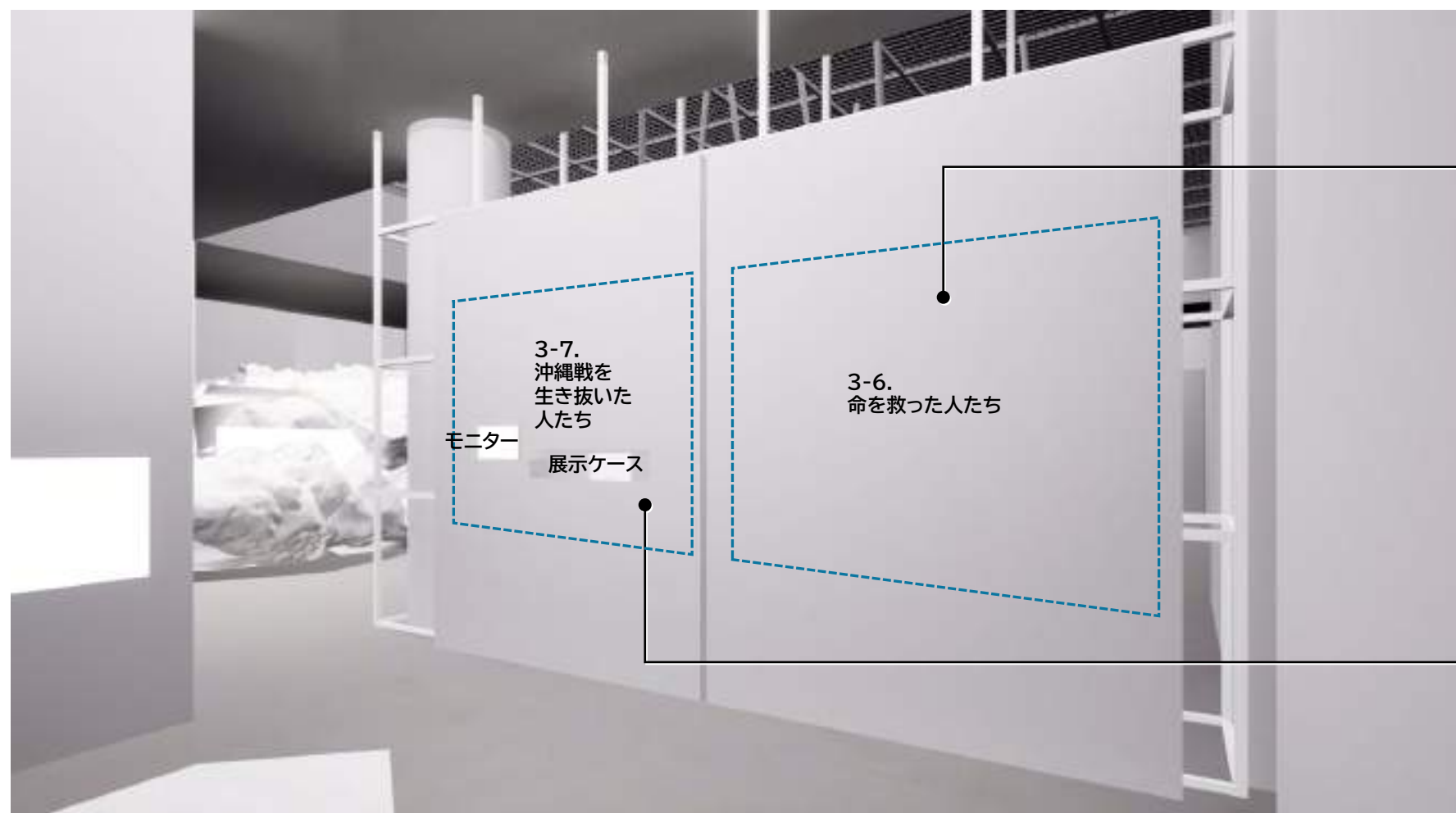
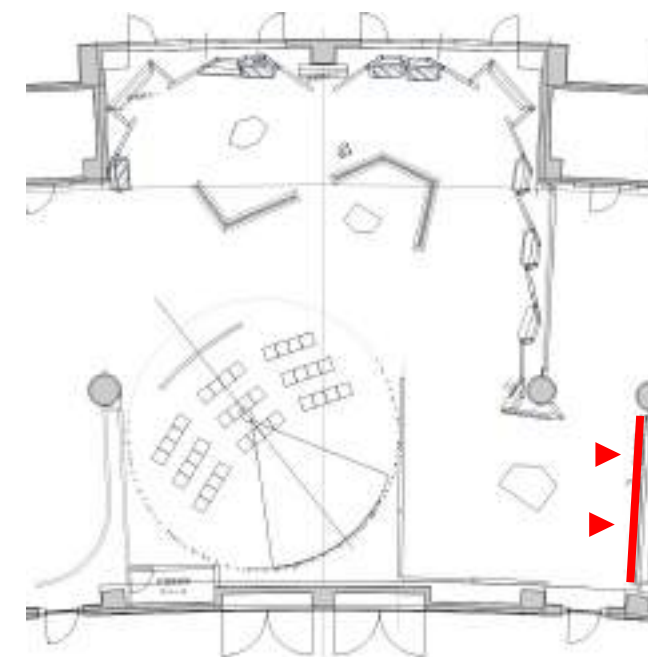
【展示のねらい】

- ・ 沖縄戦のなかでも、地域や島によって異なる状況があったことを示し、県民が自分の関わる地域の状況を身近に感じながらその実相を理解してもらう。また沖縄戦のなかで人々がどのように生きようとして考え、行動したのか、沖縄の住民の視線でともに考えてもらう。

【展示の展開方針】

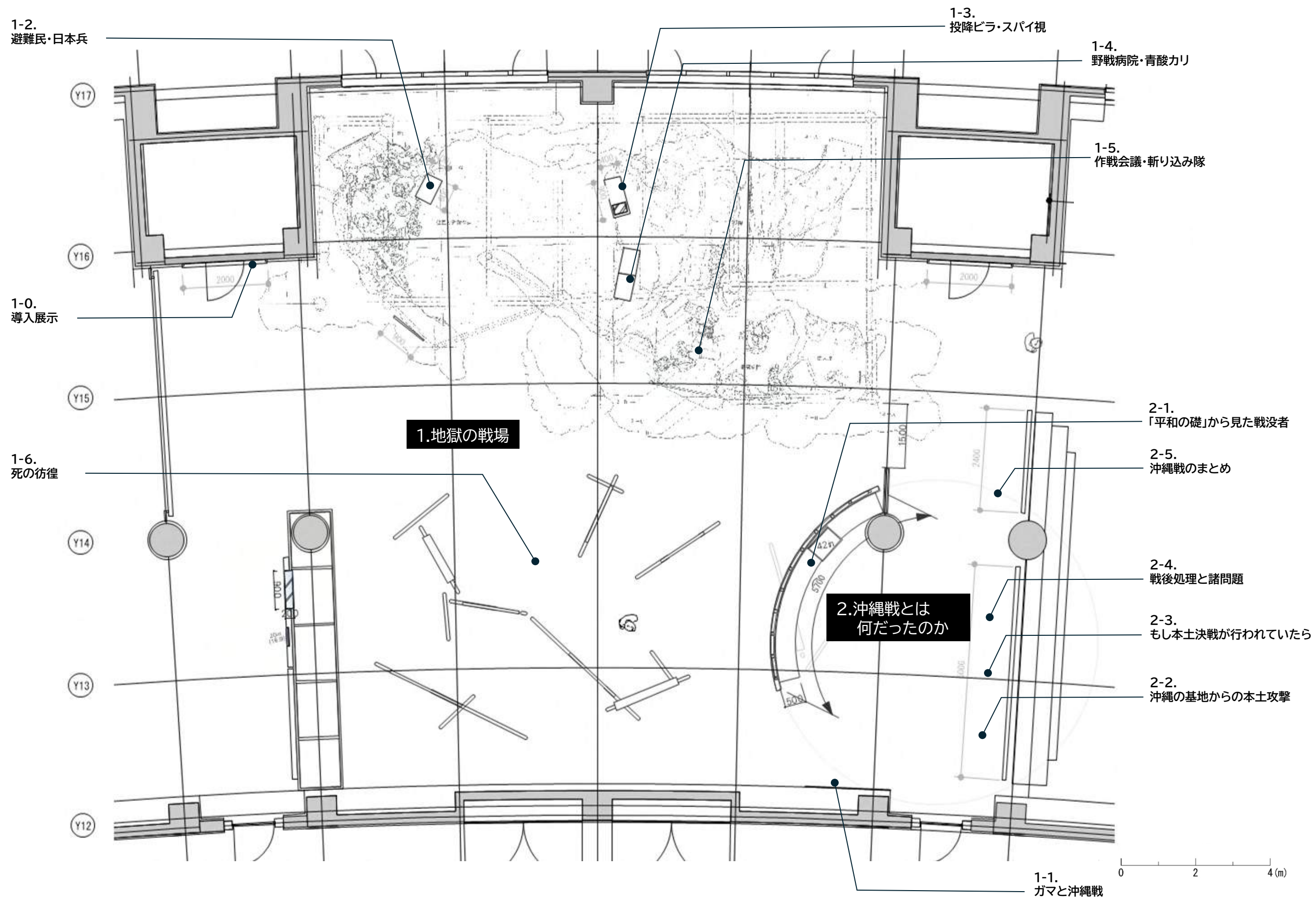
- ・ 文章や写真、図版などのグラフィックを中心に、一部実物資料も交えて解説する。
- ・ 既存映像を活用した映像展示を行う。
- ・ デジタル端末、あるいはめくり式グラフィックなどの手法により、素朴な疑問を入口に考える素材や資料、視点、論点を提供し、来館者の思考を促す展示を設ける。

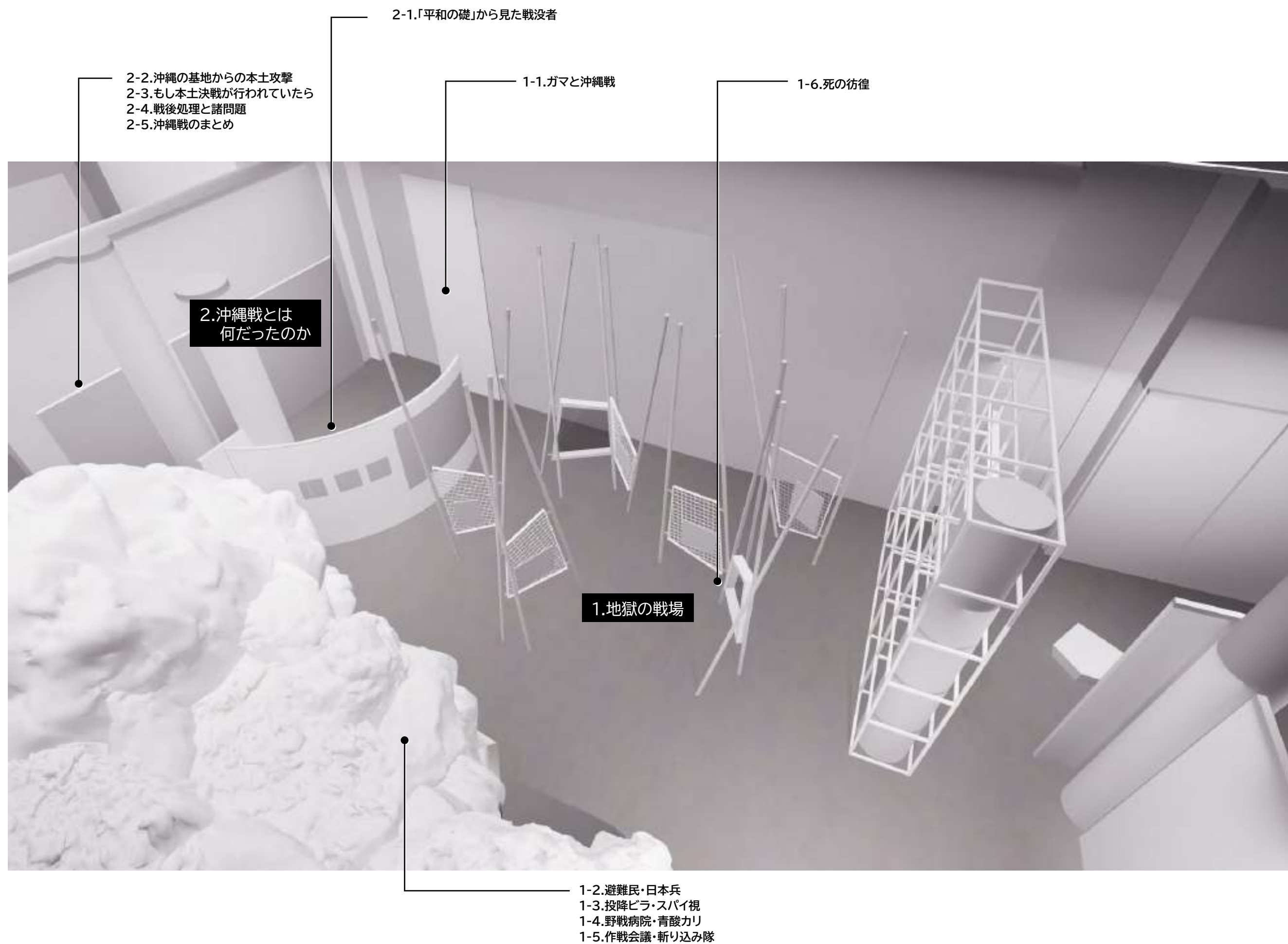
KEYPLAN



- ・ 3-6-① 多くの命を救った人たち
- ・ 3-6-② 生きるように勧めた日本軍将兵
- ・ 3-6-③ 米軍のなかの日系兵士(通訳、沖縄からの移民)
グラフィック
(「命を救った人たち」に関連する写真、図版など)

- ・ 3-7-① いく人かの人物を取り上げて、沖縄戦全過程のなかでの行動を紹介
グラフィック・映像装置・資料
(「沖縄戦を生き抜いた人たち」に関連する実物資料、写真、図版など)





1.地獄の戦場

1-1.ガマと沖縄戦

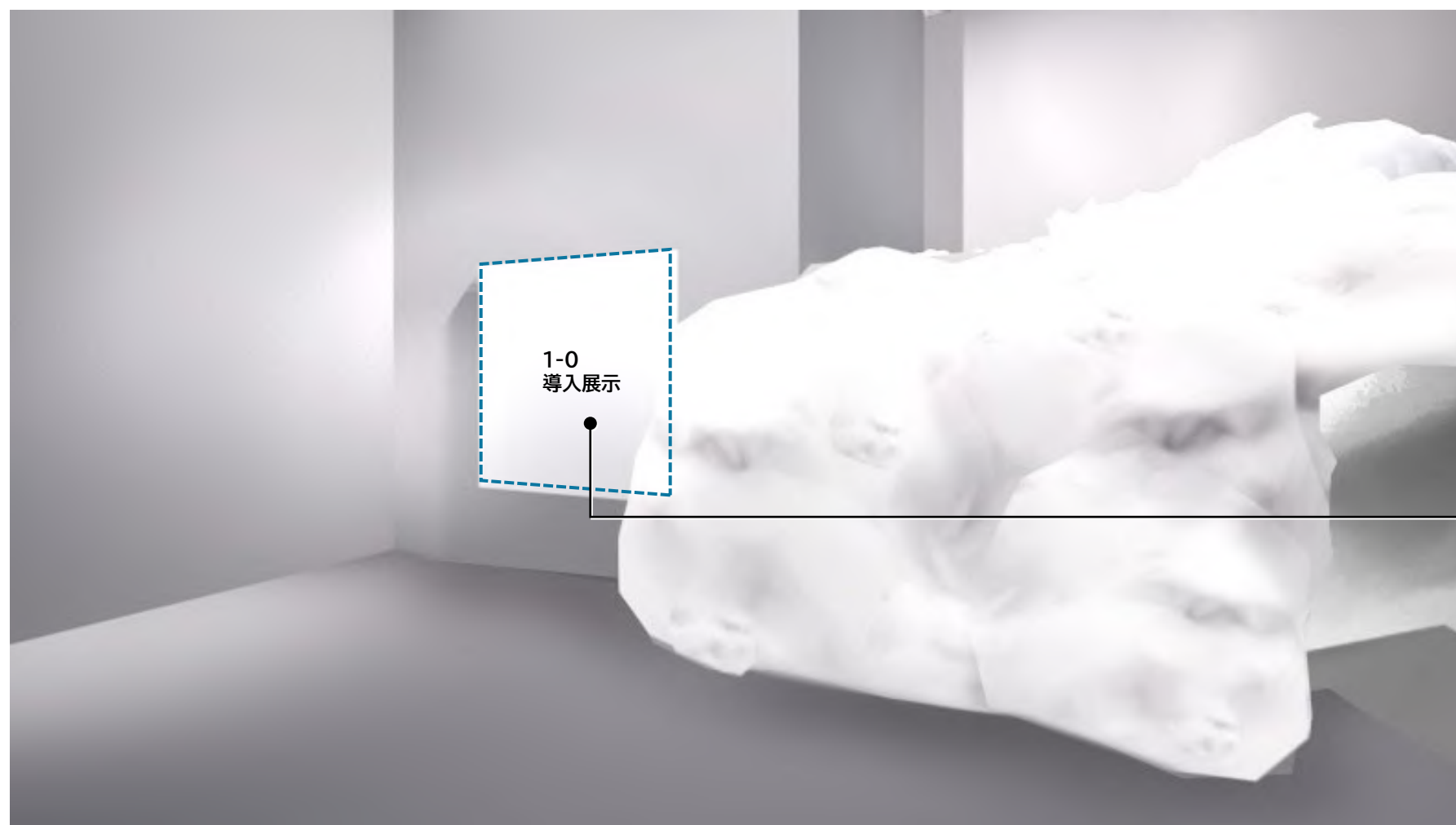
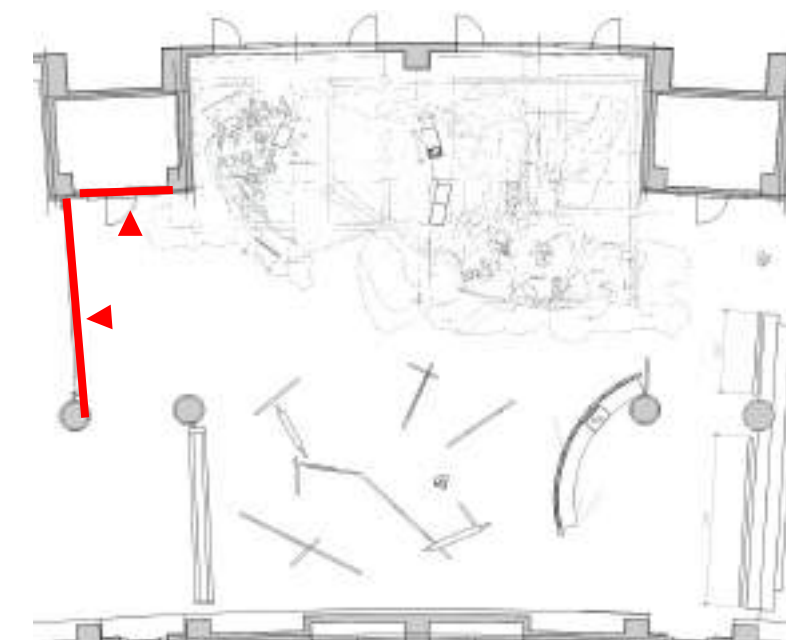
【展示のねらい】

- 沖縄戦のなかで、軍にとっても住民にとってもガマは、時には死の場所、時には生の場所になるという生死を左右する重要な場所となった。ガマの再現模型の中に入ることによって沖縄戦の実相をより深く感じ考えてもらう。

【展示の展開方針】

- 文章や写真、図版などのグラフィックを中心に解説する。

KEYPLAN



グラフィック

1.地獄の戦場

1-1.ガマと沖縄戦

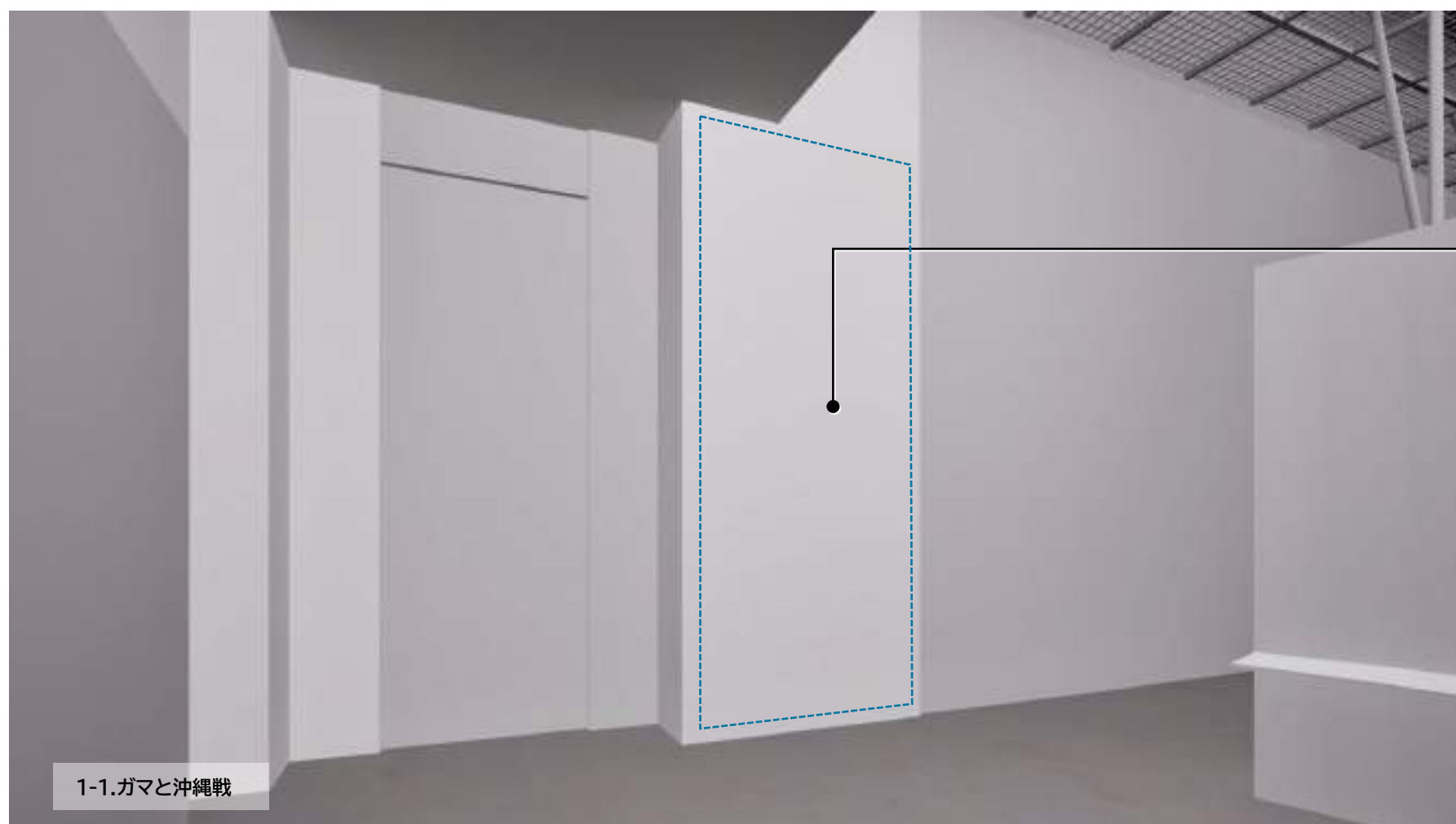
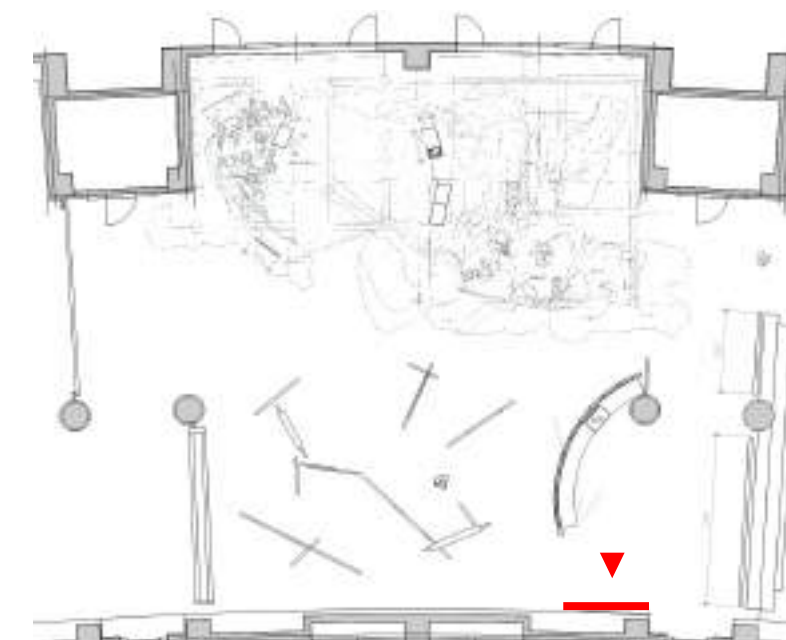
【展示のねらい】

- ・ 沖縄戦のなかで、軍にとっても住民にとってもガマは、時には死の場所、時には生の場所になるという生死を左右する重要な場所となった。ガマの再現模型の中に入ることによって沖縄戦の実相をより深く感じ考えてもらう。

【展示の展開方針】

- ・ 文章や写真、図版などのグラフィックを中心に解説する。

KEYPLAN



- ・ 1-1-① ガマと住民
 - ・ 1-1-② 生死をわけたガマ(チビチリガマとシムクガマ等)
 - ・ 1-1-③ 系数アブチラガマの諸相
 - ・ 1-1-④ 利用された墓(住民の避難場所、日本軍の陣地)
- グラフィック
(「ガマと沖縄戦」に関連する写真、図版など)

1-1.ガマと沖縄戦

1.地獄の戦場

1-2.避難民・日本兵～ 1-5.作戦会議・斬り込み隊

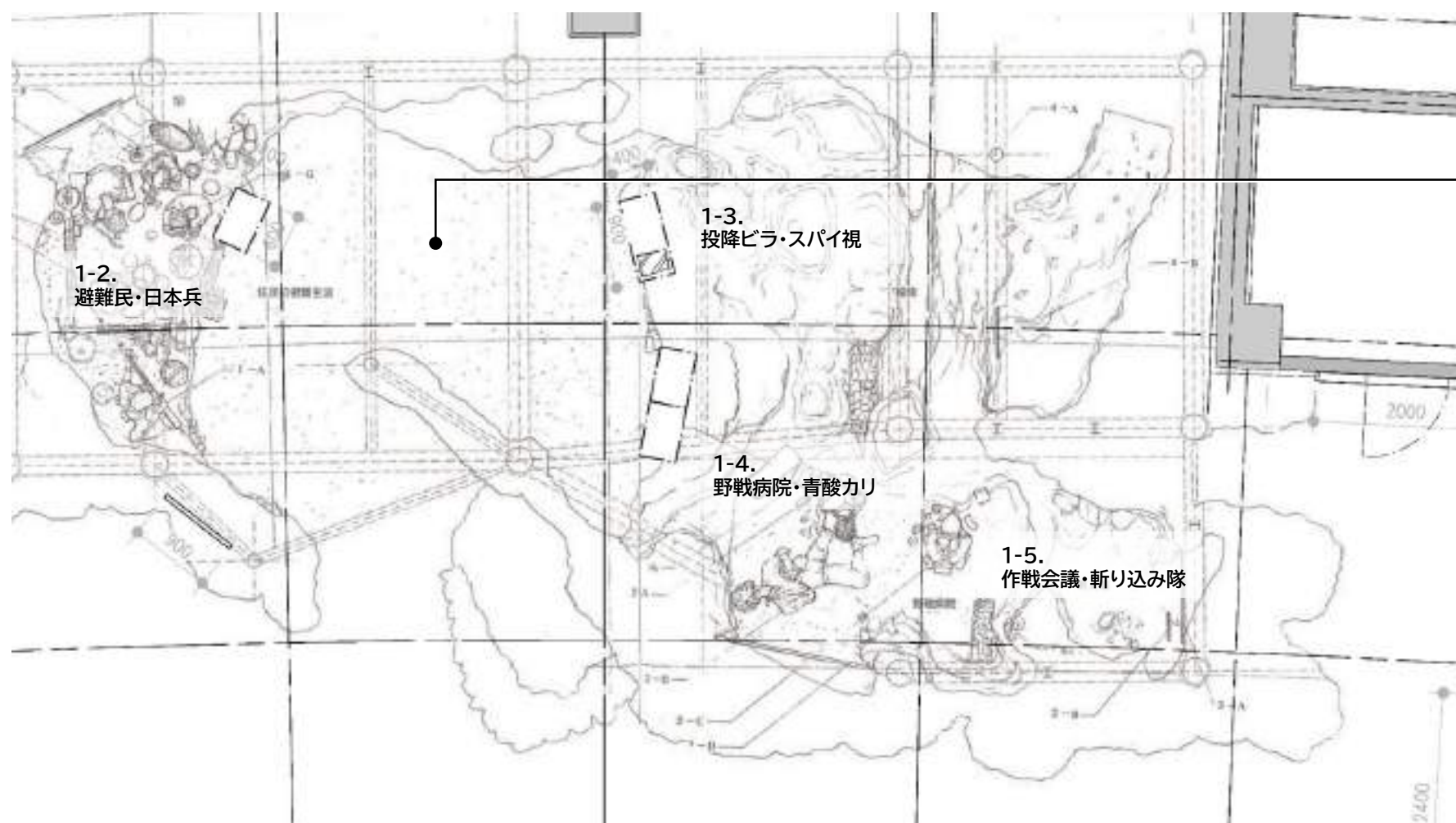
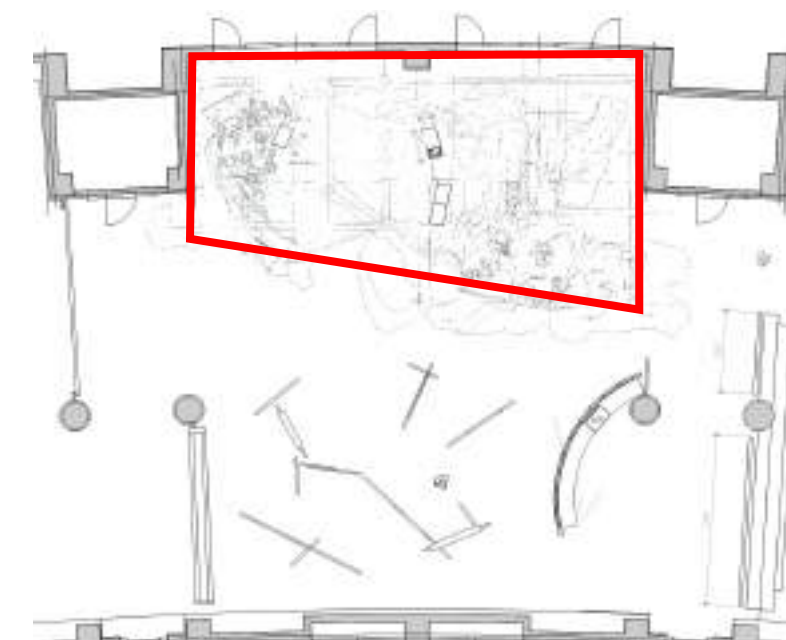
【展示のねらい】

- ・ 沖縄戦のなかで、軍にとっても住民にとってもガマは、時には死の場所、時には生の場所になるという生死を左右する重要な場所となった。ガマの再現模型の中に入ることによって沖縄戦の実相をより深く感じ考えてもらう。

【展示の展開方針】

- ・ 既存の展示空間やガマのジオラマを活かしながら、展示を再構成する。
- ・ 来館者の心理的な障壁を下げる誘導・動線計画を行う。
- ・ 沖縄戦当時のガマの中で、“何が起きていたのか”を伝える解説を追加する。
- ・ 解説テキストを多用せず、来館者自身が沖縄戦当時の状況に思いを寄せられる展示表現を行う。

KEYPLAN



- ・ 1-2-① 現行のガマの再現模型に説明を追加
- ・ 1-3-① 現行のガマの再現模型に説明を追加
- ・ 1-4-① 現行のガマの再現模型に説明を追加
- ・ 1-5-① 現行のガマの再現模型に説明を追加
グラフィック・音響装置・資料・造形
(ジオラマ)

既存のジオラマを活用しながら、各シーンの解説グラフィックや実物資料、音声解説などを追加する。

1.地獄の戦場

1-6.死の彷徨

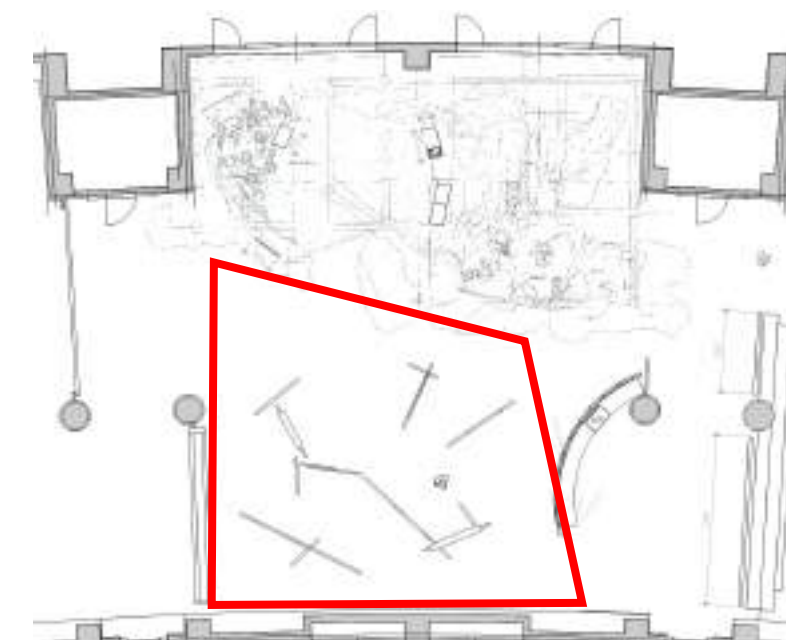
【展示のねらい】

- ・ 沖縄戦のなかで、軍にとっても住民にとってもガマは、時には死の場所、時には生の場所になるという生死を左右する重要な場所となった。ガマの再現模型の中に入ることによって沖縄戦の実相をより深く感じ考えてもらう。

【展示の展開方針】

- ・ 写真を中心に、沖縄戦における住民の戦争体験を伝える。
- ・ 解説テキストを多用せず、来館者自身が沖縄戦当時の状況に思いを寄せられる展示表現を行う。

KEYPLAN



- ・ 1-6-① 現行の展示物、写真を活用
グラフィック・資料
(「死の彷徨」に関連する写真、図版など)

1-6. 死の彷徨

2. 沖縄戦とは何だったのか

2-1. 「平和の礎」から見た戦没者

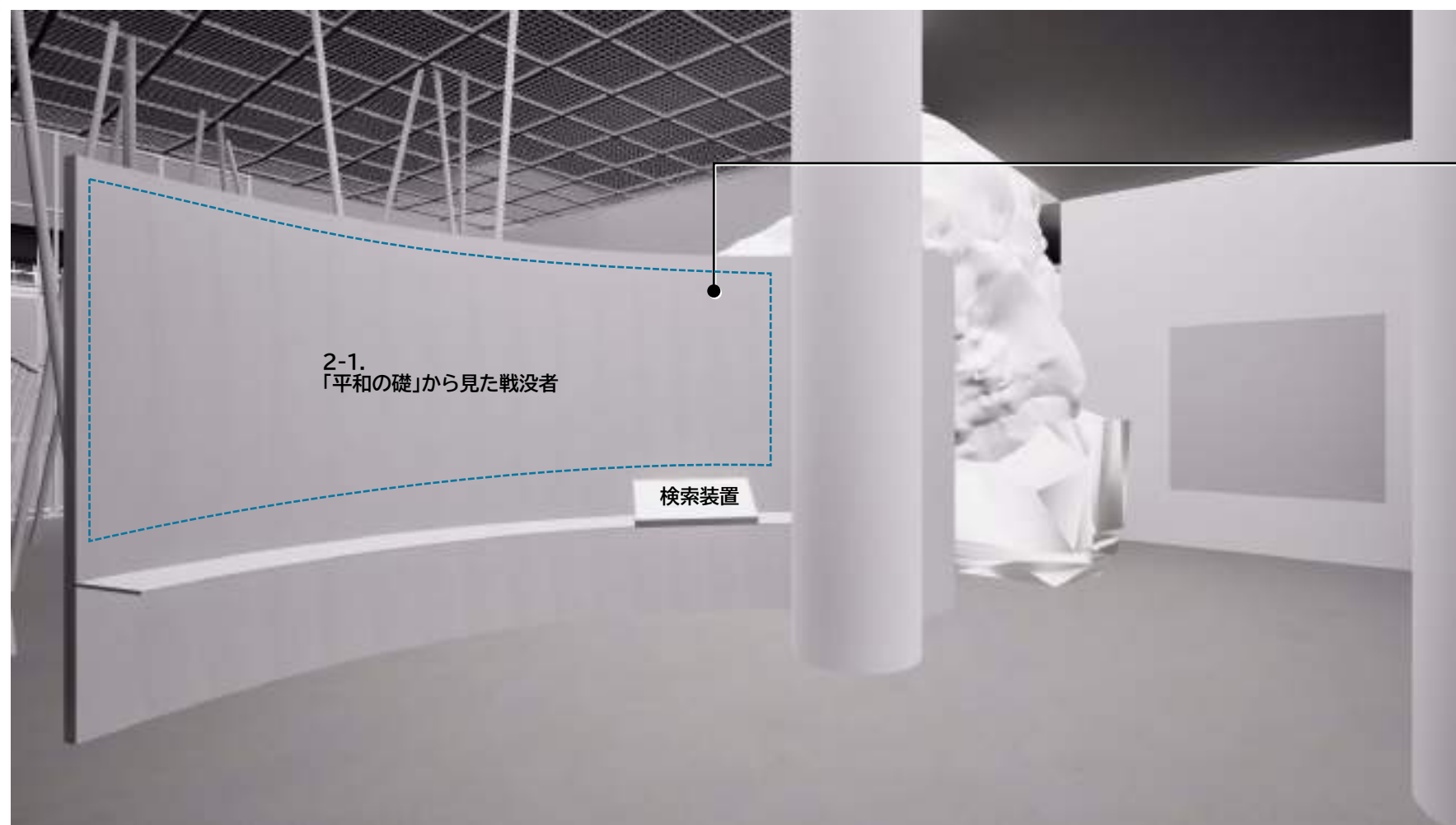
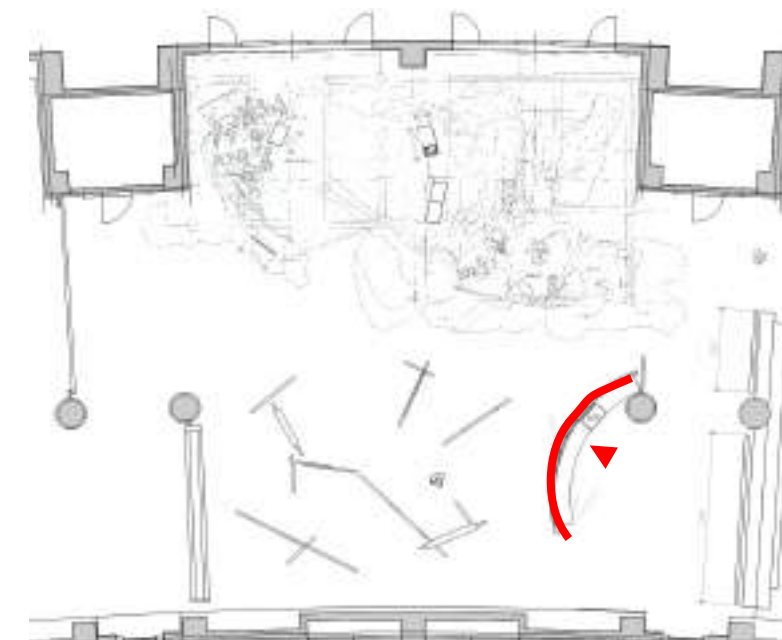
【展示のねらい】

- ・「平和の礎」に刻まれた戦没者のデータから沖縄戦の実像を多角的に読み解き、沖縄戦が持つ意味を考えてもらう。同時に沖縄の経験は本土でも起き得たことを理解してもらい、沖縄戦の教訓は沖縄だけでなく日本全体のものであることを考えてもらう。

【展示の展開方針】

- ・「平和の礎」のデータを分析、整理した情報をグラフィックやデジタル端末などで紹介する。

KEYPLAN



- ・ 2-1-① 「平和の礎」のデータの活用、分析(戦没場所、時期等)
グラフィック・検索装置
(「平和の礎」から見た戦没者」に関連する写真、図版など)

2.沖縄戦とは何だったのか

2-2.沖縄の基地からの本土攻撃

2-3.もし本土決戦が行われていたら

2-4.戦後処理と諸問題

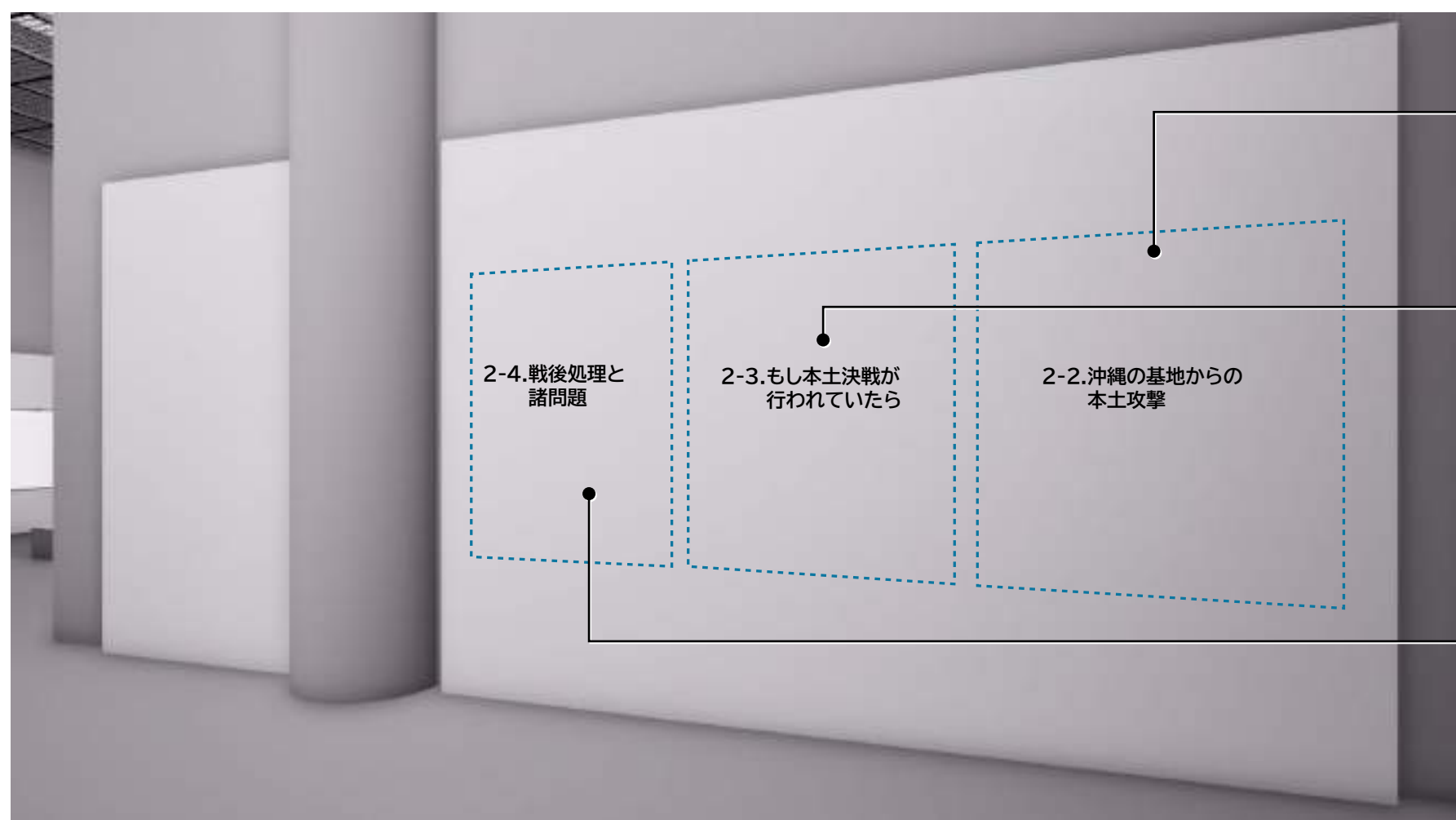
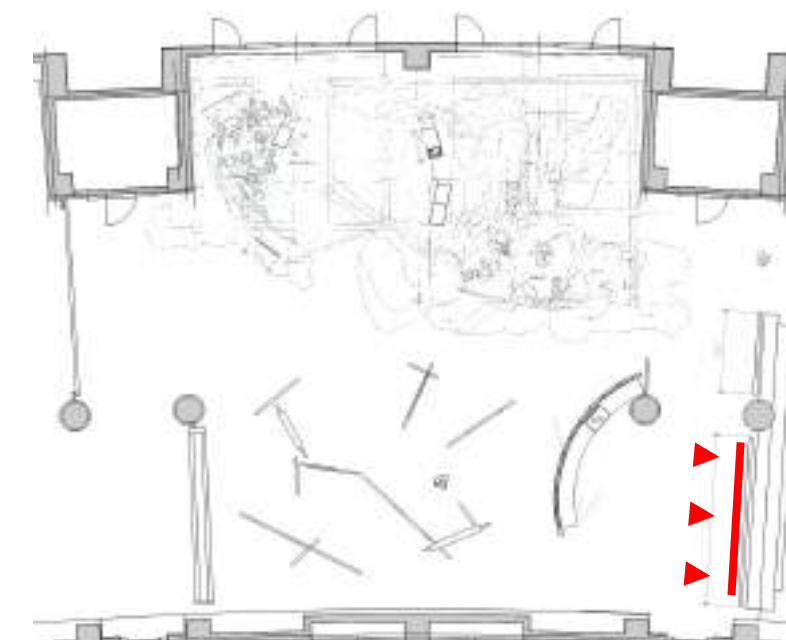
【展示のねらい】

- ・「平和の礎」に刻まれた戦没者のデータから沖縄戦の実像を多角的に読み解き、沖縄戦が持つ意味を考えてもらう。同時に沖縄の経験は本土でも起き得たことを理解してもらい、沖縄戦の教訓は沖縄だけでなく日本全体のものであることを考えてもらう。

【展示の展開方針】

- ・ 文章や写真、図版などのグラフィックを中心に解説する。
- ・ 「2-4.戦後処理と諸問題」については、代表的な写真と解説で構成する。

KEYPLAN



- ・ 2-2-① 米軍飛行場の建設
 - ・ 2-2-② 航空部隊の配備・任務
 - ・ 2-2-③ 奄美、九州などへの爆撃
 - ・ 2-2-④ 空襲にあった疎開学童
- グラフィック
(「沖縄の基地からの本土攻撃」に関連する写真、図版など)

- ・ 2-3-① 米軍の本土進攻作戦計画
 - ・ 2-3-② 大本営の本土決戦準備
 - ・ 2-3-③ 国民義勇戦闘隊
 - ・ 2-3-④ 地区特設警備隊
- グラフィック
(「もし本土決戦が行われていたら」に関連する写真、図版など)

- ・ 2-4-① 遺骨収集
 - ・ 2-4-② 追悼、慰霊碑(塔)
 - ・ 2-4-③ 援護法
 - ・ 2-4-④ 不発弾
 - ・ 2-4-⑤ 戦争遺跡
 - ・ 2-4-⑥ 教科書検定問題
 - ・ 2-4-⑦ 平和の礎
- グラフィック
(「戦後処理と諸問題」に関連する写真、図版など)

2. 沖縄戦とは何だったのか

2-5. 沖縄戦のまとめ

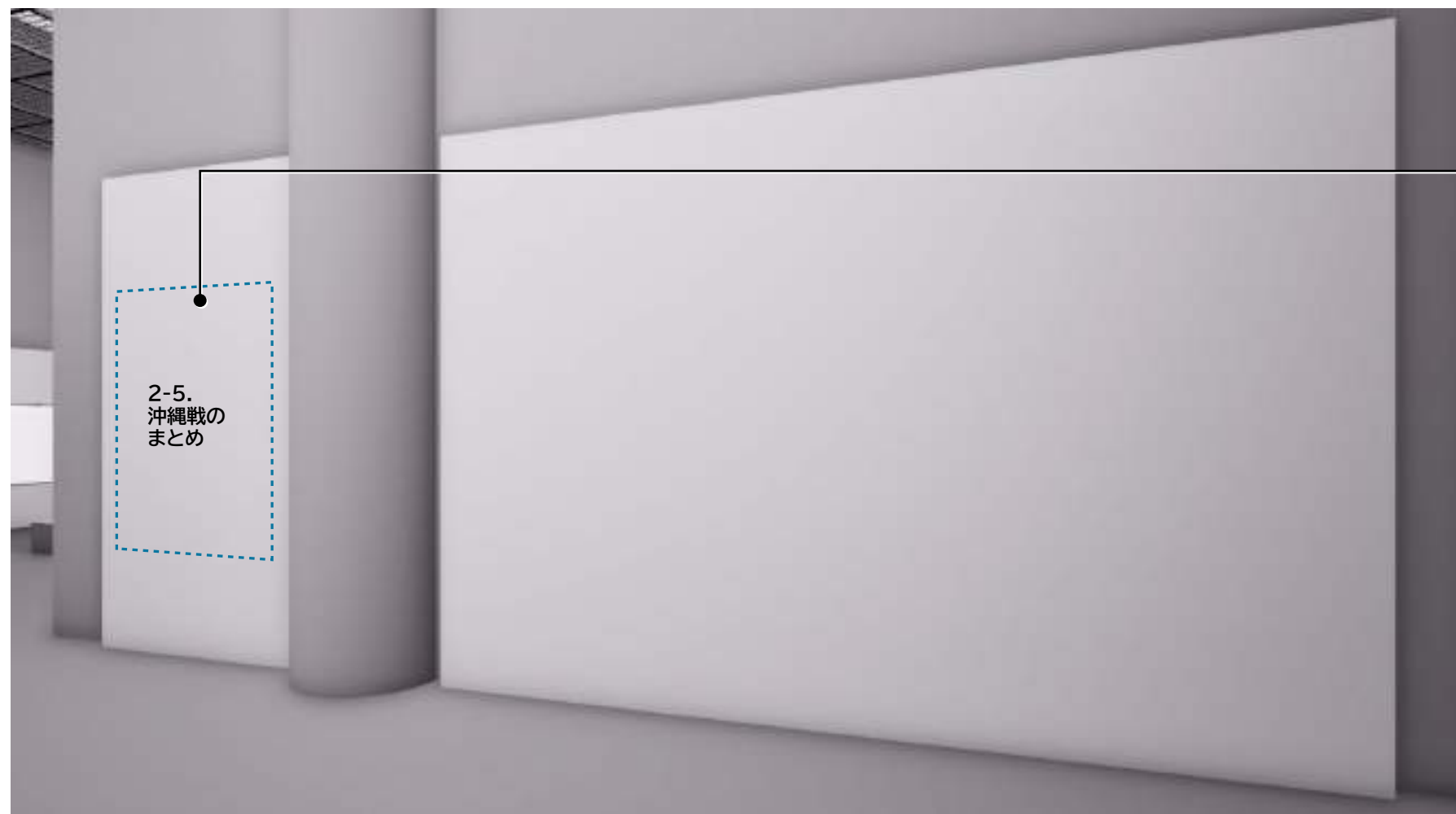
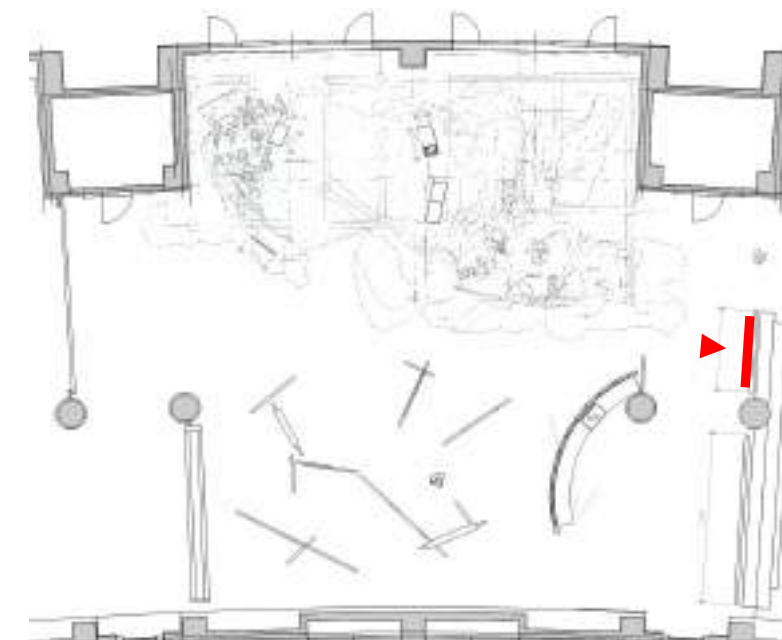
【展示のねらい】

- ・「平和の礎」に刻まれた戦没者のデータから沖縄戦の実像を多角的に読み解き、沖縄戦が持つ意味を考えてもらう。同時に沖縄の経験は本土でも起き得たことを理解してもらい、沖縄戦の教訓は沖縄だけでなく日本全体のものであることを考えてもらう。

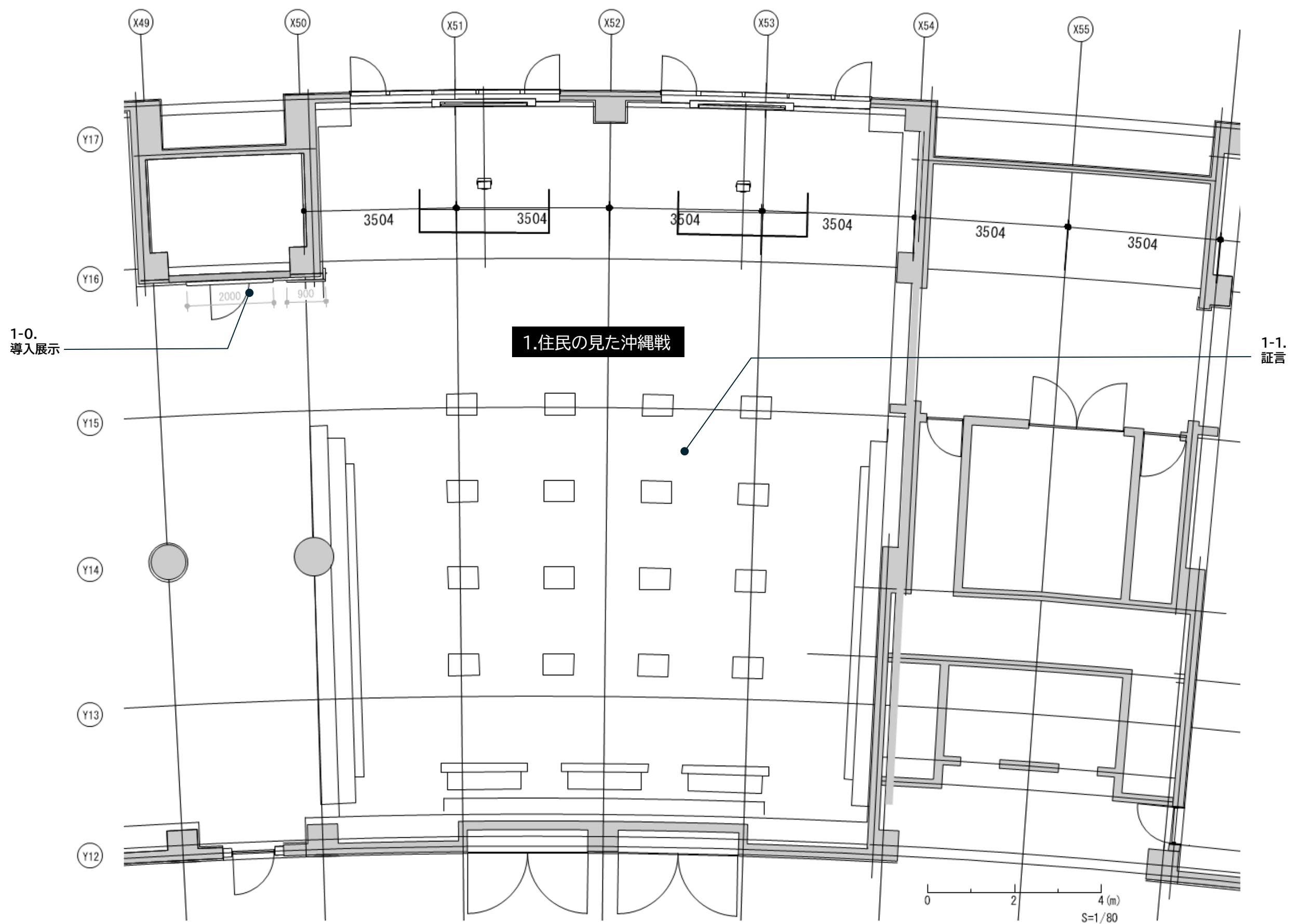
【展示の展開方針】

- ・ 文章や写真、図版などのグラフィックを中心に解説する。

KEYPLAN



- ・ 2-5-① 住民の視点で見た沖縄戦の振り返り
グラフィック
(「沖縄戦のまとめ」に関連する写真、図版など)





1.住民の見た沖縄戦

1-1.証言

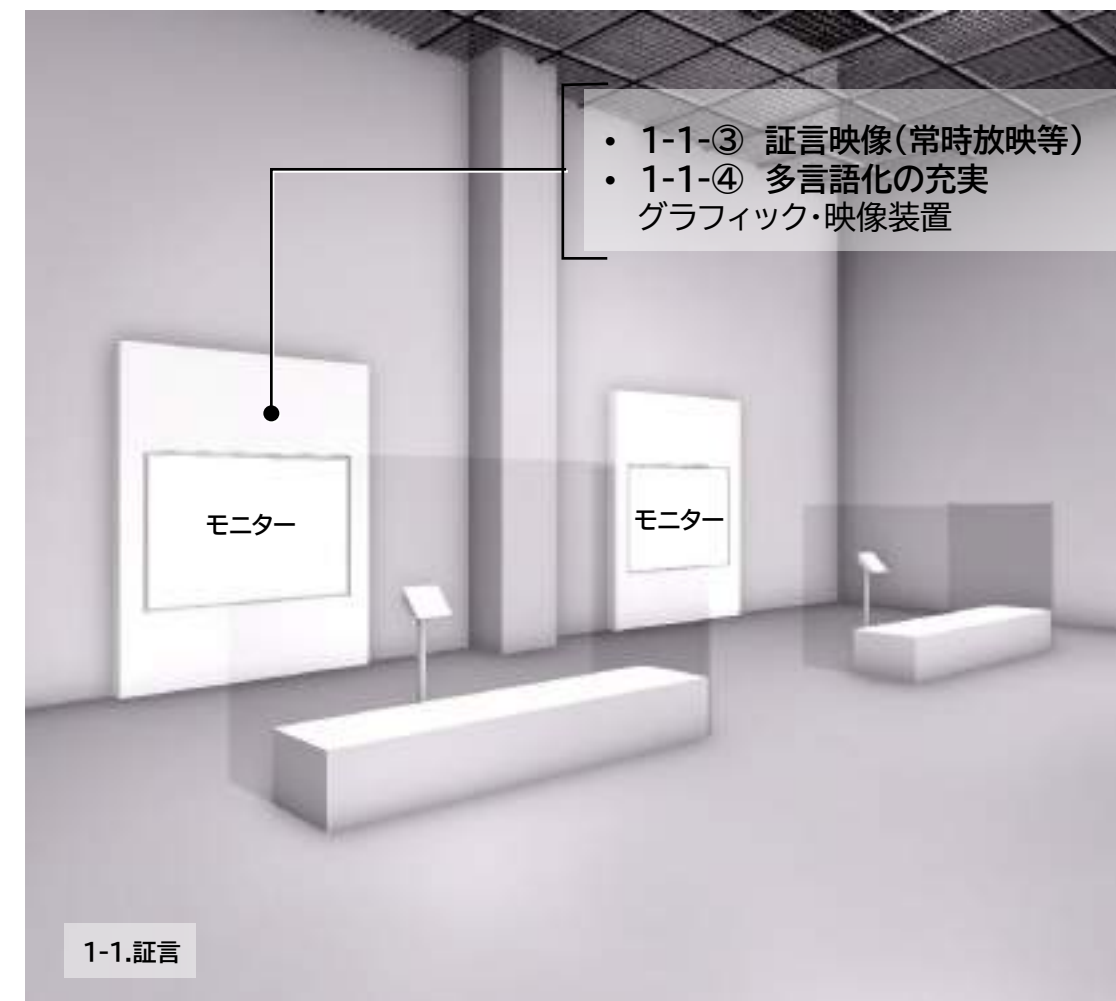
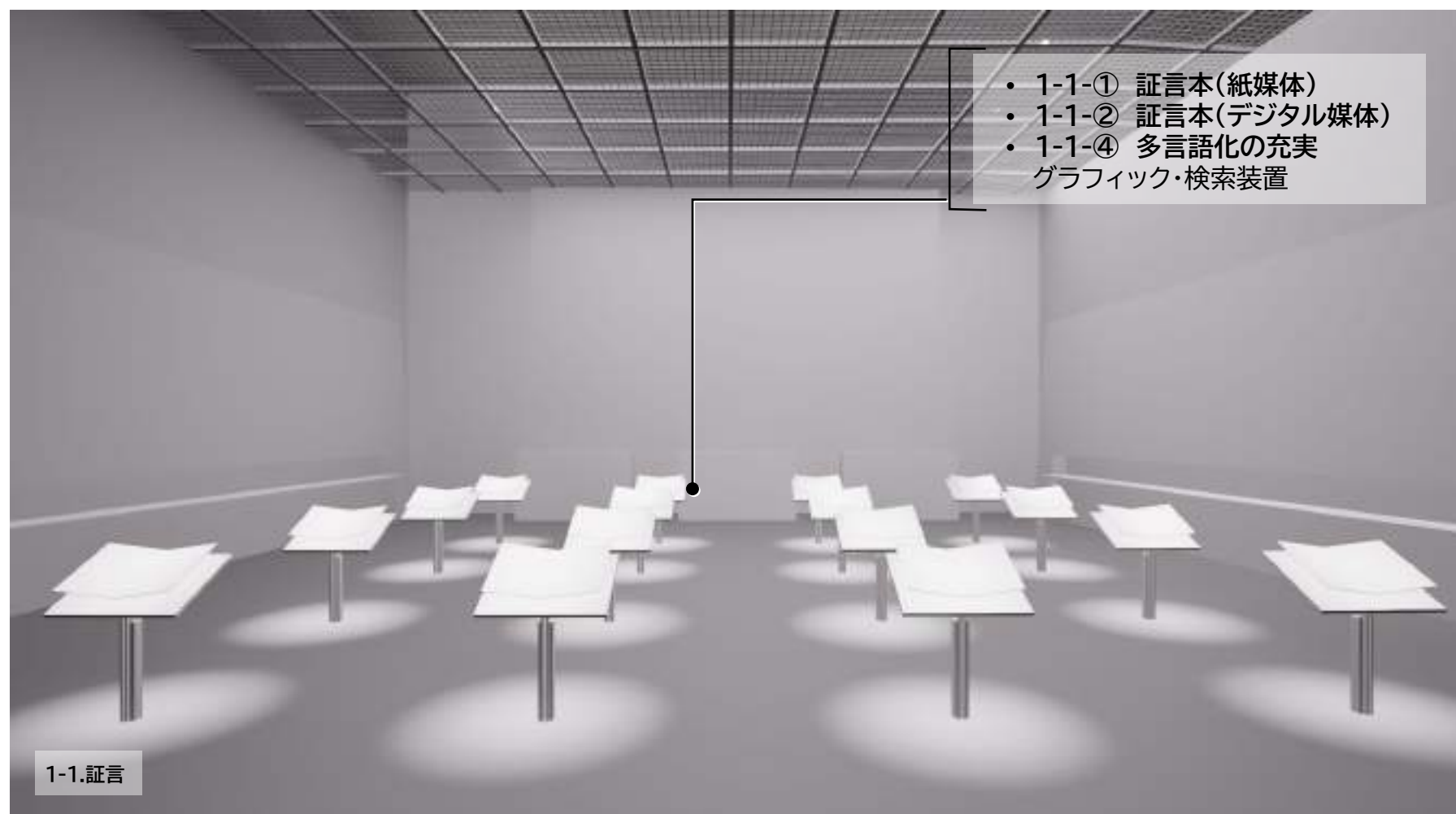
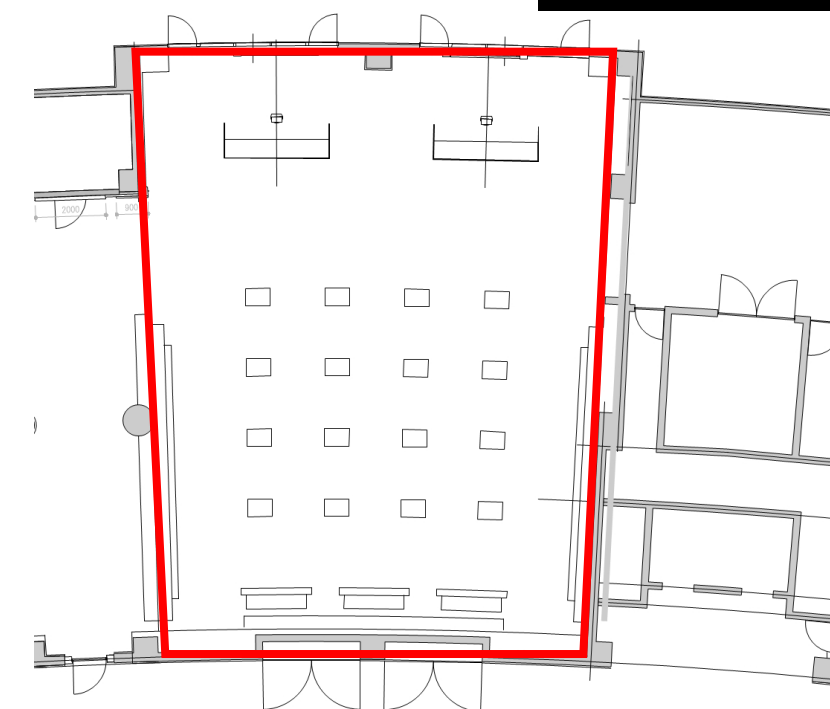
【展示のねらい】

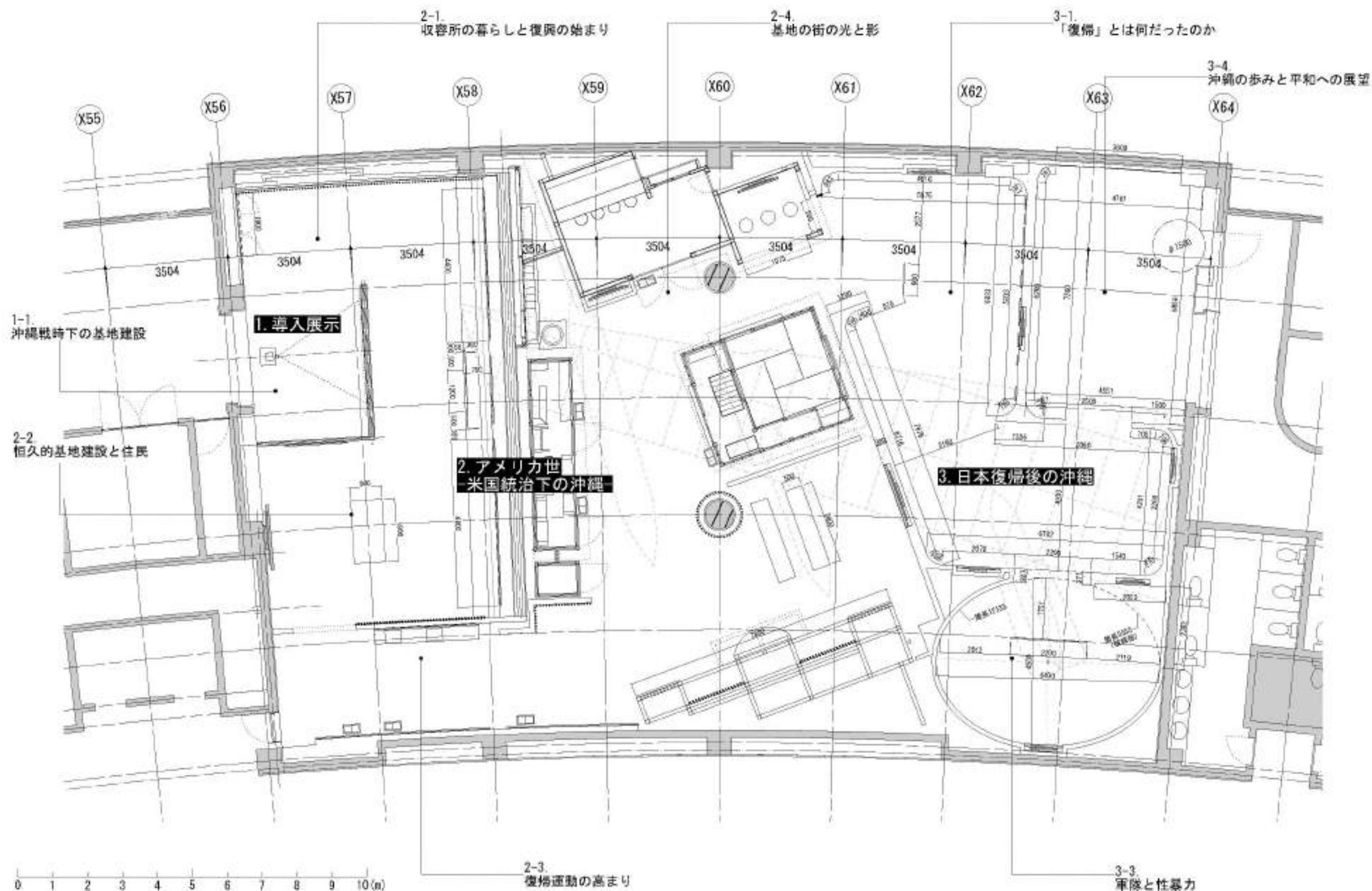
- ・ 沖縄戦をはじめとする戦争を体験した一人一人の証言にじっくり向き合うことで、戦争の実相を感じ取り、来館者一人一人が自分にとって戦争とは何かを考える契機とする。

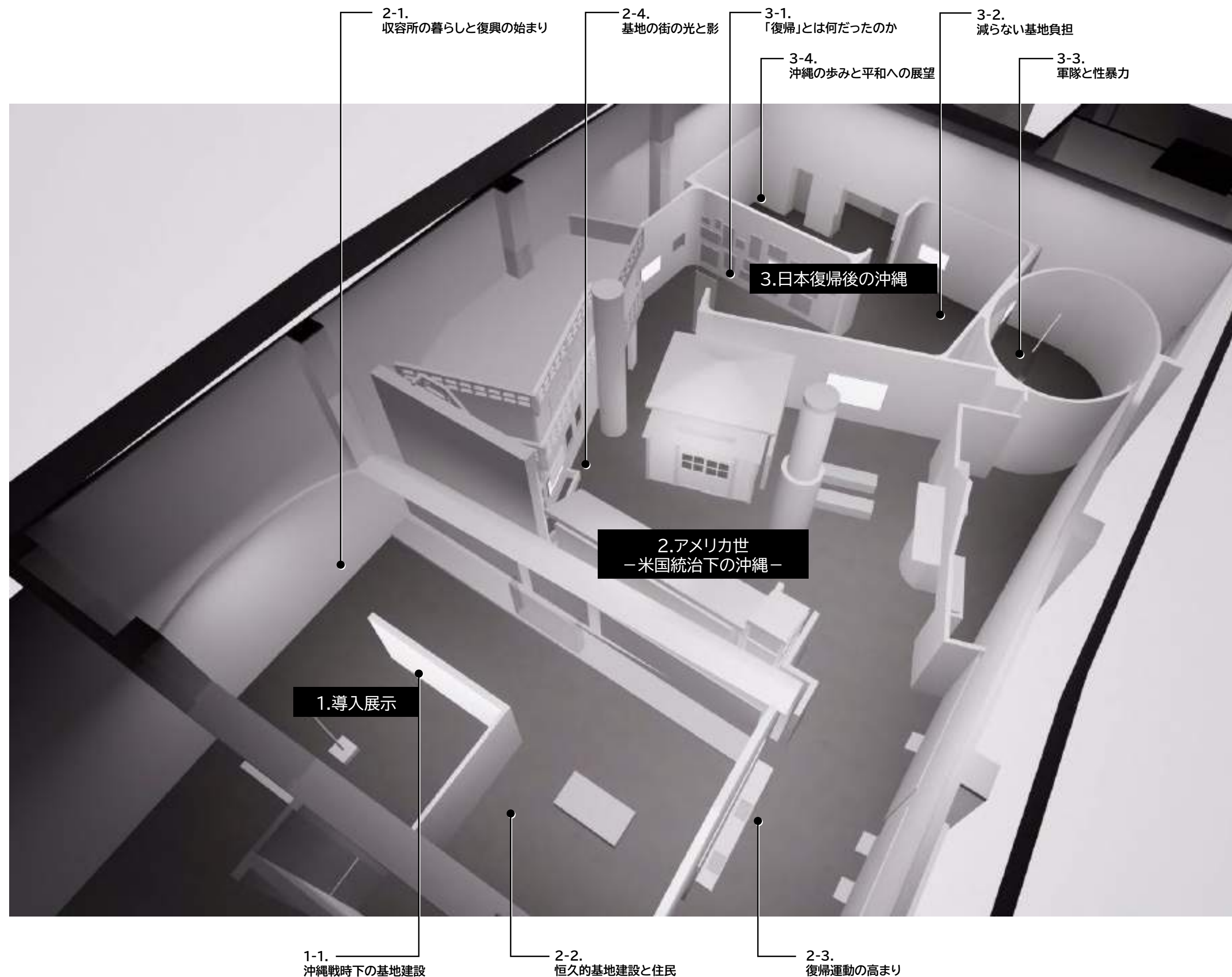
【展示の展開方針】

- ・ 既存の展示環境を踏襲する。証言(本、映像)を中心にした展示空間とする。
- ・ 証言本は、テーマや証言内容をわかりやすく示す工夫を施す。
- ・ 1000点を超える証言映像のうち、当時の立場や場所、証言内容から10～20点程度選定。来館者が自由に選択できる仕様とする(なお、すべての証言映像は、1階で閲覧可能にする)。

KEYPLAN







1.導入展示

1-1.沖縄戦時下の基地建設

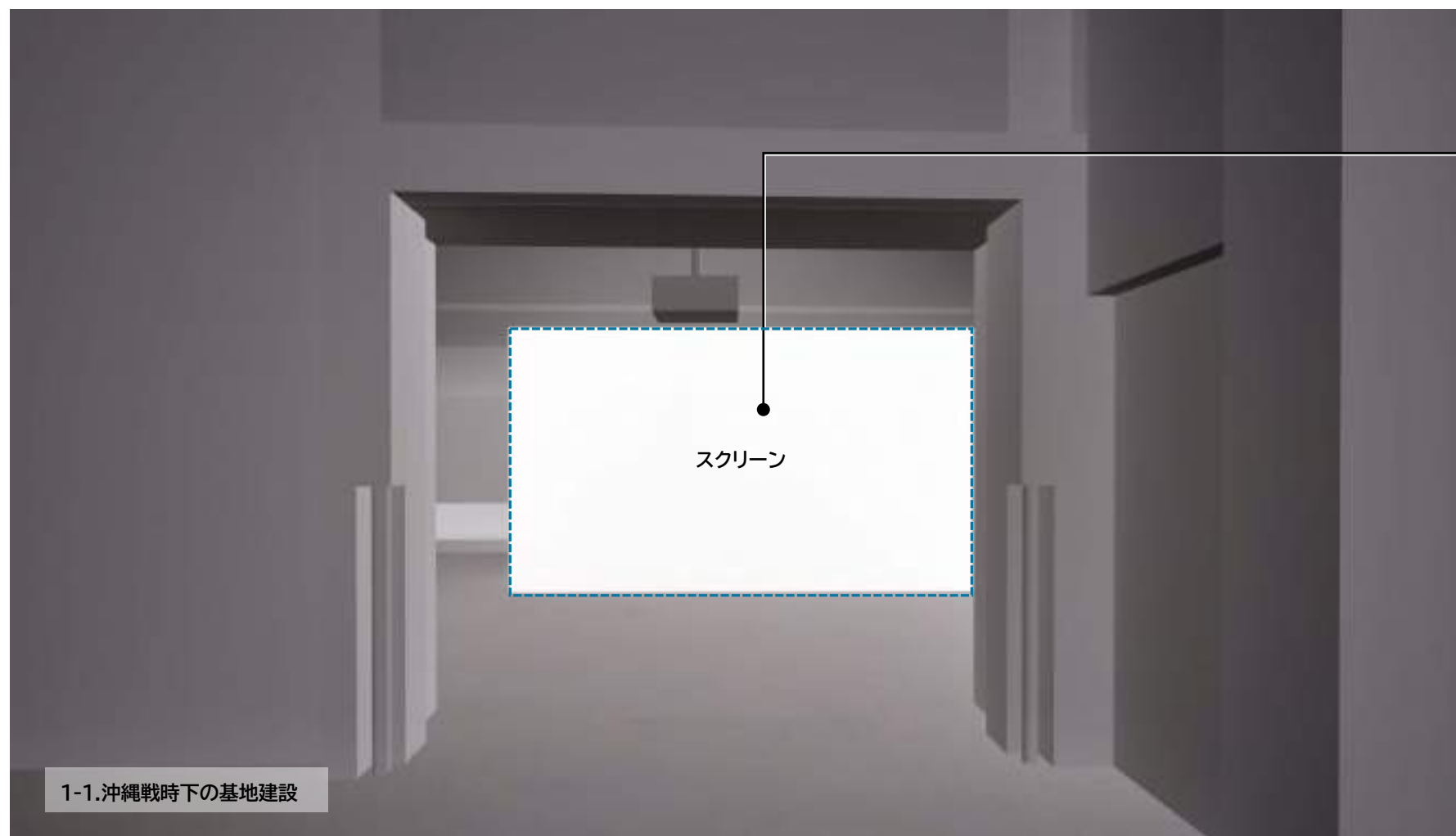
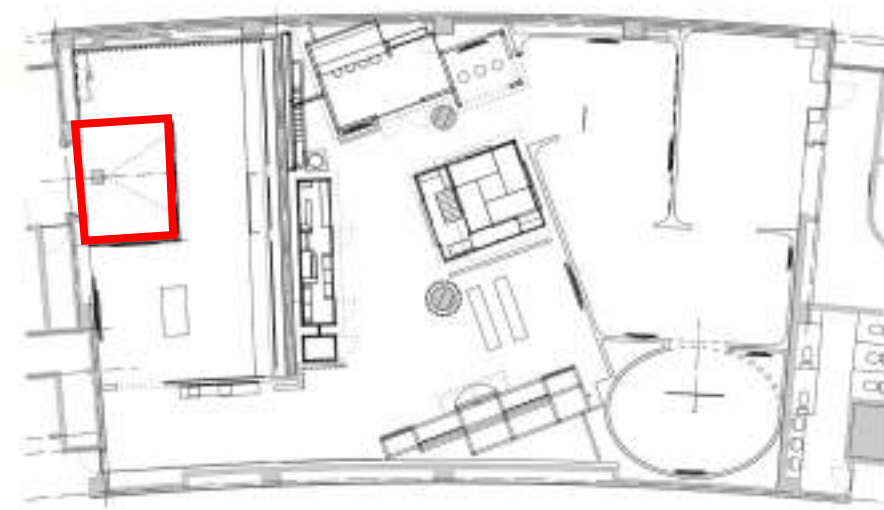
【展示のねらい】

- ・ 戦闘と並行して基地建設が進められた経緯を伝え、現在まで続く沖縄の基地問題の原点が沖縄戦にあることを考えてもらう。

【展示の展開方針】

- ・ 沖縄戦の最中、米軍が基地建設を行っている様子や、建設された基地から米軍機が本土に向かって出撃していく様子などをプロジェクターで壁面に投影する。
- ・ 現在に至る基地問題と沖縄戦とのつながりを問いかけるメッセージを発信する。

KEYPLAN



- ・ 1-1-① 来館者へのメッセージ
- ・ 1-1-② 戦闘と並行した基地建設
グラフィック・映像装置
(基地建設・本土爆撃の映像など)

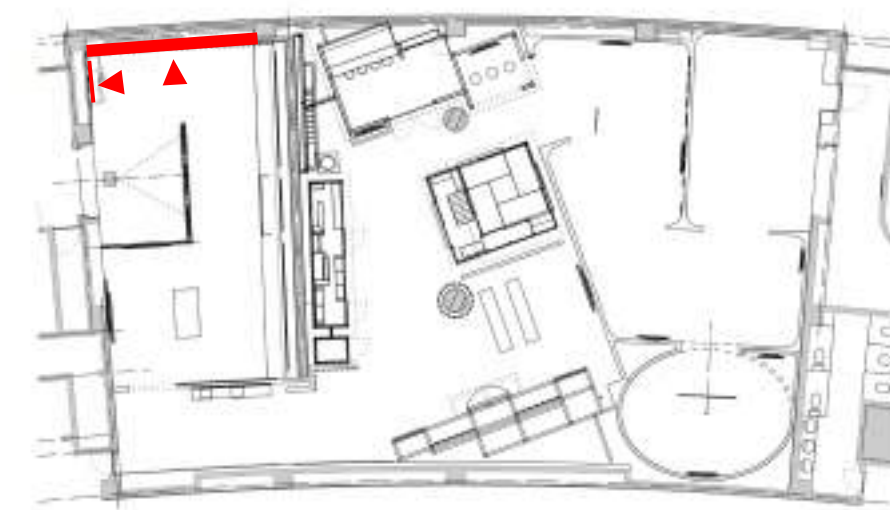
1-1.沖縄戦時下の基地建設

プロジェクターにより、米軍による基地建設の様子や、基地から本土に向かって出撃する米軍機の様子などを捉えた映像等を投影。

2.アメリカ世－米国統治下の沖縄－

2-1.収容所の暮らしと復興の始まり

KEYPLAN

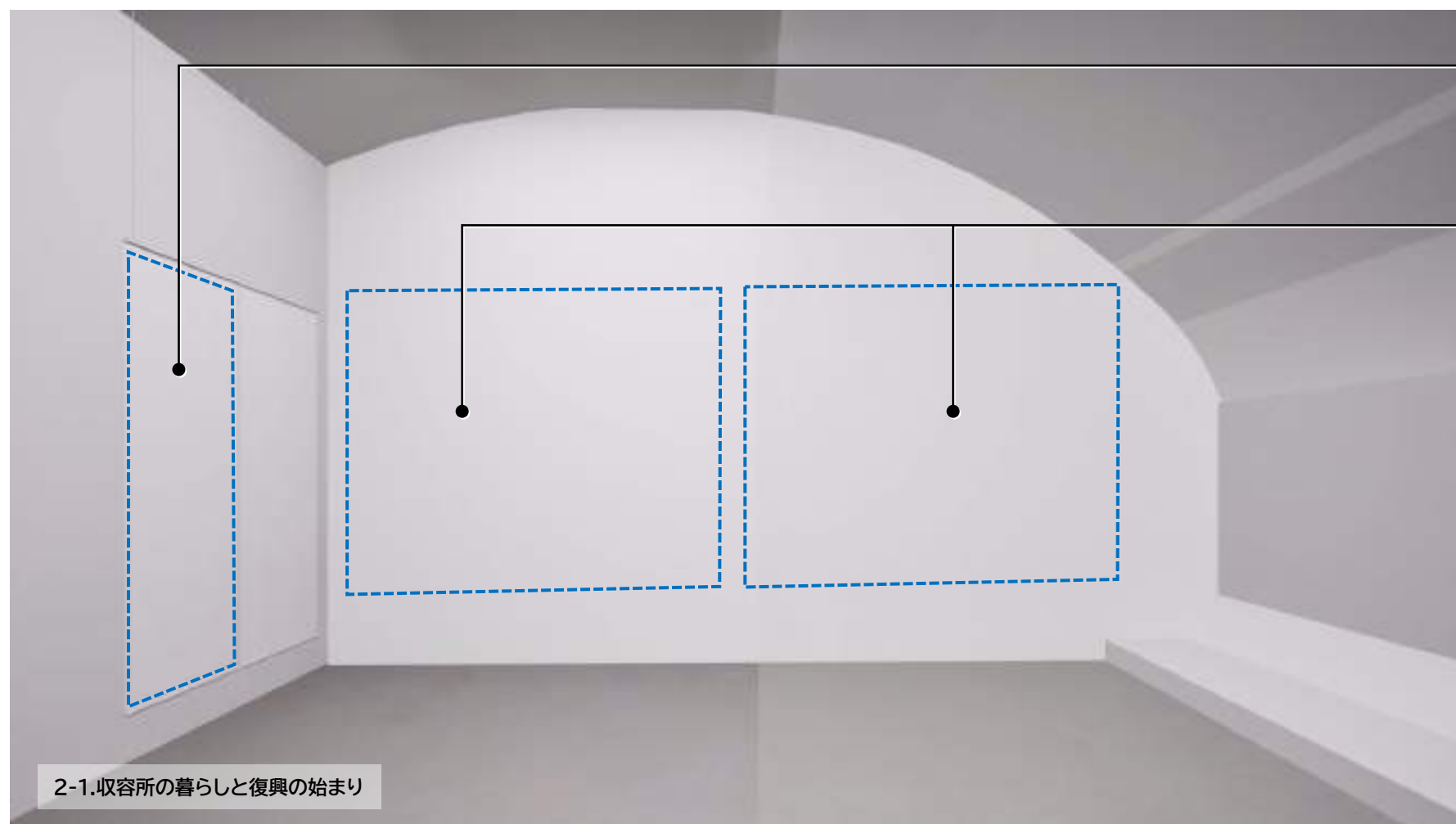


【展示のねらい】

- 戦後、沖縄の人々の生活が収容所から始まり、困難の中で暮らしを再建していった様子を知ってもらう。

【展示の展開方針】

- 地図や写真を用いた大判壁面グラフィックで、収容所生活、帰郷、生活再建の様子を描く。生活用具等の実物資料も効果的に配置する。



アメリカ世－米国統治下の沖縄－
説明パネル

- 2-1-① 収容所の暮らしと食糧事情
- 2-1-③ 帰郷(基地建設と離散)
グラフィック

2-1.収容所の暮らしと復興の始まり

2.アメリカ世—米国統治下の沖縄—

2-1.収容所の暮らしと復興の始まり

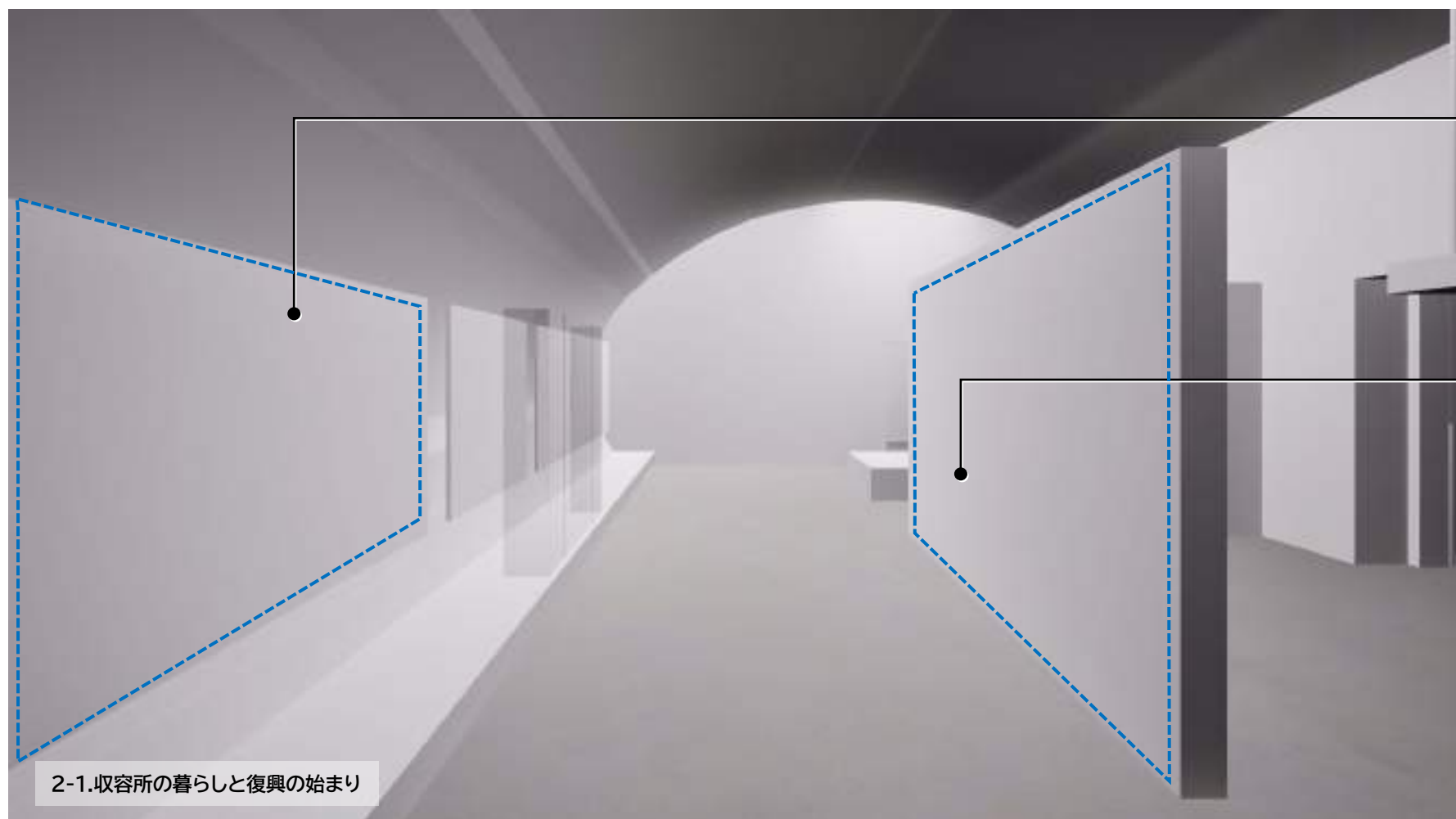
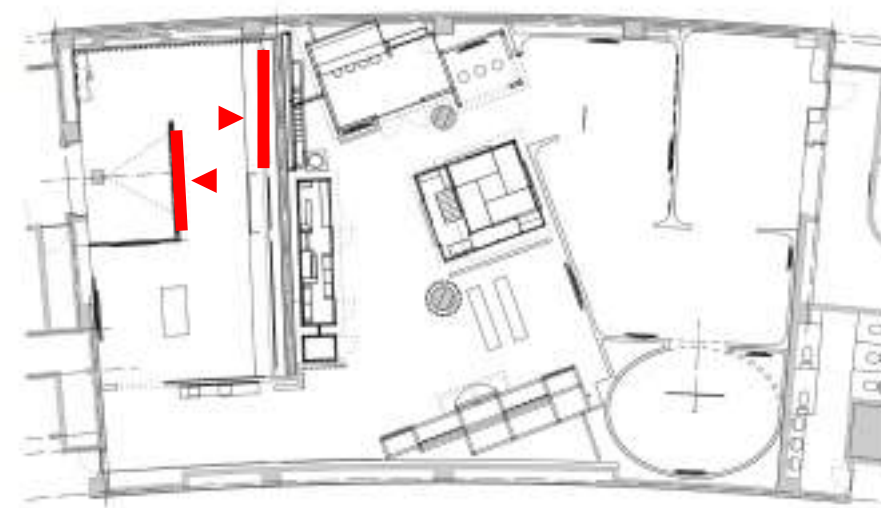
KEYPLAN

【展示のねらい】

- 戦後、沖縄の人々の生活が収容所から始まり、困難の中で暮らしを再建していった様子を知ってもらう。

【展示の展開方針】

- 地図や写真を用いた大判壁面グラフィックで、収容所生活、帰郷、生活再建の様子を描く。生活用具等の実物資料も効果的に配置する。



2-1.収容所の暮らしと復興の始まり

- 2-1-② 戦後教育の始まり
- 2-1-④ 戦果と密貿易
- 2-1-⑤ 海外・県外引揚げの諸相
- 2-1-⑥ 県人の救援活動と米軍支援物資
- 2-1-⑦ 文化の復興
- 2-1-⑧ うるま新報
グラフィック・資料
(米軍由来の生活用品・道具、衣服など)
- 2-1-③ 帰郷(基地建設と離散)
グラフィック

2.アメリカ世ー米国統治下の沖縄ー

2-2.恒久的基地建設と住民

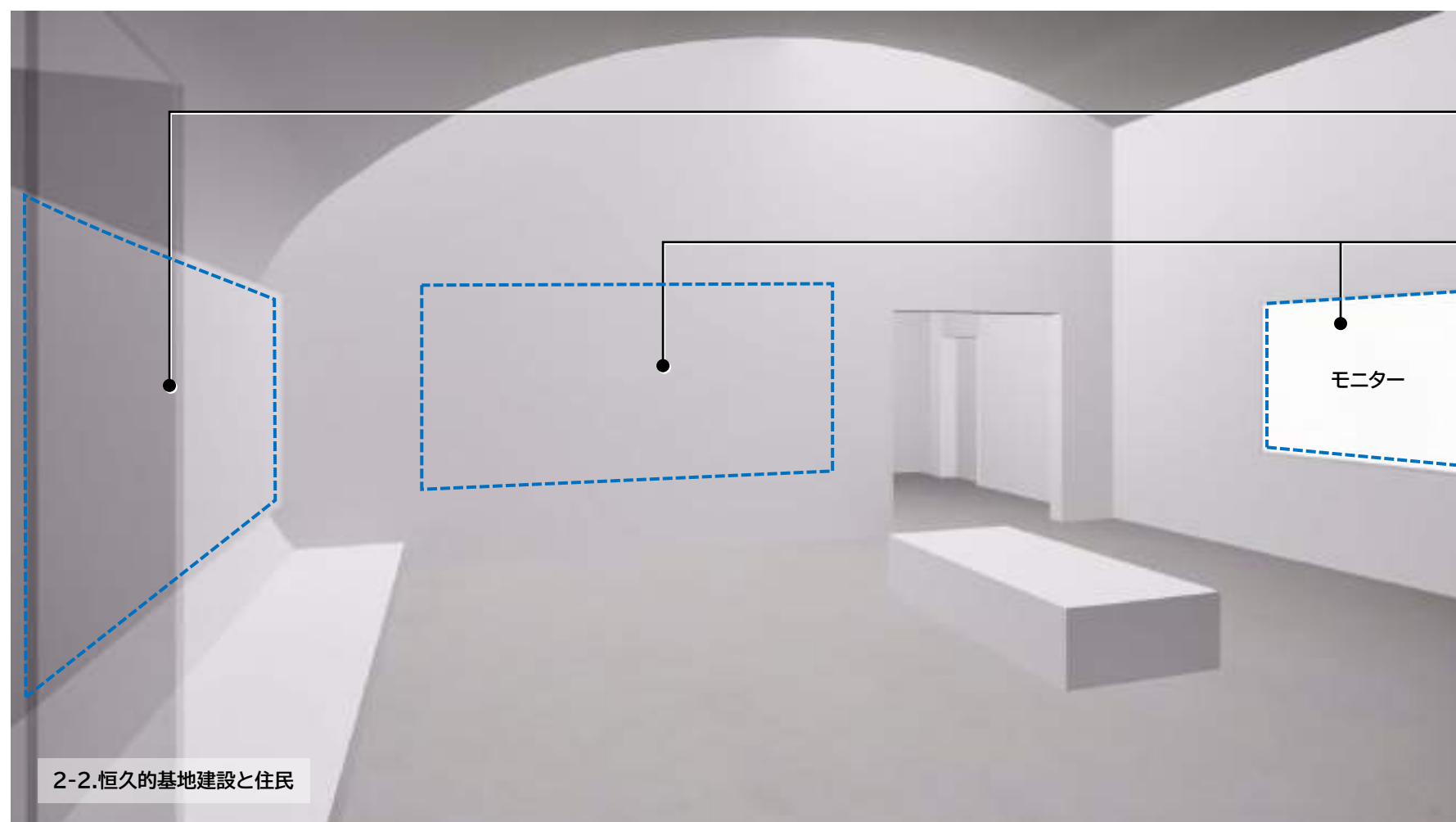
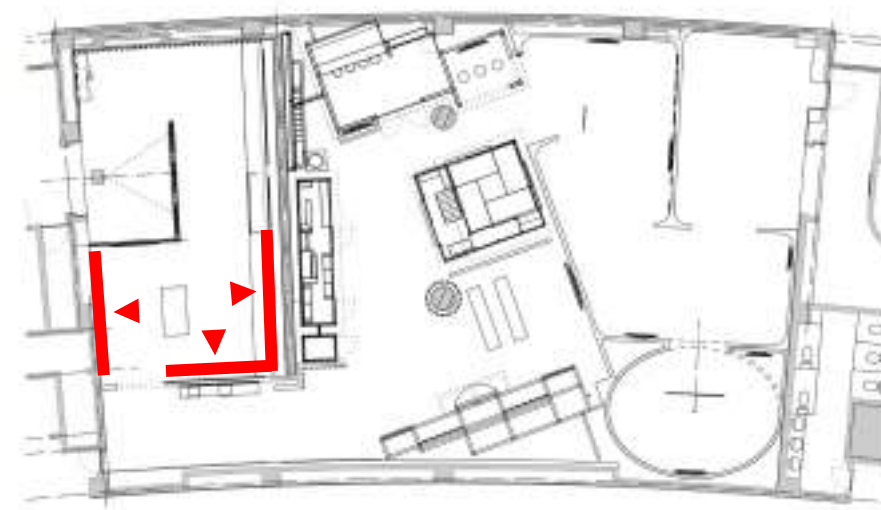
【展示のねらい】

- 1950年代、本土で米軍基地の返還が進められる一方、米国統治下の沖縄では基地の恒久化と拡張が進められた経緯や、それに抗う住民の姿と、米国統治下での行政組織や統治の仕組みを知ってもらう。

【展示の展開方針】

- 壁4面に囲まれた空間を活用し、返還が進む本土とは異なり、沖縄で基地の恒久化と拡張が進められていく過程を、大型モニターと壁面グラフィックを連動させて描き出す。

KEYPLAN



- 2-2-① 沖縄保有の決定
- 2-2-② サンフランシスコ講和条約
- 2-2-⑤ 基地建設工事
グラフィック

- 2-2-③ 島ぐるみ闘争
- 2-2-④ 本土の基地問題と海兵隊
- 2-2-⑥ 土地接收
- 2-2-⑦ 海兵隊の移転
- 2-2-⑧ 核兵器
グラフィック・映像装置
(島ぐるみ闘争、核兵器の写真など)

2.アメリカ世ー米国統治下の沖縄ー

2-2.恒久的基地建設と住民

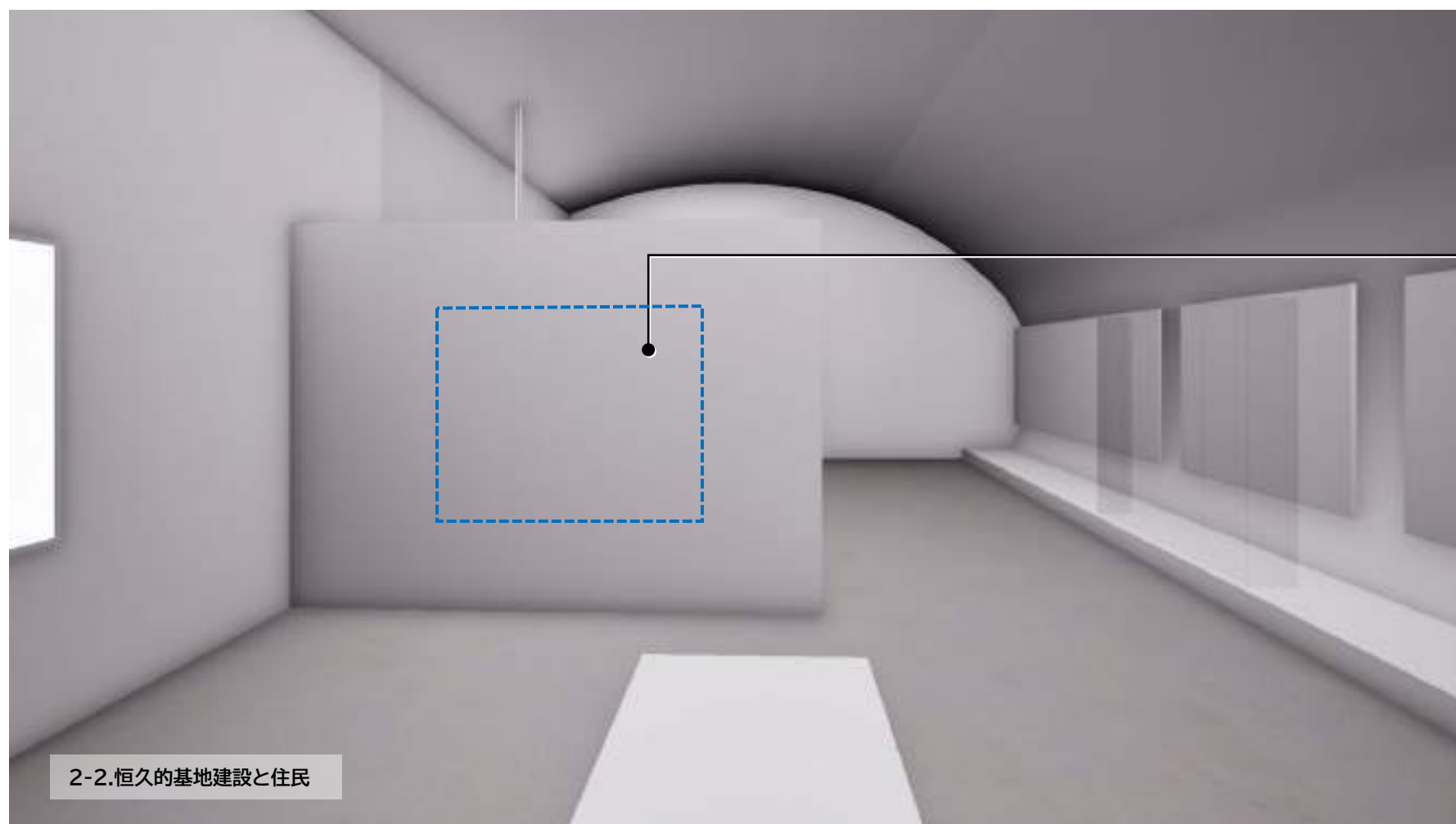
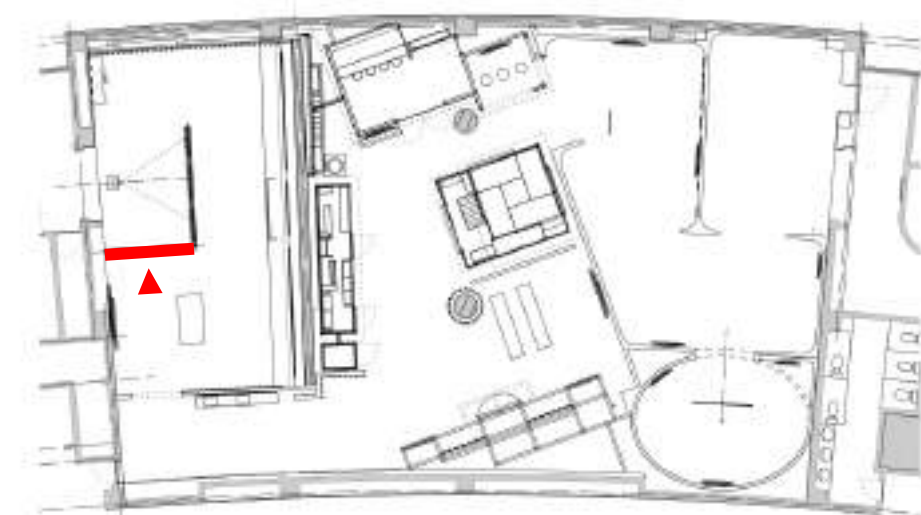
【展示のねらい】

- ・ 1950年代、本土で米軍基地の返還が進められる一方、米国統治下の沖縄では基地の恒久化と拡張が進められた経緯や、それに抗う住民の姿と、米国統治下での行政組織や統治の仕組みを知ってもらう。

【展示の展開方針】

- ・ 壁4面に囲まれた空間を活用し、返還が進む本土とは異なり、沖縄で基地の恒久化と拡張が進められていく過程を、大型モニターと壁面グラフィックを連動させて描き出す。

KEYPLAN



- ・ 2-2-⑨ 行政組織の変遷
- ・ 2-2-⑩ 占領統治の仕組み
- ・ 2-2-⑪ 南米移民、八重山開拓グラフィック

2.アメリカ世—米国統治下の沖縄—

2-3.復帰運動の高まり

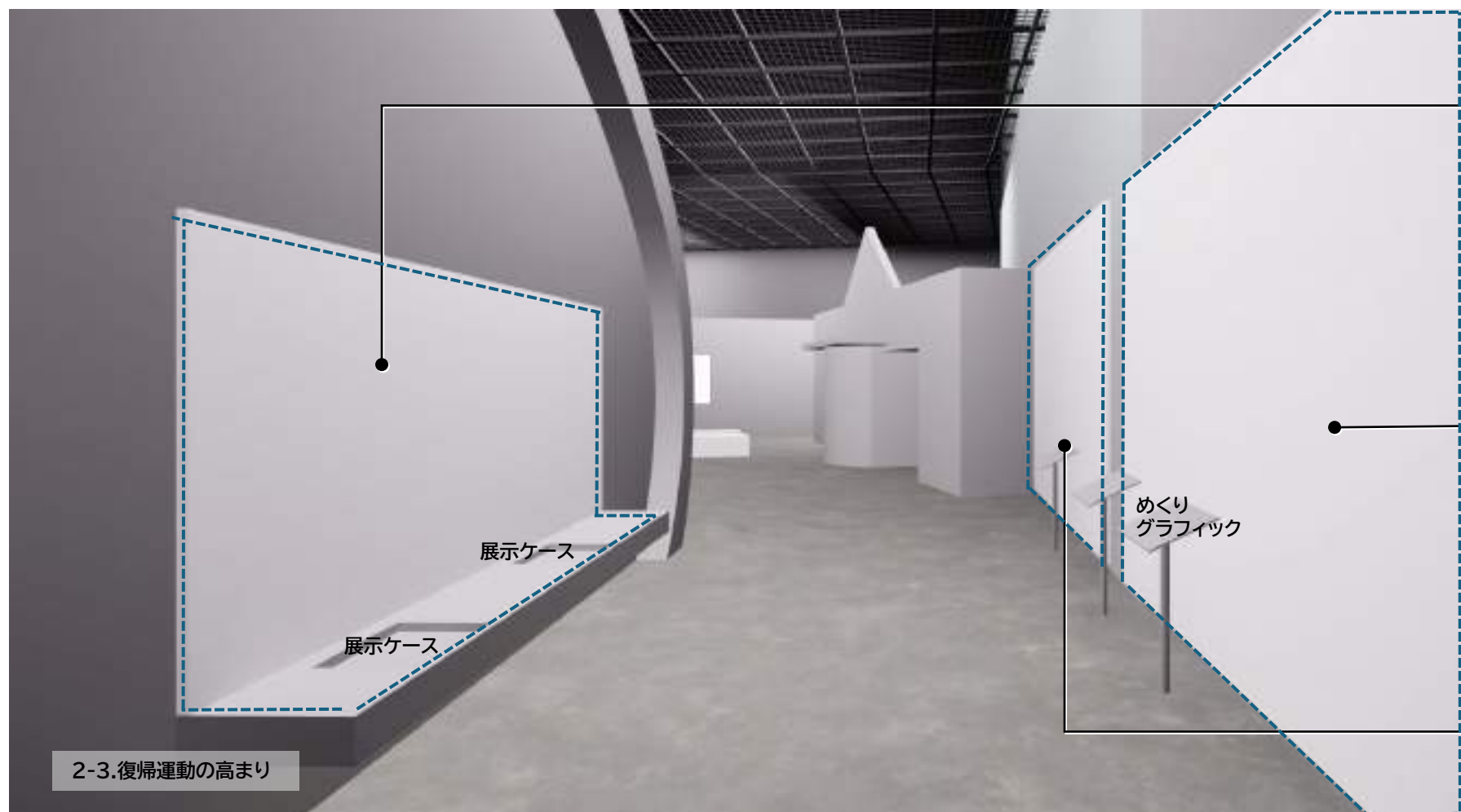
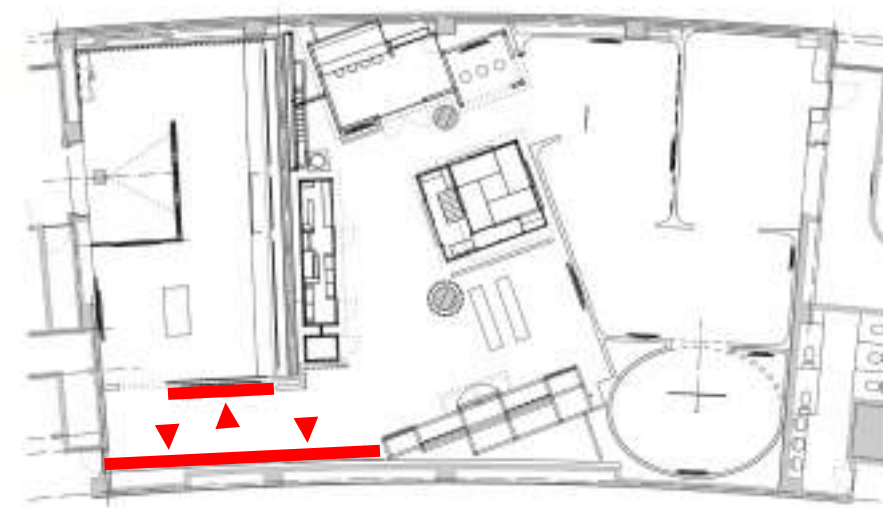
KEYPLAN

【展示のねらい】

- 米軍基地に起因する事件・事故が繰り返され、人権が蔑ろにされた米国統治下の状況と、日本への復帰と基本的人権の保障を求めた住民の動きを示すとともに、米国統治下を象徴する展示物を通して当時の状況を理解してもらう。

【展示の展開方針】

- 米国統治下で制限のある生活を送る中、増加する悲惨な米軍関連事件・事故を、写真や絵画を効果的に用いて描き、復帰運動が高まっていく沖縄の様子と復帰に向けた日米の動きを示す。



- 2-3-① 言論統制・渡航制限・裁判移送
- 2-3-⑦ 日米への留学と集団就職
- 2-3-③ 男女平等の新民法の施行(憲法は適用されず)
グラフィック・資料
(米軍による事件・事故の写真)

- 2-3-② 増加する米軍関連の事件・事故
- 2-3-④ 沖縄県祖国復帰協議会の結成
- 2-3-⑤ 主席公選闘争と教公二法阻止闘争
- 2-3-⑥ 全軍労の結成
- 2-3-⑧ 沖縄返還をめぐる日米協議の始まり
グラフィック・資料
(復帰運動に関する写真など)

- 2-4-⑧ ベトナム戦争
グラフィック・資料

2.アメリカ世－米国統治下の沖縄－

2-4.基地の街の光と影

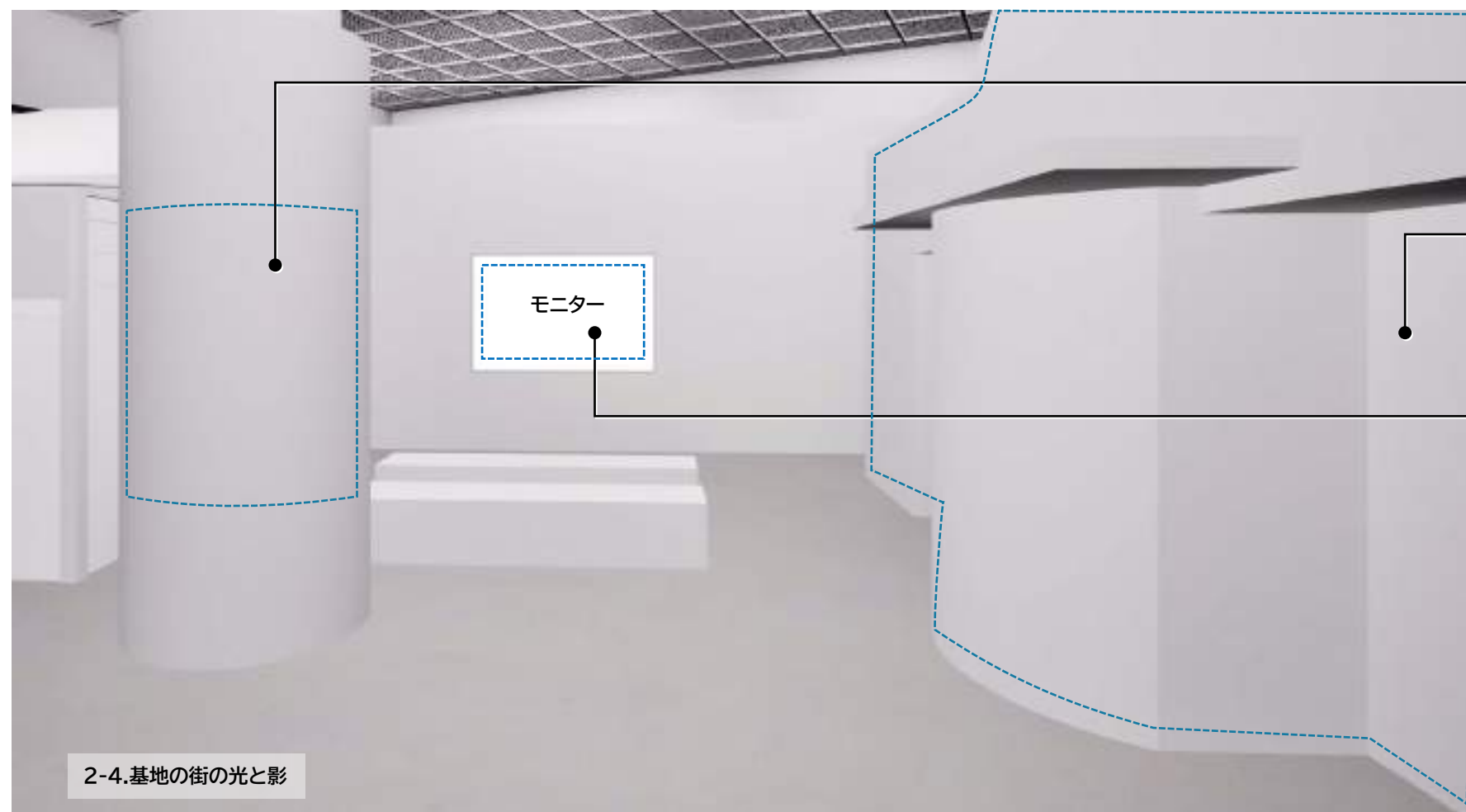
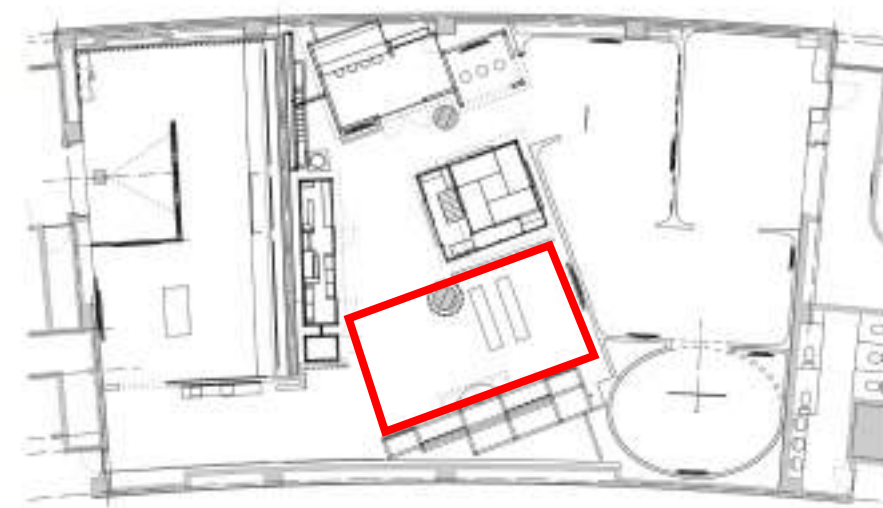
KEYPLAN

【展示のねらい】

- 基地の街の経済活動と人々の暮らしへの影響、ベトナム戦争と沖縄の関わりを捉えてもらう。

【展示の展開方針】

- 再現空間内の各建物に解説を設けるとともに、映像を組み合わせることで基地の街での人々の暮らしを描く。コザ騒動や復帰前の沖縄社会、ベトナム戦争との関わりを通して、基地がもたらす影響を空間全体で示す。
- 解説を中心とした短編映像で展開する。



• 2-4-① 基地の街の背景
グラフィック

• 2-4-② アーネーパイル国際劇場と那覇の街
グラフィック・資料・造形
(この時期の社会背景がわかる資料など)

• 2-4-⑦ 映像コーナー
映像装置

2.アメリカ世—米国統治下の沖縄—

2-4.基地の街の光と影

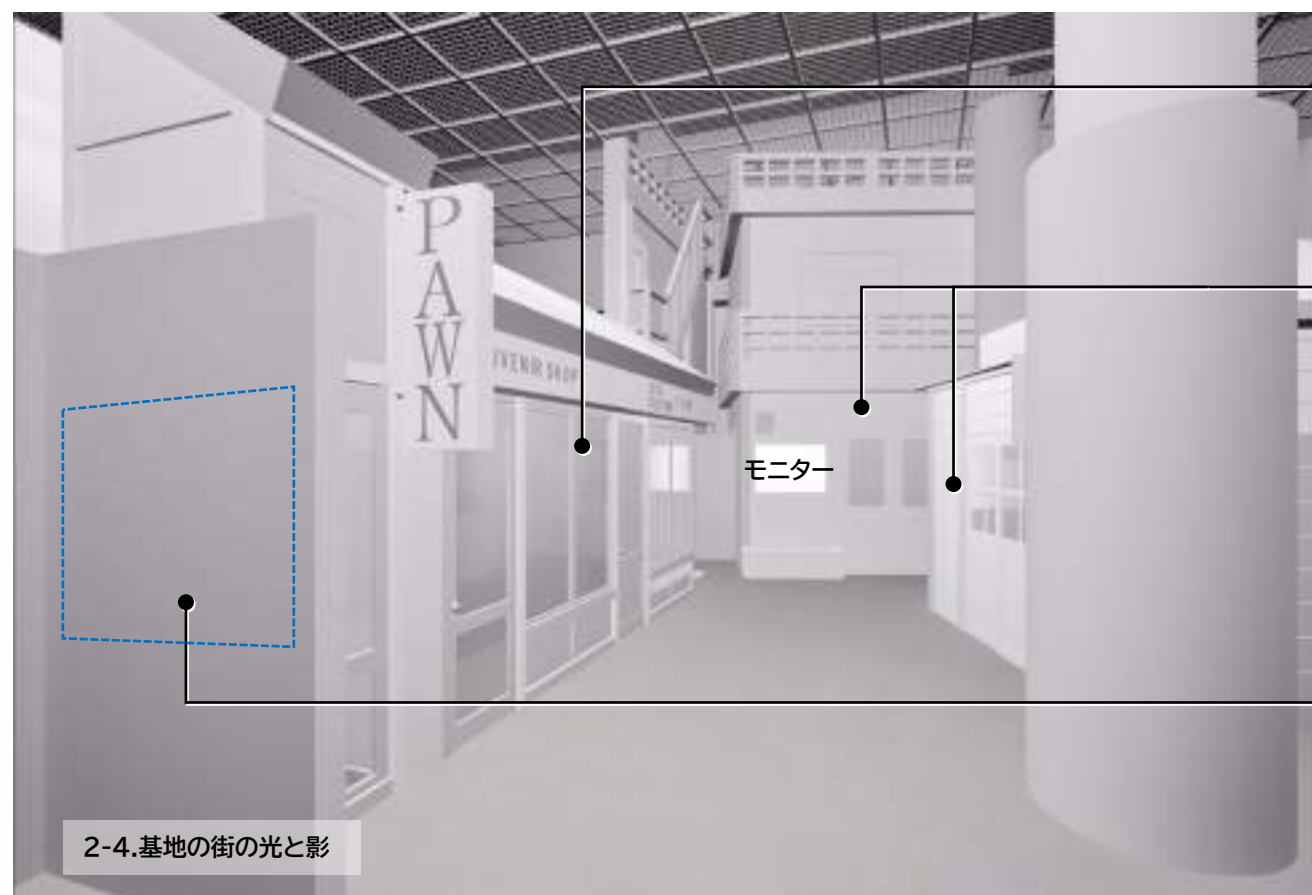
【展示のねらい】

- 基地の街の経済活動と人々の暮らしへの影響、ベトナム戦争と沖縄の関わりを捉えてもらう。

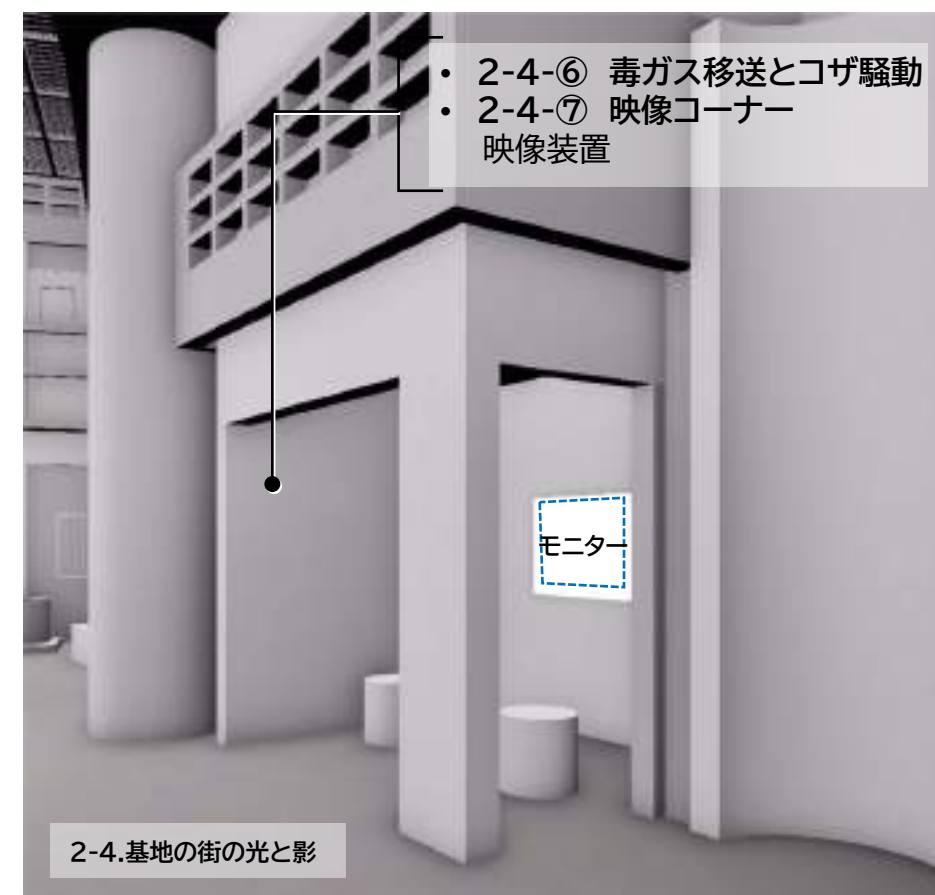
【展示の展開方針】

- 再現空間内の各建物に解説を設けるとともに、映像を組み合わせることで基地の街での人々の暮らしを描く。コザ騒動や復帰前の沖縄社会、ベトナム戦争との関わりを通して、基地がもたらす影響を空間全体で示す。
- テーマを深く掘り下げるため長編映像で展開する。

KEYPLAN



- 2-4-③ スーベニアショップとテラー
グラフィック・資料・造形
- 2-4-④ 金城商店とAサインバー
グラフィック・映像装置・資料・造形
- 2-4-⑤ B-52とパラシュート
グラフィック・造形



- 2-4-⑥ 毒ガス移送とコザ騒動
- 2-4-⑦ 映像コーナー
映像装置

3.日本復帰後の沖縄

3-1.「復帰」とは何だったのか

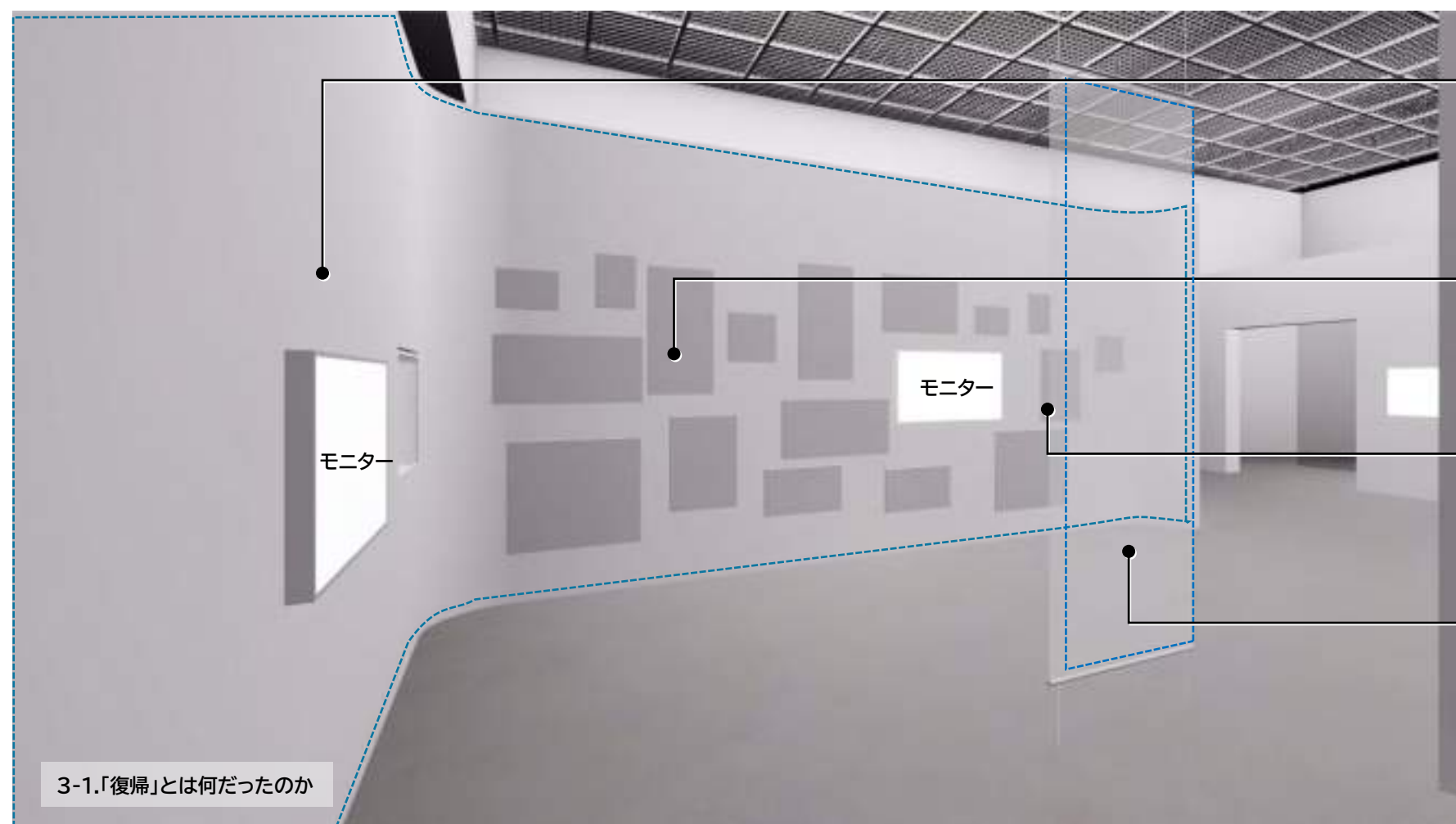
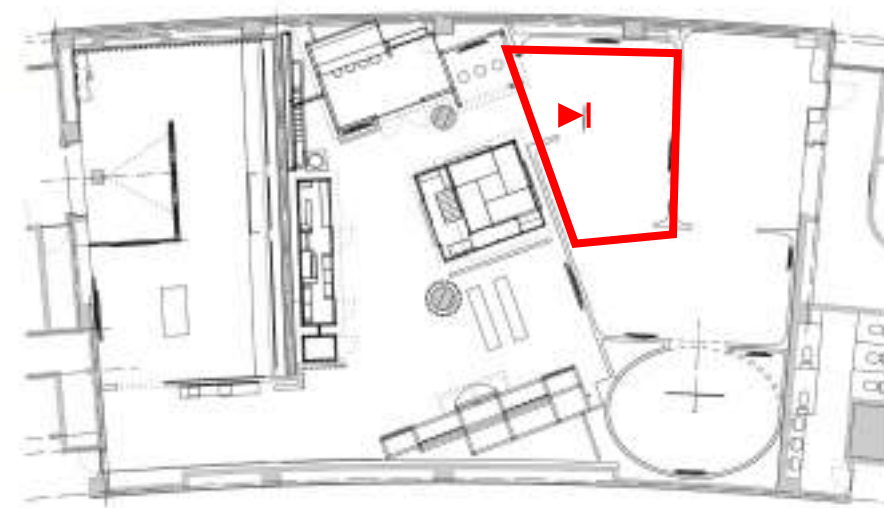
【展示のねらい】

- 日本復帰の内実と、その後の沖縄社会の歩みを通して、日本復帰後の沖縄について知ってもらう。

【展示の展開方針】

- 映像と壁面写真・図版を用いて、日本復帰時の様子やその後の社会の変化を伝える構成とする。

KEYPLAN



- 3-1-① 沖縄返還協定(核抜き・本土並み)
- 3-1-② 復帰の措置に関する建議書
- 3-1-③ 1972年5月15日
グラフィック・映像装置・資料
(復帰の措置に関する建議書、復帰記念メダルなど)

- 3-1-④ 日本政府の沖縄振興策
- 3-1-⑤ 復帰三大事業と730交通方法変更
- 3-1-⑦ 復帰後の文化
グラフィック・映像装置・資料
(交通法変更に関するポスターなど)

- 3-1-⑥ 跡地利用、基地関連収入
グラフィック

日本復帰後の沖縄
説明パネル

3.日本復帰後の沖縄

3-2.減らない基地負担

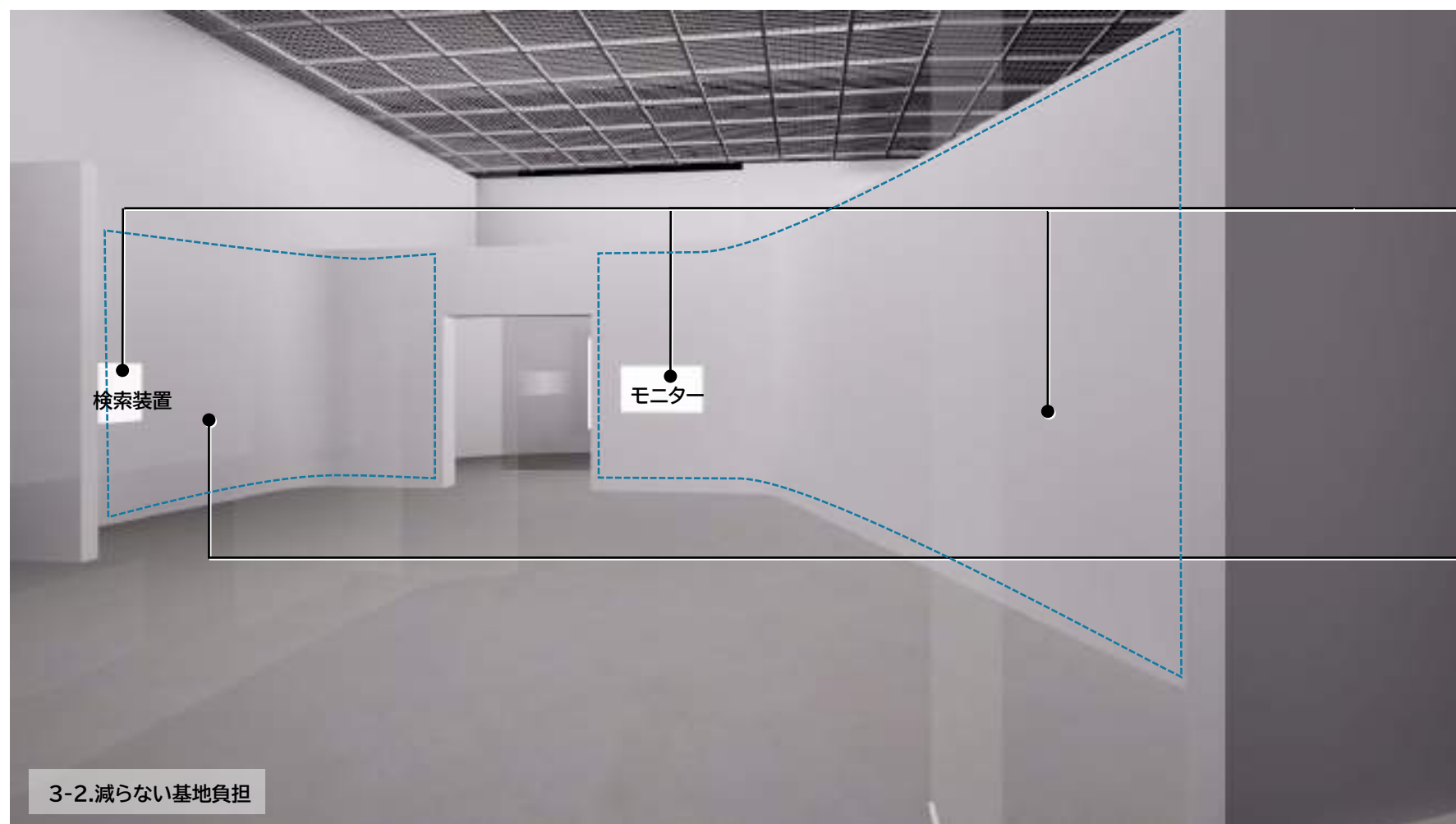
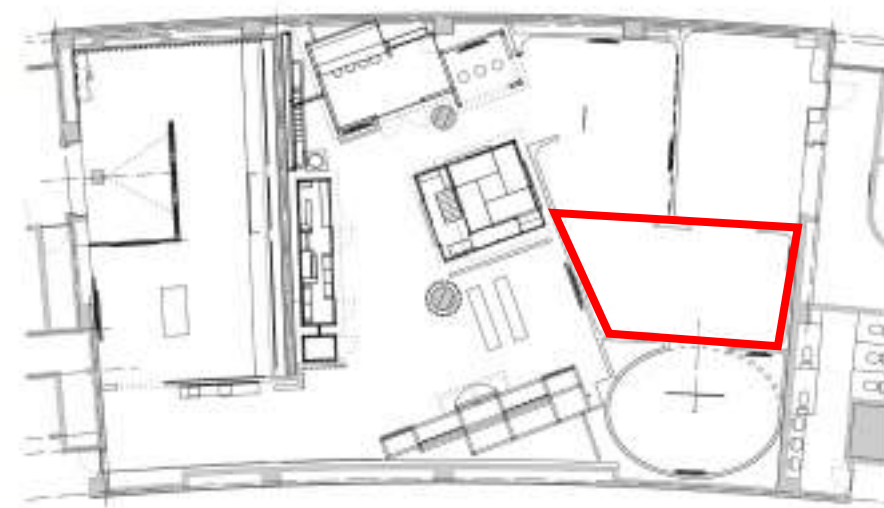
【展示のねらい】

- ・ 日本復帰後も続く過重な基地負担や米軍基地に起因する事件・事故、日米地位協定をめぐる問題を通して、この問題が沖縄だけでなく日本全体の課題であることを考えてもらう。

【展示の展開方針】

- ・ モニターや図表を活用し、沖縄に集中する基地負担や日米地位協定が日本全体に関わる課題であることを示すとともに、基地周辺地域に及ぶ環境問題など、現在も続く基地負担の影響や実態を紹介する。

KEYPLAN



- ・ 3-2-① 縮小する首都圏の米軍基地と減らない基地負担
- ・ 3-2-② 1995年米兵による少女性暴力事件
- ・ 3-2-③ 日米地位協定、県民投票
- ・ 3-2-④ 普天間飛行場の返還発表から辺野古新基地建設、名護市民投票
- ・ 3-2-⑤ 沖縄大ヘリ墜落事件等・不時着と落下物事故
- ・ 3-2-⑥ オスプレイ配備

グラフィック・映像装置
(米軍による事件・事故の写真、映像など)

- ・ 3-2-⑦ 環境問題
グラフィック・検索装置

3.日本復帰後の沖縄

3-3.軍隊と性暴力

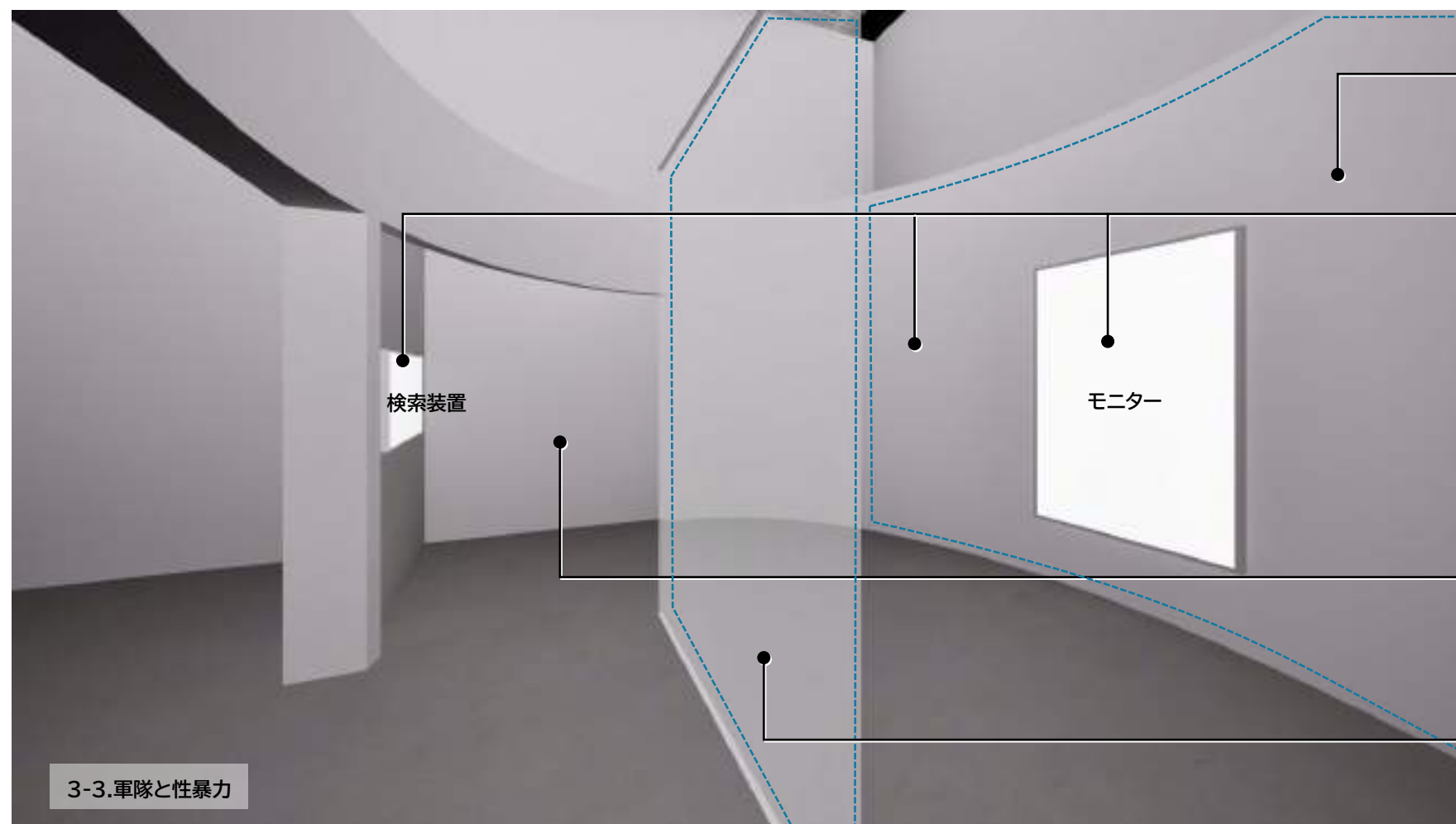
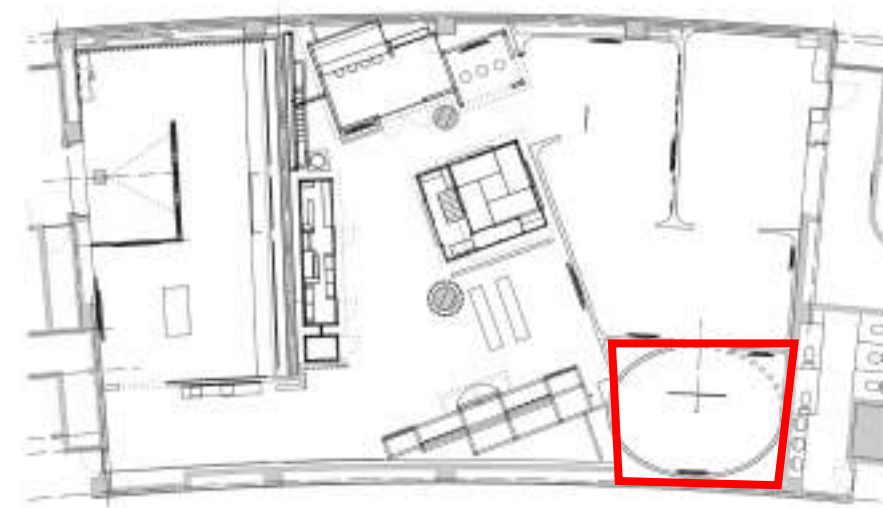
KEYPLAN

【展示のねらい】

- 沖縄戦以降、現在まで駐留を続ける米軍によって、女性や子どもたちが繰り返し性暴力の被害を受けてきたことを示し、「軍隊と性暴力」について考えてもらう。

【展示の展開方針】

- 没入感ある独立した空間で、事件年表の表示、新聞や証言資料、解説パネルを組み合わせ、「軍隊と性暴力」の構造を丁寧に示す。



- 3-3-① 慰安施設設置構想と米兵相手の歓楽街
- 3-3-② ベトナム戦争と性暴力・殺人事件
- 3-3-③ 1995年米兵による少女性暴力事件で開催された県民大会の様子
グラフィック
(米軍による性暴力に関するデータ資料など)
- 3-3-⑤ 米軍による性暴力
グラフィック・映像装置・検索装置
- 3-3-④ 強姦救援センター・沖縄「REICO(レイコ)」
グラフィック

軍隊と性暴力
タイトルパネル

3-3.軍隊と性暴力

3.日本復帰後の沖縄

3-4.沖縄の歩みと平和への展望

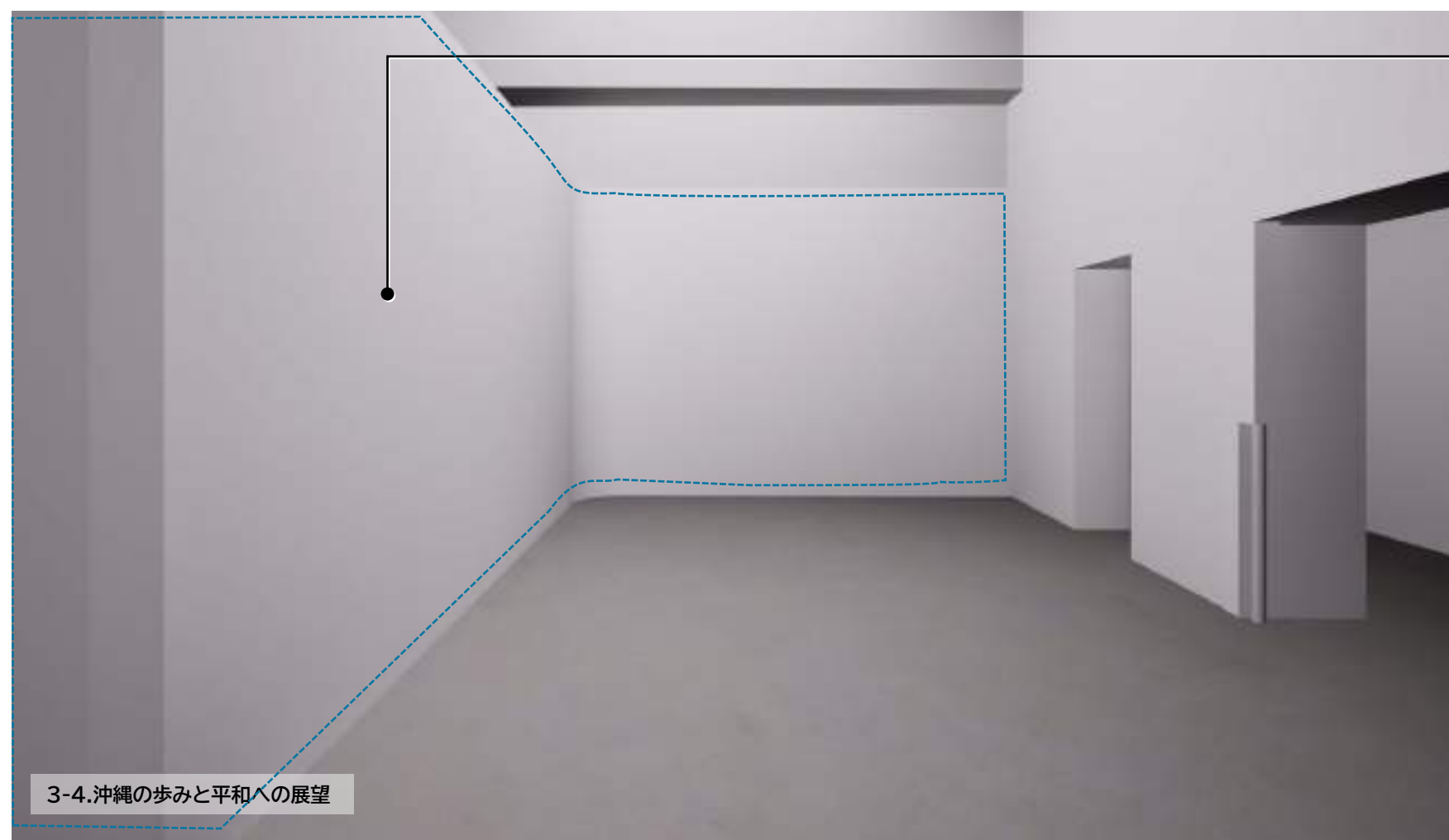
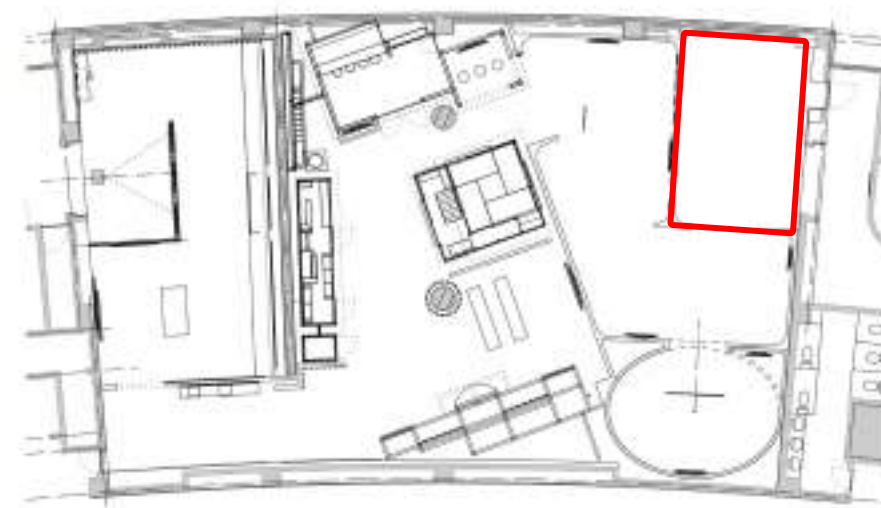
【展示のねらい】

- ・ 沖縄戦から今日までの歩みを振り返るとともに、平和の実現に向けた取り組みを伝え、これからの沖縄と平和への展望について考えてもらう。

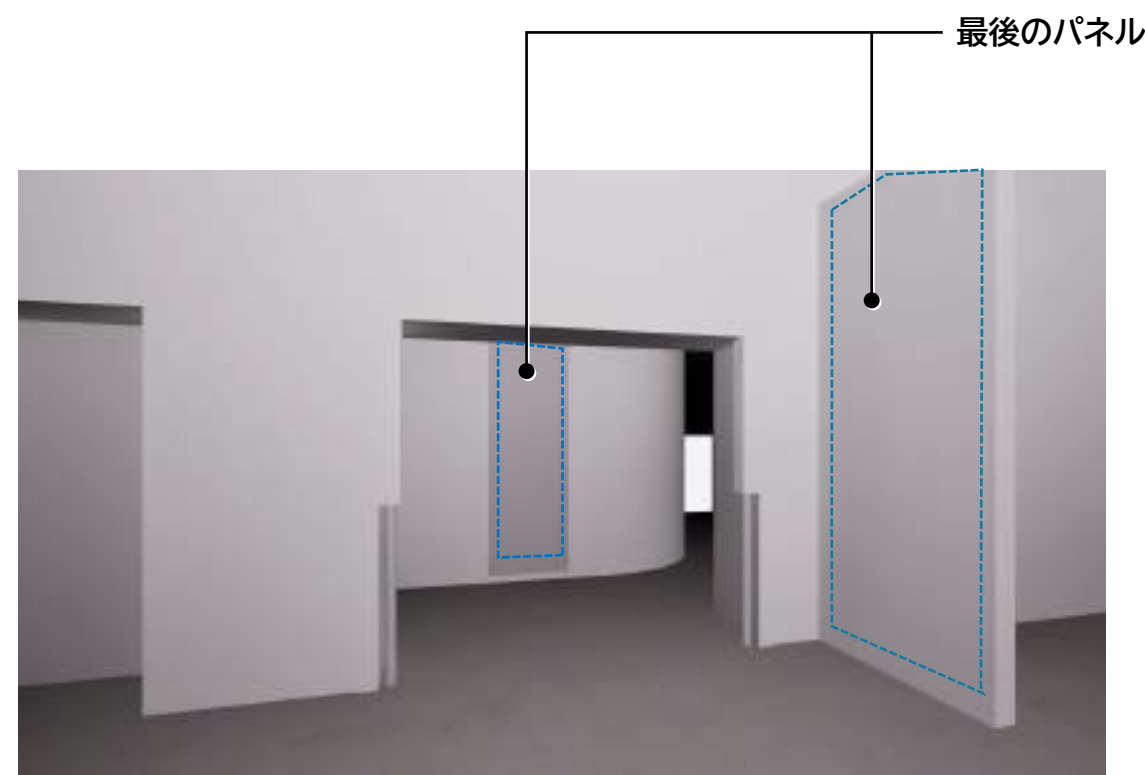
【展示の展開方針】

- ・ 沖縄戦から今日までの沖縄の歩みを国際情勢の変化とともに示し、平和の実現に向けた取り組みを伝え、これからの沖縄の未来を展望する空間とする。

KEYPLAN



- ・ 3-4-① 沖縄の歩みと平和への展望
グラフィック



子ども・プロセス展示室（情報ライブラリーを含む）（1 階）

1. 「平和の礎」を考えるコーナー

【展示のねらい】

「平和の礎」から沖縄戦について学ぶとともに、平和を尊重する“沖縄のこころ”を考える機会を提供する。
また「平和の礎」と当館を往還するきっかけを提供し、来館者がより深く戦争や平和について考えることをねらいとする。

2. 現在の戦争や紛争について考えるコーナー

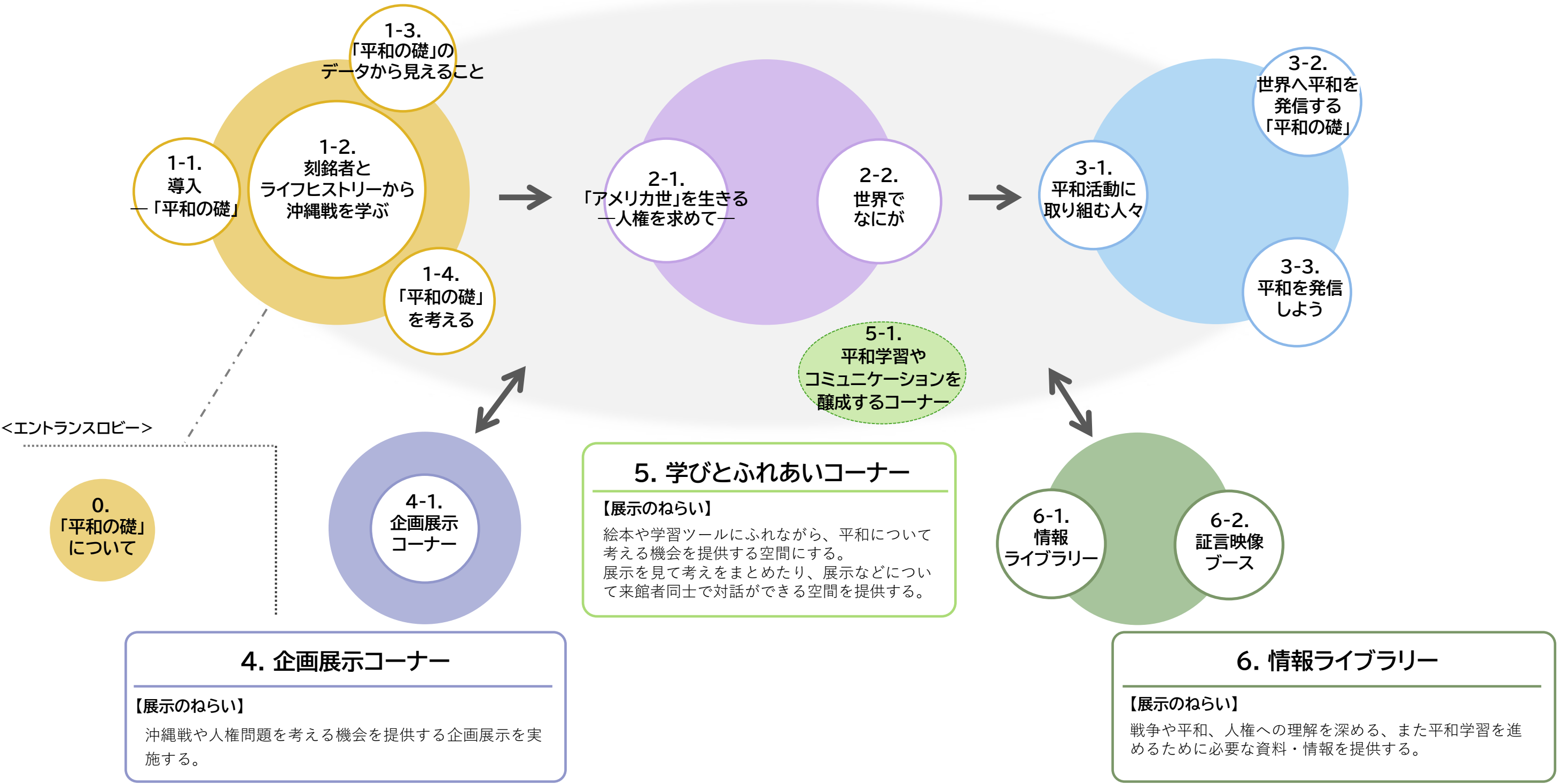
【展示のねらい】

現在もつづく世界の戦争・紛争や、沖縄と世界各地の戦争・紛争のつながりを学び、戦争と人権について考える。

3. 平和創造を考えるコーナー

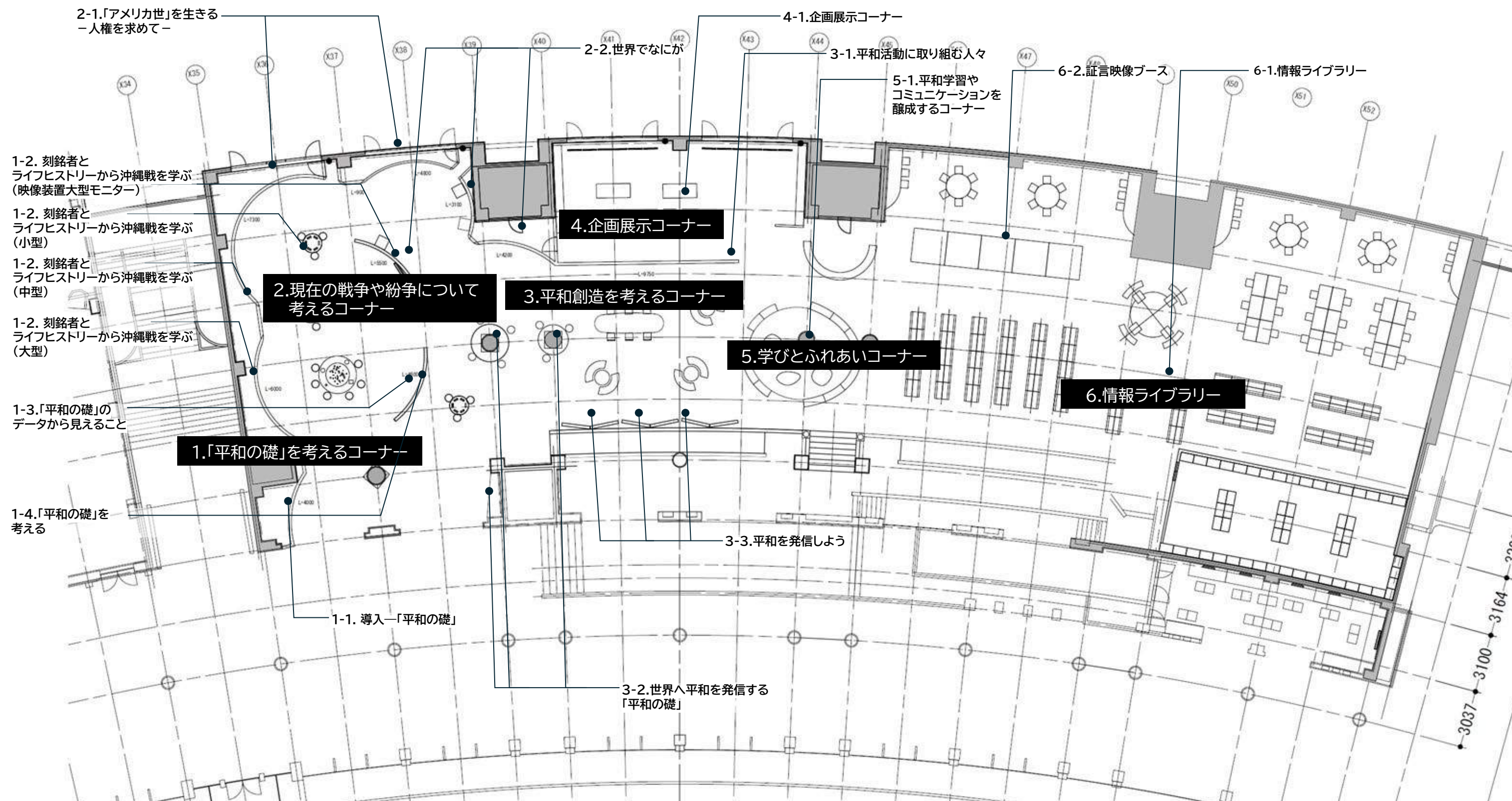
【展示のねらい】

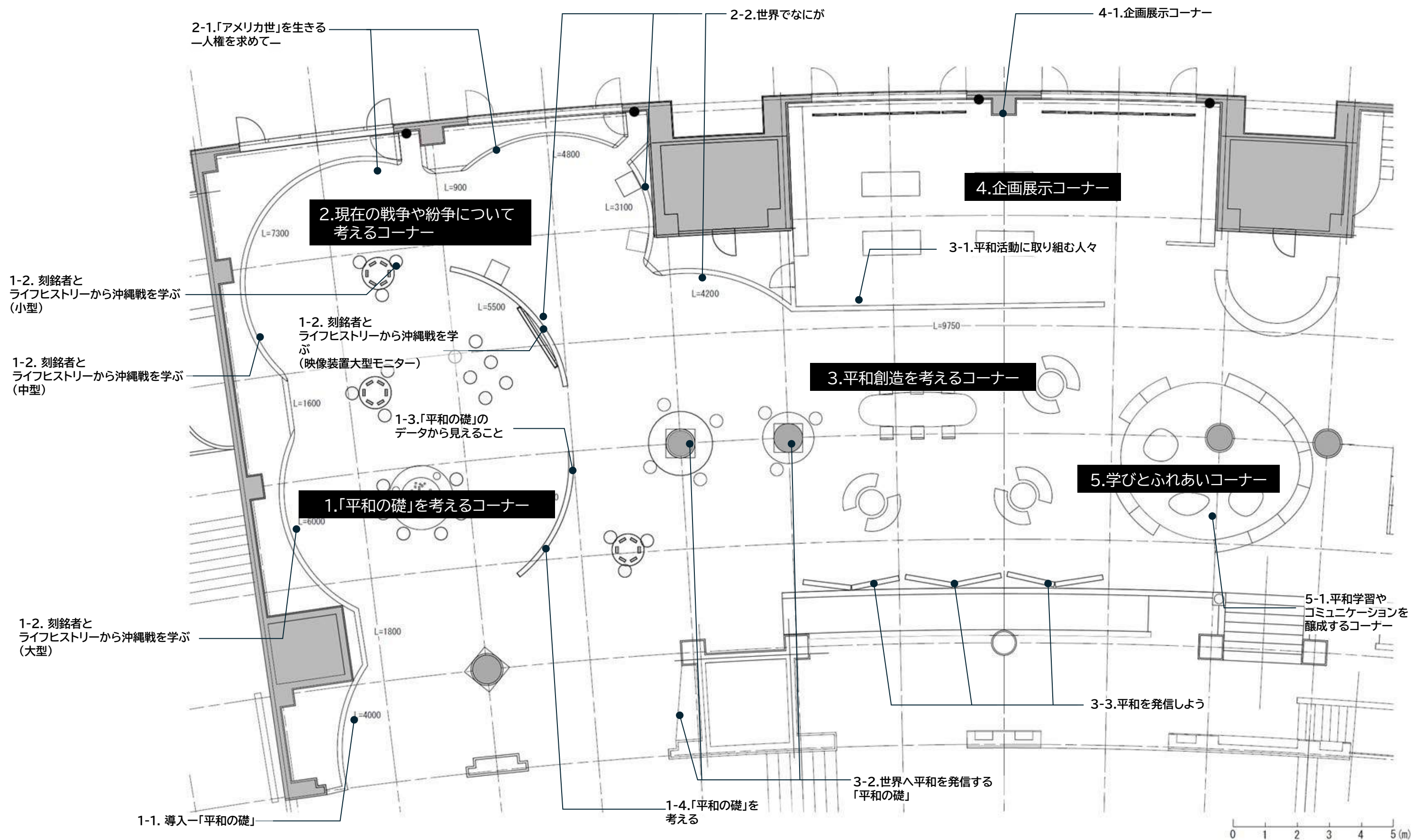
平和構築や人権保障のために活動を行っている人々の取り組みを紹介し、平和を創る意識を醸成する。

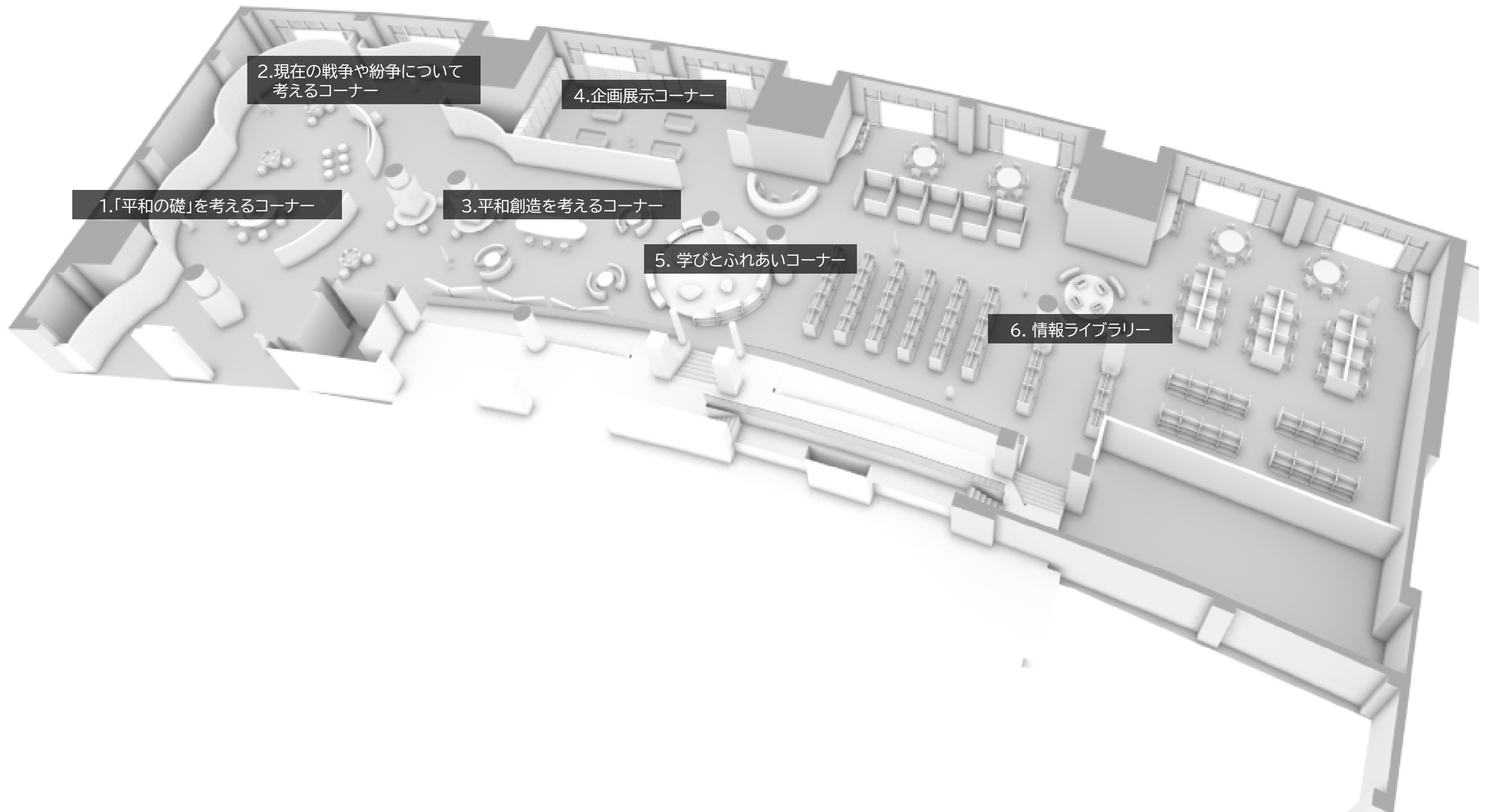


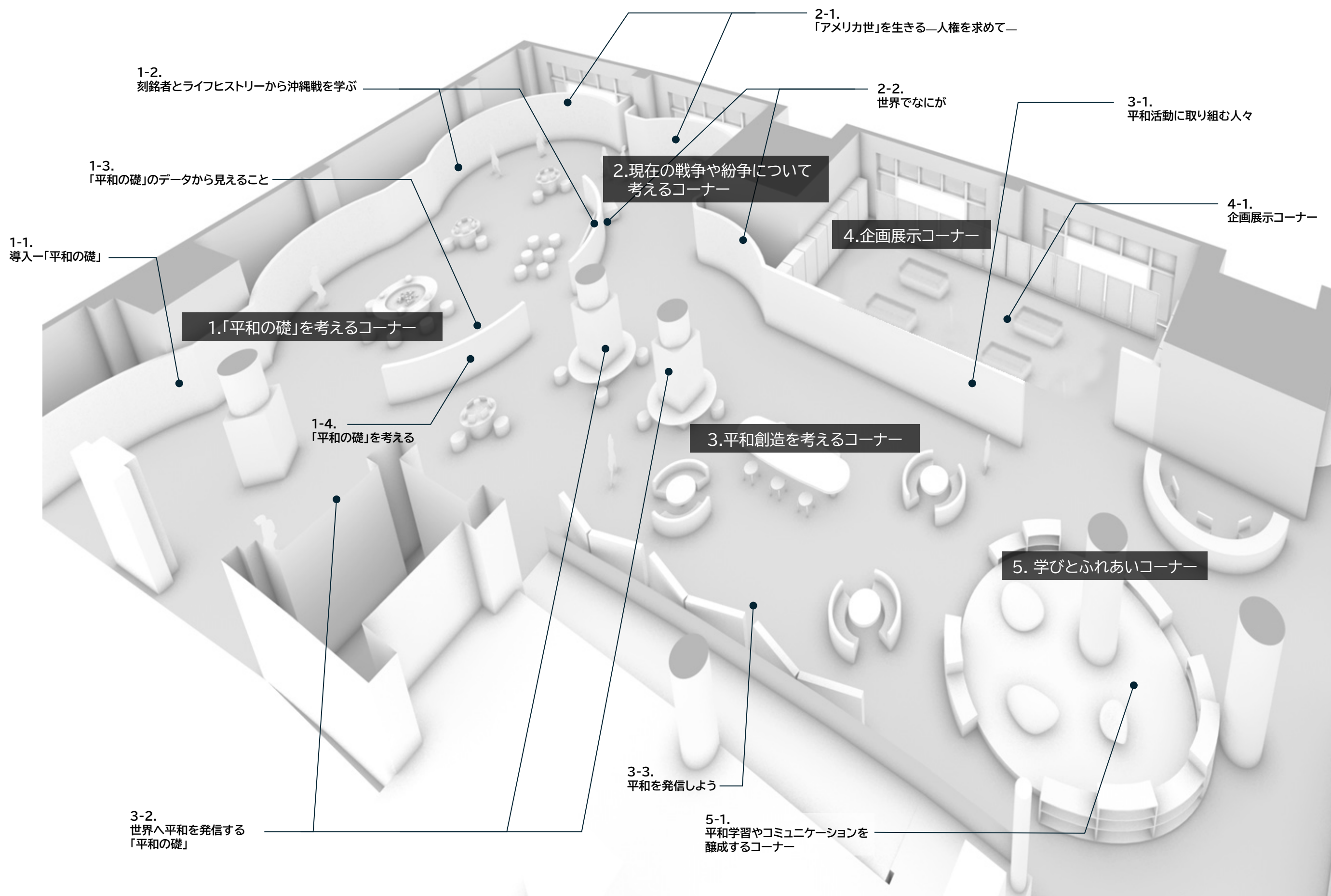
ゾーン	目的	大項目	大項目ねらい	中項目	中項目ねらい	展示内容の概略	展示手法	主な展示資料
子ども・プロセス展示室	「平和の礎」を主軸に平和と人権について考える。	0.「平和の礎」について ※エントランスロビー	「平和の礎」が見える場所で、「平和の礎」についての問いかけや「平和の礎」と資料館を往還するきっかけを提供する。	0-1.「平和の礎」について	ー	0-1-① 「平和の礎」に対する問いかけ 0-1-② 「平和の礎」と資料館のつながり	グラフィック・映像装置	
		1.「平和の礎」を考えるコーナー	「平和の礎」から沖縄戦について学ぶとともに、平和を尊重する“沖縄のこころ”を考える機会を提供する。 また「平和の礎」と当館を往還するきっかけを提供し、来館者がより深く戦争や平和について考えることをねらいとする。	1-1.導入ー「平和の礎」	「平和の礎」を訪れる様々な人々（追悼する人、学習する人など）の様子を見せ、「平和の礎」とは何か、何を伝えているのか、ということを問う。	1-1-① 「平和の礎」を訪れる人々の様子や、「平和の礎」とは何かという問いかけ	グラフィック	「平和の礎」を訪れる人々の写真、「平和の礎」の刻銘など
				1-2.刻銘者とライフヒストリーから沖縄戦を学ぶ	「平和の礎」に刻銘されている人々が、どのような人で、戦争によってどのように人権が侵害され、亡くなったのかを伝え、自分事として沖縄戦を捉え、その特徴などを考えてもらう。	1-2-① 刻銘者のライフヒストリー 建設趣旨、基本理念や沖縄戦の特徴などが考えられるライフヒストリーの事例	グラフィック・映像装置・資料	「平和の礎」の刻銘者、その関係者のライフヒストリー
				1-3.「平和の礎」のデータから見えること	「平和の礎」の刻銘者のデータから、沖縄県民の犠牲の特徴を考え、あるいは疑問を持ってもらう。	1-3-① 「平和の礎」の刻銘者のデータから沖縄戦を考える	グラフィック・映像装置・模型	「平和の礎」の刻銘者のデータから分析された図解など
				1-4.「平和の礎」を考える	「平和の礎」の建設趣旨や基本理念、デザインの意味などを伝える。	1-4-① 建設趣旨、基本理念、デザインコンセプト 1-4-② 刻銘者と刻銘されていない人々	グラフィック	「平和の礎」の建設趣旨や基本理念についての解説パネルなど
		2.現在の戦争や紛争について考えるコーナー	現在もつづく世界の戦争・紛争や、沖縄と世界各地の戦争・紛争のつながりを学び、戦争と人権について考える。	2-1.「アメリカ世」を生きるー人権を求めてー	戦後の米国統治下では沖縄の人々の人権が制限され、沖縄戦後も「人間の安全保障」が脅かされたことを伝える。 在沖米軍基地が朝鮮半島、ベトナムや中東など、世界の戦争と関係したことなど、沖縄が世界の戦争とつながっていることを伝える。	2-1-① 沖縄の人々が辿った戦後のライフヒストリー 2-1-② 沖縄とつながる世界の戦争・紛争	グラフィック	沖縄戦の影響、戦後沖縄の課題などが考えられるライフヒストリーなど
				2-2.世界でなにが	世界で起きた（起きている）戦争・紛争、差別などの人権問題などは、人々の相互不信や偏見が要因のひとつであることを伝える。 人々の相互不信や偏見は、戦時下ではない社会や、身近な社会にも存在し、人権を脅かしていることから、平和な社会とは何かを考えてもらう。	2-2-① 第二次世界大戦後の戦争・紛争、人権問題 2-2-② 沖縄・日本に存在する人権問題	グラフィック・模型・資料	世界の戦争・紛争に関わる地図、沖縄・日本に存在する人権問題に関わる人々のライフヒストリーなど

ゾーン	目的	大項目	大項目ねらい	中項目	中項目ねらい	展示内容の概略	展示手法	主な展示資料
		3.平和創造を考えるコーナー	平和構築や人権保障のために活動を行っている人々の取り組みを紹介し、平和を創る意識を醸成する。	3-1.平和活動に取り組む人々	世界各地の戦争・紛争地で平和構築活動を行っている人の取り組みなどを伝え、戦争・紛争は終わらせることができることを伝える。 沖縄など国内で平和構築や人権問題解決に取り組む人々を取り上げ、平和を創る意欲を高めてもらう。 国内外の平和博物館及び関連施設を紹介し、平和等に関する学習意欲を深める契機にしてもらう。	3-1-① 国内外で平和活動を行っている人々について 3-1-② 沖縄など国内で平和活動を行っている人々について 3-1-③ 国内外の平和博物館及び関連施設	グラフィック	主に沖縄平和賞受賞者に関する資料、県内・国内外の平和博物館関連施設に関する資料など
				3-2.世界へ平和を発信する「平和の礎」	戦争の要因のひとつである相互不信や差別、分断と「平和の礎」の建設趣旨・基本理念を照らし合わせ、「平和の礎」が何を伝えているのか、「平和の礎」を通して、現在の課題を克服する道筋を考えてもらう。	3-2-① 「平和の礎」の理念や課題を振り返り、未来の平和創造に向けて可能性を考える	グラフィック	「平和の礎」に対するこれまでの意見、来館者のメッセージ
				3-3.平和を発信しよう	県内の子どもたちの平和について発信を行っている活動を伝え、来館者に平和を発信する意識を醸成してもらう。	3-3-① 平和を創造する意思表示等を何らかのアクションで発信する	グラフィック・資料	児童・生徒の平和メッセージ展の作品
		4.企画展示コーナー	沖縄戦や人権問題を考える機会を提供する企画展示を実施する。	4-1.企画展示コーナー	沖縄戦や人権問題を考える機会を提供する企画展示を実施する。	4-1-① 子ども対象の沖縄戦や人権問題、国際理解をテーマとした企画展	グラフィック・資料	ー
		5.学びとふれあいコーナー	絵本や学習ツールにふれながら、平和について考える機会を提供する空間にする。 展示を見て考えをまとめたり、展示などについて来館者同士で対話ができる空間を提供する。	5-1.平和学習やコミュニケーションを醸成するコーナー	絵本や学習ツールにふれながら、平和について考える機会を提供する空間にする。 展示を見て考えをまとめたり、展示などについて来館者同士で対話ができる空間を提供する。	5-1-① 多様な国々・世界の子どもたち 5-1-② 沖縄の戦争遺跡や世界の戦争・紛争のマップ 5-1-③ 平和を考える絵本 5-1-④ 来館者のふれあい（メッセージ等）	グラフィック・映像装置・資料・模型	現在の「せかいの子どもたち」のケース内展示物、平和に関する絵本など
		6.情報ライブラリー	戦争や平和、人権への理解を深める、また平和学習を進めるために必要な資料・情報を提供する。	6-1.情報ライブラリー	戦争や平和、人権への理解を深める。また平和学習を進めるために必要な資料・情報を提供する。	6-1-① 書籍の充実 6-1-② 利用しやすい書架の配列（こども図書ライブラリー） 6-1-③ 書庫の充実 6-1-④ 学習スペースの充実	資料	図書資料、閲覧台、収納スペースなど
				6-2.証言映像ブース	当館が所蔵する多数の証言を閲覧し、常設展示の理解を深められるようにする。	6-2-① 映像機器の更新	映像装置	証言の映像など









0.「平和の礎」について

0-1.「平和の礎」について

【展示のねらい】

- ・「平和の礎」が見える場所で、「平和の礎」についての問いかけや「平和の礎」と資料館を往還するきっかけを提供する。

【展示の展開方針】

- ・「平和の礎」への問いかけや「平和の礎」と資料館をつなぐ解説を設置。
- ・ 追加刻銘のデータや基本情報などはデジタル機器を使用することを検討。
- ・ デジタル機器を使用する場合は、アクセシビリティを考慮する。



- ・0-1-① 「平和の礎」に対する問いかけ
- ・0-1-② 「平和の礎」と資料館のつながり
グラフィック・映像装置

1.「平和の礎」を考えるコーナー

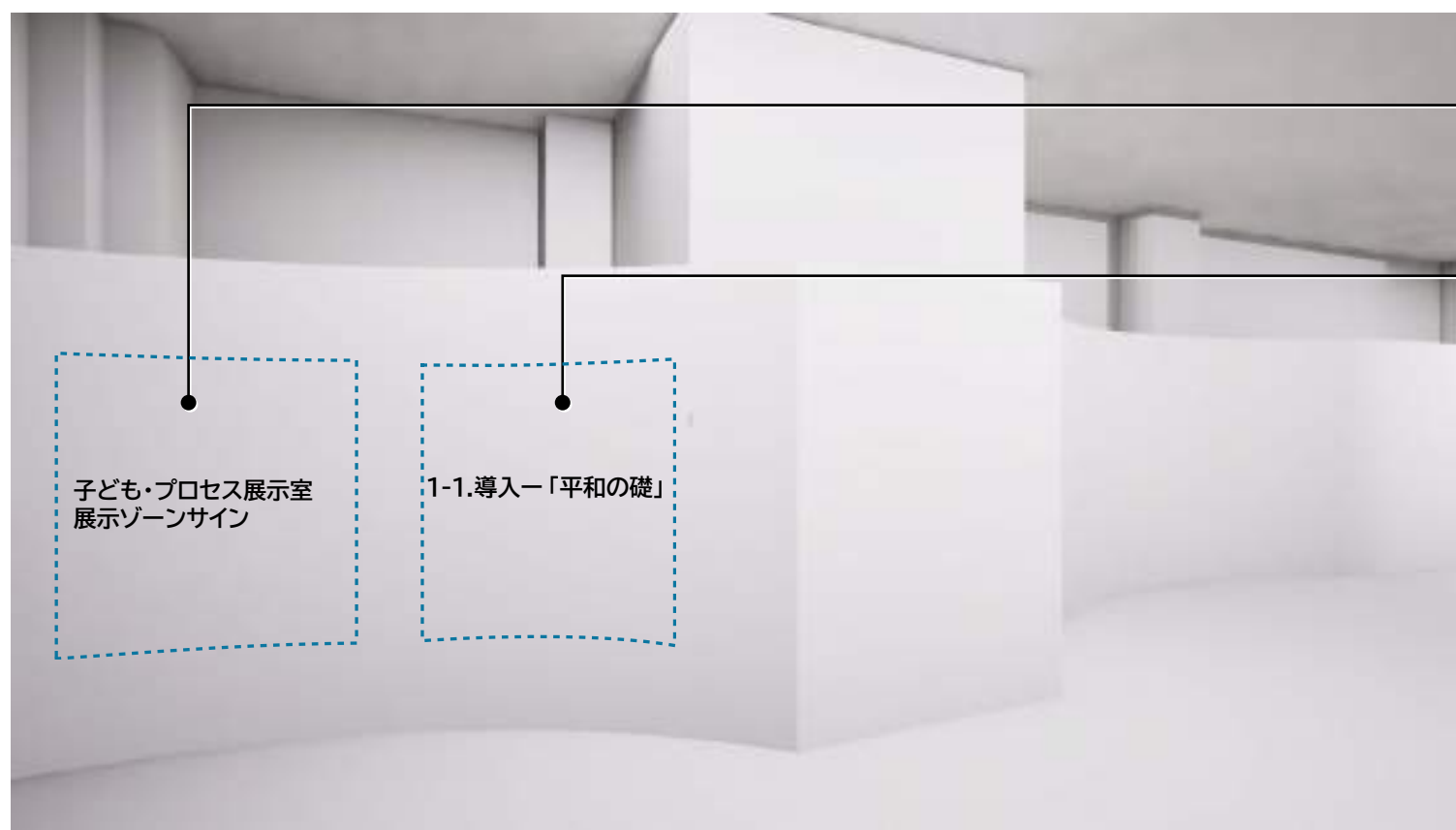
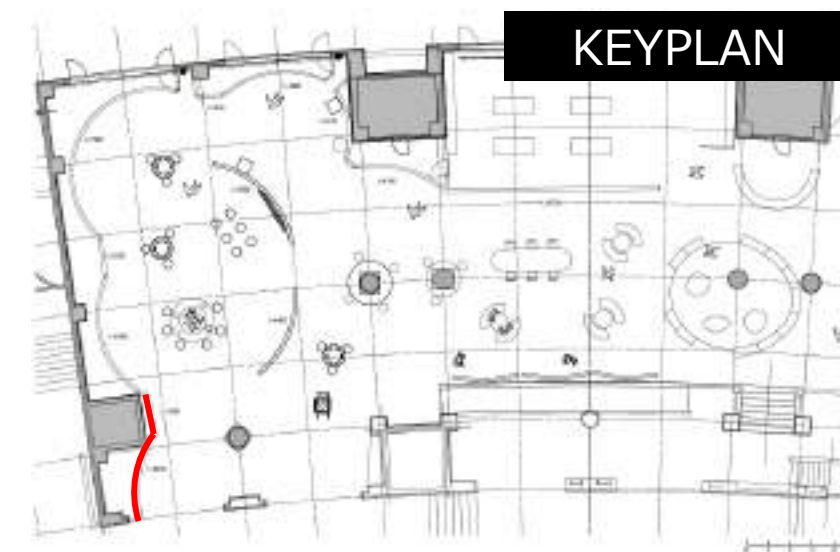
1-1.導入—「平和の礎」

【展示のねらい】

- ・「平和の礎」を訪れる様々な人々(追悼する人、学習する人など)の様子を見せ、「平和の礎」とは何か、何を伝えているのか、ということを問う。

【展示の展開方針】

- ・ 問いかけなど文字を少なくし、イラストや写真などのグラフィックを主にする。
- ・ 「平和の礎」に関する問いかけ展示により、展示室とのつなぎ・導入とする。



グラフィック

- ・ 1-1-① 「平和の礎」を訪れる人々の様子や、「平和の礎」とは何かという問いかけグラフィック
(「平和の礎」を訪れる人々の写真、「平和の礎」の刻銘など)

1.「平和の礎」を考えるコーナー

1-2.刻銘者とライフヒストリーから沖縄戦を学ぶ

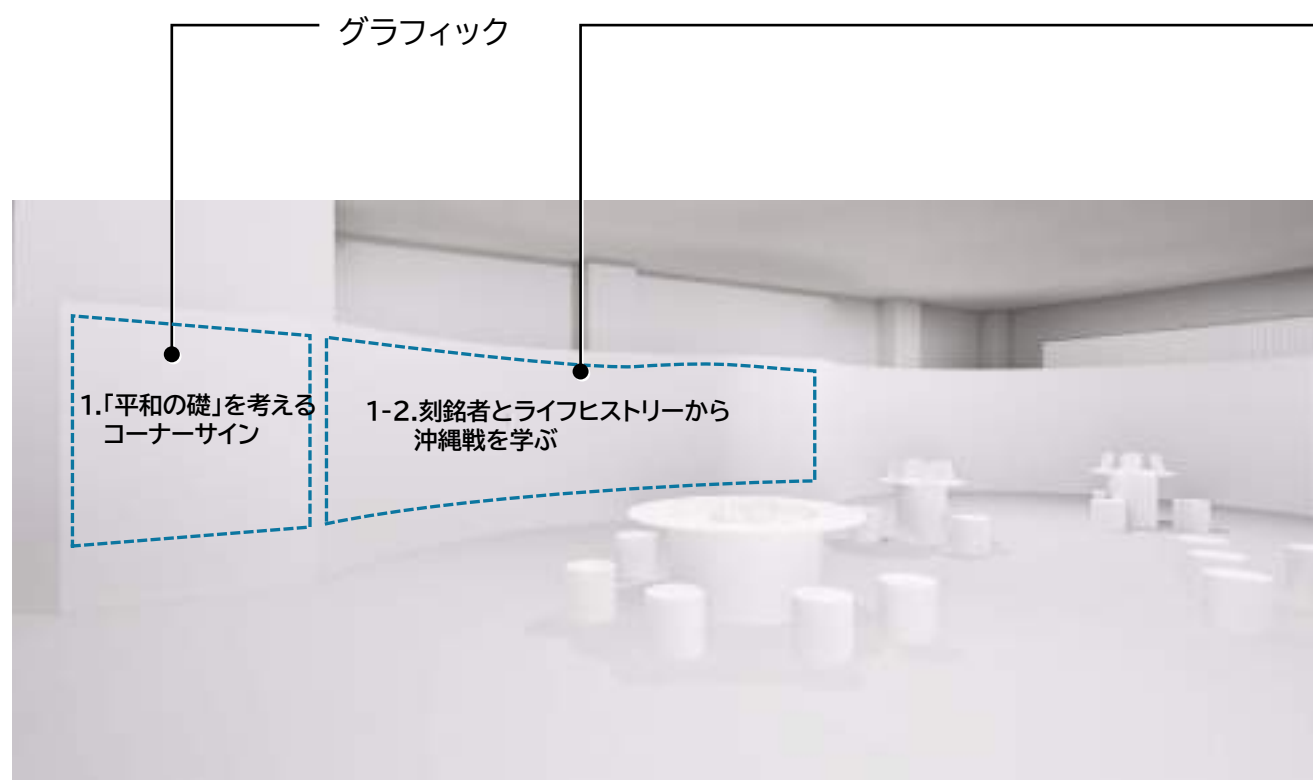
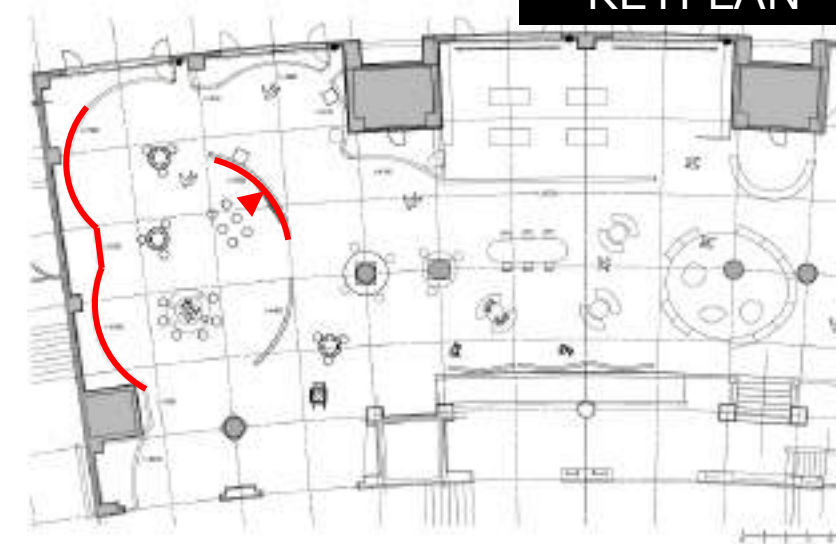
【展示のねらい】

- ・「平和の礎」に刻銘されている人々が、どのような人で、戦争によってどのように人権が侵害され、亡くなったのかを伝え、自分事として沖縄戦を捉え、その特徴などを考えてもらう。

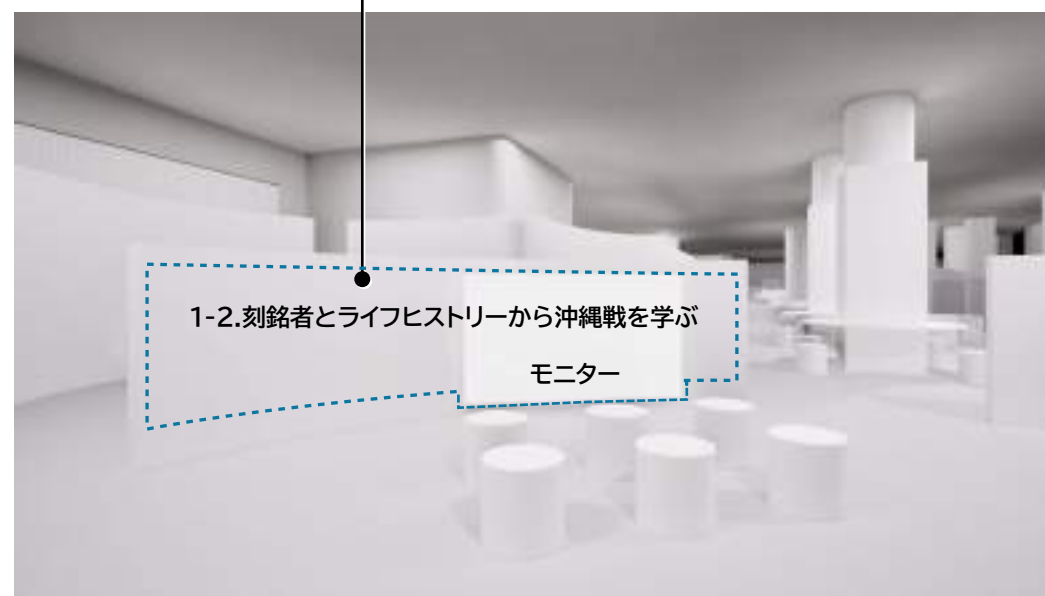
【展示の展開方針】

- ・ 大型パネルで刻銘者のライフヒストリーを1人(1家族)描く。
- ・ モニターで、ライフヒストリーのアニメーションを上映し、幅広い年齢層に伝えられるようにする。
- ・ 小型パネルでは、多くの刻銘者のライフヒストリーを取り上げる。
- ・ 沖縄戦の多様な実相を伝えるため、可変的な展示とする。

KEYPLAN



- ・ 1-2-① 刻銘者のライフヒストリー
建設趣旨、基本理念や沖縄戦の特徴などが考えられるライフヒストリーの事例
グラフィック・映像装置・資料
(「平和の礎」の刻銘者、その関係者のライフヒストリー)



1.「平和の礎」を考えるコーナー

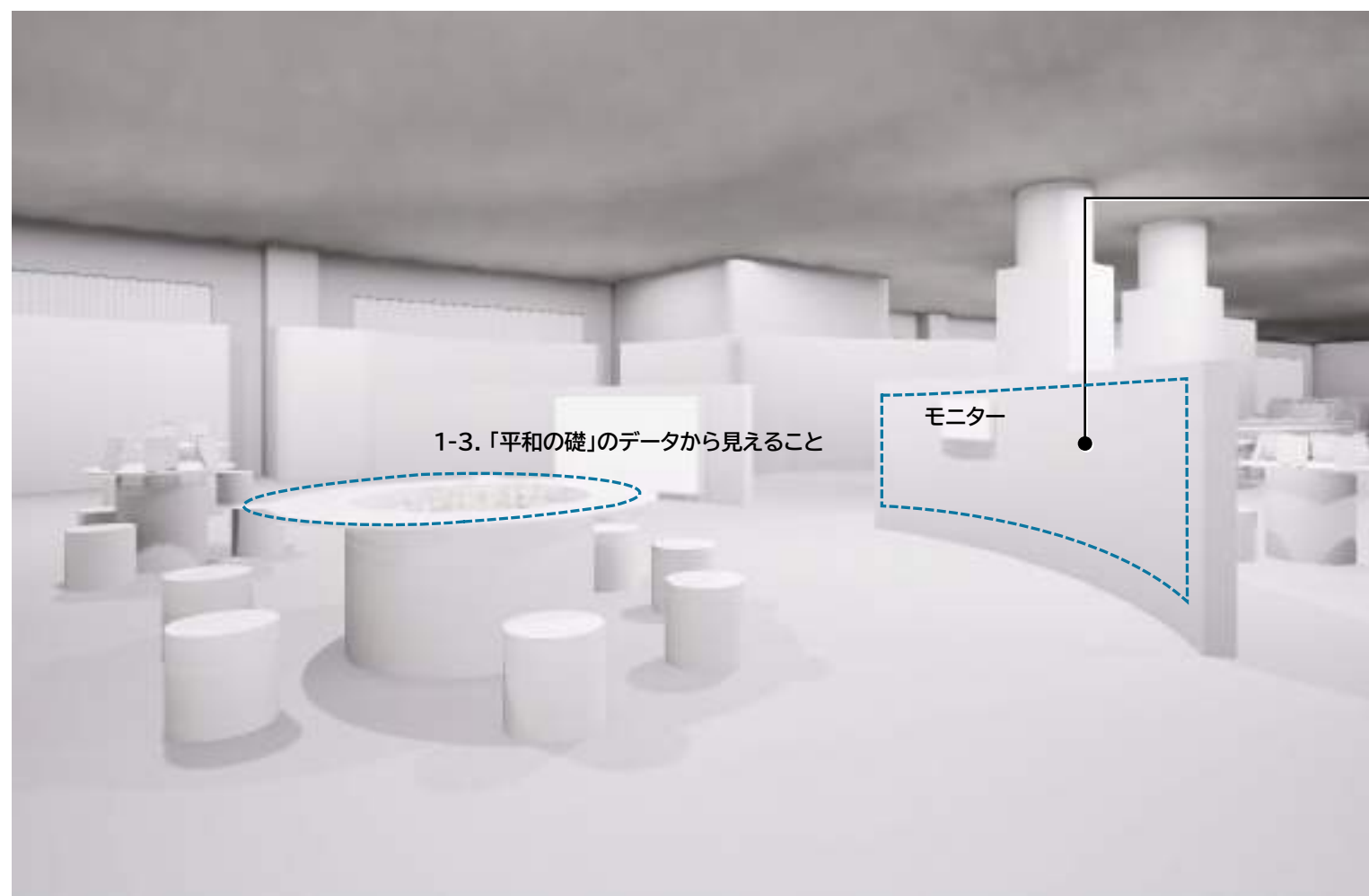
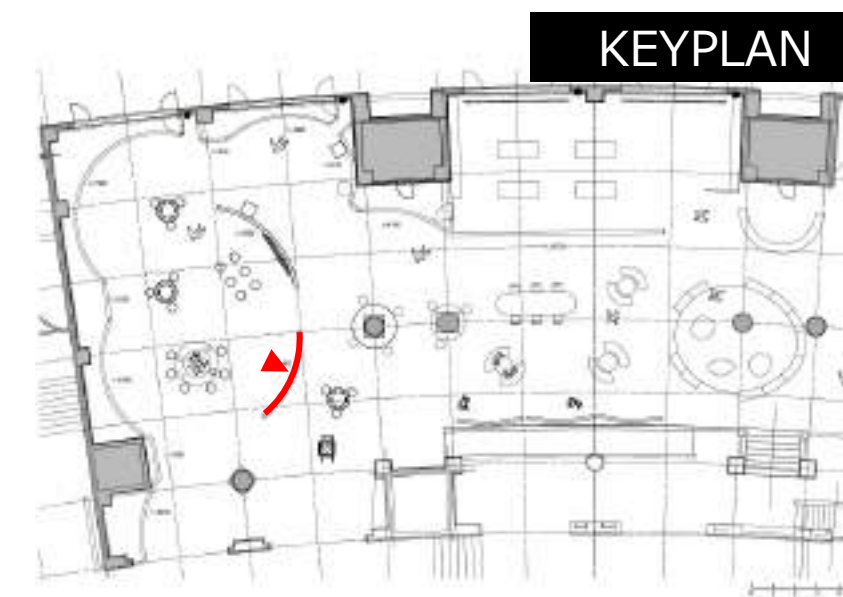
1-3.「平和の礎」のデータから見えること

【展示のねらい】

- ・「平和の礎」の刻銘者のデータから、沖縄県民の犠牲の特徴を考え、あるいは疑問を持ってもらう。

【展示の展開方針】

- ・「平和の礎」の刻銘者データをグラフ化して展示する。
- ・ブロックなどハンズオンの装置を利用して、戦没地マッピングを行う。



- ・1-3-① 「平和の礎」の刻銘者のデータから沖縄戦を考える
グラフィック・映像装置・模型
(「平和の礎」の刻銘者のデータから分析された図解など)

1.「平和の礎」を考えるコーナー

1-4.「平和の礎」を考える

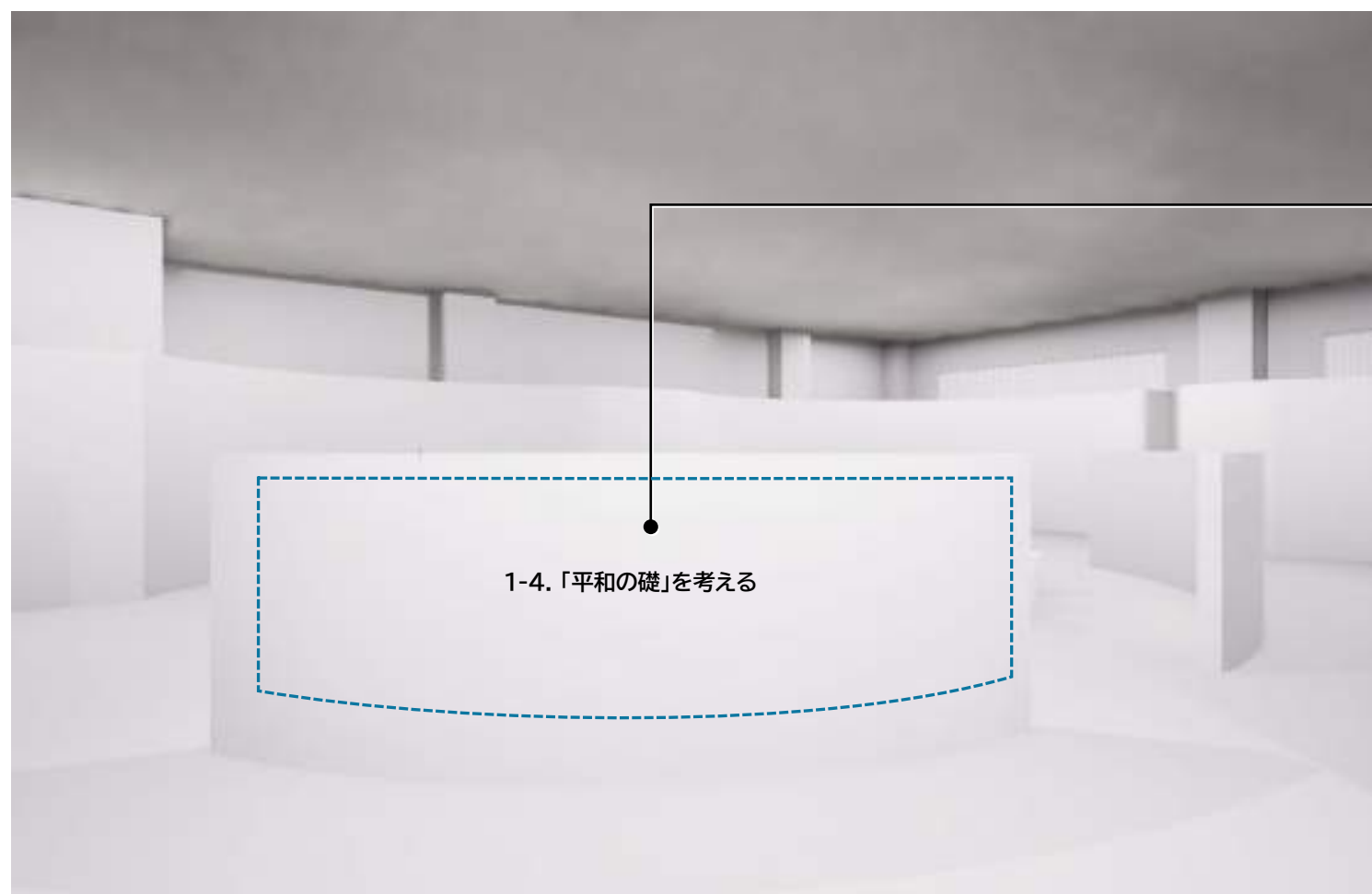
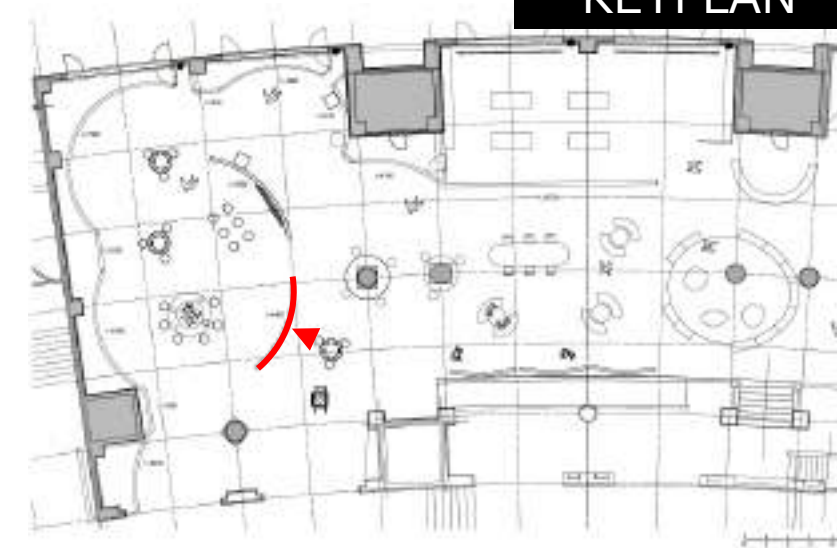
【展示のねらい】

- ・「平和の礎」の建設趣旨や基本理念、デザインの意味などを伝える。

【展示の展開方針】

- ・ 建設趣旨、基本理念などの基本情報を伝える。
- ・ 刻銘されていない人々などの「平和の礎」の課題を伝える。
- ・ クイズ形式など学びやすい手法を検討する。

KEYPLAN



1-4.「平和の礎」を考える

- ・1-4-① 建設趣旨、基本理念、デザインコンセプト
- ・1-4-② 刻銘者と刻銘されていない人々
グラフィック
(「平和の礎」の建設趣旨や基本理念についての解説パネルなど)

2.現在の戦争や紛争について考えるコーナー

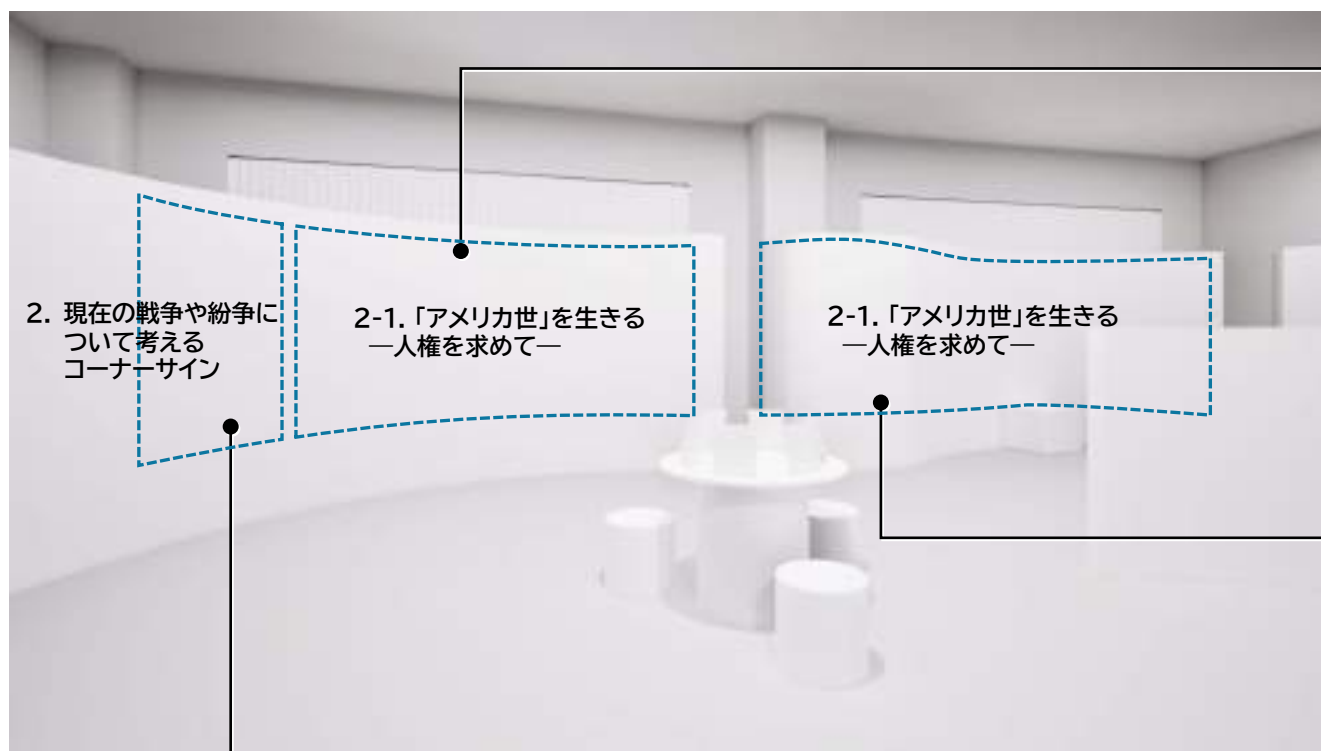
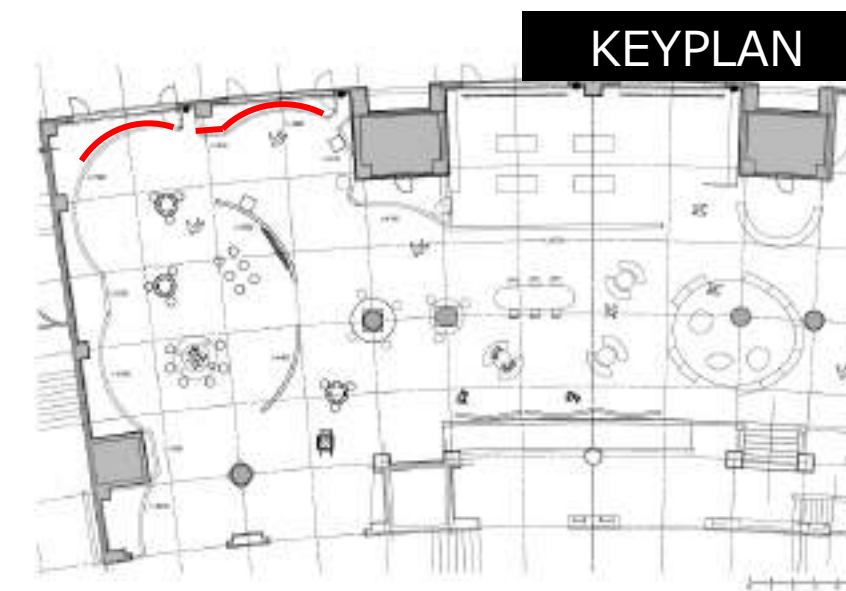
2-1.「アメリカ世」を生きる —人権を求めて—

【展示のねらい】

- ・戦後の米国統治下では沖縄の人々の人権が制限され、沖縄戦後も「人間の安全保障」が脅かされたことを伝える。
- ・在沖米軍基地が朝鮮半島、ベトナムや中東など、世界の戦争と関係したことなど、沖縄が世界の戦争とつながっていることを伝える。

【展示の展開方針】

- ・米国統治下の沖縄の人々のライフヒストリーを伝える。
- ・戦争の反省から日本国憲法がつけられたことや、憲法の適用を求めて復帰運動が行われたことも伝える。
- ・沖縄の人々の平和活動や平和を願う想いが伝わる展示内容を検討する。
- ・ジェンダーバランスや活動の内容を考慮し、様々な人物が取り上げられるよう可変的な展示とする。
- ・在沖米軍基地が関係する戦争・紛争について地図や図解で示す。



- ・ 2-1-① 沖縄の人々が辿った戦後のライフヒストリー
グラフィック
(沖縄戦の影響、戦後沖縄の課題などが考えられるライフヒストリーなど)

- ・ 2-1-② 沖縄とつながる世界の戦争・紛争
グラフィック
(沖縄戦の影響、戦後沖縄の課題などが考えられるライフヒストリーなど)

グラフィック

2.現在の戦争や紛争について考えるコーナー

2-2.世界でなにが

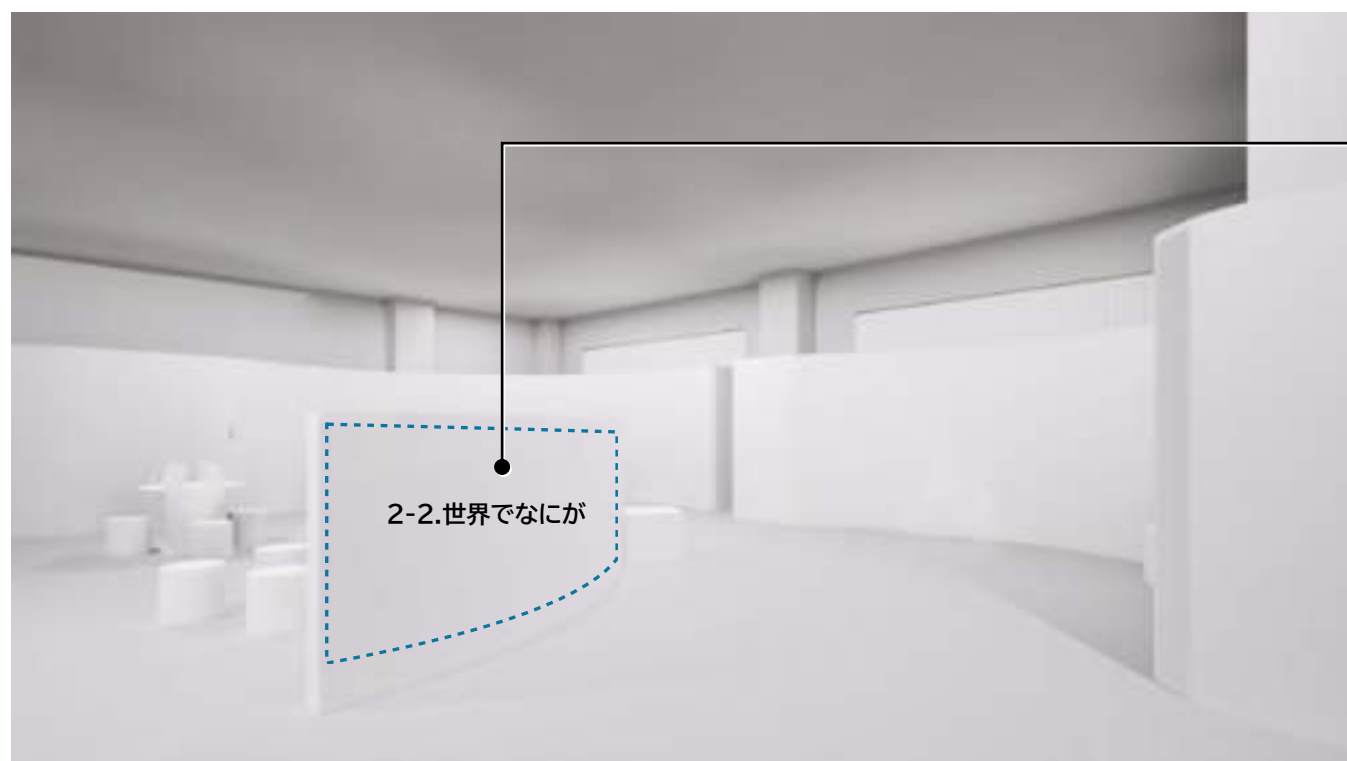
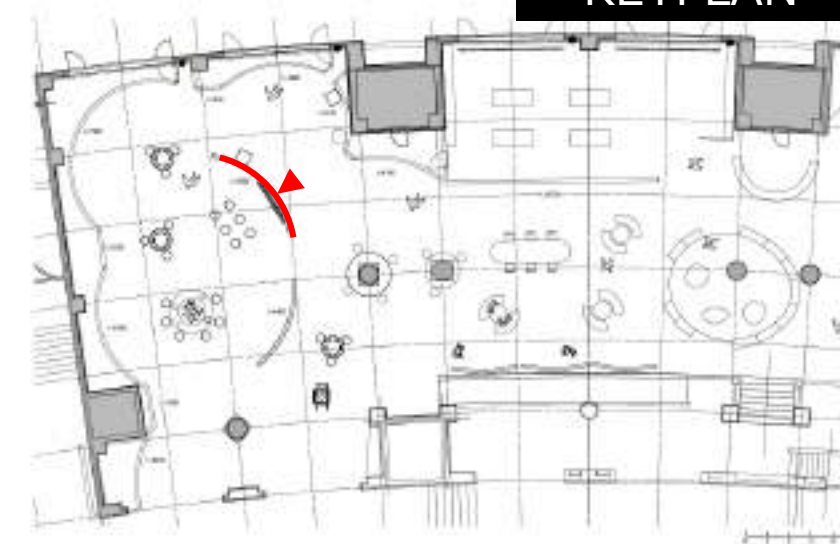
【展示のねらい】

- 世界で起きた(起きている)戦争・紛争、差別などの人権問題などは、人々の相互不信や偏見が要因のひとつであることを伝える。
- 人々の相互不信や偏見は、戦時下ではない社会や、身近な社会にも存在し、人権を脅かしていることから、平和な社会とは何かを考えてもらう。

【展示の展開方針】

- 第二次世界大戦後の主な戦争・紛争を地図で示す。また最新の紛争が示せるように更新性のある手法を検討する。
- 世界人権宣言等ができたことや、国際人権法が確立されても紛争がつづく現状を伝える。
- 世界の戦争・紛争や人権問題に関わる人々のライフヒストリーを伝える。
- 沖縄・日本に存在する人権問題に関わる人々のライフヒストリーを伝える。
- 世界各地の戦争・紛争を取り上げるため、可変的な展示とする。

KEYPLAN



- 2-2-① 第二次世界大戦後の戦争・紛争、人権問題
 - 2-2-② 沖縄・日本に存在する人権問題
- グラフィック・模型・資料
(世界の戦争・紛争に関わる地図、沖縄・日本に存在する人権問題に関わる人々のライフヒストリーなど)

2.現在の戦争や紛争について考えるコーナー

2-2.世界でなにが

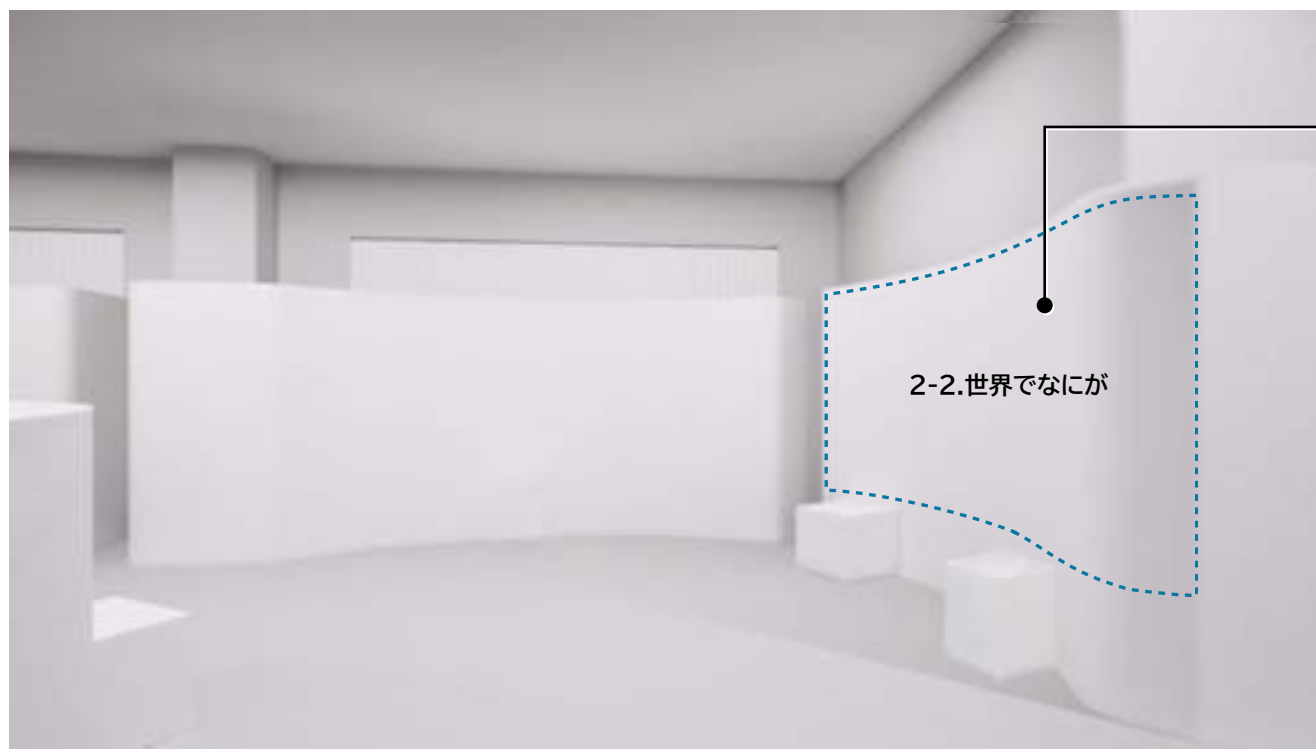
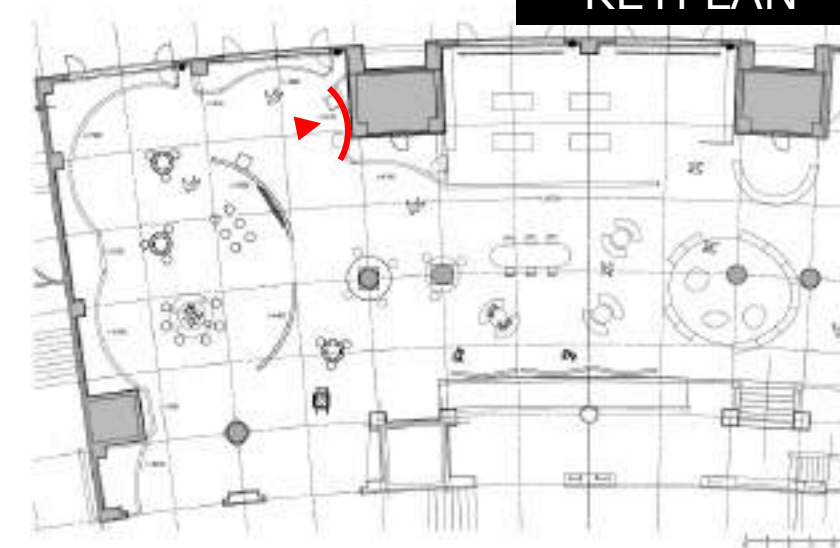
【展示のねらい】

- 世界で起きた(起きている)戦争・紛争、差別などの人権問題などは、人々の相互不信や偏見が要因のひとつであることを伝える。
- 人々の相互不信や偏見は、戦時下ではない社会や、身近な社会にも存在し、人権を脅かしていることから、平和な社会とは何かを考えてもらう。

【展示の展開方針】

- めいぐるみ爆弾など、既存の体験型展示を活用する。
- ハンズオンなどの体験型展示に関連する、紛争地の人々のライフヒストリーを伝える。

KEYPLAN



- 2-2-① 第二次世界大戦後の戦争・紛争、人権問題
グラフィック・模型・資料
(世界の戦争・紛争に関わる地図、沖縄・日本に存在する人権問題に関わる人々のライフヒストリーなど)

2.現在の戦争や紛争について考えるコーナー

2-2.世界でなにが

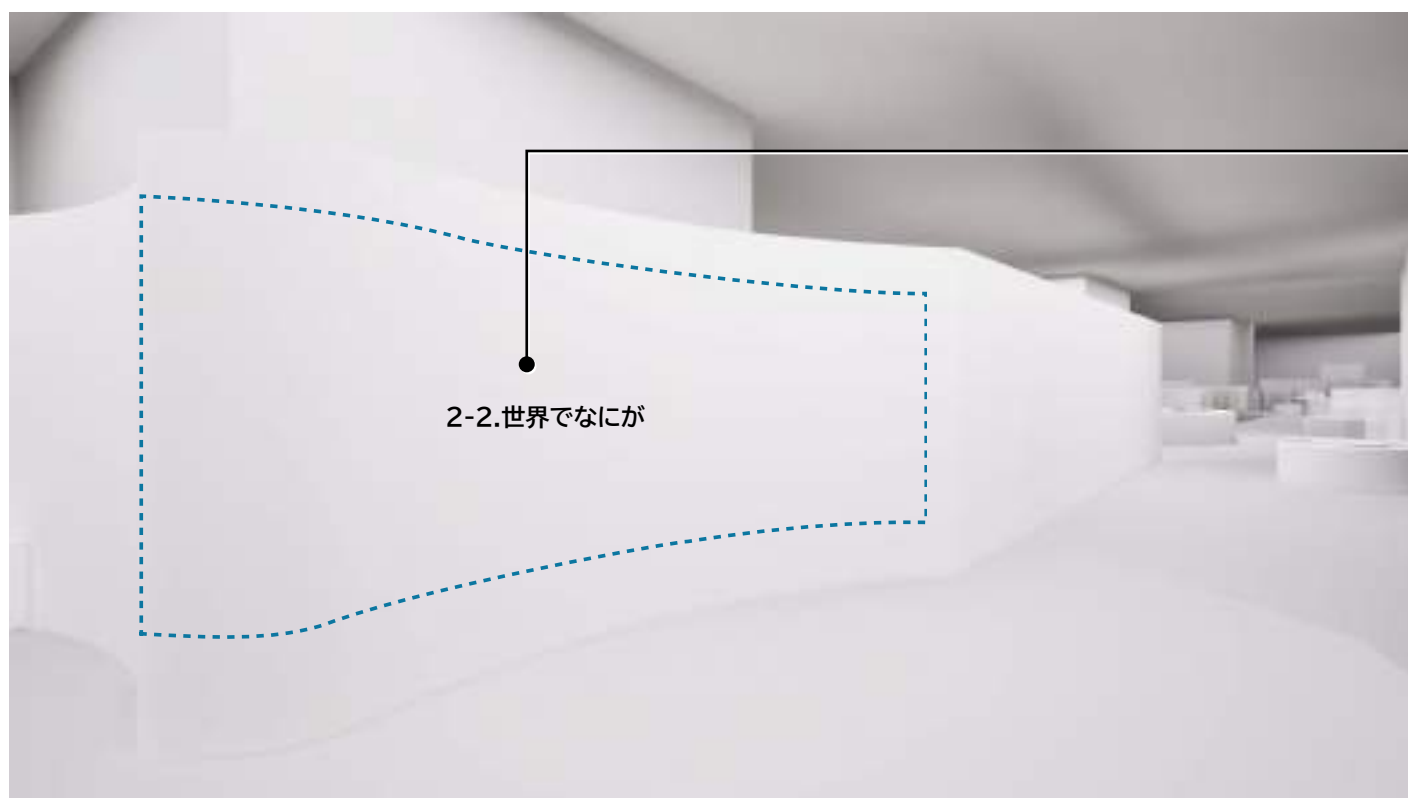
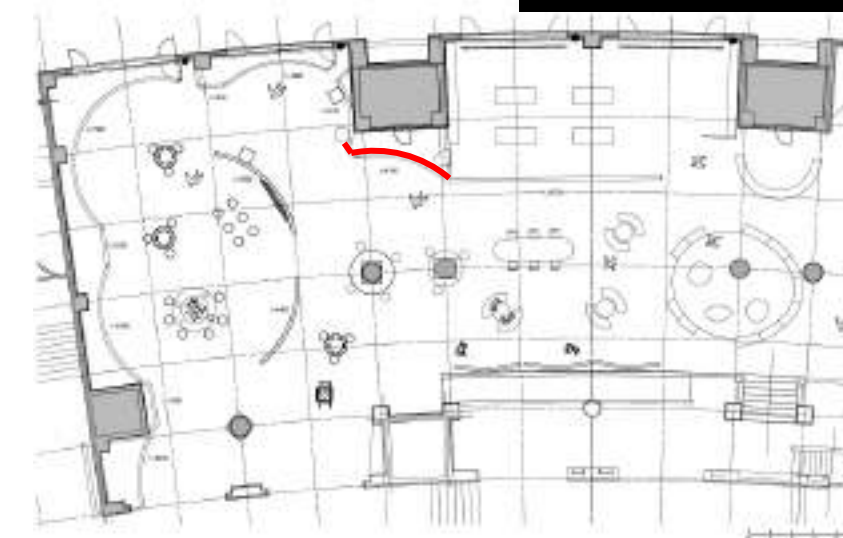
【展示のねらい】

- 世界で起きた(起きている)戦争・紛争、差別などの人権問題などは、人々の相互不信や偏見が要因のひとつであることを伝える。
- 人々の相互不信や偏見は、戦時下ではない社会や、身近な社会にも存在し、人権を脅かしていることから、平和な社会とは何かを考えてもらう。

【展示の展開方針】

- アフガニスタンの紛争と中村哲氏の平和構築活動についてパネルで伝える。
- 大項目2と大項目3をつなぐような、紛争と平和構築について伝える内容とする。

KEYPLAN



2-2.世界でなにが

- 2-2-① 第二次世界大戦後の戦争・紛争、人権問題
- 2-2-② 沖縄・日本に存在する人権問題
グラフィック・模型・資料
(世界の戦争・紛争に関わる地図、沖縄・日本に存在する人権問題に関わる人々のライフストーリーなど)

3.平和創造を考えるコーナー

3-1. 平和活動に取り組む人々

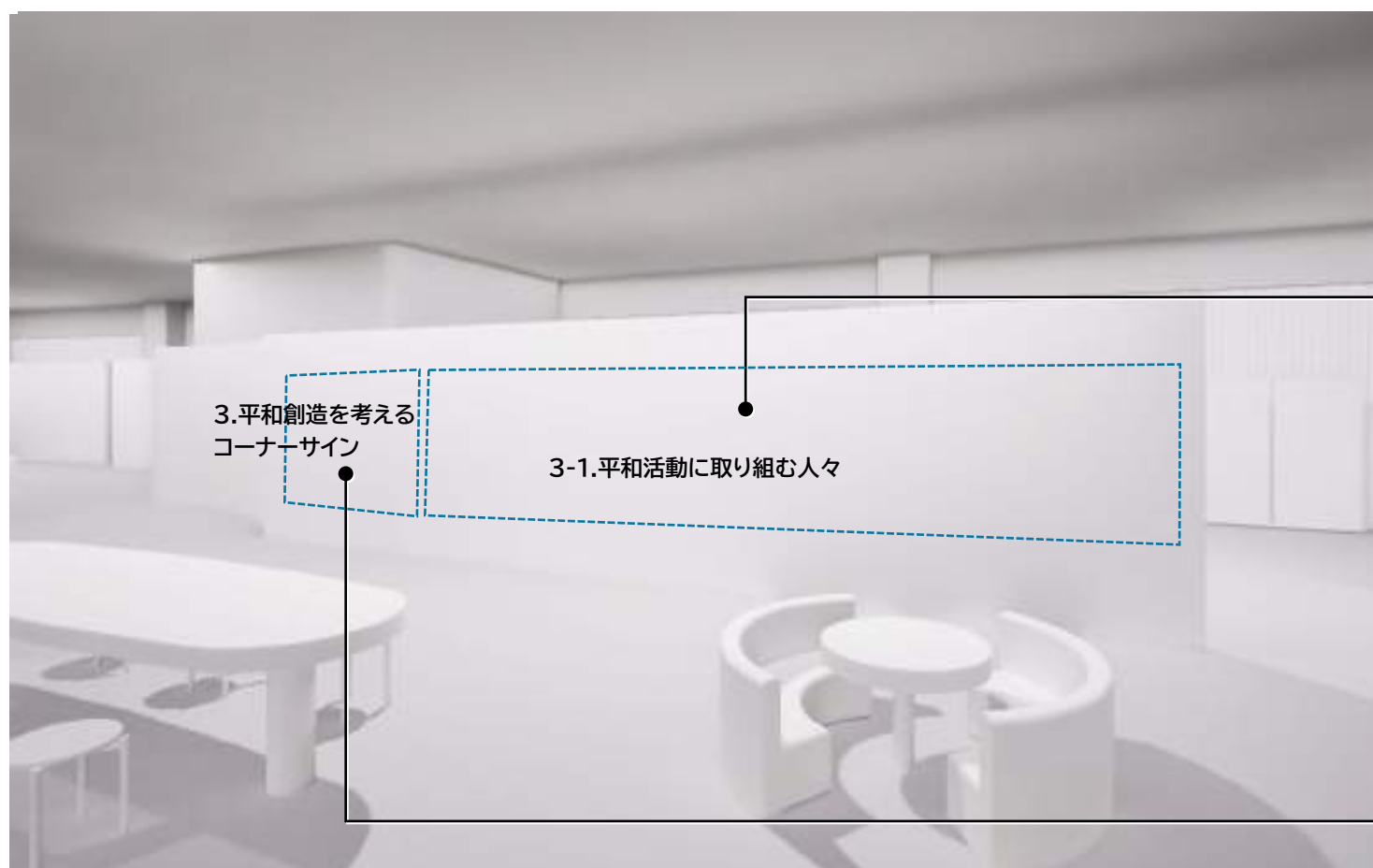
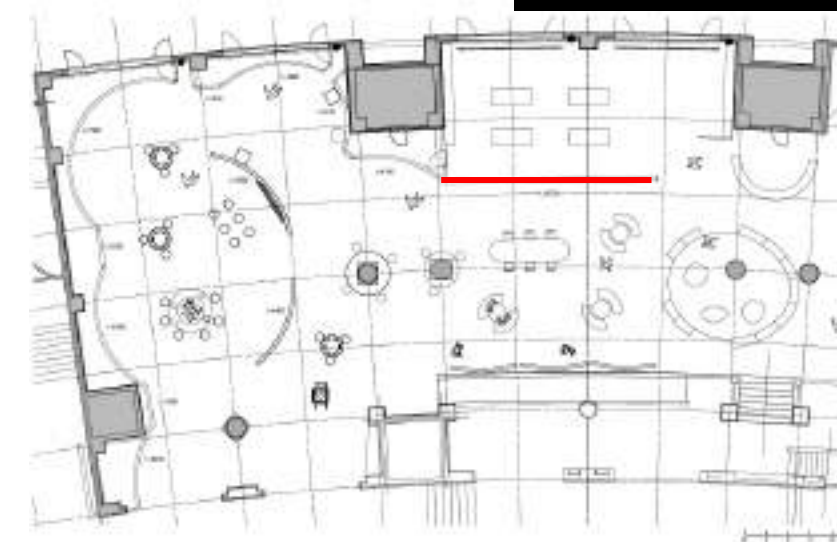
【展示のねらい】

- 世界各地の戦争・紛争地で平和構築活動を行っている人の取り組みなどを伝え、戦争・紛争は終わらせることができることを伝える。
- 沖縄など国内で平和構築や人権問題解決に取り組む人々を取り上げ、平和を創る意欲を高めてもらう。
- 国内外の平和博物館及び関連施設を紹介し、平和等に関する学習意欲を深める契機にしてもらう。

【展示の展開方針】

- 平和構築活動を行っている人々のライフヒストリーを伝える。
- 沖縄県内など身近で平和活動を行っている人々についても取り扱う。
- 本館とつながりのある平和博物館関連施設について紹介する。

KEYPLAN



- 3-1-① 国内外で平和活動を行っている人々について
- 3-1-② 沖縄など国内で平和活動を行っている人々について
- 3-1-③ 国内外の平和博物館及び関連施設
グラフィック
(主に沖縄平和賞受賞者に関する資料、県内・国内外の平和博物館関連施設に関する資料など)

グラフィック

3.平和創造を考えるコーナー

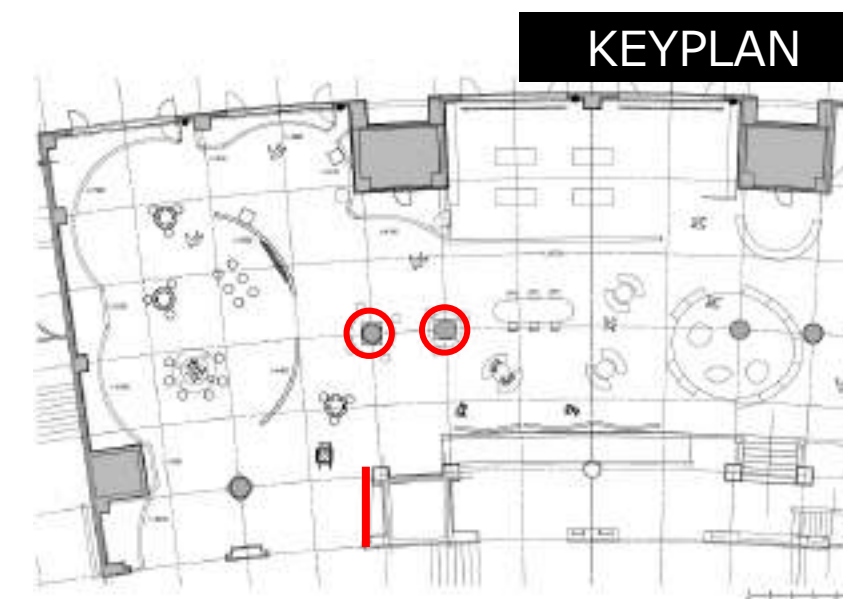
3-2.世界へ平和を発信する「平和の礎」

【展示のねらい】

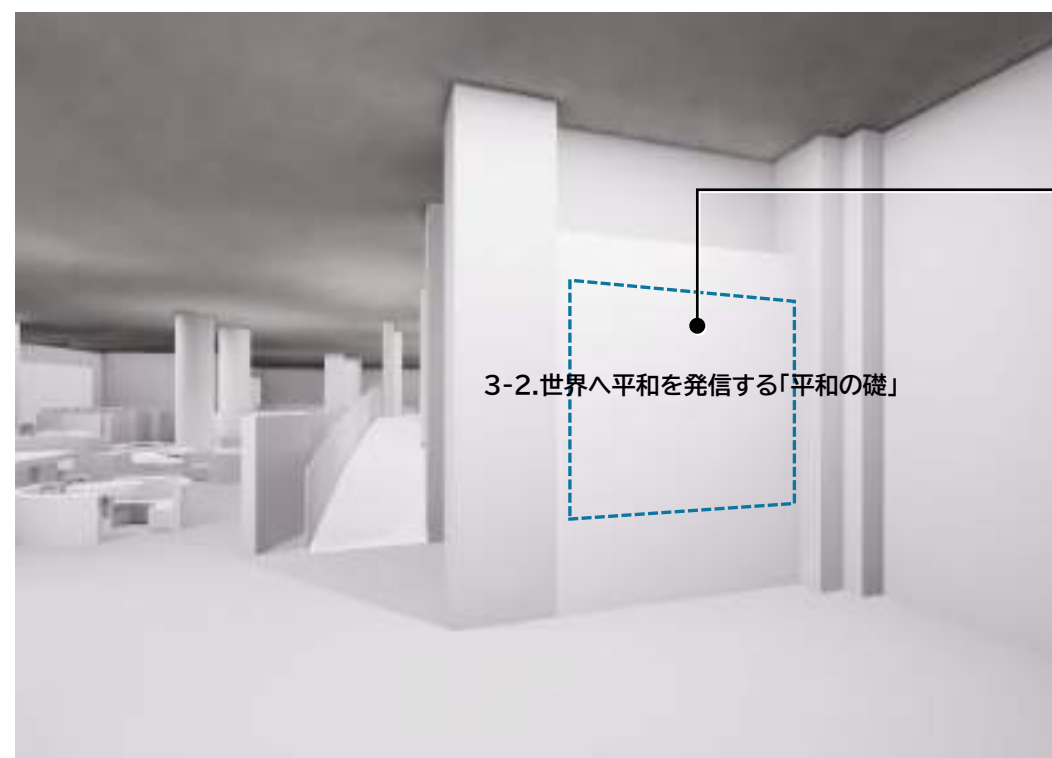
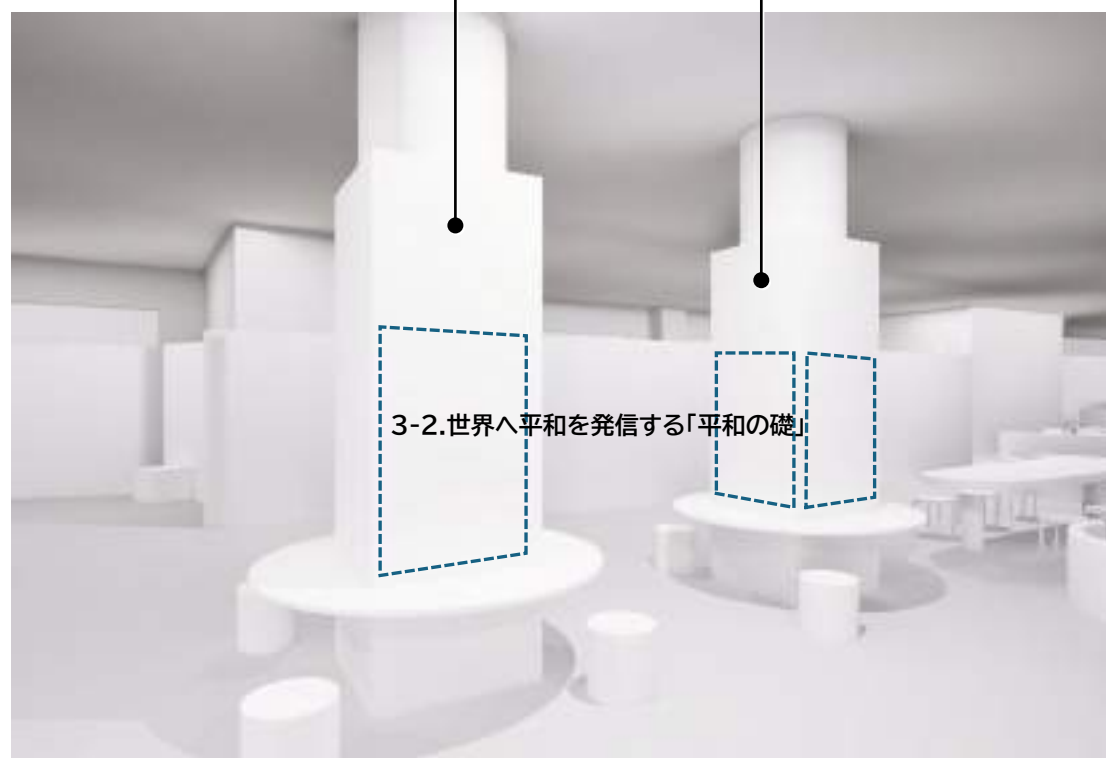
- 戦争の要因のひとつである相互不信や差別、分断と「平和の礎」の建設趣旨・基本理念を照らし合わせ、「平和の礎」が何を伝えているのか、「平和の礎」を通して、現在の課題を克服する道筋を考えてもらう。

【展示の展開方針】

- 「平和の礎」に対する、沖縄県民の思いや意見、課題を改めて解説する。
- 「平和の礎」について考えたことを来館者参加型で展示する。



- 3-2-① 「平和の礎」の理念や課題を振り返り、未来の平和創造に向けて可能性を考える
グラフィック
(「平和の礎」に対するこれまでの意見、来館者のメッセージ)



- 3-2-① 「平和の礎」の理念や課題を振り返り、未来にむけて可能性を考える
グラフィック

3.平和創造を考えるコーナー

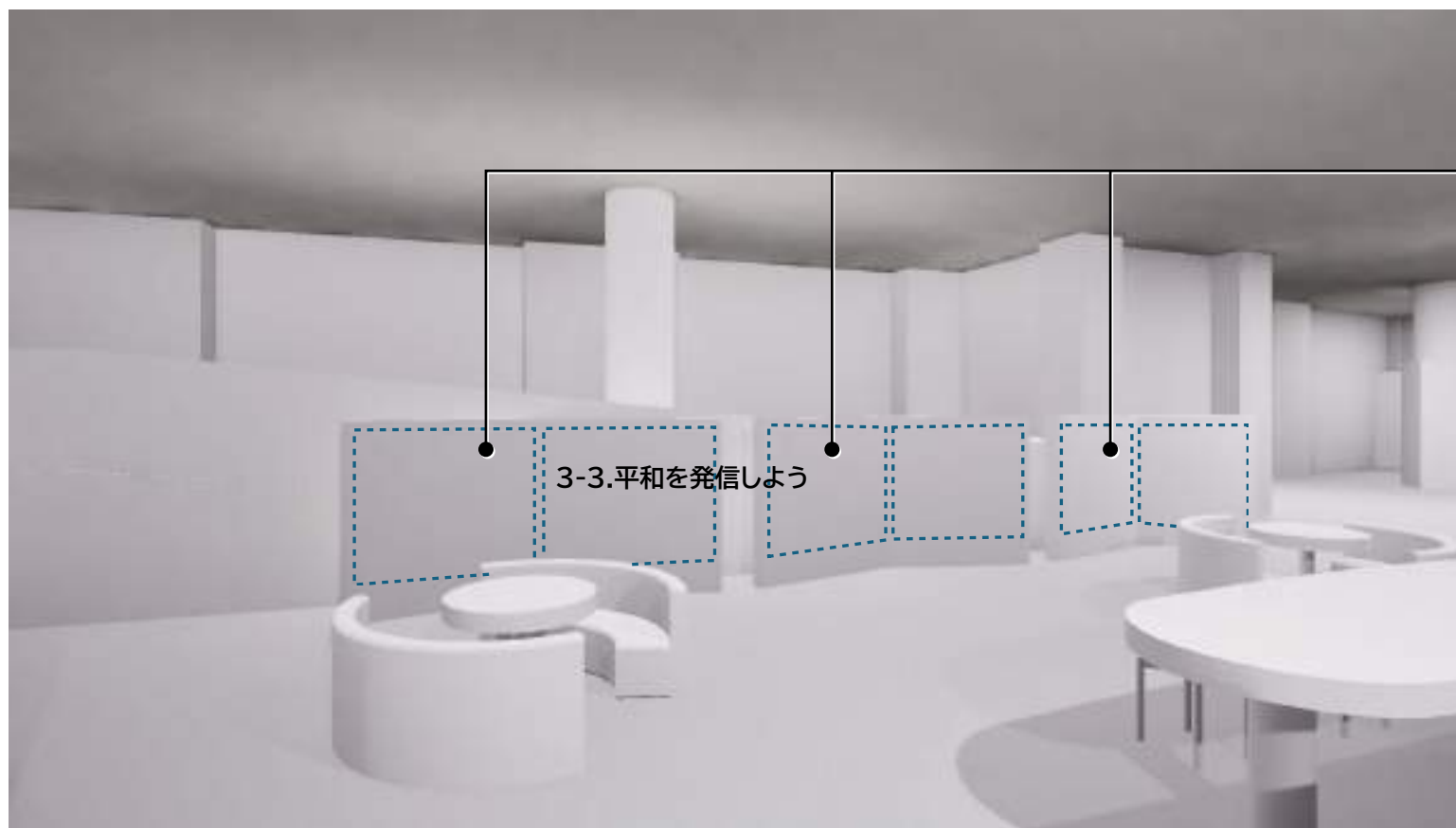
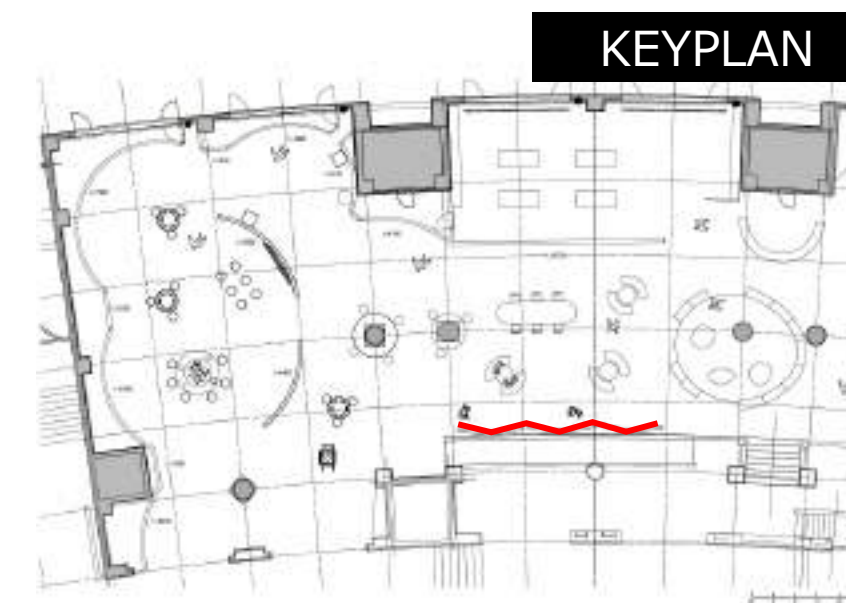
3-3.平和を発信しよう

【展示のねらい】

- ・ 県内の子どもたちの平和について発信を行っている活動を伝え、来館者に平和を発信する意識を醸成してもらう。

【展示の展開方針】

- ・ 「児童・生徒の平和メッセージ展」の作品をパネルで紹介する。
- ・ 年度ごとに作品が展示できるように更新性の高い展示手法とする。



- ・ 3-3-① 平和を創造する意思表示等を何らかのアクションで発信する
グラフィック・資料
(児童・生徒の平和メッセージ展の作品)

4.企画展示コーナー

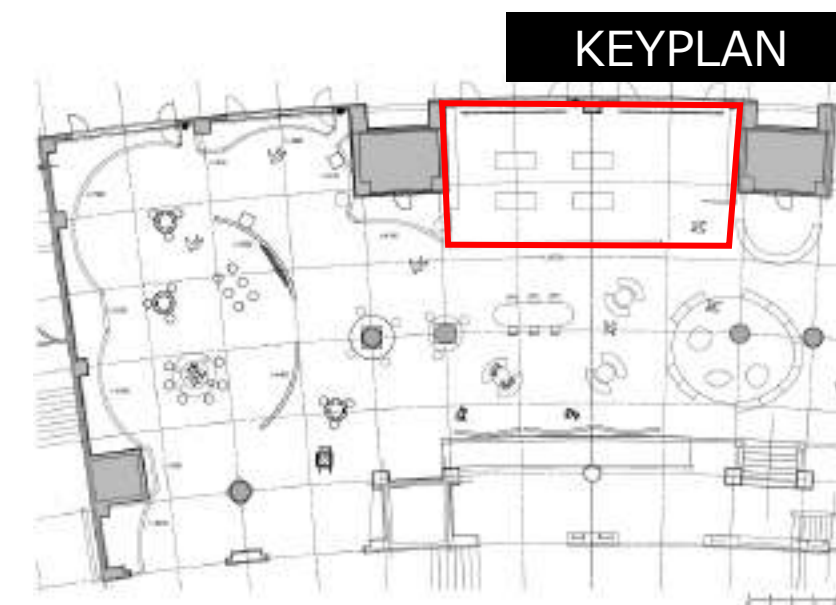
4-1.企画展示コーナー

【展示のねらい】

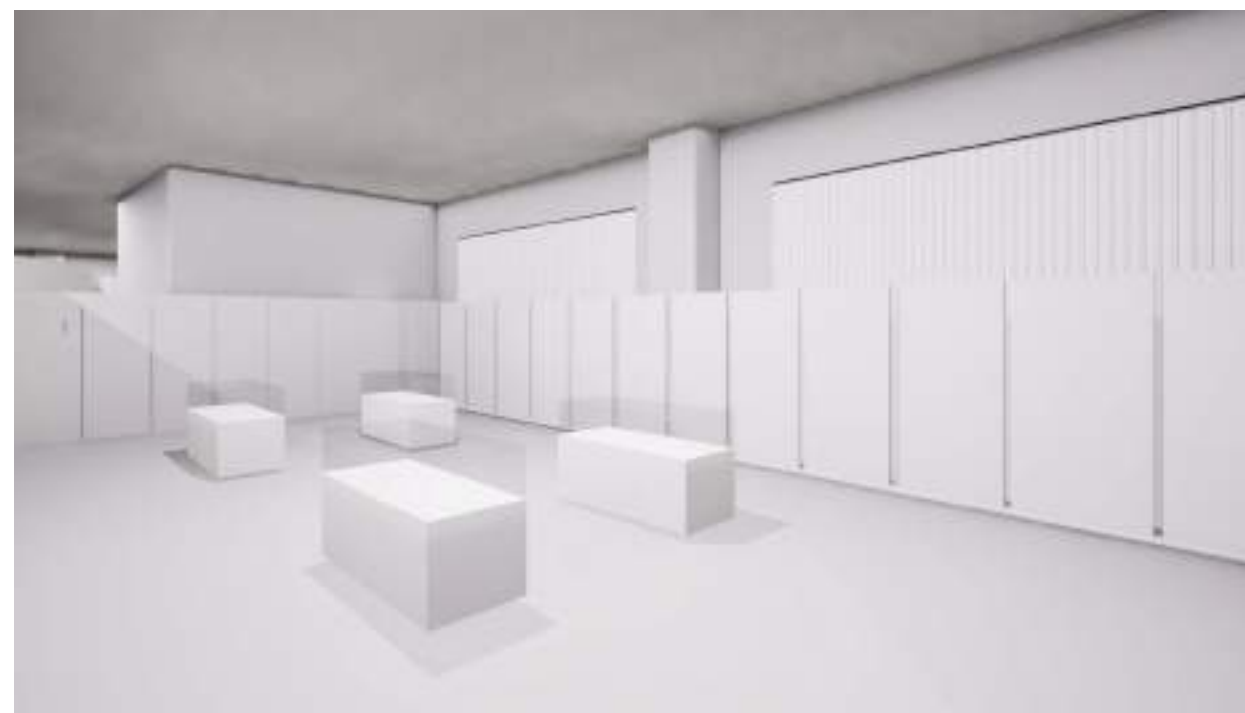
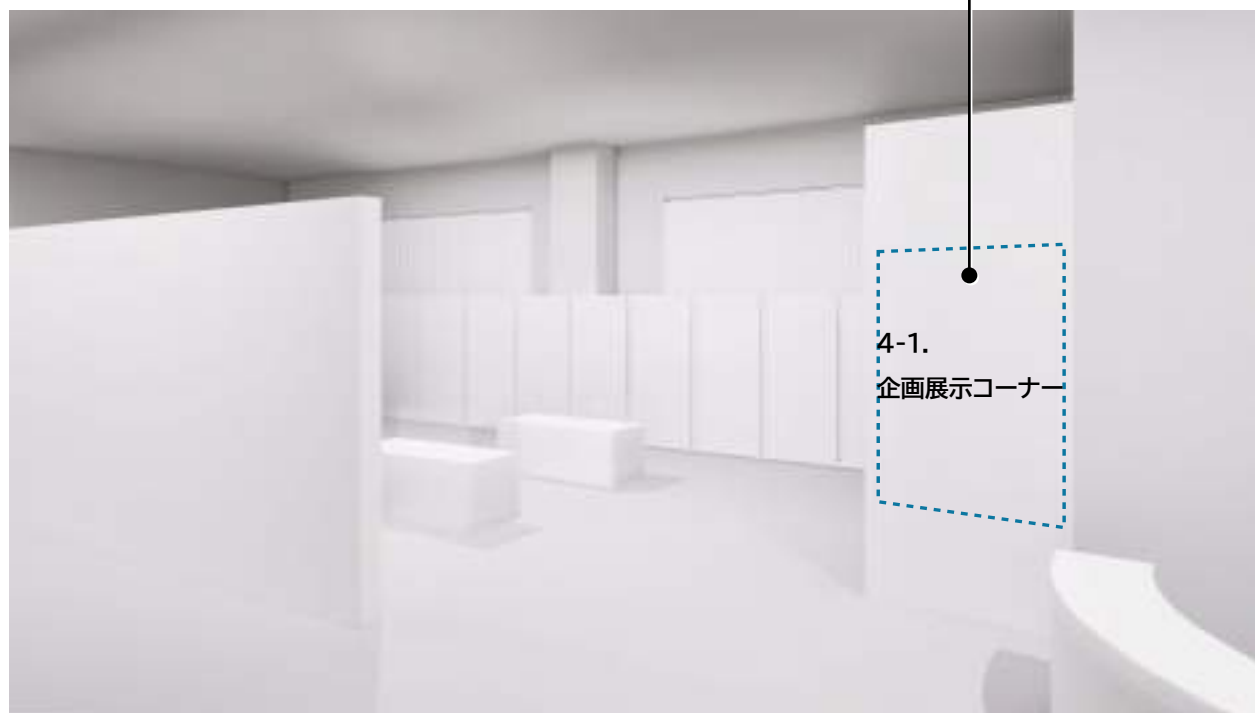
- ・ 沖縄戦や人権問題を考える機会を提供する企画展示を実施する。

【展示の展開方針】

- ・ 既存の企画展示室と同程度の展示面積を確保する。
- ・ 1年に数回の展示替えができるよう、更新性の高い什器を設置する。



- ・ 4-1-① 子ども対象の沖縄戦や人権問題、国際理解をテーマとした企画展
グラフィック・資料



5.学びとふれあいコーナー

5-1.平和学習やコミュニケーションを醸成するコーナー

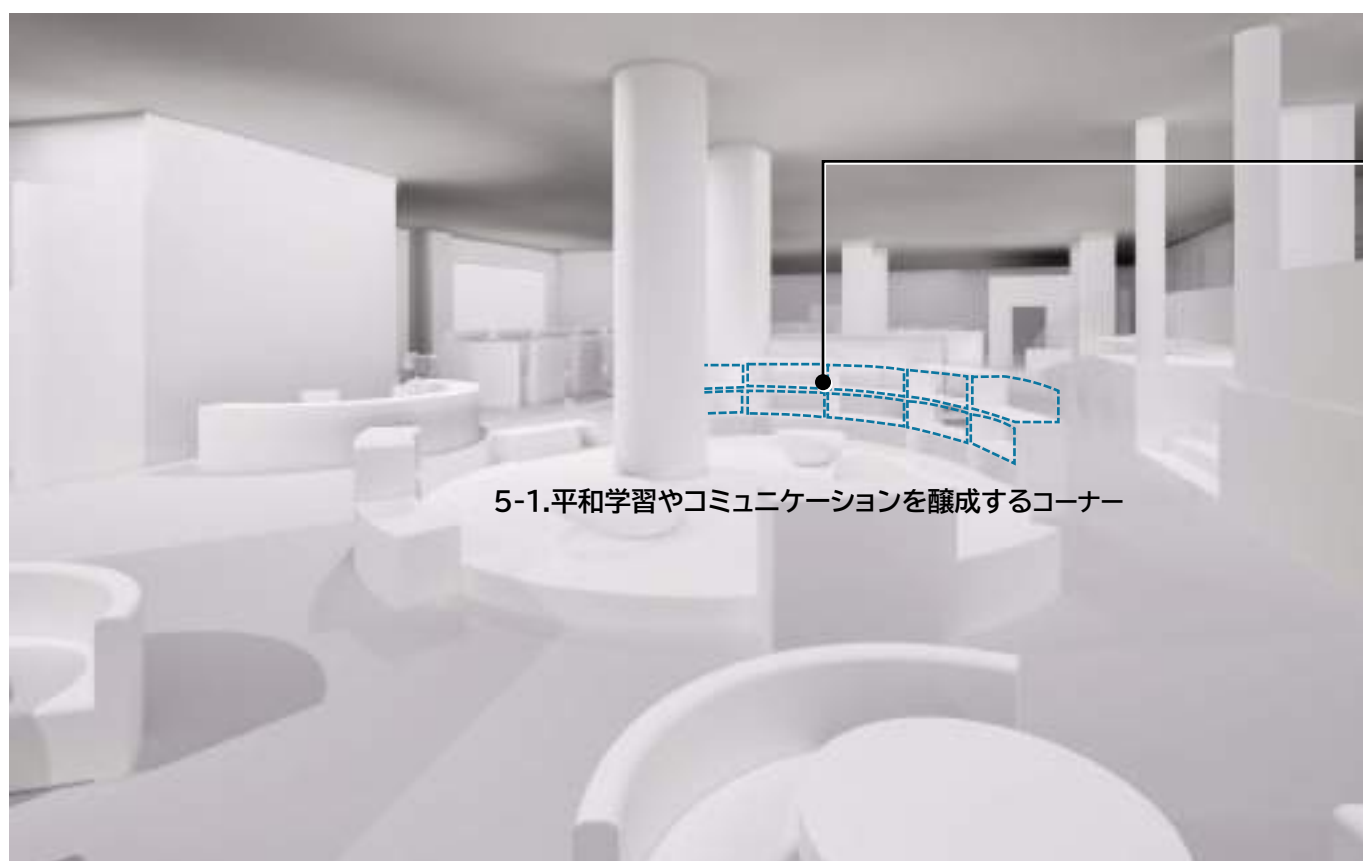
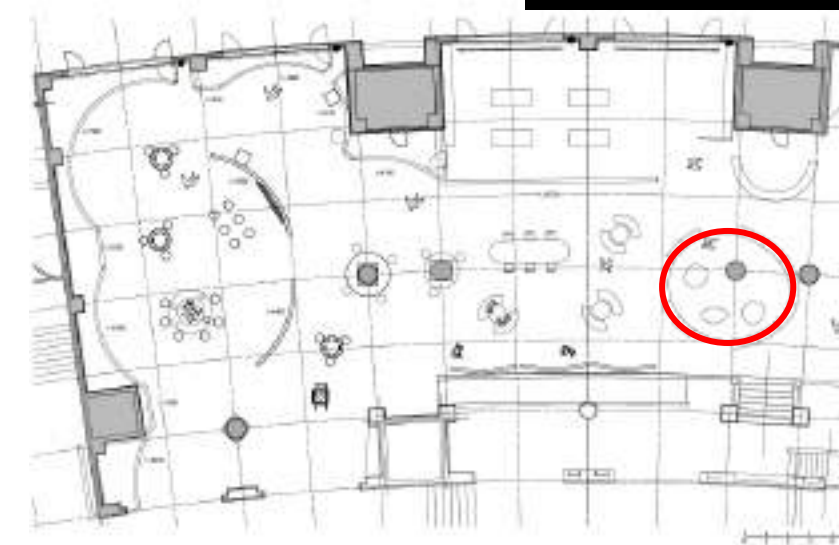
【展示のねらい】

- 絵本や学習ツールにふれながら、平和について考える機会を提供する空間にする。
- 展示を見て考えをまとめたり、展示などについて来館者同士で対話ができる空間を提供する。

【展示の展開方針】

- 小上がりにし、靴を脱いでくつろげるスペースとする。
- 絵本や紙芝居等、手に取れる資料を設置する。

KEYPLAN



5-1.平和学習やコミュニケーションを醸成するコーナー

- 5-1-① 多様な国々・世界の子どもたち
 - 5-1-② 沖縄の戦争遺跡や世界の戦争・紛争のマップ
 - 5-1-③ 平和を考える絵本
 - 5-1-④ 来館者のふれあい(メッセージ等)
- グラフィック・映像装置・資料・模型
(現在の「せかいの子どもたち」のケース内展示物、平和に関する絵本など)

5.学びとふれあいコーナー

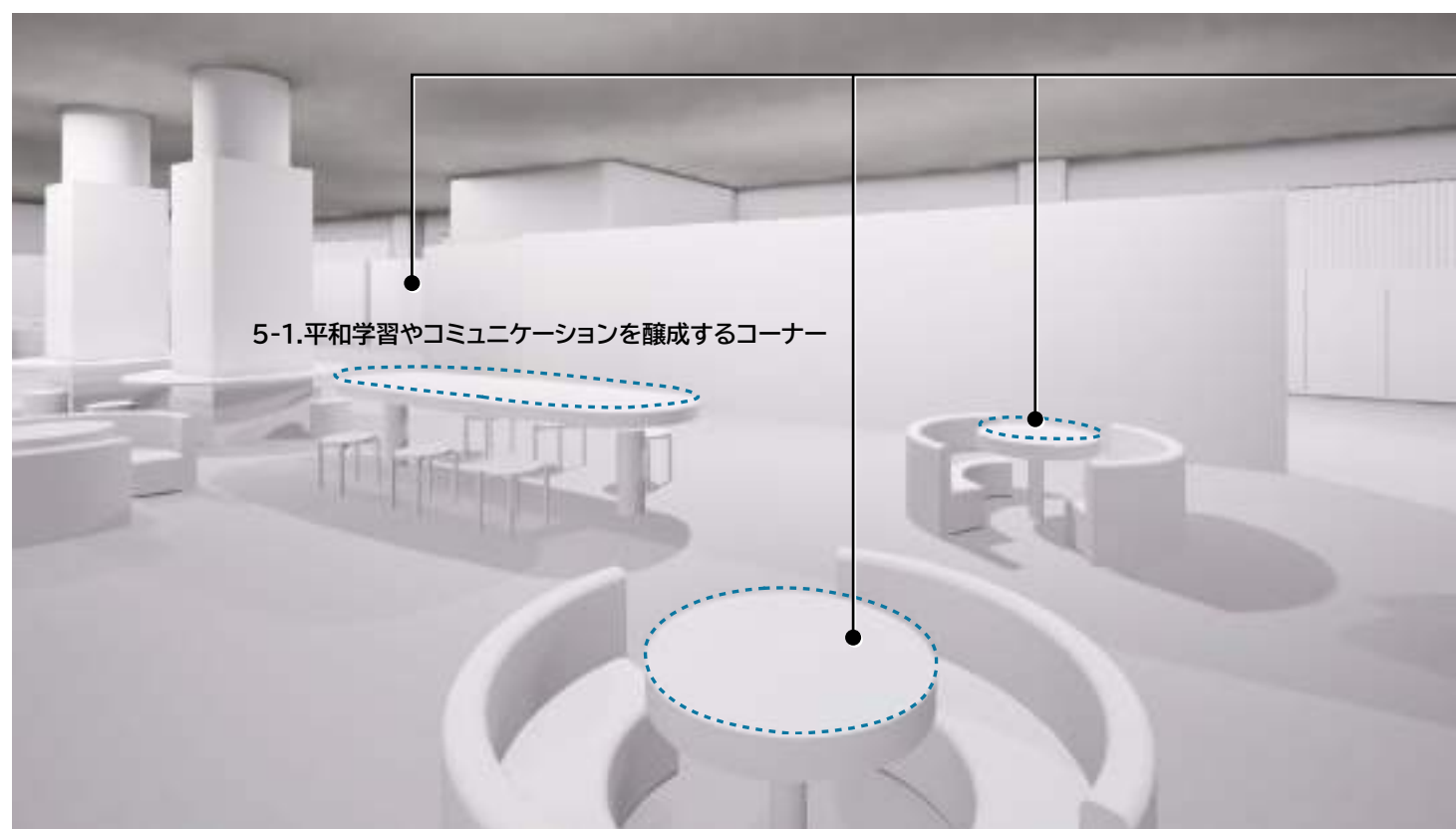
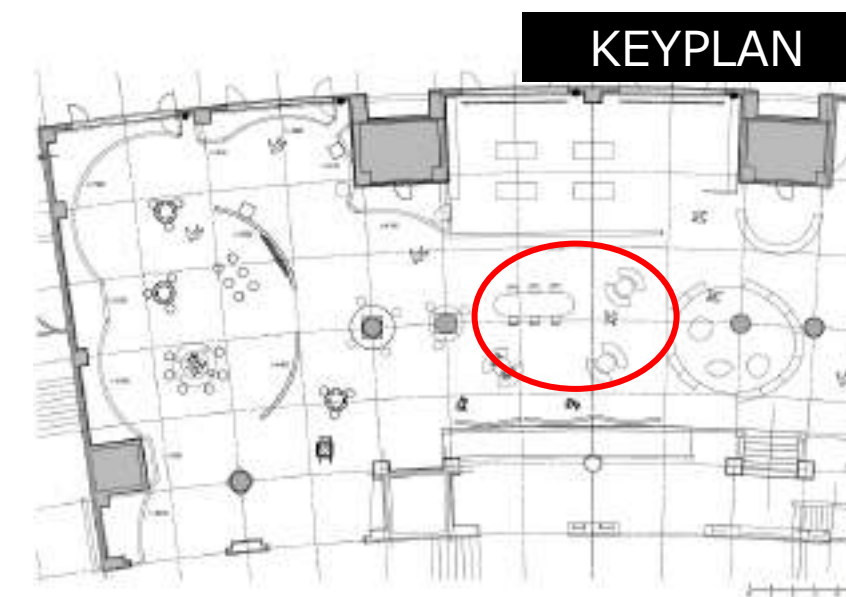
5-1.平和学習やコミュニケーションを醸成するコーナー

【展示のねらい】

- 絵本や学習ツールにふれながら、平和について考える機会を提供する空間にする。
- 展示を見て考えをまとめたり、展示などについて来館者同士で対話ができる空間を提供する。

【展示の展開方針】

- 展示を振り返りながら、来館者同士が対話できる場とする。
- アンケートやメッセージ、ワークシートを設置して、平和や戦争・紛争について深く考えられるような工夫をする。



- 5-1-④ 来館者のふれあい(メッセージ等)
グラフィック

6.情報ライブラリー

6-1.情報ライブラリー

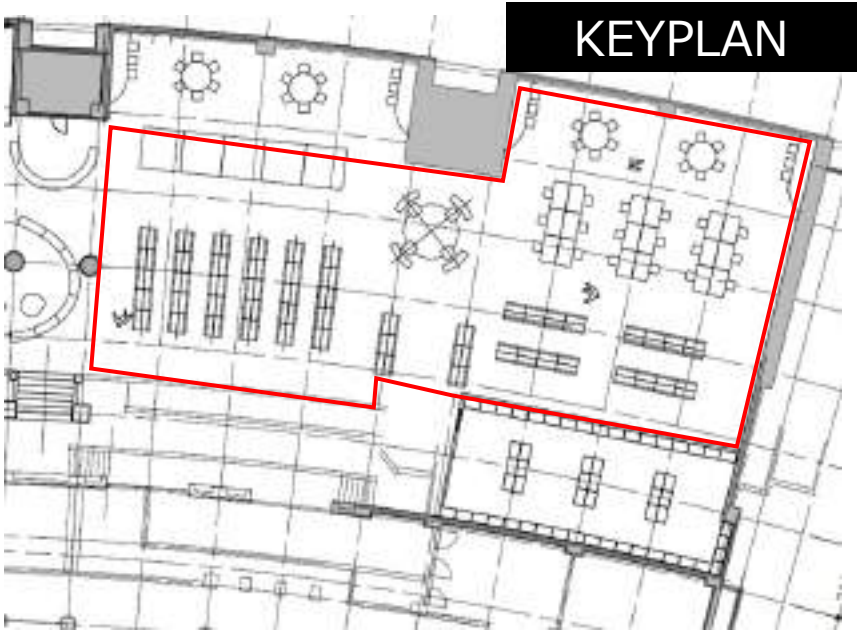
【展示のねらい】

- 戦争や平和、人権への理解を深める。また平和学習を進めるために必要な資料・情報を提供する。

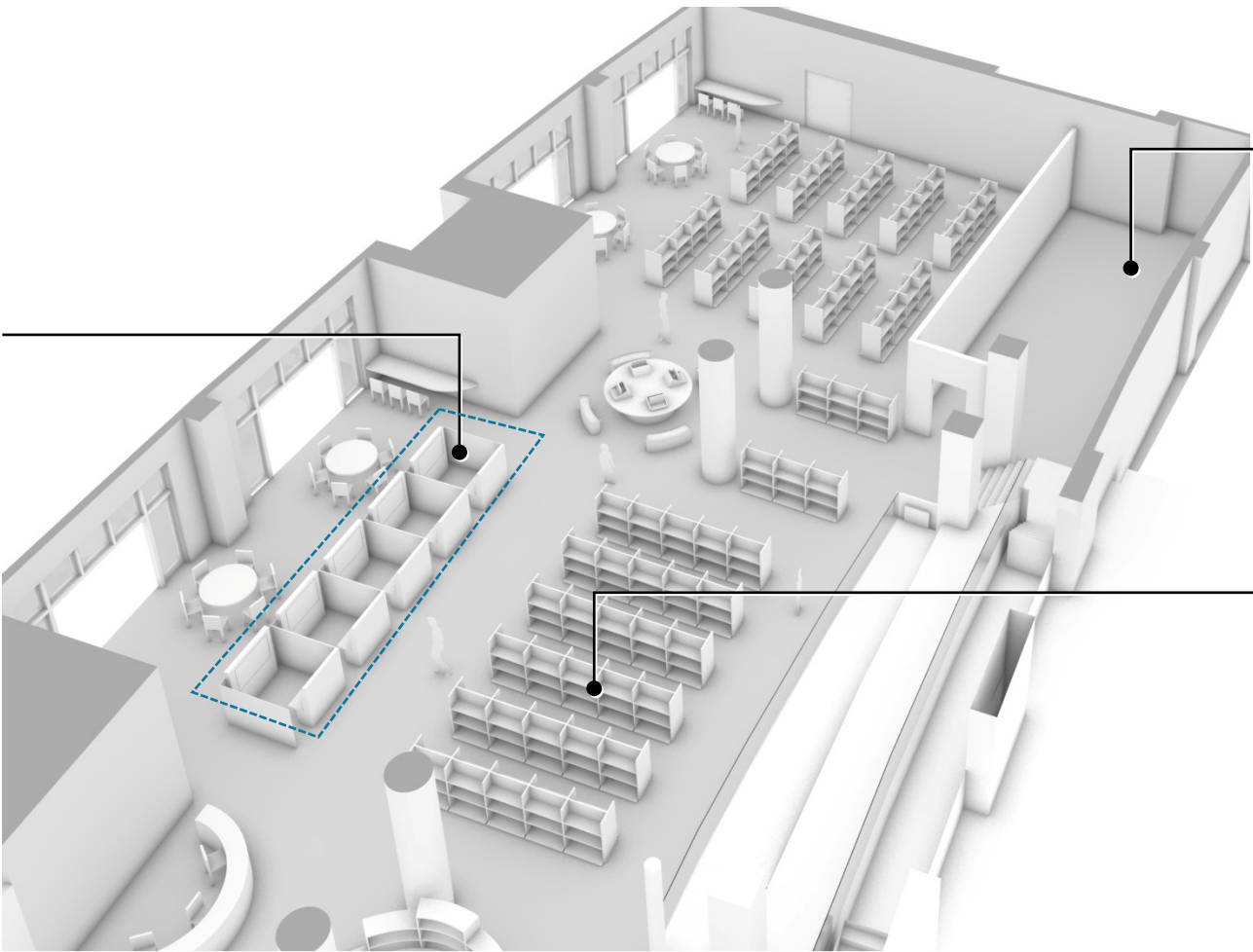
6-2.証言映像ブース

【展示のねらい】

- 当館が所蔵する多数の証言を閲覧し、常設展示の理解を深められるようにする。



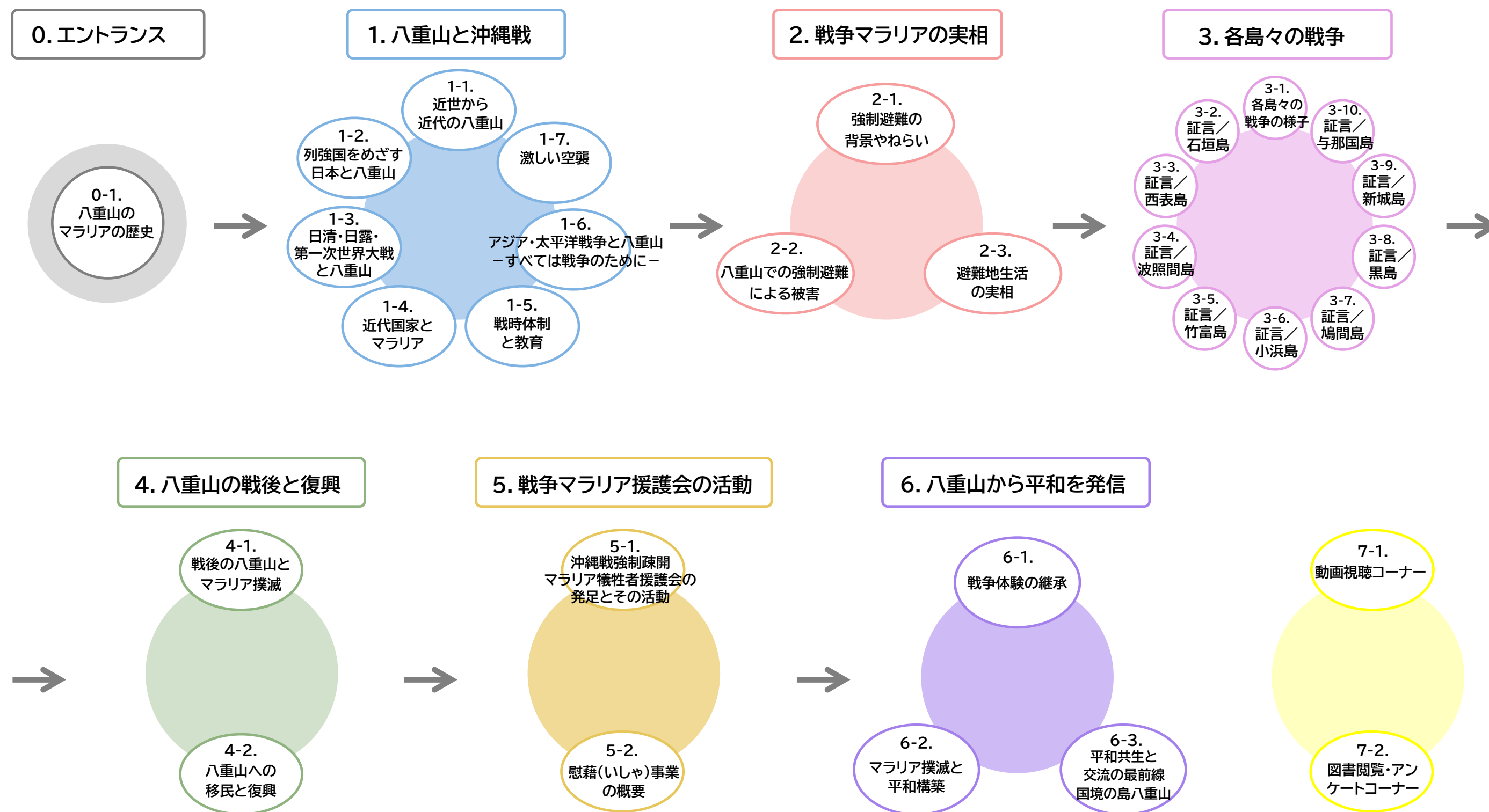
- 6-2-① 映像機器の更新
映像装置
(証言の映像など)



バックヤード(収納スペース)

- 6-1-① 書籍の充実
- 6-1-② 利用しやすい書架の配列
(こども図書ライブラリー)
- 6-1-③ 書庫の充実
- 6-1-④ 学習スペースの充実
資料
(図書資料、閲覧台、収納スペースなど)

八重山平和祈念館（分館）

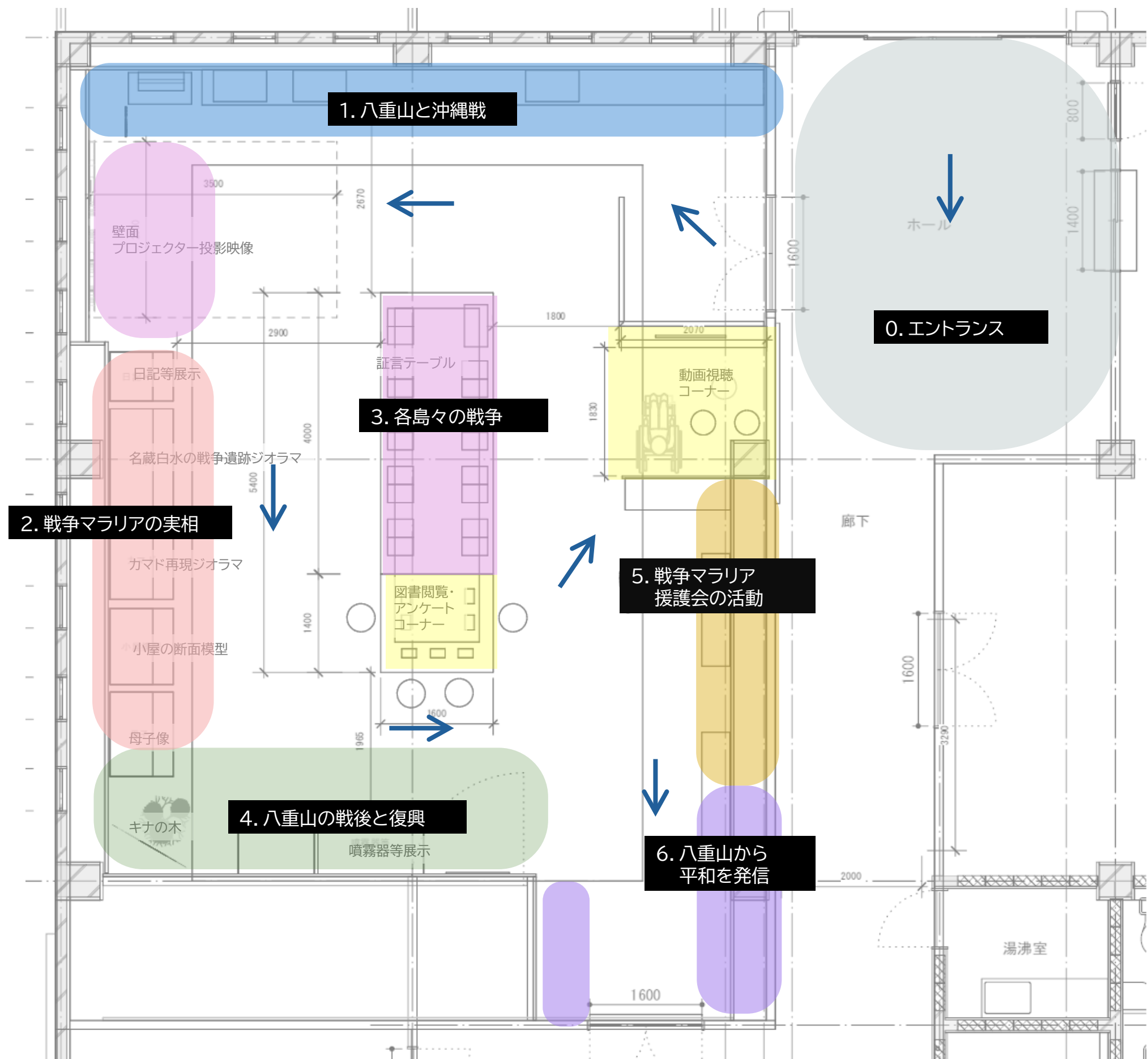


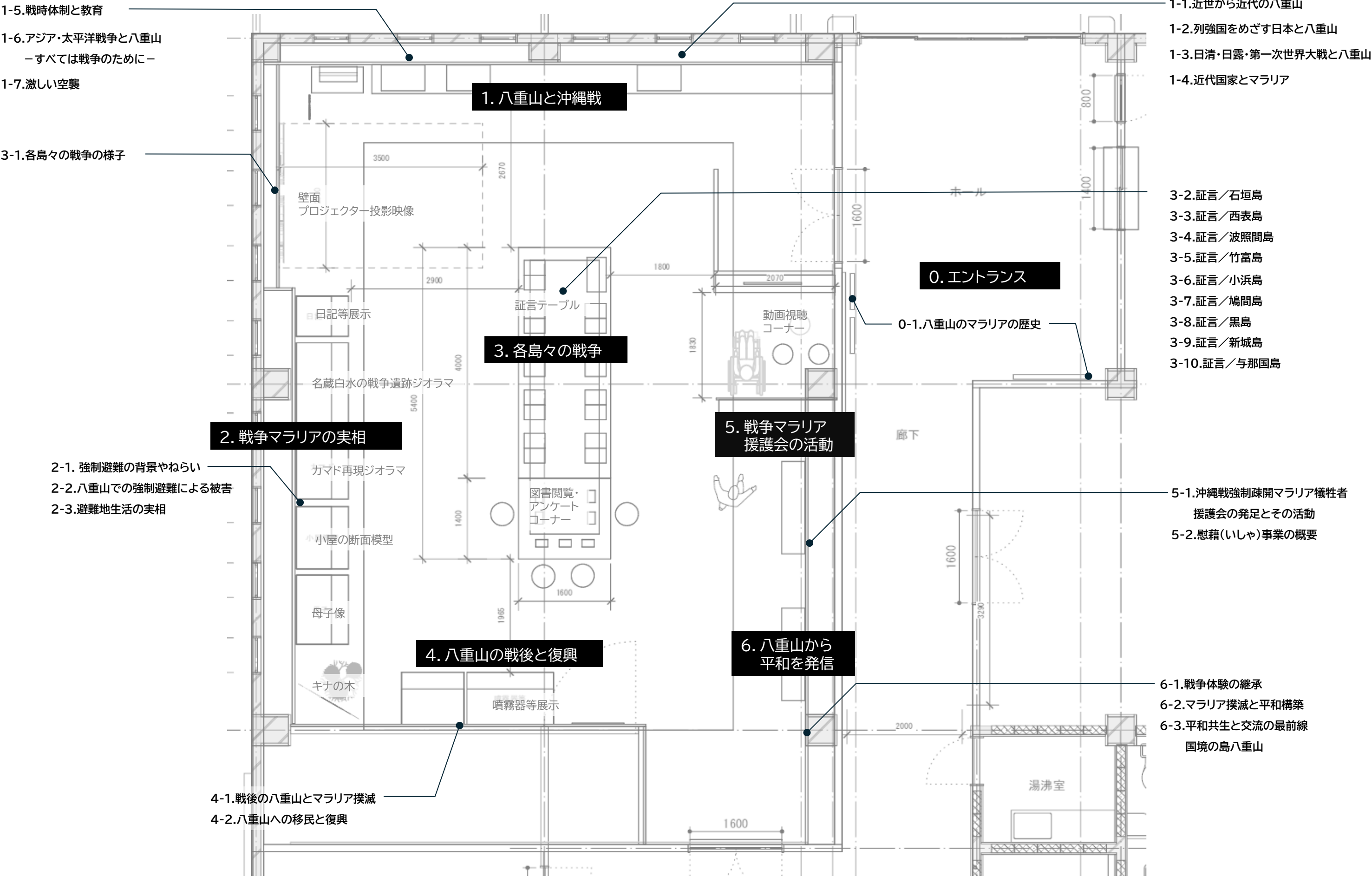
ゾーン	目的	大項目	大項目ねらい	中項目	中項目ねらい	展示内容の概略	展示手法	主な展示資料
八重山平和祈念館	戦争マラリアの実相を後世に正しく伝えとともに、人間の尊厳が保障される社会の構築と、八重山地域から世界に向けて恒久平和の実現を訴える「平和の発信拠点」の形成をめざす。	0.エントランス	八重山で風土病とされていたマラリアの基本的な情報を伝えとともに、沖縄戦における八重山の戦没者の多くが戦争マラリアによるものであることへの気づきを促す。	0-1.八重山のマラリアの歴史	八重山で風土病とされていたマラリアの基本的な情報を伝えとともに、沖縄戦における八重山の戦没者の多くが戦争マラリアによるものであることへの気づきを促す。	0-1-① 八重山の戦争とは？ 0-1-② マラリアとは？ 0-1-③ 八重山とマラリア	グラフィック	八重山とマラリアの関係を示す図解など
		1.八重山と沖縄戦	八重山を視座に据え、八重山を通して戦争へと突き進む日本政府の動きを概観するとともに、その国家体制へと組み込まれていく八重山の姿を伝える。米軍の上陸はなかったものの、激しい空襲にさらされた、沖縄戦時の八重山の状況を伝える。	1-1.近世から近代の八重山	人頭税や大津波、寄人制度による強制移住政策等によって、近代を迎える時点の八重山が大きく疲弊した状況であったことを伝える。	1-1-① フーキ（風気）と称された八重山の風土病「マラリア」 1-1-② 人頭税と強制移住政策 1-1-③ 甚大な被害をもたらした「明和の大津波」	グラフィック	近世の八重山を示す資料
				1-2.列強国をめざす日本と八重山	日本の台湾出兵や、琉球併合、清国との分島・増約案の動きなど、日本に組み込まれ政治的な問題に利用されながら、八重山が日本の国境となっていく過程を伝える。	1-2-① 牡丹社事件と台湾出兵 1-2-② 琉球併合と分島・増約案	グラフィック・資料	台湾出兵、琉球併合に関する図解、写真など
				1-3.日清・日露・第一次世界大戦と八重山	日清戦争以後、沖縄でも徴兵制が施行され、日本の軍国主義が広がり、八重山も急速に変化していく様子を伝える。また日本の植民地となった台湾が、八重山に与えた影響などにもふれる。	1-3-① 徴兵令の発布 1-3-② 日清戦争、日露戦争、第一次世界大戦 1-3-③ 台湾の植民地化 1-3-④ 西表炭坑	グラフィック	日清戦争・日露戦争に関する写真、当時の植民地地図など
				1-4.近代国家とマラリア	これまで八重山の人々を苦しめてきた熱病がマラリアだと明らかになり、マラリアの防遏に向けて動き出した八重山について伝える。	1-4-① 南西諸島調査とマラリアの「発見」 1-4-② マラリア防遏への取り組み 1-4-③ 人頭税の廃止（1903年） 1-4-④ 日本の恐慌と八重山住民	グラフィック・資料	『南島探検』、『八重山群島瘴癘毒記』など
				1-5.戦時体制と教育	戦争が忍び寄ってきた八重山でも思想統制や戦時体制が強化され、学校教育での皇民化教育や軍国主義教育が重要な役割を担っていたことを伝える。さらに地域の文化や風習など生活のあらゆる面が統制されていったことを伝える。	1-5-① 御真影、教育勅語の下賜 1-5-② 国民学校と「国体護持」 1-5-③ 弾圧される日本教育労働組合八重山支部 1-5-④ 標準語励行運動 1-5-⑤ 翼賛青年連盟与那国支部・大政翼賛会八重山支部の誕生 1-5-⑥ 八重山から中国大陆へ 1-5-⑦ 鳥居設置の奨励と戦争	グラフィック・資料	教育勅語、誓の家札など
				1-6.アジア・太平洋戦争と八重山ーすべては戦争のためにー	戦争のために、生活が苦しくなっていく住民や疎開が進められ地域を離れざるを得ない住民など、戦時下の八重山の状況を伝える。 また、八重山においても、根こそぎ戦場動員が行われ、朝鮮人軍夫や慰安婦が存在したこと、さらに特攻と関連の深い地域であったことなども伝える。	1-6-① 大舩松市顕彰運動 1-6-② 船浮臨時要塞と第32軍 1-6-③ 陸軍中野学校出身者 1-6-④ 住民の根こそぎ動員 1-6-⑤ 朝鮮人軍夫 1-6-⑥ 慰安婦問題 1-6-⑦ 台湾、九州への疎開 1-6-⑧ 子どもたちの動員 1-6-⑨ 沖縄戦特攻作戦第1陣 石垣島から出陣	グラフィック・資料	米英に宣戦布告したことを伝える新聞、臨時召集令状、千人針、軍隊手帳など
				1-7.激しい空襲	米軍の上陸はなかったものの、激しい空襲にさらされた、沖縄戦時の八重山の状況を伝える。	1-7-① 沖縄島での戦闘の概要 1-7-② 激烈を極める空襲 1-7-③ みのかさ部隊 1-7-④ 船舶撃沈事件 1-7-⑤ 米軍捕虜虐殺事件 1-7-⑥ 空襲と御真影・教育勅語	グラフィック・資料	石垣島地方気象台の弾痕跡、みのかさ部隊の鉄かぶと（レプリカ）など

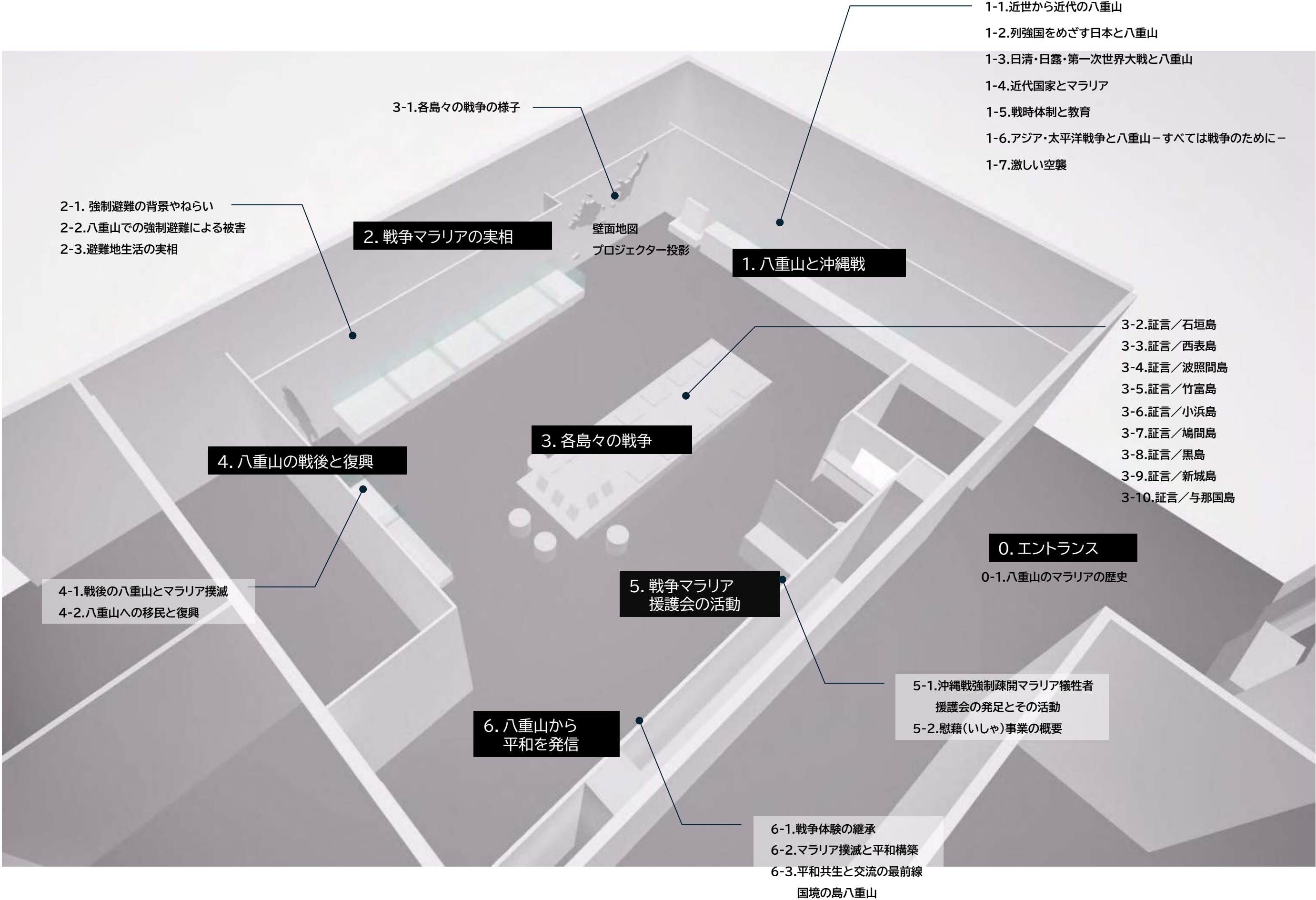
ゾーン	目的	大項目	大項目ねらい	中項目	中項目ねらい	展示内容の概略	展示手法	主な展示資料
		2.戦争マラリアの実相	軍命による有病地への強制避難によって引き起こされた戦争マラリアの実相を伝える。 食糧も薬もないなかで、住民たちがどのような暮らしを強いられたのかを伝える。	2-1.強制避難の背景やねらい	日本軍がマラリア有病地を調査した上で避難命令をだしたこと、命令は口頭で行われたことなどから、強制避難が軍の命令によって行われたことを資料から伝える。強制避難のねらい、軍と行政の役割についてもふれる。	2-1-① 日本軍のマラリア認識 2-1-② マラリア有病地への強制避難命令 2-1-③ 強制避難命令のねらい	グラフィック・資料	『八重山群島ノ衛生状況大要』、『県民指導措置八重山群細部計画』、東畑広吉参謀長の手記、潮平寛保氏の日記など
				2-2.八重山での強制避難による被害	強制避難が、八重山各地で行われ、多くの住民がマラリアによる被害にあったことを伝える。また日本兵や子どもたちなど様々な人々の被害についても取り上げる。	2-2-① 強制避難の概況 2-2-② 波照間島住民と忘勿石 2-2-③ 兵士たちのマラリア犠牲 2-2-④ 戦争マラリアと戦争孤児	グラフィック・資料	鉄田義司氏の日記、『波照間小学校沿革誌』など
				2-3.避難地生活の実相	避難した指定地が劣悪な環境であり、住民たちは過酷な生活を送ったことを、白水地区の様子を主として紹介する。避難地での体験をもとにかかれた絵、ジオラマ、模型、遺留品などから当時の状況をわかりやすく伝える。	2-3-① 避難地での食糧事情と居住環境 2-3-② 戦争マラリアによる犠牲者 2-3-③ 看病、埋葬の状況	グラフィック・模型	白水戦争遺跡群ミニジオラマ、高熱に苦しむ母子像、カマド跡の模型、避難小屋の模型、潮平正道氏の絵など

ゾーン	目的	大項目	大項目ねらい	中項目	中項目ねらい	展示内容の概略	展示手法	主な展示資料
		3.各島々の戦争	八重山の島々の沖縄戦時の状況を解説する。 証言を通じて、戦争及び戦争マラリアの実相を伝える。	3-1.各島々の戦争の様子	同じ八重山でも各島によって異なる戦時の様子を伝える。軍が支配する体制の中での軍・官・民の関係性や、住民たちの状況を展示することで戦時体制がどのようなものだったのかを考えてもらう。	3-1-① 漁船撃沈等周辺海域の状況 3-1-② 各島の戦争の状況 3-1-③ 各島の軍隊配備状況 3-1-④ 離島残置謀者と八重山 3-1-⑤ 各島の強制避難の状況 3-1-⑥ 強制避難を免れた島・竹富島 3-1-⑦ 各島の戦争及び戦争マラリアによる犠牲者数	グラフィック・映像装置	八重山住民の避難場所を表す地図など
				3-2.証言／石垣島	戦時中の暮らしの変化や、台湾疎開、現地召集、学徒隊、空襲、戦争マラリアなど戦時中の石垣島についての証言を取り上げる。	3-2-① 各島々の証言 石垣島 3-3-① 各島々の証言 西表島 3-4-① 各島々の証言 波照間島 3-5-① 各島々の証言 竹富島 3-6-① 各島々の証言 小浜島 3-7-① 各島々の証言 鳩間島 3-8-① 各島々の証言 黒島 3-9-① 各島々の証言 新城島 3-10-① 各島々の証言 与那国島		
				3-3.証言／西表島	戦時中の暮らしの変化や、空襲、護郷隊、安東丸事件、マラリアなど、戦時中の西表島についての証言を取り上げる。		グラフィック・資料	各島々の証言記録、旧日本軍の茶碗、石垣会の旗、海軍飛行予科練習生 夏服、モンペ、沖縄戦の絵「与那国島カツオ工場への空襲」金城マツエ画など
				3-4.証言／波照間島	戦時中の暮らしの変化や、空襲、残置工作員の配置、家畜の屠殺、戦争マラリアなど、戦時中の波照間島についての証言を取り上げる。			
				3-5.証言／竹富島	戦時中の暮らしの変化や、空襲、大石部隊、西表島への疎開が強制ではなくなった背景など、戦時中の竹富島についての証言を取り上げる。			
				3-6.証言／小浜島	戦時中の暮らしの変化や、空襲、特攻艇、朝鮮人軍夫、島内でのマラリアなど、戦時中の小浜島についての証言を取り上げる。			
				3-7.証言／鳩間島	戦時中の暮らしの変化や、空襲、国民学校長の殉職、戦争マラリアなど、戦時中の鳩間島についての証言を取り上げる。			
				3-8.証言／黒島	戦時中の暮らしの変化や、空襲、残置工作員の配置、家畜の屠殺、戦争マラリアなど、戦時中の黒島についての証言を取り上げる。			
				3-9.証言／新城島	戦時中の暮らしの変化や、空襲、戦争マラリアなど、戦時中の新城島についての証言を取り上げる。			
				3-10.証言／与那国島	戦時中の暮らしの変化や、空襲、残置工作員の配置、島内でのマラリアなど、戦時中の与那国島についての証言を取り上げる。			

ゾーン	目的	大項目	大項目ねらい	中項目	中項目ねらい	展示内容の概略	展示手法	主な展示資料
		4.八重山の戦後と復興	八重山において戦後がどのように始まったのか、その中で取り組まれたマラリア対策とその成果にふれるとともに、引揚者による人口増加、沖縄島の米軍基地建設に伴う移民の増加などにより、マラリアが再流行したこと、その後のマラリア撲滅までの取り組み等を紹介する。 復興に向かう八重山の状況について紹介する。	4-1.戦後の八重山とマラリア撲滅	八重山の戦後がどのように始まったのか、そしてその中で取り組まれたマラリア防遏や罹患者への治療や対策、さらにウイラー 博士によるマラリア撲滅計画「ウイラープラン」など、マラリア撲滅へ力を注いだ戦後の八重山について伝える。また戦後拡大していく沖縄島の米軍基地建設や戦後の引揚げによる人口増加などを背景に、まだ有病地だった八重山の土地に多くの開拓移民が入植し、移民マラリアが発生したことについても解説する。	4-1-① 八重山の戦後の始まり 4-1-② 引揚げと移民 4-1-③ 戦後直後のマラリア対策とその成果 4-1-④ 米軍基地建設等に伴う移民の増加、森林開拓等によるマラリア再燃 4-1-⑤ WHOによるマラリア根絶計画の公表 4-1-⑥ ウイラープランの展開	グラフィック・資料	アテブリン、マラリア防遏のチラシ、マラリア対策に関する帳簿類、マラリア対策に使用された機器類、キナの木（枯木）など
				4-2.八重山への移民と復興	戦後の八重山での開拓移民や、八重山からも沖縄島や本土への出稼ぎ者が増加するなど、戦後の人々の動きを伝える。また「密貿易」など戦後の混乱した状況とともに、インフラ整備、復興博覧会の開催など復興に向かう八重山の状況を伝える。	4-2-① 沖縄島や宮古島等からの移民の実態 4-2-② 八重山からの人口流出と移住者の流入 4-2-③ 「密貿易」と復興 4-2-④ 八重山自治政府 4-2-⑤ 八重山における文芸復興の動き 4-2-⑥ 米国民政府の復興政策 4-2-⑦ とぅばらーま大会（昭和22年から）	グラフィック・資料	移住者の生活用具、文化復興を示す書籍など
		5.戦争マラリア援護会の活動	沖縄戦強制疎開マラリア犠牲者援護会発足の経緯とその活動について伝えるとともに、その活動の成果として、慰霊碑や八重山平和祈念館が設置されたことなどについて伝える。	5-1.沖縄戦強制疎開マラリア犠牲者援護会の発足とその活動	1989年（平成元年）に援護会が結成され、戦後補償に向けて動き出した流れや遺族の思いを伝える。戦争マラリアが軍命によって引き起こされたことを明らかにするために集められた資料を展示する。	5-1-① 総決起大会 5-1-② 陳情活動 5-1-③ 追悼式の開催 5-1-④ 篠原武夫教授が援護会活動を始めをきっかけとなった『平和への証言－沖縄県立平和祈念資料館ガイドブック』	グラフィック・資料	援護会の活動を示す資料、『平和への証言－沖縄県立平和祈念資料館 ガイドブック』など
				5-2.慰藉（いしゃ）事業の概要	八重山平和祈念館が設立される背景である慰藉事業の概要について伝える。	5-2-① 八重山戦争マラリア犠牲者慰霊之碑の建立 5-2-② 「八重山平和祈念館」の設立 5-2-③ 『悲しみを乗り越えて－八重山戦争マラリア犠牲者追悼平和祈念誌－』の発行	グラフィック・資料	慰霊碑と同じ材料で作られた石、『悲しみを乗り越えて－八重山戦争マラリア犠牲者追悼平和祈念誌』など
	6.八重山から平和を発信	6.八重山から平和を発信	沖縄戦、そして、戦争マラリアを経験した八重山から日本に、そして世界に平和のメッセージを発信する。 八重山における平和創造に関する活動や取り組みを紹介する。	6-1.戦争体験の継承	これまで蓄積されてきた戦争体験や沖縄戦研究から戦争の教訓を伝えるとともに、八重山で続けられてきた次世代に戦争体験を継承する活動を紹介する。	6-1-① むすびのことば 6-1-② 戦争体験継承への取り組み 6-1-③ これまでに建立された慰霊碑（モニュメント）の紹介	グラフィック・資料	戦争体験の継承を示す写真、八重山諸島内の慰霊塔の写真など
				6-2.マラリア撲滅と平和構築	現在の世界においても紛争地域とマラリア有病地に関連があることを伝える。途上国におけるインフラや公衆衛生の諸課題について、マラリア撲滅を達成した八重山から平和構築のあり方を考える。	6-2-① マラリア×紛争 世界地図 6-2-② マラリア有病地の課題（インフラ・公衆衛生など） 6-2-③ マラリア撲滅と八重山（ゼロマラリアの碑、当館でのJICA研修受け入れなど）	グラフィック	世界のマラリア分布図、現代におけるマラリア対策の写真など
				6-3.平和共生と交流の最前線 国境の島八重山	国境の島である八重山は、近隣地域との行政・民間での交流が活発な地域であり、共生と交流の活動が続けられてきたことを紹介し、世界へ平和を発信する。	6-3-① 八重山を中心に広がる地図（近隣地域との位置関係） 6-3-② 八重山と台湾の関係史 6-3-③ 八重山における国際交流	グラフィック	八重山を中心とした地図、八重山と台湾のつながりを示す写真、八重山と海外との交流を示す写真など
		—	—	7-1.動画視聴コーナー	—	—	映像	—
				7-2.図書閲覧・アンケートコーナー	—	—	図書・資料	—







0.エントランス

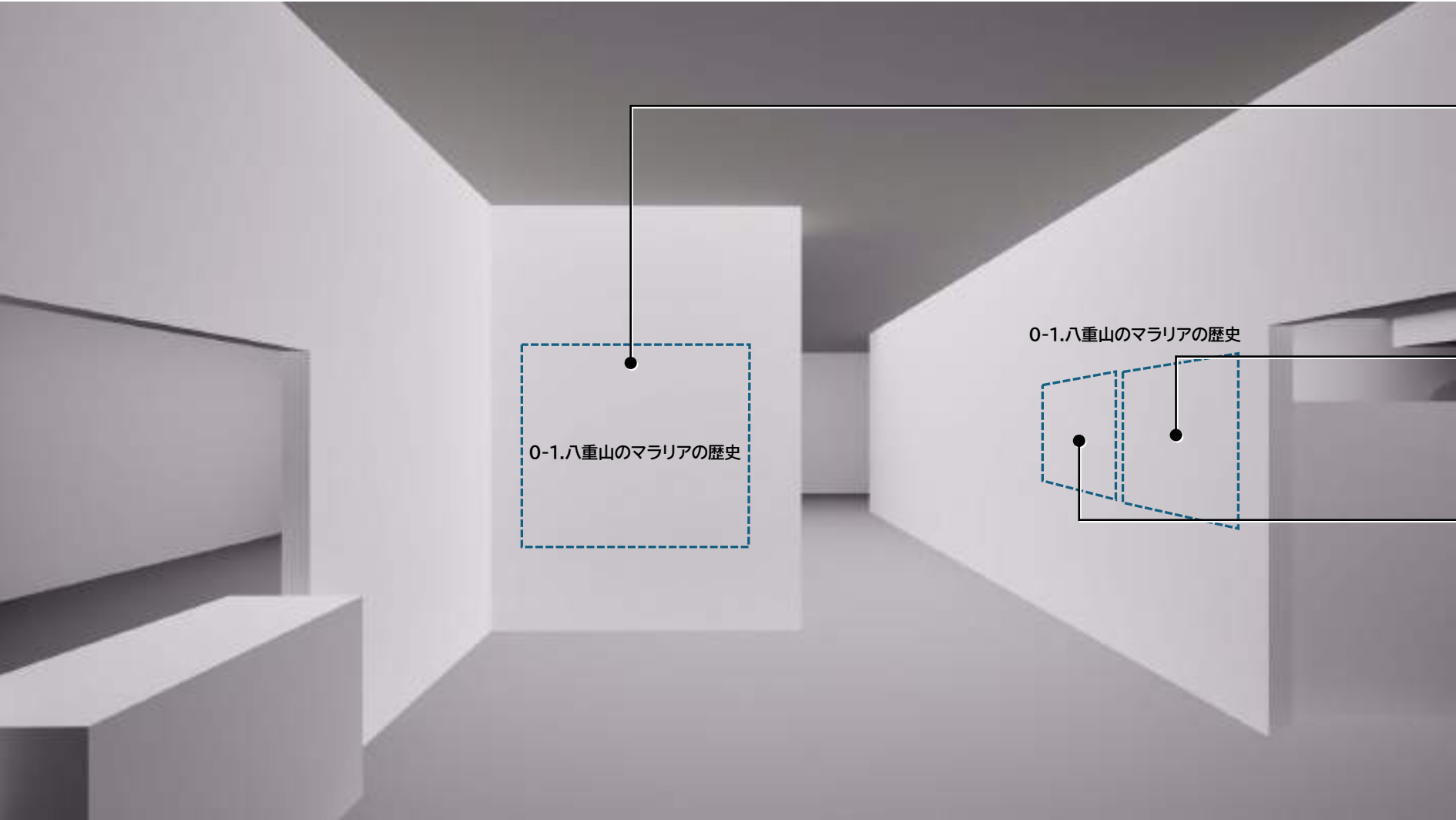
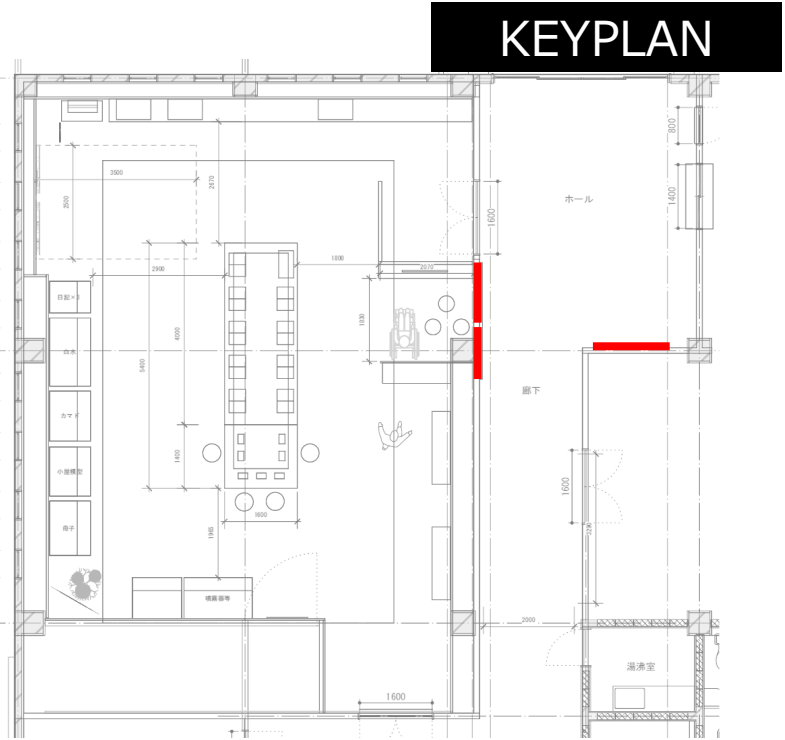
0-1.八重山のマラリアの歴史

【展示のねらい】

- ・ 八重山で風土病とされていたマラリアの基本的な情報を伝えるとともに、沖縄戦における八重山の戦没者の多くが戦争マラリアによるものであることへの気づきを促す。

【展示の展開方針】

- ・ データと問いかけを活用し、八重山の戦争体験への関心を喚起する。
- ・ マラリアの基本的な情報と、八重山とマラリアの関係性をわかりやすく伝える。



- ・ 0-1-① 八重山の戦争とは？
グラフィック
(八重山とマラリアの関係を示す図解など)
- ・ 0-1-② マラリアとは？
グラフィック
(八重山とマラリアの関係を示す図解など)
- ・ 0-1-③ 八重山とマラリア
グラフィック
(八重山とマラリアの関係を示す図解など)

1.八重山と沖縄戦

1-1.近世から近代の八重山

1-2.列強国をめざす日本と八重山

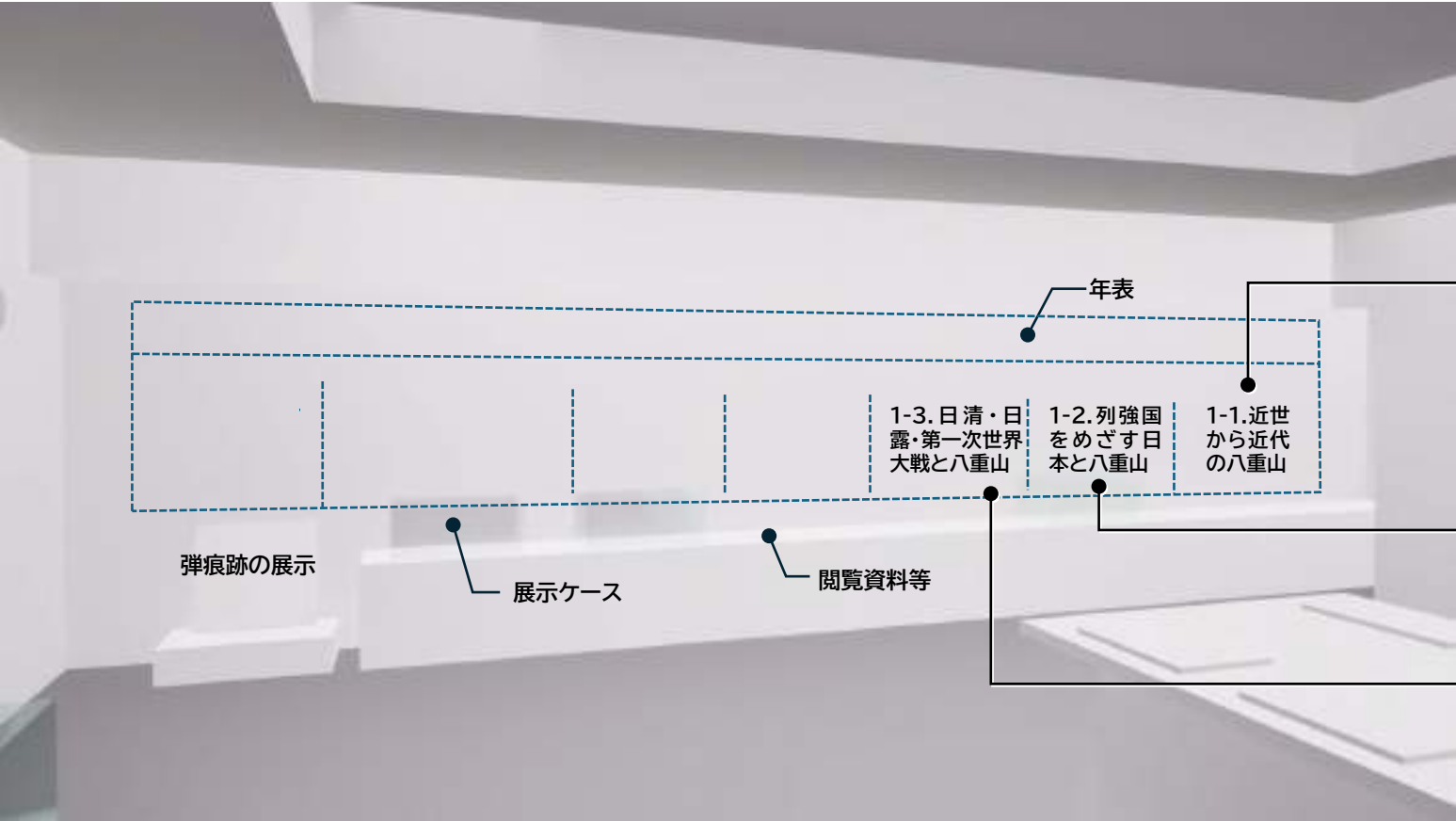
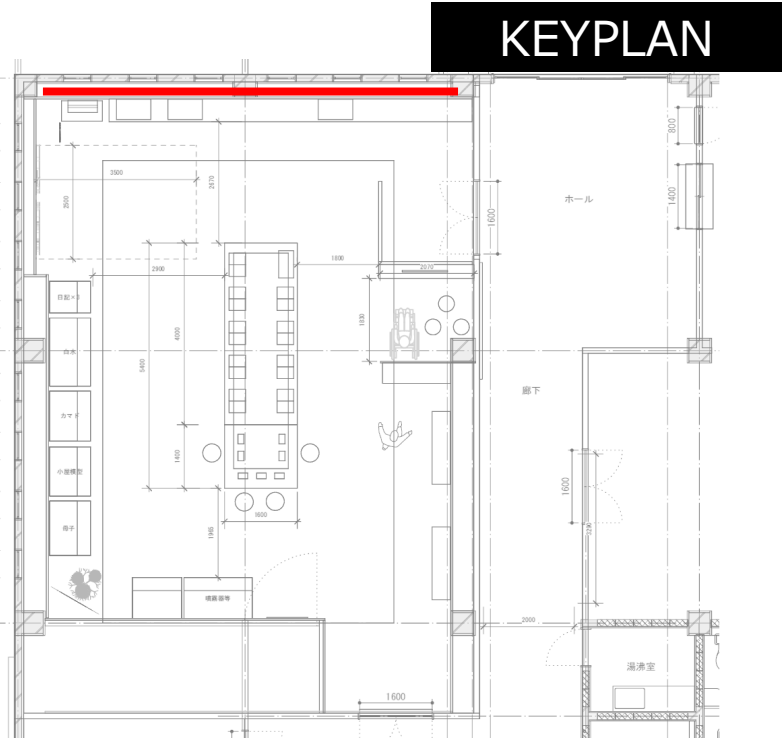
1-3.日清・日露・第一次世界大戦と八重山

【展示のねらい】

- ・ 八重山を視座に据え、八重山を通して戦争へと突き進む日本政府の動きを概観するとともに、その国家体制へと組み込まれていく八重山の姿を伝える。
- ・ 米軍の上陸はなかったものの、激しい空襲にさらされた、沖縄戦時の八重山の状況を伝える。

【展示の展開方針】

- ・ 沖縄戦までの流れがわかるように展示展開を行う。
- ・ 各項目の時系列がわかるようにグラフィックを工夫する。
- ・ 実物資料を精選し、展示展開を補完する役割を強める。



- ・ 1-1-① フーキ(風気)と称された八重山の風土病「マラリア」
- ・ 1-1-② 人頭税と強制移住政策
- ・ 1-1-③ 甚大な被害をもたらした「明和の大津波」
グラフィック
(近世の八重山を示す資料)
- ・ 1-2-① 牡丹社事件と台湾出兵
- ・ 1-2-② 琉球併合と分島・増約案
グラフィック・資料
(台湾出兵、琉球併合に関する図解、写真など)
- ・ 1-3-① 徴兵令の発布
- ・ 1-3-② 日清戦争、日露戦争、第一次世界大戦
- ・ 1-3-③ 台湾の植民地化
- ・ 1-3-④ 西表炭坑
グラフィック
(日清戦争・日露戦争に関する写真、当時の植民地地図など)

1.八重山と沖縄戦

1-4.近代国家とマラリア

1-5.戦時体制と教育

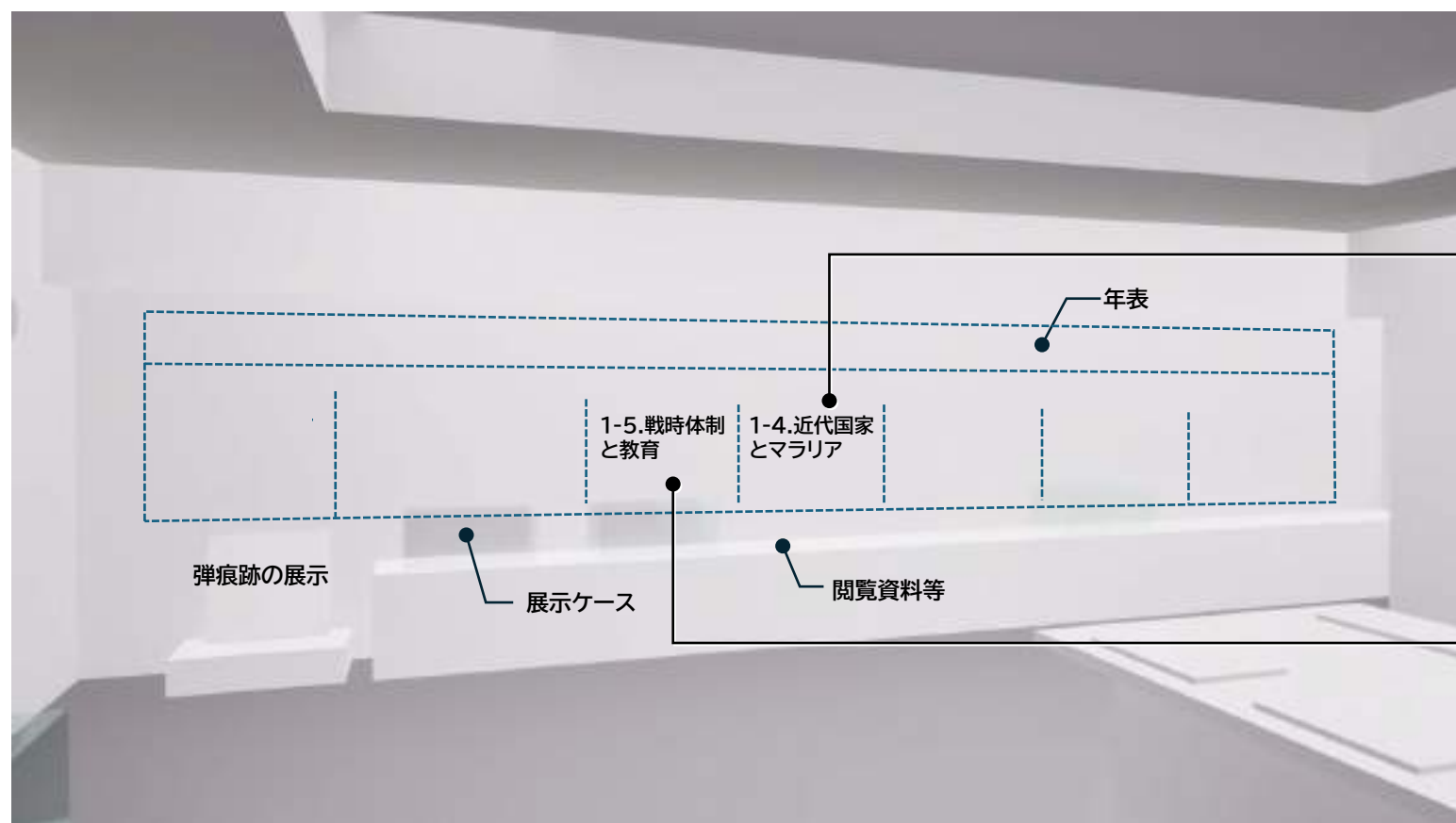
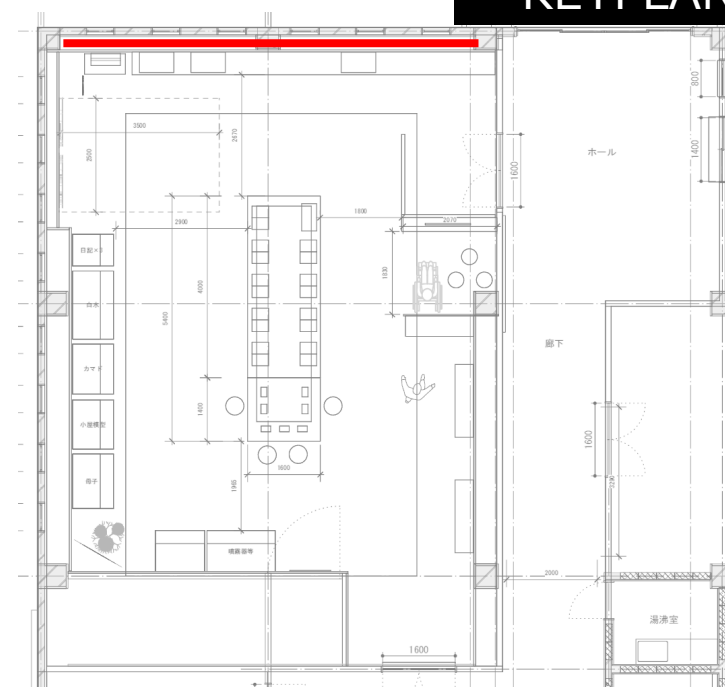
【展示のねらい】

- ・ 八重山を視座に据え、八重山を通して戦争へと突き進む日本政府の動きを概観するとともに、その国家体制へと組み込まれていく八重山の姿を伝える。
- ・ 米軍の上陸はなかったものの、激しい空襲にさらされた、沖縄戦時の八重山の状況を伝える。

【展示の展開方針】

- ・ 沖縄戦までの流れがわかるように展示展開を行う。
- ・ 各項目の時系列がわかるようにグラフィックを工夫する。
- ・ 実物資料を精選し、展示展開を補完する役割を強める。

KEYPLAN



- ・ 1-4-① 南西諸島調査とマラリアの「発見」
- ・ 1-4-② マラリア防遏への取り組み
- ・ 1-4-③ 人頭税の廃止(1903年)
- ・ 1-4-④ 日本の恐慌と八重山住民
グラフィック・資料
(『南島探検』『八重山群島瘴癘毒記』など)

- ・ 1-5-① 御真影、教育勅語の下賜
- ・ 1-5-② 国民学校と「国体護持」
- ・ 1-5-③ 弾圧される日本教育労働組合八重山支部
- ・ 1-5-④ 標準語励行運動
- ・ 1-5-⑤ 翼賛青年連盟与那国支部・大政翼賛会八重山支部の誕生
- ・ 1-5-⑥ 八重山から中国大陆へ
- ・ 1-5-⑦ 鳥居設置の奨励と戦争
グラフィック・資料
(教育勅語、誉の家札など)

1.八重山と沖縄戦

1-6.アジア・太平洋戦争と八重山ーすべては戦争のためにー

1-7.激しい空襲

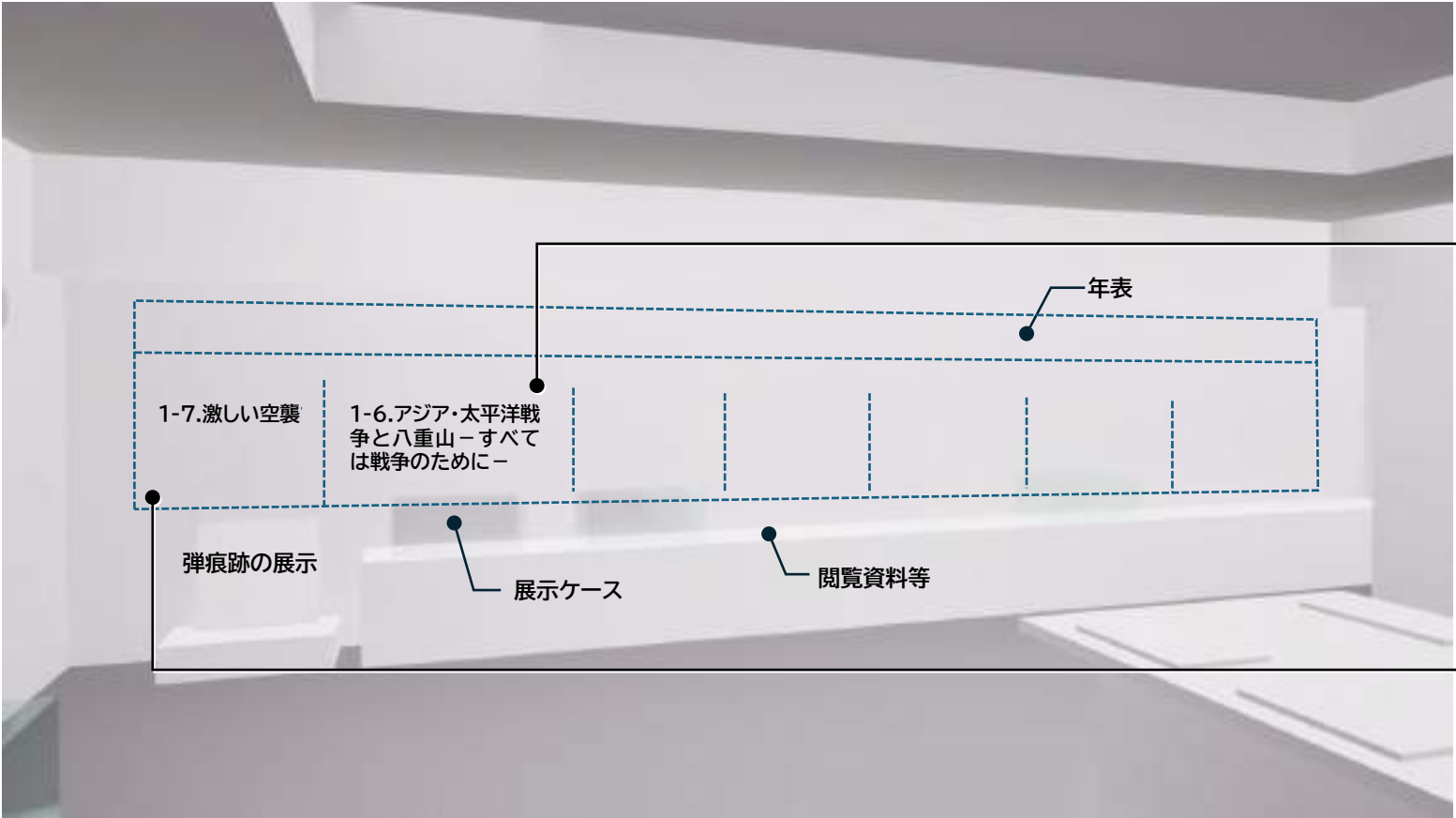
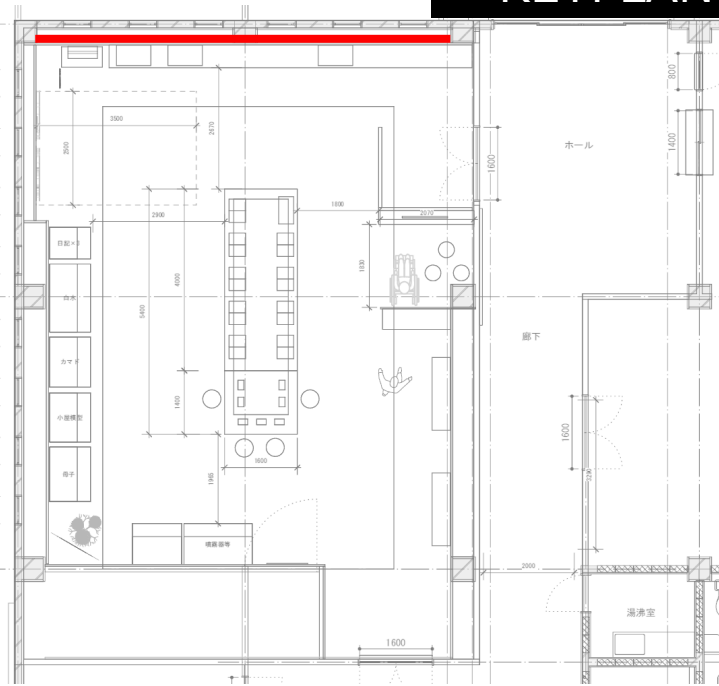
【展示のねらい】

- ・ 八重山を視座に据え、八重山を通して戦争へと突き進む日本政府の動きを概観するとともに、その国家体制へと組み込まれていく八重山の姿を伝える。
- ・ 米軍の上陸はなかったものの、激しい空襲にさらされた、沖縄戦時の八重山の状況を伝える。

【展示の展開方針】

- ・ 沖縄戦までの流れがわかるように展示展開を行う。
- ・ 各項目の時系列がわかるようにグラフィックを工夫する。
- ・ 実物資料を精選し、展示展開を補完する役割を強める。

KEYPLAN



- ・ 1-6-① 大舩松市顕彰運動
 - ・ 1-6-② 船浮臨時要塞と第32軍
 - ・ 1-6-③ 陸軍中野学校出身者
 - ・ 1-6-④ 住民の根こそぎ動員
 - ・ 1-6-⑤ 朝鮮人軍夫
 - ・ 1-6-⑥ 慰安婦問題
 - ・ 1-6-⑦ 台湾、九州への疎開
 - ・ 1-6-⑧ 子どもたちの動員
 - ・ 1-6-⑨ 沖縄戦特攻作戦第1陣 石垣島から出陣
- グラフィック・資料
(米英に宣戦布告したことを伝える新聞、臨時召集令状、千人針、軍隊手帳など)

- ・ 1-7-① 沖縄島での戦闘の概要
 - ・ 1-7-② 激烈を極める空襲
 - ・ 1-7-③ みのかさ部隊
 - ・ 1-7-④ 船舶撃沈事件
 - ・ 1-7-⑤ 米軍捕虜虐殺事件
 - ・ 1-7-⑥ 空襲と御真影・教育勅語
- グラフィック・資料
(石垣島地方気象台の弾痕跡、みのかさ部隊の鉄かぶと(レプリカ)など)

2.戦争マラリアの実相

2-1. 強制避難の背景やねらい

2-2.八重山での強制避難による被害

2-3.避難地生活の実相

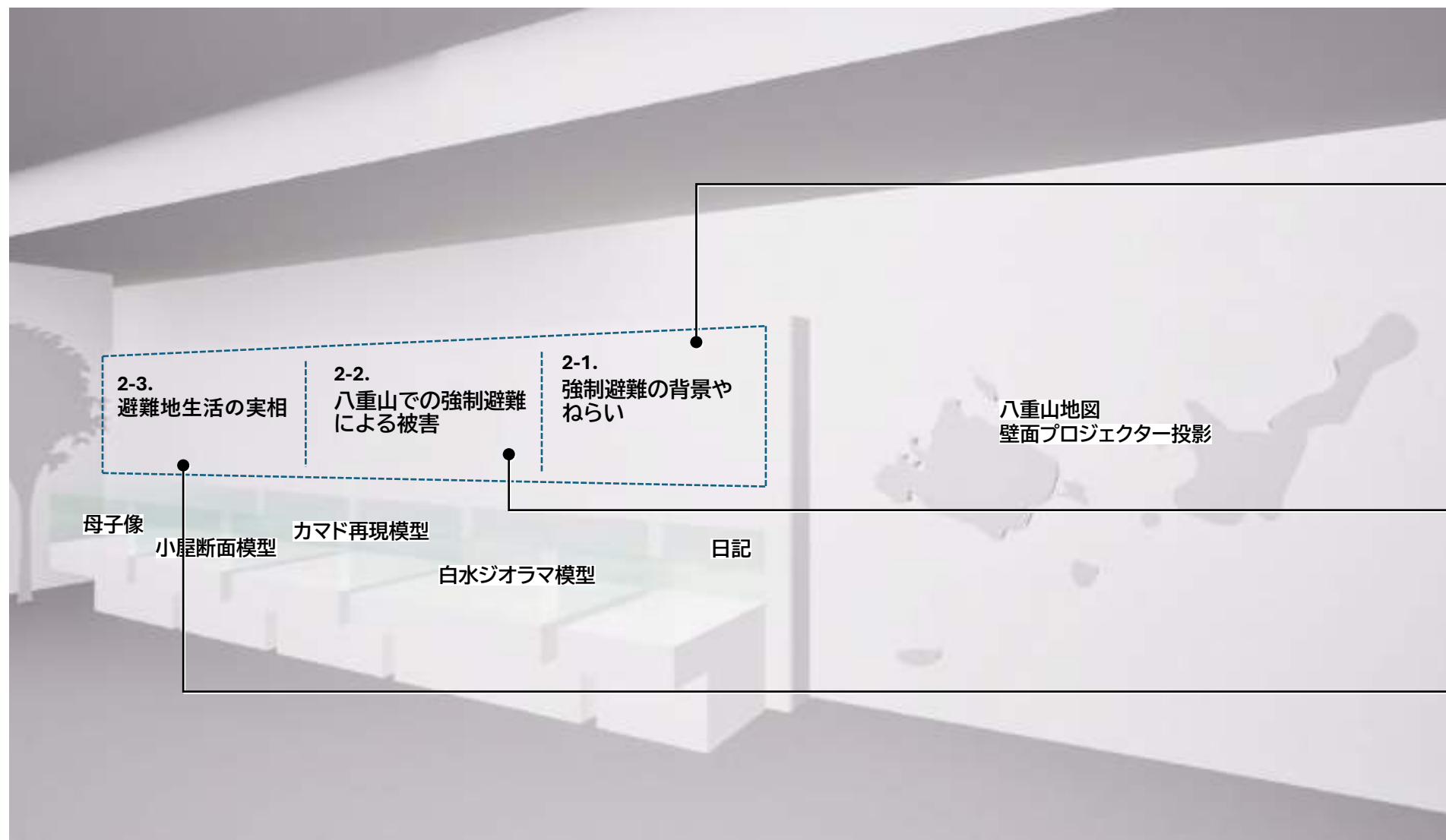
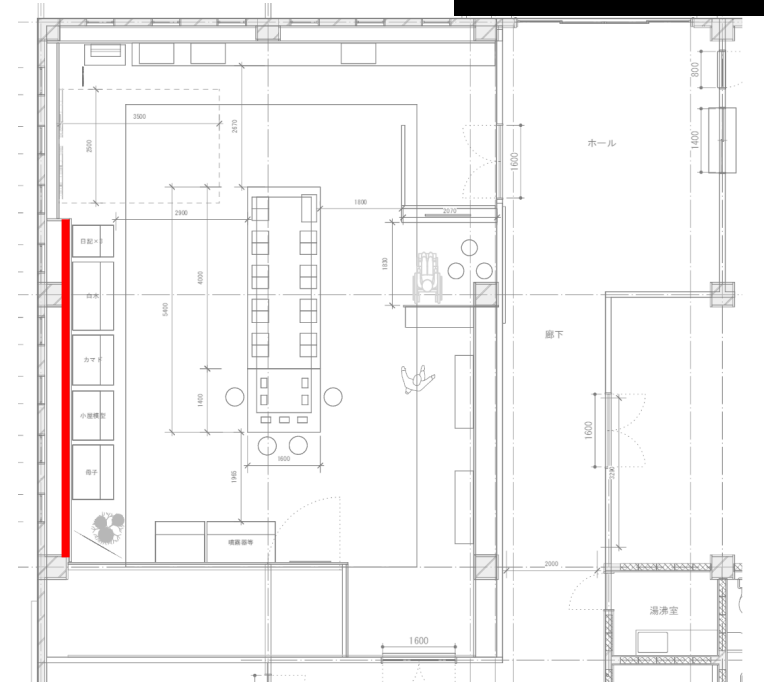
【展示のねらい】

- ・ 軍命による有病地への強制避難によって引き起こされた「戦争マラリア」の実相を伝える。
- ・ 食糧も薬もないなかで、住民たちがどのような暮らしを強いられたのかを伝える。

【展示の展開方針】

- ・ 強制避難の実相を実物資料も用いて解説する。
- ・ 既存の模型を修繕して活用する。
- ・ 絵と模型で、避難地生活の実相をわかりやすく伝える。

KEYPLAN



- ・ 2-1-① 日本軍のマラリア認識
 - ・ 2-1-② マラリア有病地への強制避難命令
 - ・ 2-1-③ 強制避難命令のねらい
- グラフィック・資料
(『八重山群島ノ衛生状況大要』、『県民指導措置八重山群細部計画』、東畑広吉参謀長の手記、潮平寛保氏の日記など)

- ・ 2-2-① 強制避難の概況
 - ・ 2-2-② 波照間島住民と忘勿石
 - ・ 2-2-③ 兵士たちのマラリア犠牲
 - ・ 2-2-④ 戦争マラリアと戦争孤児
- グラフィック・資料
(鉄田義司氏の日記、『波照間小学校沿革誌』など)

- ・ 2-3-① 避難地での食糧事情と居住環境
 - ・ 2-3-② 戦争マラリアによる犠牲者
 - ・ 2-3-③ 看病、埋葬の状況
- グラフィック・模型
(白水戦争遺跡群ミニジオラマ、高熱に苦しむ母子像、カマド跡の模型、避難小屋の模型、潮平正道氏の絵など)

3.各島々の戦争

- 3-1.各島々の戦争の様子

3-2.証言／石垣島

3-3.証言／西表島

3-4.証言／波照間島

3-5.証言／竹富島
- 3-6.証言／小浜島

3-7.証言／鳩間島

3-8.証言／黒島

3-9.証言／新城島

3-10.証言／与那国島

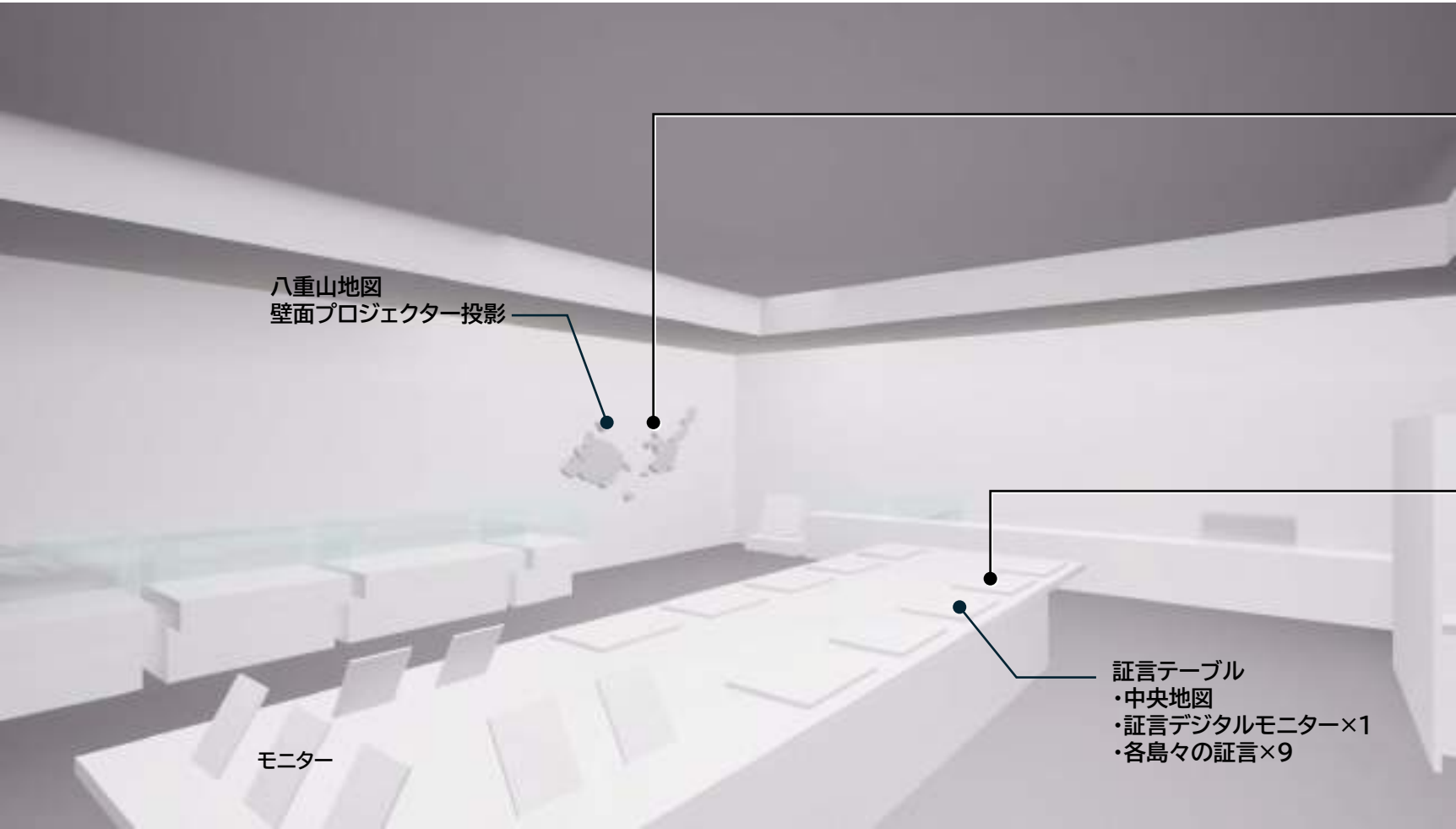
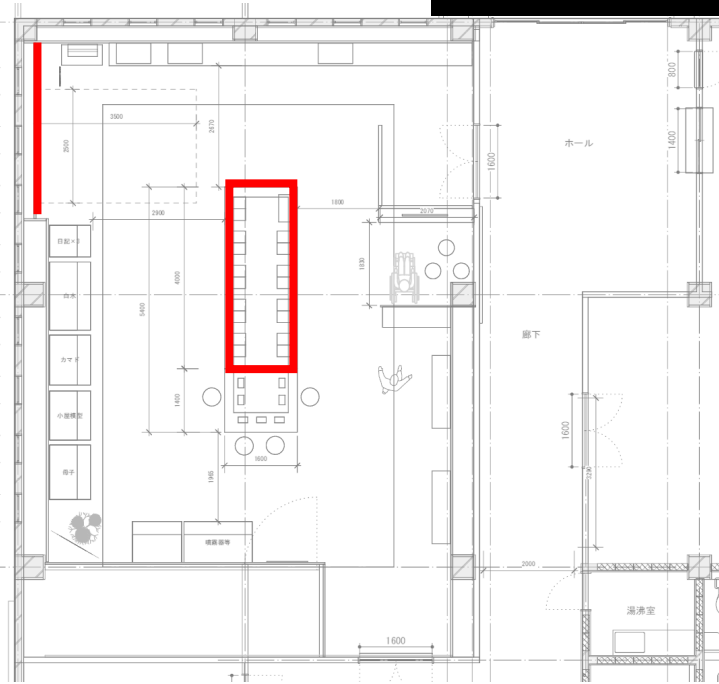
【展示のねらい】

- ・ 八重山の島々の沖縄戦時の状況を解説する。
- ・ 証言を通じて、戦争及び戦争マラリアの実相を伝える。

【展示の展開方針】

- ・ 八重山出身者の八重山以外での戦争体験も展示する。
- ・ 多言語対応の機器も設置する。

KEYPLAN

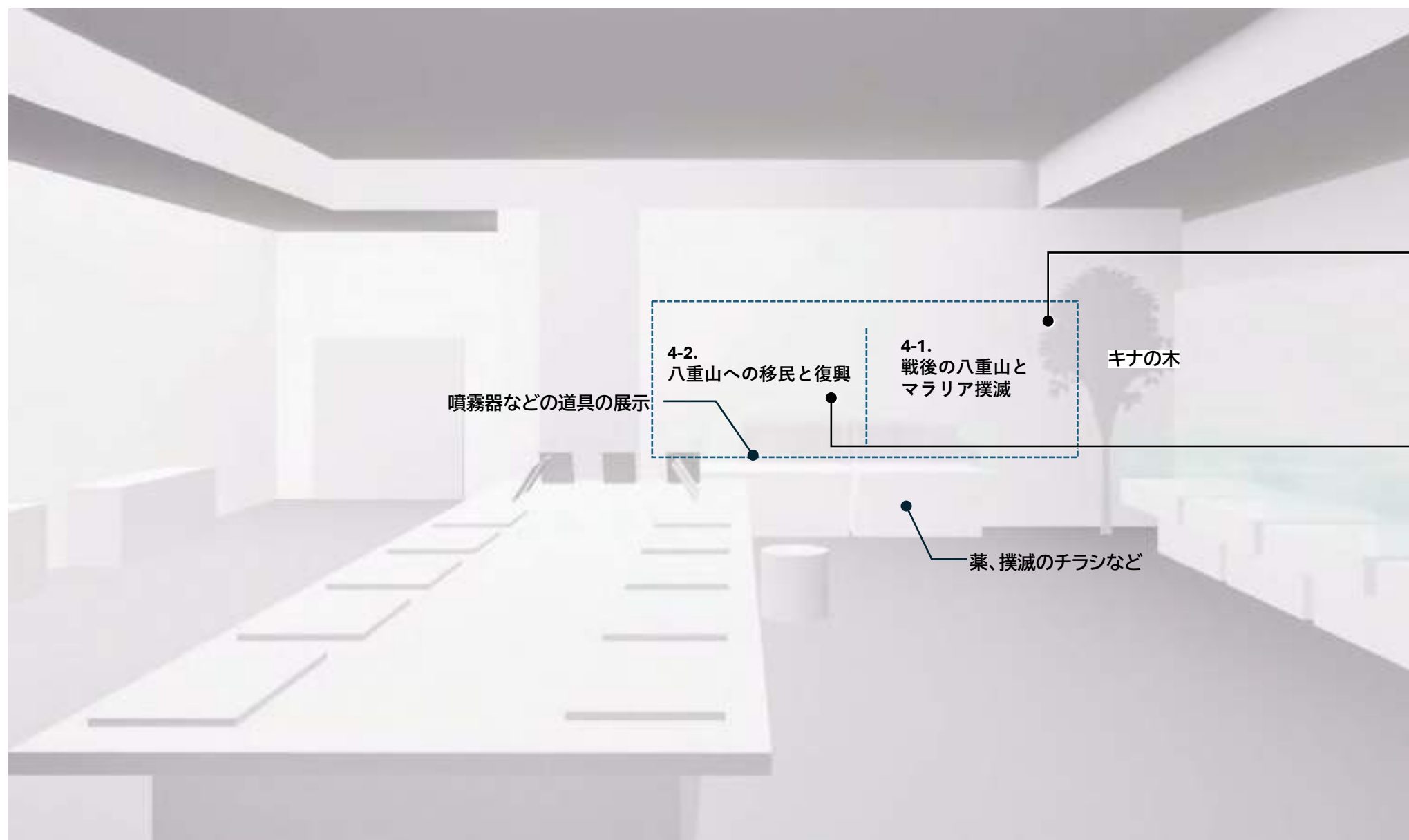


- ・ 3-1-① 漁船撃沈等周辺海域の状況
 - ・ 3-1-② 各島の戦争の状況
 - ・ 3-1-③ 各島の軍隊配備状況
 - ・ 3-1-④ 離島残置謀者と八重山
 - ・ 3-1-⑤ 各島の強制避難の状況
 - ・ 3-1-⑥ 強制避難を免れた島・竹富島
 - ・ 3-1-⑦ 各島の戦争及び「戦争マラリア」による犠牲者数
- グラフィック・映像装置
(八重山住民の避難場所を表す地図など)
- ・ 3-2-① 各島々の証言 石垣島
 - ・ 3-3-① 各島々の証言 西表島
 - ・ 3-4-① 各島々の証言 波照間島
 - ・ 3-5-① 各島々の証言 竹富島
 - ・ 3-6-① 各島々の証言 小浜島
 - ・ 3-7-① 各島々の証言 鳩間島
 - ・ 3-8-① 各島々の証言 黒島
 - ・ 3-9-① 各島々の証言 新城島
 - ・ 3-10-① 各島々の証言 与那国島
- グラフィック・資料
(各島々の証言記録、旧日本軍の茶碗、石垣会の旗、海軍飛行予科練習生夏服、モンペ、沖縄戦の絵「与那国島カツオ工場への空襲」金城マツエ画など)

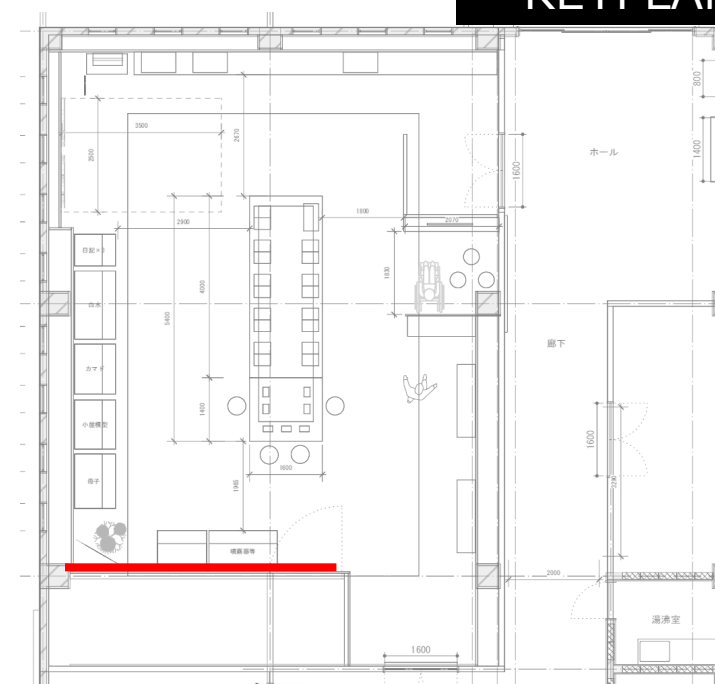
4-2. 八重山への移民と復興

- ・ 八重山において戦後がどのように始まったのか、その中で取り組まれたマラリア対策とその成果にふれるとともに、引揚者による人口増加、沖縄島の米軍基地建設に伴う移民の増加などにより、マラリアが再流行したこと、その後のマラリア撲滅までの取り組み等を紹介する。
- ・ 復興に向かう八重山の状況について紹介する。

- マラリア撲滅までの流れが理解できるような展示展開にする。
- 戦後の復興について、米国の政策とともに住民の取り組みも伝える。



KEYPLAN



- ・ 4-1-① 八重山の戦後の始まり
 - ・ 4-1-② 引揚げと移民
 - ・ 4-1-③ 戦後直後のマラリア対策とその成果
 - ・ 4-1-④ 米軍基地建設等に伴う移民の増加、
森林開拓等によるマラリア再燃
 - ・ 4-1-⑤ WHOによるマラリア根絶計画の公表
 - ・ 4-1-⑥ ウイラープランの展開
- グラフィック・資料
- (アテブリン、マラリア防遏のチラシ、マラリア対策に
使用された機器類、キナの木(枯木)など)
-
- ・ 4-2-① 沖縄島や宮古島等からの移民の実態
 - ・ 4-2-② 八重山からの人口流出と移住者の流入
 - ・ 4-2-③ 「密貿易」と復興
 - ・ 4-2-④ 八重山自治政府
 - ・ 4-2-⑤ 八重山における文芸復興の動き
 - ・ 4-2-⑥ 米国民政府の復興政策
 - ・ 4-2-⑦ とぅばらーま大会(昭和22年から)
- グラフィック・資料
- (移住者の生活用具、文化復興を示す書籍など)

5.戦争マラリア援護会の活動

5-1.沖縄戦強制疎開マラリア犠牲者援護会の発足とその活動

5-2.慰藉(いしゃ)事業の概要

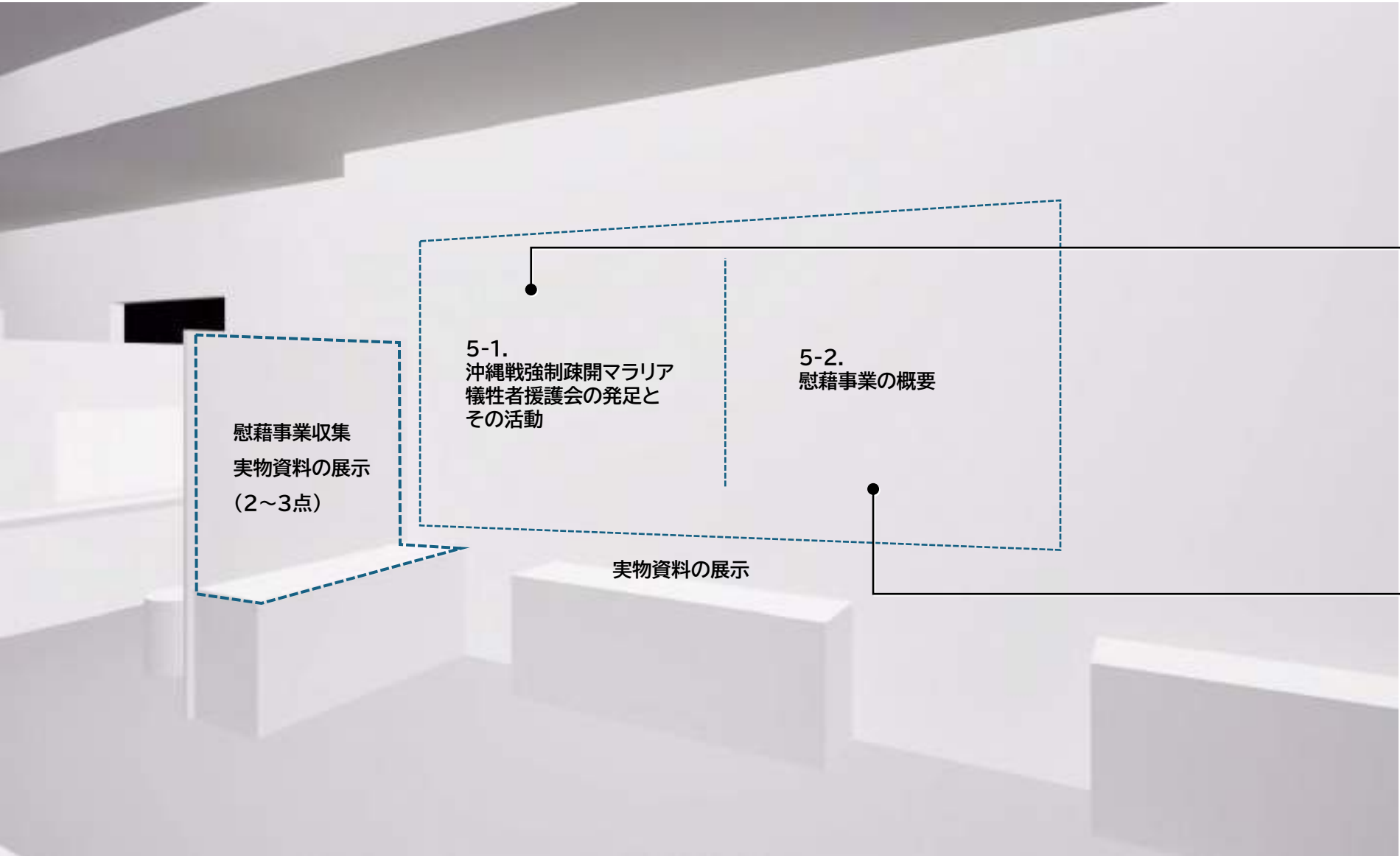
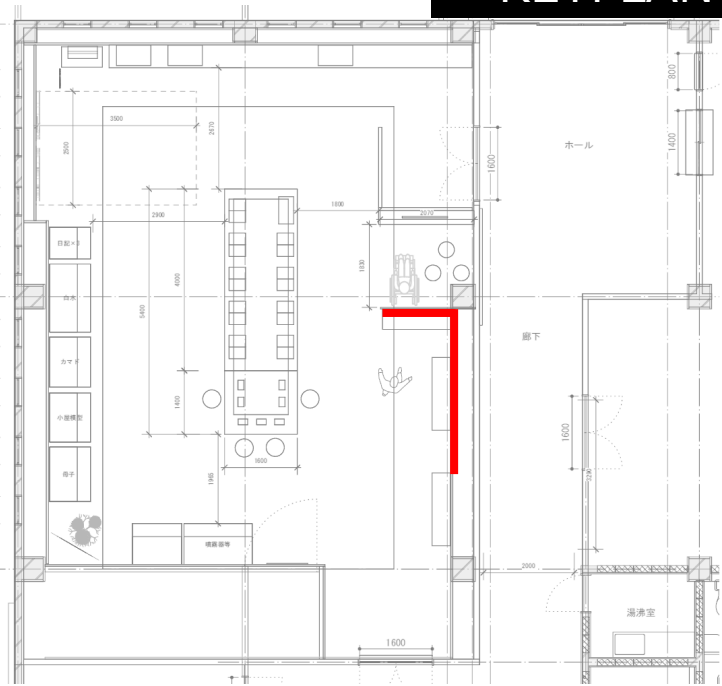
【展示のねらい】

- ・ 沖縄戦強制疎開マラリア犠牲者援護会発足の経緯とその活動について伝えるとともに、その活動の成果として、慰霊碑や八重山平和祈念館が設置されたことなどについて伝える。

【展示の展開方針】

- ・ 既存の展示資料を活用する。
- ・ 援護会の取り組みの流れが理解できるように工夫する。

KEYPLAN



- ・ 5-1-① 総決起大会
- ・ 5-1-② 陳情活動
- ・ 5-1-③ 追悼式の開催
- ・ 5-1-④ 篠原武夫教授が援護会活動を始めるきっかけとなった『平和への証言－沖縄県立平和祈念資料館ガイドブック』グラフィック・資料
(援護会の活動を示す資料、『平和への証言－沖縄県立平和祈念資料館ガイドブック』など)

- ・ 5-2-① 八重山戦争マラリア犠牲者慰霊之碑の建立
- ・ 5-2-② 「八重山平和祈念館」の設立
- ・ 5-2-③ 『悲しみを乗り越えて－八重山戦争マラリア犠牲者追悼平和祈念誌－』の発行
グラフィック・資料
(慰霊碑と同じ材料で作られた石、『悲しみを乗り越えて－八重山戦争マラリア犠牲者追悼平和祈念誌』など)

6.八重山から平和を発信

6-1.戦争体験の継承

6-2.マラリア撲滅と平和構築

6-3.平和共生と交流の最前線 国境の島八重山

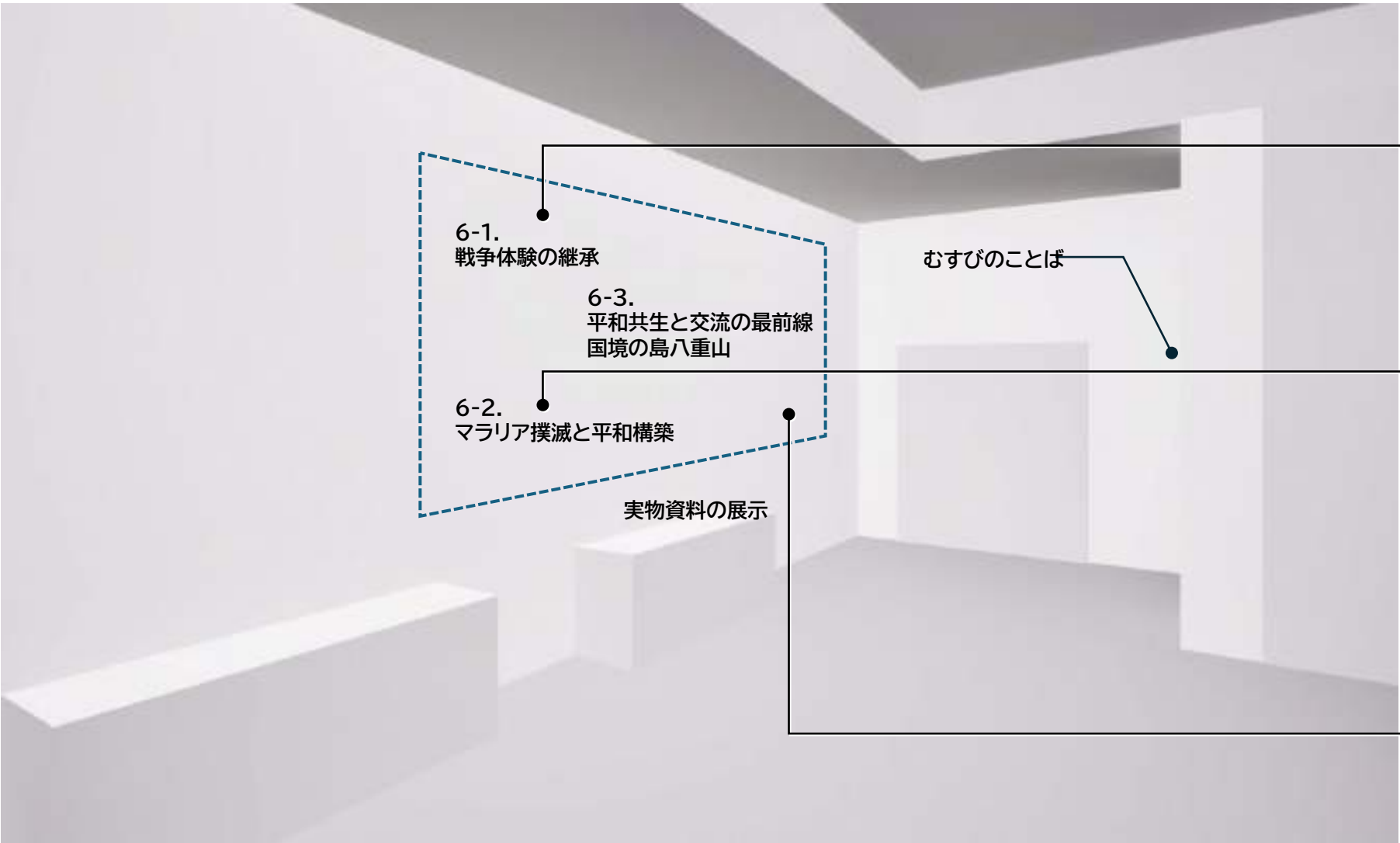
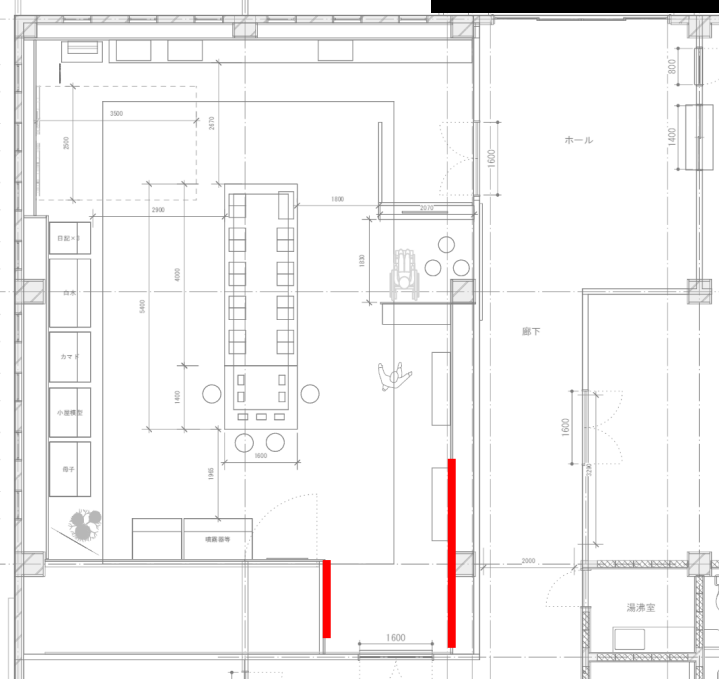
【展示のねらい】

- ・沖縄戦、そして、「戦争マラリア」を経験した八重山から日本に、そして世界に平和のメッセージを発信する。
- ・八重山における平和創造に関する活動や取り組みを紹介する。

【展示の展開方針】

- ・展示全体を振り返るように工夫する。
- ・戦争マラリアの記憶を継承してきたこれまでの取り組みを紹介する。
- ・現在の世界で続くマラリア撲滅の取り組みと八重山の経験をつなげて考えられるようにする。
- ・国境の島だからこそできる平和創造の取り組みを伝える。

KEYPLAN



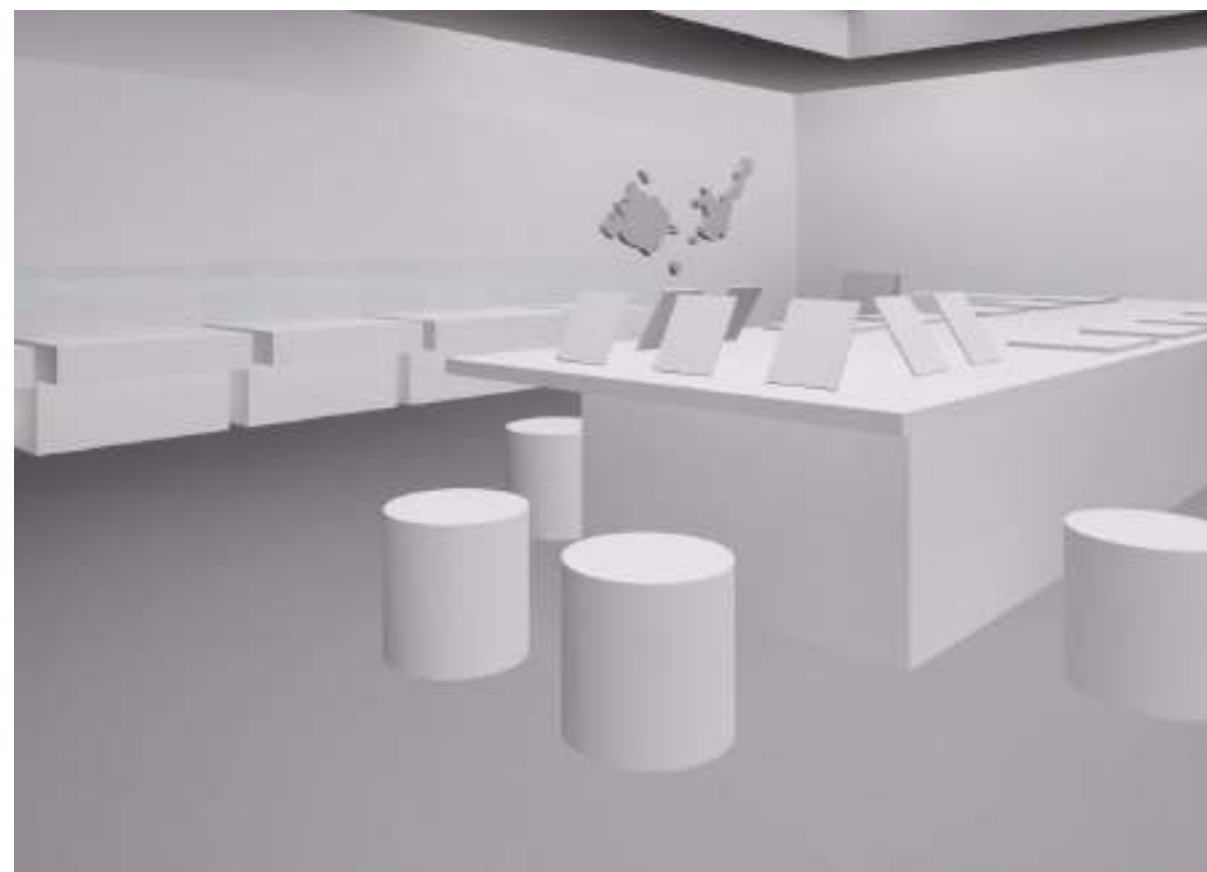
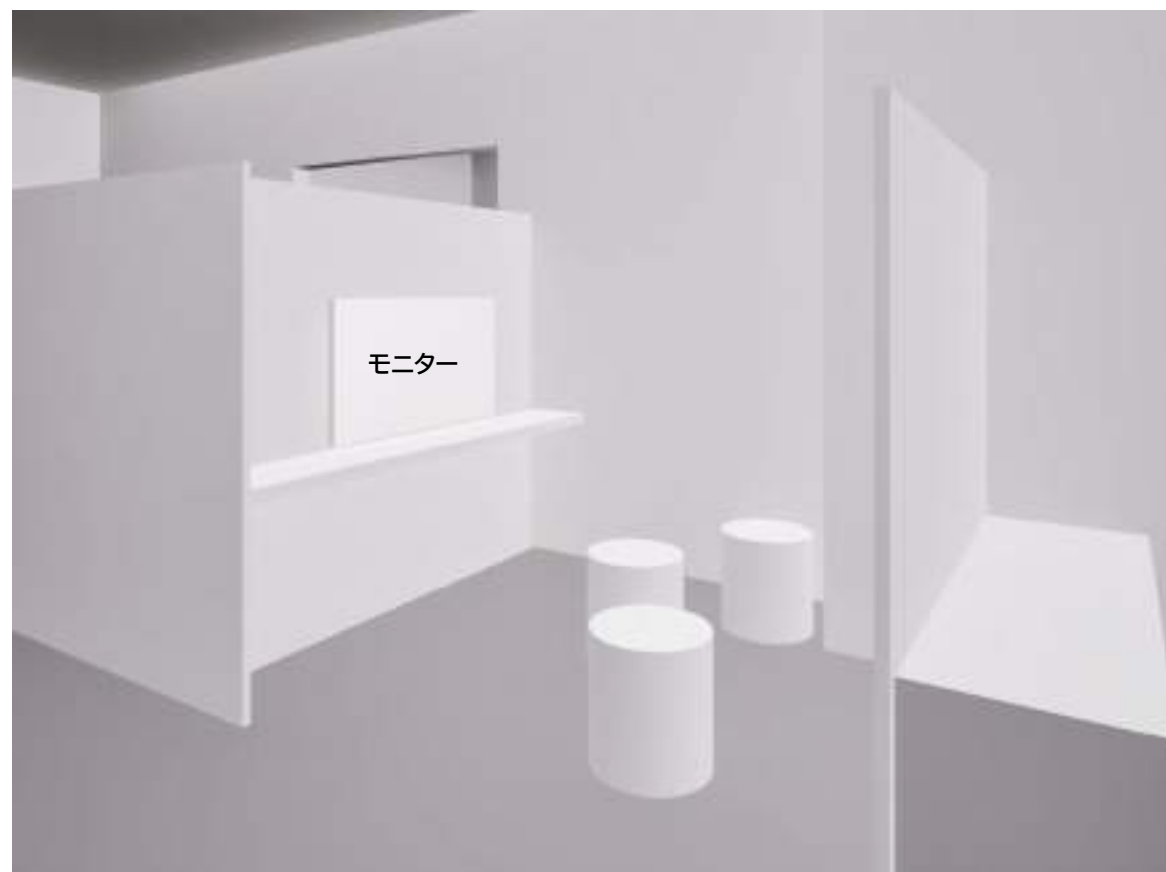
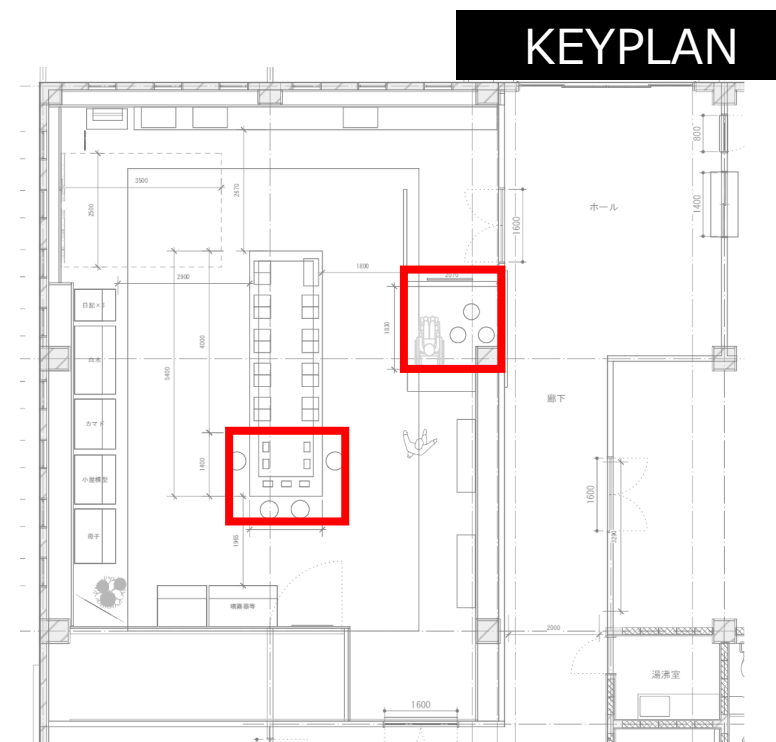
- ・ 6-1-① むすびのことば
- ・ 6-1-② 戦争体験継承への取り組み
- ・ 6-1-③ これまでに建立された慰霊碑(モニュメント)の紹介
グラフィック・資料
(戦争体験の継承を示す写真、八重山諸島内の慰霊塔の写真など)
- ・ 6-2-① マラリア×紛争 世界地図
- ・ 6-2-② マラリア有病地の課題(インフラ・公衆衛生など)
- ・ 6-2-③ マラリア撲滅と八重山(ゼロマラリアの碑、当館でのJICA研修
受け入れなど)
グラフィック
(世界のマラリア分布図、現代におけるマラリア対策の写真など)
- ・ 6-3-① 八重山を中心に広がる地図(近隣地域との位置関係)
- ・ 6-3-② 八重山と台湾の関係史
- ・ 6-3-③ 八重山における国際交流
グラフィック
(八重山を中心とした地図、八重山と台湾のつながりを示す写真、
八重山と海外との交流を示す写真など)

・ 7-1.動画視聴コーナー

・ 7-2.図書閲覧・アンケートコーナー

【展示の展開方針】

- ・ 複数名が同時に映像を視聴できるブースを設置する。
- ・ 既存の図書や、大項目6で展示されている資料が閲覧できるようにする。
- ・ アンケート記入のスペースとしても活用する。



全館共通

空間計画

①快適で安全に展示を観覧できる空間づくり・動線の設定

- ・ 来館者が展示の意図した流れに沿ってスムーズに移動できるよう、空間構成を工夫し、直感的に理解できる動線を設定する。
- ・ 団体客など多数の来館者が同時に利用する状況に対応するため、適切な滞留スペースや動線の設定、滞留時間を踏まえた空間構成を行い、混雑時でも快適に鑑賞できる環境づくりを計画する。
- ・ 車椅子利用者を含むすべての来館者が安全に移動できるよう、適切な通路幅を確保するとともに、緊急時に迅速な避難が可能となる経路計画を整備する。

②多様な来館者を想定した展示の視認範囲の設定

- ・ 子どもから大人、車椅子利用者の視点の高さに配慮し、すべての来館者が快適に鑑賞できるよう展示物の適切な視認範囲を計画する。

③博物館疲労を軽減するための配慮

- ・ 展示室内の移動や膨大な情報量にふれることで生じる博物館疲労を抑え、快適に鑑賞を続けられるよう、展示空間の要所にベンチなどの休憩機能を整備することを検討する。

解説グラフィック計画

①研究成果の蓄積を踏まえた表記内容の見直し・更新

- ・ 開館から26年の間に明らかになった歴史的事実や、『沖縄県史』をはじめとする沖縄戦と女性史を含む沖縄の近現代史等に関する最新の調査・研究成果を踏まえて解説内容を見直すとともに、必要な情報の追加、表記や用語等の統一を行い、正しい情報を提供する。

②すべての来館者にとってアクセシビリティの高い解説の実現

- ・ 基本構想・基本計画に基づきSDGsの理念に配慮した展示更新とするため、解説文章については、専門用語を多用せず、簡潔でやさしい表現とすることを基本とする。
- ・ 来館者の状況を踏まえ、英語等主要言語による翻訳、視覚的に理解を補助するイラストや写真、図表の活用、文字サイズ、フォント、文字色のコントラストへの配慮など、全館でアクセシビリティの高い解説を目指す。

③基礎知識をあまり持っていない層、より専門的に学びたい層の双方に対応

- ・ 基本構想・基本計画に基づき平和について学習する場の充実を図るため、基礎的な内容を提供する解説に加え、より深く詳細な情報を提供する専門性の高い解説を用意するなど、多層的な情報提供を行う。

デジタル技術の活用

①デジタル技術の導入

- 3Dなどの立体映像を活用した展示や、AR(拡張現実)、VR(仮想現実)、プロジェクションマッピングなどの先端技術の導入、来館者の利便性向上のため、携帯端末のアプリケーションによるガイダンス等、ICT技術の導入も含め、展示手法を検討する。

②デジタル解説装置の導入

- 他施設で活用が進むデジタル解説装置やアプリには、タッチスクリーン等により来館者一人一人が自分のペースで理解を深められ、写真や動画を含む多層的な情報を提供できる利点があることから、QRコードを活用した音声解説ガイドを基本に、デジタル解説装置の導入を検討する。
- デジタル解説装置の導入にあたっては、耐久性やメンテナンス性などの課題を十分に検証する。

③すべての来館者にとってアクセシビリティの高い解説の実現

- 日本語を母語としない人向けの多言語による字幕解説や手話動画による解説の導入を検討する。
- 提供する言語については、現在の多言語解説の利用状況等も踏まえて、検討する。

展示ケースの設計

①大切な資料を守るために必要な機能を整備

- 材質や形状などの展示資料の性質に応じて、物理的損傷や温湿度・紫外線・虫害などの環境要因、さらに盗難・破壊・地震といった多様なリスクを総合的に考慮し、大切な資料を守るための適切なケース設計を行う。

②資料の入れ替えのしやすさ・展示の更新性に配慮

- 展示ケースの設計にあたっては、開閉のしやすさにも配慮し、資料の設置や移動、日常的なメンテナンス等が容易で、かつ資料の入れ替え作業時の安全性、快適性を備えたケース設計を行う。
- 開館後の展示更新を想定し、展示物の入れ替えのしやすさに加え、汎用性、展示ケースの移動や追加等のしやすさにも考慮する。

③誰にとっても資料が見やすい鑑賞性に配慮

- 現状では子どもたちや車椅子利用者等が資料を鑑賞しづらい展示ケースがあり、今回の展示更新により改善が求められている。展示ケースの形状、ガラス面の高さや幅、照明の配置等を工夫し、誰もが鑑賞しやすい環境を整備する。